

年 報 (令和四年度)

年 報

令和4年度



第四十一号



群馬県立小児医療センター

第41号



◇ 基本理念

小児の専門病院として、
未来あるこどもたちの^{いのち}生命をまもり、
すこやかな成長発達を支援します。

◎ 基本方針

- 1 小児の専門病院として、高度で安全かつ先進的な周産期・小児医療を提供し、地域の中核病院の役割を果たします。
 - 2 子どもの権利の尊重とチーム医療により、安心して信頼できる医療を提供します。
 - 3 地域の関係機関と連携して、診療・研究及び研修を行い、周産期及び小児の医療・保健レベルの向上に努め、子どもの望ましい成長・発達を支えます。
 - 4 適正な情報公開と診療情報の共有により、健全で透明性の高い病院経営に努めます。
-

☆子ども憲章

- 1 子どもは、安心できる環境の中で、良質でおもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 子どもとその家族は、医療について年齢や理解度に応じた十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
そして、不必要な医療処置や検査から守られ、家族が治療に参加できるように配慮されます。
- 3 子どもとその家族は、医療について自由に意見を述べ自ら医療を選択しあるいは拒否する権利があります。
- 4 子どもとその家族は担当医以外の医師の考え（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 5 子どもは年齢や症状に応じた養育を受ける権利があります。
- 6 子どもとその家族は、自己の診療録の開示を求める権利があります。
- 7 子どもとその家族は、いつでもプライバシーが守られ、個人情報の保護を受ける権利があります。
- 8 子どもの権利条約を守ります。

★職員倫理要綱

- 1 職員は、病める子どもたちの治療はもとより、子どもの成長発達を家族とともに支えるよう、医療を受ける者とその家族の人格を尊重し奉仕しなければならない。
- 2 職員は、医療を受ける者に優しい心で接し、医療の内容をよく説明し、理解と信頼を得るよう努めなければならない。
- 3 職員は、医療を受ける者の知る権利と自己決定の権利を尊重し擁護しなければならない。
- 4 職員は、守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めなければならない。
- 5 職員は、国籍、人種、民族、宗教、信条、性別及び年齢にかかわらず、すべてに平等に、優しい心で接しなければならない。
- 6 職員は、常に自らも研鑽に努め、安心して信頼される最善の医療が提供できるように心がけなければならない。
- 7 職員は、互いに尊敬し協力して医療に尽くさなければならない。
- 8 職員は、医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くさなければならない。
- 9 職員は、国が定める医療に関する倫理指針を遵守しなければならない。
- 10 職員は、群馬県職員としての自覚を持ち、お互いに協力して病院の健全な運営に努めなければならない。

～令和4年度の出来事から～



外科外来ユニバーサルトイレ改修



エントランスホール アクアリウム設置



クリスマス



キッチンカー



コロナ外来



巻頭言

院長 浜島 昭人

令和4年度の群馬県立小児医療センターの年報をお届けします。

この年も、新型コロナウイルス感染症の対応に追われる一年となりました。令和4年1月から始まった第6波ではオミクロン株となって新型コロナウイルス感染者が増加し、小児の患者数も増加しました。その後、夏には第7波、冬には第8波と大きな感染の波を経験することになり、外来や入院において診療制限を行わざるをえませんでした。小児病院においては、学校の夏休み・冬休み期間中は外来や入院が増える時期になりますが、その時期に外来・入院の制限を行ったため、患者さんやご家族にはご迷惑をおかけすることになりました。また、小児病院であるため大人の病院のように全面的に「面会不可」とするわけにもいかず、病棟での面会者の人数・時間や付き添いに関する制限も感染の状況をみながら頻回に変更することを余儀なくされました。感染症病棟やPICUで新型コロナウイルス感染症の患者さんの治療を行いましたが、幸いなことにECMO導入が必要となるような重症の患者さんは経験しませんでした。

感染者が増加することで、職員が感染者となることが以前より増加しました。職員が新型コロナウイルス感染症に罹患すれば出勤できないのは当然ですが、家族が感染したために職員が濃厚接触者となり出勤できない事態が増え、特に病棟運営に影響がでました。このことも外来・入院制限が必要となる一因となりました。経営に関しては診療制限、特に入院患者数の減少により大幅な減収となりましたが、新型コロナウイルス感染症に関連した補助金のおかげでどうにか黒字となりました。

新型コロナウイルス感染症により子供たちの生活においても様々な活動が制限されました。そのような中、スポーツ界ではサッカーワールドカップで日本代表は惜しくもベスト8には届きませんでした。アメリカメジャーリーグでは104年ぶりに投手として2桁勝利、打者として2桁本塁打という大谷翔平選手の二刀流の活躍という明るい話題がありました。小児の関係では、3歳児が通園バス内に置き去りにされ死亡するという痛ましい事故があり、安全管理の重要性を再認識させられました。

当院の明るい話題の一つに病院の建替え・再整備を行って機能を強化する方針が令和5年1月に県から示されたことが挙げられます。開設から40年あまりが過ぎ、これまで建物の増築・改修や老朽化に対する修繕を重ねてきました。特に今回の新型コロナウイルス感染症においては、建物の構造・設備の問題も含め、感染者の受け入れ、治療においてもさまざまな問題点が浮かび上がりました。現在当院が直面している周産期・小児医療の諸問題をふまえ、より充実した機能を有する新病院の開設にむけマスタープランの作成を開始したところです。

令和5年6月

目 次

業務編

1. 第一病棟	3
(1) 総合診療科	6
(2) 腎臓内科	7
(3) 神経内科	7
(4) アレルギー・リウマチ科／感染症科	7
(5) 遺伝科	8
2. 第二病棟	9
(1) 小児外科	9
(2) 形成外科	10
(3) 整形外科	12
3. 第三病棟	15
(1) 循環器科	15
(2) 心臓血管外科	16
(3) 血液腫瘍科	16
4. 小児集中治療部	17
5. 新生児未熟児病棟	20
6. 産科病棟	25
7. 麻酔科	28
8. 放射線科	29
9. 歯科・障害児歯科	30
10. 放射線課	32
11. 検体検査課・生理検査課	34
12. リハビリテーション課	36
13. 栄養調理課	38
14. 臨床工学課	39
15. 薬剤部	41
16. 看護部	43
(1) 第一病棟	46
(2) 第二病棟	47
(3) 第三病棟	48
(4) NICU 病棟	49
(5) GCU 病棟	50
(6) 産科病棟	51
(7) 小児集中治療部	52
(8) 手術室	53
(9) 外 来	54

(10) サービス向上委員会	55
17. 母子保健室	66
18. 地域医療連携室	68
19. 医療安全管理室	69
20. 感染対策室	73

研究研修編

1. 学会報告	79
◆小児内科	
<神経内科><循環器科><新生児科><アレルギー・リウマチ科/感染症科><遺伝科>	
◆小児外科	
<一般外科><形成外科>	
◆産科	
◆歯科	
◆検体検査課・生理検査課	
◆放射線課	
◆リハビリテーション課	
◆看護部	
2. 誌上発表	83
◆小児内科	
<神経内科><循環器科><新生児科><アレルギー・リウマチ科/感染症科>	
<血液腫瘍科>	
◆小児外科	
<一般外科><形成外科>	
◆検体検査課・生理検査課	
◆放射線課	
◆リハビリテーション課	
3. 単行本・その他	85
◆小児内科	
<アレルギー・リウマチ科/感染症科><循環器科>	
◆産科	
◆看護部	
4. 班会議等報告書	85
5. 講演	85
◆小児内科	
<神経内科><循環器科>	
◆歯科	
◆放射線課	
◆リハビリテーション課	
◆臨床工学課	

6. 講習会・研修会	86
◆小児内科	
<神経内科>	
◆検体検査課・生理検査課	
◆放射線課	
◆リハビリテーション課	
◆臨床工学課	
◆薬剤部	
◆看護部	
7. 学会長・座長・その他	88
◆小児内科	
<循環器科><新生児科>	
◆小児外科	
<一般外科><形成外科>	
◆検体検査課・生理検査課	
◆リハビリテーション課	
◆臨床工学課	
◆看護部	
8. 学生講義	89
◆小児内科	
<神経内科><新生児科><アレルギー・リウマチ科/感染症科>	
◆歯科	
◆リハビリテーション課	
◆臨床工学課	
◆看護部	
9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス	91
10. 講話会	92
11. クルズス	92
12. CPC	92
13. その他	93
(1) 研究会・セミナー等	
14. 公的資金による研究	94
1 院内研究費による研究	
2 院外研究費による研究	

統計編

1. 管理業務	
(1) 会計	100
①経営分析	
②収益的収入及び支出	

③月別医業収益内訳	
2. 診療業務	
(1) 総括表	106
(2) 月別・科別外来患者受診の状況	108
◆ 1日平均外来患者の状況	
(3) 月別入退院患者数	111
◆ 1日平均入院患者の状況	
(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数	113
◆ 地域別新規登録患者数	
◆ 地域別入院患者の状況	
◆ 地域別利用状況	
(5) 年齢階層別状況(新規登録患者)	118
◆ 年齢階層別状況	
(6) 救急医療	119
① 救急医療の状況	
② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況	
(7) 予防接種実施状況	121
① 月別実施状況	
② 市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況	
③ 推 移	
(8) 疾病分類別入院患者数	122
① 第一病棟	
② 第二病棟	
形成外科	
整形外科	
③ 第三病棟	
④ 新生児未熟児病棟	
(9) 麻 酔	127
① 月別麻酔件数	
② 年齢階層別状況	
(10) 放射線	128
① 依頼科別件数	
② 月別件数	
③ 検査種別件数	
ア CT	
イ MRI	
ウ RI	
エ X-TV	
オ US	
カ 心臓カテーテル	
キ 一般撮影	

ク	ポータブル撮影	
ケ	画像データコピー	
(11)	臨床検査	132
	①検査の状況	
	②血液製剤取り扱い状況	
	③分割取り扱い状況	
	④幹細胞保存	
(12)	薬 剤	134
	①調剤等の状況	
	ア 処方箋の枚数等	
	イ 調剤件数内訳	
	②注射剤の状況	
	ア 注射箋等の枚数等	
	イ 抗がん薬調製数	
	③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況	
	④薬剤情報件数等	
	⑤製剤等の状況 (種類別、製剤件数及び量)	
	⑥薬効別薬品購入額	
(13)	リハビリテーション	139
	①診療点数	
	②延べ治療件数	
	③延べ単位数	
	④年齢別新規患者数	
	⑤リハビリテーション算定区分別実績	
(14)	栄 養	142
	①一般食の種類と食数	
	②離乳食の種類と食数	
	③特別食の種類と食数	
	④調乳の種類及び人数・本数	
	⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数	
(15)	臨床工学課	145
	①臨床業務症例数	
	ア 体重別体外循環症例数	
	イ 疾患別内視鏡手術症例数	
	②月別日常点検件数	
	③月別人工呼吸器使用中点検件数	
	④月別人工呼吸器回路交換件数	
	⑤月別定期点検件数	
	⑥月別院内修理件数	
(16)	母子保健室	150
	①精密健康診査	

ア	保健福祉事務所・保健所別受診状況	
イ	科別・年齢別受診状況	
ウ	科別受診状況及びその結果	
②	新生児・未熟児病棟および他病棟入院患児の退院連絡	
ア	退院連絡後の状況	
イ	体重別退院連絡実施状況	
③	関係機関との連携状況	
④	関係機関との連携会議	
⑤	心理判定・心理カウンセリング	
<	心理判定>	
ア	心理判定	
イ	アの年齢別被検査者数	
ウ	依頼科	
<	心理カウンセリング>	
ア	心理カウンセリング	
イ	初回心理カウンセリング実施時受診科	
⑥	群馬県先天性代謝異常等検査事業	
⑦	親の会への支援	
(17)	地域医療連携室	156
①	医療相談件数	
ア	相談内容及び件数(地域医療連携室)	
イ	公費負担医療費申請等事務取扱件数	
ウ	身体障害者手帳	
②	子ども虐待防止対策事業	
ア	院内CAPS開催状況	
イ	要支援事例検討会状況	
ウ	職員向け虐待対応研修	

総括編

1.	沿革	161
◆	開院後の歩み	162
2.	施設	
(1)	敷地・建物の面積	177
(2)	病棟構成並びに建物配置図	177
(3)	施設・設備の設置状況	178
(4)	付属設備 主なる付属設備一覧	185
(5)	重要物品 主なる医療機器一覧	188
3.	組織	
(1)	機構	192
(2)	人事	193

①役職者名簿

②職種別・部門別職員配置状況

4. 運 営

(1) 診療制度	196
(2) 院内会議の状況	200
令和4年度のあゆみ	201
職員名簿、職員異動状況	202
編集後記	205

業 務 編

1. 第一病棟

令和4年度の第一病棟は神経内科5名、アレルギー感染免疫・呼吸器科3名の医師で主な診療を行った。入院患者は1,143名であり昨年度の1,051名より若干増加した(入院患者詳細は別表1-4参照)。

多種多様な疾患・患者を受け入れ、県内唯一のこども病院として求められる医療水準を維持する事は決して容易なことではなく、医師・看護師・他スタッフの献身的努力はもちろん、患者や患者家族の理解や協力に支えられて居ます。県内外あるいは院内からの要求に応えられないこともあると思いますが、他医療機関とも連携しながら、自分たちの役割を果たし続ける所存です。今後ともご理解・ご支援よろしく申し上げます。

(椎原 隆)

表 1 第一病棟主診断別入院患者

疾患名	人	疾患名	人
COVID-19	299	筋ジストロフィー	10
食物アレルギー	212	脊髄性筋萎縮症	10
肺炎	53	インフルエンザ	9
胃腸炎	48	痙攣	8
てんかん	45	脳症	8
麻痺	39	尿路感染症	7
う蝕	36	リンパ節炎	6
低ガンマグロブリン血症	30	哺乳不全	6
糖原病 2 型	27	腎盂腎炎	6
呼吸不全	26	トリソミー	5
気管支炎	21	アナフィラキシー	5
RSウイルス	19	ミトコンドリア病	5
気管支喘息	17	睡眠時無呼吸	4
ミオパチー	15	その他	154
脱水症	13	合 計	1,143

表 2 第一病棟入院患者年齢構成

新生児	15 人	1.3%
1 か月～1 歳	109 人	9.5%
1 歳	125 人	10.9%
2 歳	92 人	8.0%
3 歳	82 人	7.2%
4 歳	68 人	5.9%
5 歳	70 人	6.1%
6 歳	67 人	5.9%
7 歳	47 人	4.1%
8 歳	35 人	3.1%
9 歳	54 人	4.7%
10 歳	43 人	3.8%
11 歳	32 人	2.8%
12 歳	24 人	2.1%
13 歳	26 人	2.3%
14 歳	17 人	1.5%
15 歳	16 人	1.4%
16 歳	20 人	1.7%
17 歳	21 人	1.8%
18 歳	14 人	1.2%
19 歳	4 人	0.3%
20 歳以上	162 人	14.2%
合計	1,143 人	100.0%

表 3 第一病棟科別入院患者数

アレルギー感染免疫・呼吸器科	643 人	56.3%
神経内科	359 人	31.4%
循環器科	48 人	4.2%
歯科	43 人	3.8%
外科（小児外科）	20 人	1.7%
血液腫瘍科	15 人	1.3%
一般内科（小児科）	12 人	1.0%
整形外科	2 人	0.2%
遺伝科	1 人	0.1%
合 計	1,143 人	100.0%

表 4 第一病棟入院死亡症例及び剖検

	年齢	性別	死亡日		病名	剖検
1	1歳5ヶ月19日	女	2022/10/26	死亡	減数分裂性不分離トリソミー13、慢性呼吸不全、気管支喘息、低ガンマグロブリン血症、鉄欠乏性貧血、全前脳胞症、肺動脈性肺高血圧症、敗血症、播種性血管内凝固	(-)

(1) 総合診療科

令和4年度は総合診療科立ち上げから2年目を迎えた。総合診療科ではチーム医療を重視した医療を行っており、診断や治療方針はカンファレンスで決定されている。

総合診療科外来は神経内科（椎原、渡辺、道和、森田、清水有、鈴木、高須）、血液・腫瘍科（鈴木、石北）、遺伝科（山口）、アレルギー・リウマチ科（野村、清水真）、感染症科（清水彰）そして後期研修（奥野、上島）、非常勤（西山）の医師から構成される。常に2人が診療に当たり、判断に迷う場合や患者様の待ち時間が長くなってきている状況では有機的にコミュニケーションを取りながら診療に当たっている。日勤帯であればいつでも急患を受け付けており、1次および2次医療機関からのご紹介を受け付けている。カンファレンスを週2回行っており、複数の診療科の医師が初診患者様の鑑別と診療について意見を出し合い診療を進めている。

リハビリテーション前、心理カウンセリング前の診察、院内の対象患者様にシナジス投与も行っている。予防接種は他の医療機関での接種が困難な方を中心に主として感染症外来で実施している。総合診療科を受診し、入院する場合は多くが第一病棟への入院となるので、入院患者数、およびその疾患については第一病棟の業務編をご参照いただきたい。なお入院診療も含め紹介の依頼があった場合には原則的に全てお引き受けする方針であるが、常勤医師がない等の理由で診療が困難な疾患については他の医療機関に受け入れていただいている。さらには他の医療機関から医師を派遣していただき、より多様な疾患や病態に対応するようにしている。入院が必要と予測される場合や基礎疾患等から特別な対応を要する場合などは地域医療連携室および外来診療部門があらかじめご相談を受け円滑な受け入れを心がけている。

(野村 滋)

(2) 腎臓内科

腎臓内科は令和4年度も常勤医が不在のままであり、外来診療のみ継続した。腎臓外来は、(火)の1,3,5週を丸山が、(火)の2,4週と(木)の1,3,5週を群馬大学小児科の池内助教が担当した。前年度と同様に、初診患者の受け入れは池内助教の担当日のみとさせていただいたが、令和4年度の延べ受診患者数は507名であり、前年度(604名)より大幅に減少する結果となった。常勤専門医不在のため、急性・慢性ともに腎臓疾患の入院管理はできなかった。常勤医の復活が待たれるところである。

(丸山健一)

(3) 神経内科

令和4年度神経内科外来担当は椎原 隆、渡辺美緒、森田孝次、道和百合、鈴木江里子の5名で、外来患者数は新患84(昨年度112)名、再来3,081(昨年度3,480)名と減少しました。

県内で高い専門性を持って神経疾患に対応できる医療機関は限られており、少子化とは言っても、当院当科に対する重症・稀少あるいは慢性疾患などの要請はむしろ増えて来ています。しかしながら当センターは医療機関としては規模が小さく、医療スタッフ全体の数は多くないため、特に夜間や休日の対応は十分でない事もあります。紹介や転院のタイミングの調整をお願いすることもあると思いますが、自分たちが機能不全に陥ること無くより長く県内外の医療に貢献することが重要な課題と認識しています。皆様のご理解とご協力に感謝します。

(椎原 隆)

(4) アレルギー・リウマチ科／感染症科

アレルギー・リウマチ科ではアレルギー性疾患、リウマチ疾患、免疫不全症、呼吸器疾患を、感染症科では感染症の診療を行っている。

最近では好酸球性消化管疾患、消化管アレルギーおよびその関連疾患の診療が当科の特色の1つとなっている。また近年は感染症診療および感染管理業務を強化し、リウマチ疾患、自己免疫、自己炎症性疾患の診療にも力を入れており、多種多様な免疫異常による疾患に対して専門性の高い診療が可能になり、総合診療を担当する科としても診療の幅が広がった。

また多くの初期研修医を受け入れた。院外活動では日本小児アレルギー学会による食物アレルギーおよび小児気管支喘息の診療ガイドライン作成に取り組み、感染症やアレルギーに関する講演を積極的に行った。当科で経験した症例、および感染症、好酸球性消化管疾患、消化管アレルギー、細胞分離法、フローサイトメトリーを用いた新しい検査についての研究を行っている。

当科の外来診療は月曜から金曜まで毎日、午後に行っている。経口食物負荷試験は入院での施行が多い。また感染症コンサルトについては院内外ともに随時受けている。当科では他科が担当している様々な基礎疾患のある方の診療、つまり境界分野の診療にあたることが多い。また患者様とご家族の家庭や集団での生活に対する支援にも力を入れている。総合診療科としての役割と専門医療を診療の両輪として取り組んだ。

(野村 滋)

(5) 遺 伝 科

遺伝科は令和4年度に16年目を迎え、前年度に引き続き、常勤医1名での体制で山口 有が担当しました。

診療内容は先天性疾患・遺伝性疾患についての診断や情報提供、遺伝相談(遺伝カウンセリング)、健康管理のための他科紹介などで、外来診療に加えて入院患者のコンサルテーションを行いました。専門外来は金曜午前・午後、月曜午前とともに他科受診に合わせて他の曜日にも受診できるよう調整を行っています。

外来患者数は、院外紹介の新規患者が22人(前年度19人)、院内紹介の新規患者が79人(前年度78人)、再紹介患者が3人(前年度19人)、再診1,173人(前年度1,131人)でした。院外からの新規患者は、群馬大学医学部附属病院、横田マタニティホスピタル、前橋赤十字病院、本島総合病院、原町赤十字病院、沼田病院、桐生厚生病院、群馬中央病院、群馬県済生会前橋病院、石井病院、あるむキッズクリニック、伊勢崎市民病院、高崎総合医療センター、公立藤岡総合病院、どんぐりこども診療所、埼玉県立小児医療センターよりご紹介をいただきました。院内紹介の依頼元は、新生児科23人、神経内科19人、循環器科16人、産科7人、形成外科4人、アレルギー感染免疫科4人、総合診療科3人、外科2人、整形外科2人、血液腫瘍科・形成外科・歯科・内分泌科各1人でした。

診断のための遺伝学的検査を行えるよう、保険診療内での検査以外にも、他施設との共同研究による研究的遺伝子解析の実施体制を整えました。研究的遺伝子解析については、未診断疾患イニシアチブ(IRUD)に高度協力病院として参加し、県内の未診断稀少疾患の患者さんの診断に寄与できるよう努めています。

平成21年度より続いている13トリソミー・18トリソミーの家族会「スマイル」および、Down症候群に対する集団診療「あさがおの会」についてはインターネット会議方式で実施しました。

(山口 有)

2. 第二病棟

第二病棟は外科系病棟であり、外科、形成外科、整形外科が計 27 床にて運用している。また同じ棟内にあるDAY病棟は外科、形成外科、歯科が 2 床にて運用している。

令和 4 年度の入院患者数は 708 人であった。前年度の 770 人より減少した。

第二病棟在院日数は 6.3 日であり、前年度の 8.1 日より短縮した。

第二病棟延べ患者数は 5824 人であり、前年度の 7110 人より減少した。

第二病棟一日平均患者数は 16.0 人であり、前年度の 19.5 人より減少した。

第二病棟病床利用率は 59.1%であり、前年度の 72.1%より減少した。

DAY病棟病床利用率は 48.8%であり、前年度の 52.7%より減少した。

(西 明)

(1) 小児外科

診療体制では、五十嵐先生、小槌先生が各大学の医局人事で異動となり、かわりに獨協大学から岡崎英人先生、東京大学から横川英之先生、群馬大学から篠原正樹先生が加わって、西、則内、岡崎、横川、篠原の若い 5 人体制で診療しました。一気に若返り、則内先生にかなり負担がかかってしまいましたが、則内先生が若い先生たちを非常に良くまとめてくれて、若い先生たちも本当にフットワークよく動けるメンバーで、みんなで乗り切ることができました。秋からは則内先生が医局人事で異動となり、かわりに東京大学から渡辺栄一郎先生が来てくれました。元気ワイルドな感じが加わって、またまたチームの感じが変わって面白かったです。

入院数 439 例 (昨年度 585 例)、うち手術数 338 例 (昨年度 443 例)、新生児手術例は 18 例 (昨年度 25 例)、腹腔鏡手術 117 件 (去年度 112 件) でした。

Covid-19 の影響で症例数の減少がみられた 1 年でした。外科の若手メンバーも順番にCovid-19に罹患していきましたが、ありがたいことに同時に複数倒れなかったのがなんとか乗り切れました。僕はCovid-19には罹患しなかったのですが、酔っ払って桜を見上げながら走り回っていたら転倒して上顎をひどく痛めてしまいました。しばらく腫れと痛みがすごくて固形物が食べられず弱りましたがマスクで隠して頑張りました。その節は歯科の木下先生にお世話になりました。ありがとうございました。

外科としては、あいかわらずなかなか大変な症例も多々ありましたが、いろいろな科や手術室や病棟の看護師の方々やコメディカルの方々の皆さんの協力のもと、大きな問題もなく 1 年過ごすことができました。ありがとうございました。

(西 明)

手術症例 R4 年度 (重複含む)

正中頸嚢胞, 側頸瘻手術	3	小腸切除	3
気管切開	2	腸重積観血的整復	2
喉頭気管分離術	1	ヒルシユスプルング病根治手術	2
気胸手術 (胸腔鏡)	0	直腸肛門奇形手術 (低位)	2
肺葉切除 (開胸)	1	直腸肛門奇形手術 (中間位・高位)	5
肺葉切除 (胸腔鏡)	0	肛門疾患	7
肺分画症手術 (胸腔鏡)	0	胆道閉鎖症手術	3
A型食道閉鎖症手術	0	胆道拡張症手術 (開腹)	1
C型食道閉鎖症手術	1	胆道拡張症手術 (腹腔鏡)	0
食道バンディング	0	脾臓摘出術 (開腹)	0
食道アカラシア手術 (腹腔鏡)	0	水腎症手術	2
胃・食道逆流防止手術	2	膀胱尿管逆流症手術	1
胃・食道逆流防止手術 (腹腔鏡)	6	悪性腫瘍手術	4
横隔膜ヘルニア手術 (開腹)	1	良性腫瘍手術	10
横隔膜ヘルニア手術 (胸腔鏡)	0	腫瘍生検	5
先天性腹壁異常手術	3	中心静脈カテーテル挿入	23
胃手術 (胃瘻含む)	10	鼠径ヘルニア (精巣水腫含む) 手術	40
肥厚性幽門狭窄症手術	7	鼠径ヘルニア (精巣水腫含む) 手術 (腹腔鏡)	82
腸閉鎖・狭窄症手術	3	精巣固定術	34
腸回転異常症手術	7	気管支鏡	2
虫垂炎手術 (開腹)	0	上部消化管内視鏡 (治療含む)	35
虫垂炎手術 (腹腔鏡)	17	下部消化管内視鏡 (治療含む)	21
人工肛門造設	7	小腸カプセル内視鏡	12
人工肛門閉鎖	10	その他手術	16
イレウス手術	3	合 計	396

(2) 形成外科

令和4年度は、浜島、齊藤 景医師、佐々木淑恵医師の専門医3人体制で診療を行った。

<外来診療>

外来診療は月曜日・木曜日の午後に行い、新患患者は月曜日・木曜日の午前中の予約診察として行った。また、月曜日の午前中に外来で血管腫に対するレーザー治療を行った。

令和4年度の新患患者数は515人、再診患者数は4,046人、総数4,561人であった。本年度も新型コロナウイルス感染症への対応として外来・入院制限を行った時期があったが、外来患者数は前年よりも若干増加した(前年比102.6%)(令和3年度の新患患者数は513人、再診患者数は3,931人で、総数4,444人)。

<手術>

手術は、水曜日・金曜日に入院全身麻酔手術及び日帰り全身麻酔手術を行った。また金曜日午後には、手術枠の空きが有る場合に外来局所麻酔手術を行った。

令和4年度の形成外科の手術件数は1,305件で、全身麻酔166件(入院134件、日帰り全身麻酔下手術32件)、局所麻酔1,138件であった。前年度と比較すると入院手術・日帰り全身麻酔下手術

数はともに減少したが、局所麻酔手術は増加した(令和3年度の形成外科の手術件数は1,173件で、全身麻酔215件(入院161件、日帰り全身麻酔下手術54件)、局所麻酔958件)。

手術症例を手術内容区分に従って分類し、その術式とともに以下に示す。

(1) 新鮮熱傷	0件	
(2) 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷	0件	
(3) 唇裂・口蓋裂	23件	
口唇鼻形成術	6件	
口唇鼻修正術	3件	
口蓋形成術	3件	(耳鼻科で鼓膜切開もしくは鼓膜チューブ留置術を同時施行3例)
顎裂部骨移植術	10件	
口蓋瘻孔閉鎖術	1件	
(4) 手、足の先天異常、外傷	20件	
多指症手術	11件	
合指症手術	2件	
合趾症手術	4件	
多合趾症手術	3件	
(5) その他の先天異常	69件	
副耳切除術	3件	
耳瘻孔切除術	4件	
睫毛内反症手術	15件	
舌小帯形成術	8件	
漏斗胸手術(Nuss法)	8件	(うち開心術と同時1例)
漏斗胸手術(Nuss法術後バー抜去)	9件	
漏斗胸手術(Nuss法術後バー修正)	1件	
臍ヘルニア形成術	21件	
(6) 母斑、血管腫、良性腫瘍	69件	
母斑切除術	33件	
良性腫瘍切除術	34件	
血管腫切除術	1件	
動静脈奇形硬化療法	1件	
(7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建	0件	
(8) 瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド	0件	
(9) 褥創、難治性潰瘍	1件	
(10) 美容外科	0件	
(11) その他	1,127件	
レーザー治療	1,127件	(うち全身麻酔下1例)

今年度は新型コロナウイルス感染症による外来・手術制限を行ったこともあり、昨年度よりも全身麻酔手術が減少した。

疾患別でみると、口唇口蓋裂、手の先天異常においては、例年と同様の手術数であった。その他

の先天異常では手術数の減少が目立った。これは、口唇口蓋裂や手の先天異常と異なり、至適手術時期の範囲が広い疾患が多いため、新型コロナウイルス感染症のことを考慮して今年度の手術を患者や家族が希望されなかったことも原因と考えられる。また、手術希望が多い夏休み・冬休み時期に手術制限を行っていたこともその要因と考えられる。

乳児血管腫に対するレーザー治療は、昨年よりも178件増加した。月曜日午前中に20～30人に対してレーザー治療を行っており、待合がかなり混雑する状況になっている。また、乳児血管腫に対するプロプラノロール内服治療は血液腫瘍科に依頼しているが、適応症例数の増加により当院のみで入院による内服導入に対応することが困難になってきており、県内の入院可能な小児科施設に治療を依頼することを検討中である。血管腫の初診予約はできるだけ月曜日の午前中に入れるようにして、初診当日にレーザー治療を行えるように配慮しているが、紹介していただく患者さんの数が多く、予約を入れるのが大変な状況は続いている。

(浜島昭人)

(3) 整形外科

1. スタッフ

部長: 浅井伸治

資格: 日本整形外科学会専門医、義肢装具等適合判定医、身体障害者福祉法第15条指定医

参加学会: 日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会幹事、日本小児股関節研究会

非常勤医師: 富沢仙一

資格: 日本整形外科学会専門医、日本スポーツ協会スポーツドクター、運動器リハビリテーション認定医

参加学会: 日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会、日本リハビリテーション学会、日本足の外科学会、日本創外固定学会、日本二分脊椎研究会、脳性麻痺の外科研究会、日本関節鏡学会、関東整形災害外科学会

2. 総括

令和2年4月1日から富沢仙一先生は非常勤医師として月曜から木曜まで外来診療、手術に参加され診療体制を維持しております。

群馬大学整形外科から品川知司先生、川上詩織先生が手術に参加されています。

当科の特色は、脳性麻痺や二分脊椎に対する包括的治療の試みと、さらに、変形治癒骨折や低身長に対し骨延長術、創外固定術、小児股関節の手術治療である。

整形外科外来は、21診察室、22診察室は診察を主体の部屋とし、23診察室は処置室とし、ギプス処置、装具作製等を行っています。

骨長補正術は、以前は短肢側の骨延長術のみであったが、8-プレートによる成長抑制術が差の小さい場合には有用であり、片側肥大症例(或いは片側低形成症例)に行われている。

小児股関節疾患について、自己血貯血、股関節造影の後、2期的に骨切りを行う治療対象は5例(寛骨臼移動術4人、外反骨切り1人)であった。

本年の特徴として新型コロナウイルスによる手術延期、再診患者数の減少があった。

	月	火	水	木	金
午前	再来	手術	再来	小手術、BTX	再来
午後	新患	手術	新患	書類ほか	リハビリ

整形外科研修医の後期研修医の研修受け入れはなかった。

群馬大学医学部学5年生3名が各2週間ずつ当科で学生実習を受けられました。

3. 外 来

総受診者数2,759人、新患166人、再来2,593人であった。総受診者数は111人減少し、新患は2人増加し、再来者は113人の減少であった。当科における新患数は入院、外来で他科からの予定外の紹介や過去の通院患者の新規受診なども含まれており、診察日の実際の総受診者の記録が電子カルテに反映されないために、実際の受診者数との乖離がある。

外来日には、主に、午前中を再来に、午後を新患にあてた。予定ギブス等の処置は再来終了時刻を目安にギブス処置枠を置いて、行なった。小児整形外科的ギブスは患者数11人に対し157回行った。現在、外来を能率的に進めるために、前日までの予約患者リストにてレントゲン検査者や装具作成者をピックアップし滞りのない流れを作っている。それでも外来の待ち時間が長くなりつつある。

4. 病棟入院患者数

延べ入院患者数は55人であった。

創外固定装着症例は3人、自己血貯血目的の1日入院が2人であった。

予定外の入院が7人あり内訳は骨折による手術治療が2人、大腿骨骨折の保存的治療1人、下腿両骨骨折の保存的治療2人、分娩麻痺1人、両膝脱臼1人であった。

下肢の手術が多いため、免荷や骨延長に長期間を要し入院日数は長くなる傾向がある。比較的年長児、学童期にある患者が治療対象となることが多く、赤城特別支援学校が併設されていたことは有用であった。

5. 手術件数

手術は66件、うち麻酔下の検査(関節造影)を12人、自己血貯血を4人に行なった(別表1参照)。

当科では初めての手術「骨髄鏡視下の骨搔把術」が群馬大学整形外科 品川知司先生によって行われました。

予定外の手術として、緊急手術0件、骨折などによる臨時手術が2件ありました。

なお、手術に関する施設基準について、区分2に分類される手術:「靭帯断裂形成手術等」については、手術なし、区分3に分類される手術:「内反足手術等」については、6例の手術を実施した。脚長補正術に関しては、骨延長術(Ilizarov Frame使用)2例、骨端軟骨発育抑制術6例(8プレート使用)行った。

脳性麻痺児に対するボトックス®施注を8人に対し17回行った。

(浅井伸治)

別表 1【手術件数】66 件

手 術	件数
腱鞘切開術	1
骨折観血の手術 (大腿)	2
骨内挿入物除去術:	
骨盤内異物除去術	1
骨内挿入物除去術 (大腿)	10
骨内挿入物除去術 (下腿)	17
骨内挿入物除去術 (足)	1
骨延長術 [大腿骨]	1
骨延長術 [脛骨および腓骨]	1
骨端軟骨発育抑制術 [大腿骨]	4
骨端軟骨発育抑制術 [脛骨]	2
観血の関節授動 (足)	7
内反足手術	6
三関節固定術	1

手 術	件数
Evans手術	1
アキレス腱切腱術	2
骨搔爬術 (骨髄鏡)	1
骨切り:	
寛骨臼移動術	4
大腿骨骨切り術	1
大腿骨外反骨切り術	2
骨切り (足)	1
手術合計:	66
検査	
関節造影:	12
関節造影 (股関節)	4
関節造影 (膝関節)	0
関節造影 (足関節)	8
自己血貯血	6
(4 件全身麻酔下、2 件は病棟で採決)	

3. 第三病棟

第三病棟(血液腫瘍・循環器)の延べ入院患者数は6,804人、1日平均入院患者数は18.6人、年間病床利用率は62.1%であり、入院患者数は例年より大幅に減少した。これはCOVID-19流行により病床の使用が一時期制限されたことによるものと思われる。

第三病棟の病室の不足や比較的医療的ケアが多い重症患者をPICUから受け入れなければならない状況があり、安全管理上の問題にも努力をし、PICUから循環器・心臓血管外科患者の退室や受け入れが比較的スムーズに行われるようにしている。例年は病室の不足時には予定入院患者の一部や比較的循環が安定した患者を他病棟に移動させるなど、病院全体として対応していたが、他病棟におけるCOVID-19患者の受け入れのため、それも難しい状況であった。循環器疾患と血液腫瘍疾患という重症疾患を扱う病棟であり、それぞれ高度の専門知識と看護力を必要とする分野である。小児がんの化学療法を行う一方で、重症心疾患の術前・術後管理や心不全管理を行うなど、疾患概念が全く違う患者の看護を同時に行う看護師の負担は大きい。医療安全を考慮しながら、患者、患者家族を中心に考えられる業務環境を整えていきたい。

(河崎裕英)

(1) 循環器科

令和4年3月をもって長らく群馬県の小児循環器医療を支えてこられた小林富男先生が定年退職となりました。4月からは新たに稲田雅弘先生が循環器グループとして赴任され、下山伸哉、池田健太郎、中島公子、浅見雄司、新井修平、稲田雅弘の6名体制で診療を行いました。また、群馬大学の後期研修医を3週間ずつ受け入れ、小児循環器診療についての研修を行っていただきました。

年間総入院患者数は523名でした。外来断層心エコーは5,845件でした。心臓カテーテル検査は153件でした。Catheter interventionは、バルーン拡張術34件、血管内コイル塞栓8件、経皮的ASD閉鎖術9件、Amplatzer PDA閉鎖栓6件、カテーテルアブレーション7件、BAS5件の計69件でした。循環器科関連の死亡は7件でした(表1)。

循環器科では重症患者を多く扱っており、毎日循環器科・心臓外科でチームカンファレンスを行い治療方針の検討を行っています。またPICUが円滑に運営できるようベッドコントロール会議を毎日行い緊急患者に対応できるよう努めています。

令和5年度も引き続き群馬県内唯一の小児循環器科として質の高い医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。

(池田健太郎)

表 1 循環器科関連の死亡患者

No	年齢	性別	死亡日	診 断	解 剖	Ai
1	6m	F	2022.4.13	無脾症、単心室症、総肺静脈還流異常症	なし	なし
2	2m	F	2022.6.13	院外心停止	あり	あり
3	15y	M	2022.7.22	肥大型心筋症、Noonan症候群	なし	あり
4	6y	M	2022.8.12	HLHS類縁疾患、歌舞伎症候群	なし	あり
5	1y	F	2022.10.26	13trisomy、VSD、PH、喉頭気管軟化症、全前脳胞症	なし	あり
6	1y	M	2022.11.2	無脾症、単心室症	あり	あり
7	3m	F	2022.12.8	キャットアイ症候群、VSD、PDA、敗血症、壊死性腸炎	なし	あり

(2) 心臓血管外科

令和4年度は、メンバーが一新され岡村 達、松永慶廉、豊田真寿、畑岡努医師の延べ4名が心臓血管外科チームとして診療にあたりました。年間を通して良好な手術成績を残すことができました。重症な心疾患を多く扱っているにも関わらず手術死亡症例なしという良好な成績(人工心肺症例: 59例、非人工心肺症例: 9例、その他: 11例の合計79例)を残すことができたのも、ひとえに小児循環器科を含めた循環器チーム、その他の診療科、診療部門との連携、協力があったからこそと感謝しております。今後ともこの成績を維持し、症例数増加を目指し努力していきたいと思えます。

(岡村 達)

(3) 血液腫瘍科

令和4年度の血液腫瘍科総入院数(再入院を含む)は156人(延日数1,731日)と、COVID流行下にも関わらず例年と同様であった。

新規診断患者数も23例であり、これも例年と変わらなかった。疾患の内訳は、白血病・リンパ腫が半数以上を占め、非腫瘍性血液疾患、固形腫瘍、脈管系奇形、その他と続いており、これも例年同様である。

昨年度から引き続き血管腫に対するプロプラノロール投与のクリニカルパス入院が増加している。数年前から、入院中および退院後の小児がん患児やその家族を支援する目的に、当院に関わりがあったご家族を中心に様々な支援活動をしていただく試みを開始している。今後、発展させていく予定である。

(河崎裕英)

4. 小児集中治療部

令和4年(2022年)度は前年度同様、心臓血管外科および循環器科が中心となりオープンICU形態で運営した。専任医師として下山と心臓外科医師、および循環器科医師(新井、浅見、中島)が前年度同様4ヶ月交代の専任体制で各科入室者の担当医との協力のもと業務を行った。

令和元年(2019年)度から新型コロナウイルス感染症による感染が拡大し、令和3年度になっても小児の新型コロナウイルス感染症患者数は増加していたが、重症感染によるPICU入室者適応者は認めなかった。このため、8床運営体制に戻し通常の重症疾患の受け入れを行いつつ、新型コロナウイルス重症患者受け入れ体制の維持を並行して行った。成人の新型コロナウイルス感染者が増加し緊急事態宣言も発令されたものの、幸いにも小児の重症患者の入室者はなかった。令和4年度はPICUへの新型コロナウイルス感染症患者数は13人と一気に増加したが、新型コロナウイルス感染症患者に対する対応も慣れ落ち着きを取り戻しつつあり、他の重症疾患患者の対応も大きな問題なく可能となった。

令和4(2022年)度にPICUで治療・管理を行った患者数はのべ243名(前年232名)で新型コロナウイルス感染症の流行以前と大きな変化は認めなかった。満床のためPICUへの入室制限を行った日数は、令和2年度の年間130日から、令和3年度は85日、令和4年度は3日と大幅に減少に転じた。これは入室患者数がほぼ同様な推移であり、日常的なベッド管理が効率的に行えたことによる成果と考えられ、課題であった県内緊急重症患者のPICU満床のための受け入れ困難な状況の大幅な改善となった。

8床の運用で1日平均入院患者数は4.9名(前年6.1名)、平均入室日数は6.0日(前年7.5日)で、入室期間はやや短縮の傾向を示した(表1)。全入室患者のうちわけは、例年同様約7割は手術後の管理のための入室で、その他は一般病棟入院中の患者状態悪化で入室になったケース20件(前年20件)、外来からの直接入院6件(前年10件)、当院産科での重症先天性心疾患児の出生後の入院(胎児診断後)11件(前年17件)であった。また、他院からの重症者の転院は53件(前年24件)であり、いずれのケースも緊急入室であった(表2)。新型コロナウイルス感染に対する日常生活での感染対策が奏功したためか、RSウイルス感染を始めとするウイルス感染症の発症者の減少傾向が昨年同様認められ(RSウイルス感染症入室者は約4割減)、当初恐れていた新型コロナウイルスと他の感染症患者の同時多発的な発生は認めず、陰圧個室も効率的に使用できた。一方、新生児・乳児への緊急開胸ECMO装着などPICU内での手術を含めた緊急処置は年間42件(令和2年度)から7件(令和3年度)に減少し、さらに令和4年度は3件のみに減少した。これらの背景として、非緊急時や状態の安定している患者の処置を可能な限り手術室で対応する方針に変更したこと、手術手技の改善や術後管理等により術後の開胸状態の患者数や期間が減少していることがあると考える。特殊治療も、ECMO0件(前年1件)、CHDF1件(前年2件)、血漿交換1件(前年0件)と令和2年度までと比較すると著明な減少を示しており、各種治療のレベル維持において新たな課題が出てきている。また、NO吸入治療9件(前年21件)、N2吸入治療7件(前年10件)、その他、脳低温療法2件、腹膜透析0件、PMX1件であった。

科別在室日数では循環器科・心臓血管外科患者が71%(前年86%)(図1)、診療科別入院患者数も図2のごとく循環器科・心臓血管外科が47%(前年61%)、外科が31%(前年24%)を占め、従来と同様に術後患者の管理が中心であった。また、PICU入室者を年齢構成別にみると、新生児(1ヶ月未満)と1歳未満の乳児(1ヶ月~1歳未満)が25%と多くをしめた(図3)。また、PICUにおける死亡患者は10名(前年5名)(約4%)であり、うち7名は循環器疾患であった(2名は院外心停止、5名は左心低形成症候群等の重症疾患の術後遠隔期例。非心原性も含む)。2名は短腸症候群や

1例は原因不明の院外心肺停止蘇生後症例であった。

(下山伸哉)

表1 平均在室日数

診療科	令和2年度	令和3年度	令和4年度
全診療科	7.6	7.5	6.0
循環器科・心臓外科	10.0	9.7	8.2
アレルギー・呼吸器・感染免疫科	11.0	9.3	7.0
神経内科	3.7	4.7	2.4
血液腫瘍科	1.5	9.4	9.0
整形外科	4.0	0.0	2.0
外科	2.0	2.3	3.4
形成外科	0.9	1.0	0.9
その他内科系診療科	0	0	0

表2 他院からの転院患者疾患名

疾患	症例数
脳炎・脳症	4 (2)
痙攣重積等	15 (1)
先天性心疾患	5 (9)
心筋疾患等	1 (1)
後天性心疾患	3 (1)
呼吸器感染等	11 (4)
急性腹症等	3 (1)
尿路感染症	0 (0)
不慮の事故/外傷	5 (4)
その他	6 (1)
合計	53 (24)

図1 診療科別在室日数

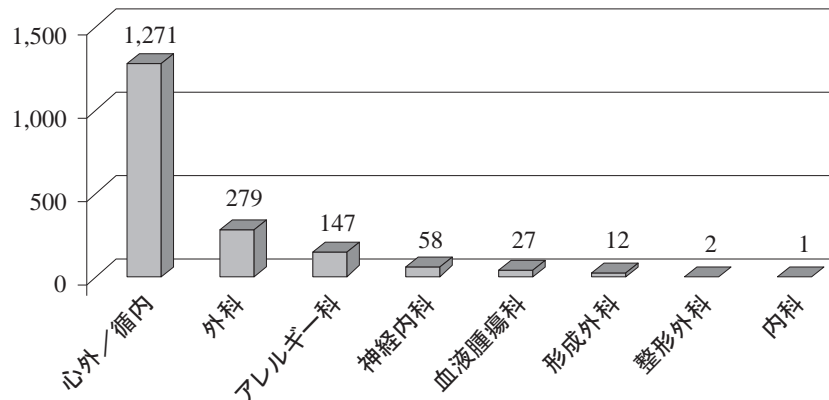


図2 診療科別入院患者割合

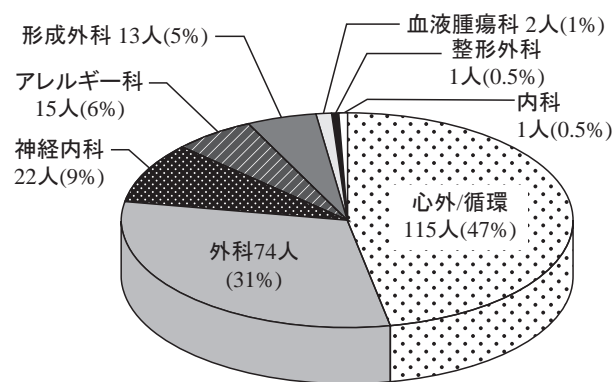
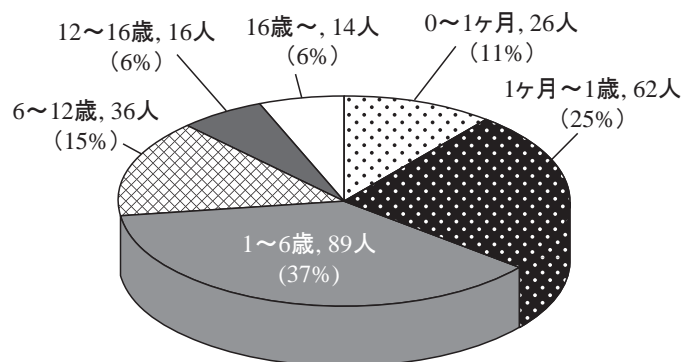


図3 PICU入院患者年齢分布



5. 新生児未熟児病棟

2022年度の入院患者数は212名で、昨年度と比べ大きく減少していた。出生数は予想を超えて年々減りつつあり、その影響があった可能性は否めない。それに加えて、COVID-19の流行により病棟スタッフの中にも休まざるをえない職員が常に生じ、病棟スタッフの負担などを考慮する必要が出てきたこと、新生児科の常勤医師にも長期の病気休暇のため欠員が生じたことなどにより、入院患者を制限する必要が生じたことも入院患者の減少に関係していたと思われる。

入院患者が減少した中でも、当科で受け入れる必要のある重症の児はできるだけ受け入れるように努めてきた。その結果、超低出生体重児の入院は30名で、このうち出生体重500g未満の児は6名、在胎22、23週の児は8名にのぼっていた。重症児の救命率も向上してきていることもあり、長期入院の患者数も増加している。また、在宅医療の制度の整備も進んでいるが、新生児未熟児病棟から長期間出られない児も一定数存在している。県外への母体搬送、新生児搬送が生じないようにしながら、入院患者に最善の治療を行えるようバランスのとれた病床運営を心がけるようにしていくことが必要となっている。

研修面では、多くの医学生、初期臨床研修医、後期臨床研修医を受け入れることができた。新生児蘇生法講習会については、COVID-19流行のため救急救命士向けPコース1回が中止となったが、Aコース2回、Bコース1回、Sコース5回、救急救命士向けPコース1回を開催するとともに、恒例となった消防学校でのPコースも開催することができた。今後もCOVID-19の流行状況をみながら新生児蘇生法講習会を開催するとともに、できればオープンカンファレンスも再開し、県内の周産期医療のレベルの向上に努めていきたい。

(丸山憲一)

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総数
500g未満	6	0	6
500～999g	19	5	24
1000～1499g	6	8	14
1500～1999g	24	8	32
2000～2499g	18	17	35
2500g以上	44	57	101
計	117	95	212

◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総 数
22 週	2	0	2
23 週	5	1	6
24 週	5	1	6
25 週	2	0	2
26 週	2	1	3
27 週	5	1	6
28 週	4	3	7
29 週	0	3	3
30 週	2	2	4
31 週	2	1	3
32 週	0	2	2
33 週	7	2	9
34 週	4	1	5
35 週	10	6	16
36 週	5	4	9
37 週	19	9	28
38 週	14	24	38
39 週	16	21	37
40 週	10	8	18
41 週	3	5	8
計	117	95	212

◆疾患の分布

呼吸窮迫症候群	35	胸水貯留	1
胎便吸引症候群	4	新生児持続性肺高血圧症	8
新生児一過性多呼吸	33	慢性肺疾患	1
肺浮腫・出血性肺浮腫	2	声帯麻痺・両側声門開大不全	1
肺出血	2	先天性横隔膜ヘルニア	2
肺炎・肺炎の疑い	1	肺高血圧症	1
気胸・気縦隔	14	dry lung syndrome	1
無呼吸発作・反復性無呼吸	28	肺分画症・肺分画症の疑い	1
喉頭軟化症	2	massive aspiration	1
肺低形成・肺低形成の疑い	1	気管支攣縮	1

◆疾患の分布

肺葉性肺気腫	1	胎便関連性腸閉鎖症・胎便関連性腸閉鎖症の疑い	1
息こらえ発作	1	小腸捻転・結腸小腸捻転	1
新生児仮死	35	先天性食道閉鎖	1
新生児重症仮死	35	肥厚性幽門狭窄症	1
新生児けいれん・けいれんの疑い・新生児発作	1	鎖肛・鎖肛の疑い	4
ALTE	1	急性胃粘膜病変	3
頭蓋内出血・頭蓋内出血の疑い・頭蓋内出血および血栓	7	腹壁破裂	2
低酸素性虚血性脳症	2	小腸閉鎖	2
Erb麻痺	1	ミルクアレルギー・ミルクアレルギーの疑い・好酸球性胃腸炎・乳幼児消化管アレルギー	8
脳室上衣下嚢胞	1	門脈体循環シャント	1
脳梁欠損・脳梁低形成・脳梁欠損の疑い・脳梁低形成の疑い	2	鼠径ヘルニア	1
小脳低形成	2	ヒルシュスプルング病・ヒルシュスプルング病の疑い・ヒルシュスプルング病類縁疾患の疑い	3
裂脳症・多小脳回	1	胆石症	1
墜落産児	1	臍ヘルニア	4
脳室拡大・側脳室拡大	5	胆汁うっ滞・一過性胆汁うっ滞・胆汁うっ滞の疑い	3
くも膜嚢胞・くも膜嚢胞の疑い	1	小腸狭窄	1
薬物離脱症候群	1	亜鉛欠乏症	24
後頭蓋窩腔拡大	1	癒着性イレウス・癒着性腸閉塞	1
先天性ミオパチー	1	腹膜炎・汎発性腹膜炎	2
大脳深部髄質静脈血栓症、出血	1	食道裂孔ヘルニア	1
高インスリン血性低血糖症(一過性・持続性)	2	臍帯潰瘍	1
晩期循環不全	1	経口摂取困難	1
新生児高ビリルビン血症	126	梨状窩瘻・咽頭梨状窩瘻	1
新生児重症黄疸	3	肝前腸嚢胞	1
未熟児くる病	38	臍帯内ヘルニア	1
新生児低血糖症	4	肛門狭窄	1
高血糖・一過性高血糖	3	VSD	10
甲状腺機能低下症・先天性甲状腺機能低下症	1	DORV	1
溶血性黄疸	1	肺動脈狭窄	1
先天性甲状腺機能亢進症・甲状腺機能亢進症	1	ASD	3
副腎嚢胞	1	TR	1
敗血症・菌血症・敗血症性ショック	4	大動脈弁狭窄	1
感染症(focus不明)・感染症の疑い	1	TGA	1
後天性サイトメガロウイルス感染症	1	症候性動脈管開存症・動脈管開存症	35
尿路感染症	1	心筋肥厚・心筋症・肥大型心筋症・一過性心筋肥厚に伴う循環不全	1
新生児特発性嘔吐症	2	心不全・心機能低下・うっ血性心不全・両心不全	1
腸回転異常症・中腸軸捻転・腸回転異常症の疑い・不全型腸回転異常症	5	上室性不整脈・上室性期外収縮・上室性頻脈	2
腸穿孔	2	左上大静脈遺残	1
胃食道逆流症・胃食道逆流症の疑い	3	肺高血圧	2
先天性十二指腸閉鎖	2	房室ブロック	1

◆疾患の分布

三心房心・三心房心の疑い	1	双胎間輸血症候群受血児	2
単心室・機能性単心室	1	双胎間輸血症候群供血児	2
動脈管瘤	1	ABO不適合	4
左室低形成	2	会陰部脂肪腫	1
末梢性肺動脈狭窄	1	肝臓副腎間の腫瘤性病変	1
心房性・心室性期外収縮の疑い・心室性期外収縮	1	腎盂尿管移行部狭窄	1
三尖弁異形成	1	水腎症・水腎症の疑い	3
大動脈弓低形成	1	高K血症	4
ポッターシークエンス	1	急性腎不全・腎不全・急性腎障害	1
胎児水腫	2	尿道下裂	5
Prader-Willi症候群・Prader-Willi症候群の疑い	1	馬蹄腎・癒合腎	2
多脾症候群	1	停留精巣・停留精巣の疑い	1
Smith-Lemli-Opitz症候群	1	腎低形成・腎無形成	1
ラッセル・シルバー症候群の疑い	1	嚢胞性異形成腎・多嚢胞性異形成腎	3
口唇裂・口蓋裂	8	陰嚢水腫・精索水腫	3
小顎症	3	卵巣嚢腫・嚢胞	2
下顎後退・低形成	2	腎石灰化・腎石灰沈着	1
21トリソミー・21トリソミーの疑い	8	重複尿路	1
18トリソミー	2	小陰茎	1
13トリソミー	1	性分化疾患	1
6qモノソミー	1	卵巣腫瘍の疑い	1
1p部分モノソミー・16番染色体短腕部重複、不均衡型相互転座の疑い	1	尿管瘤	2
難聴・難聴の疑い	9	精巣上体炎または精巣上体垂捻転の疑い	1
副耳	1	水腎水尿管	2
未熟児網膜症	15	精巣低形成	1
コロボーマ	1	男性膣の疑い	1
眼底出血・硝子体出血	1	多指症	2
鼻腔狭窄・後鼻腔狭窄・鼻腔狭窄の疑い	1	先天性内反足	2
未熟児貧血	47	合指症	1
貧血・重症貧血・鉄欠乏性貧血・乳児貧血	3	第12肋骨欠損	1
同種免疫性血小板減少症	1	骨系統疾患の疑い	1
DIC	2	鎖骨骨折	1
TAM・TAMの疑い・silent TAM	3	踵足	1
胎児母体間輸血症候群	1	橈骨骨折	1
血小板減少症	1	膝股関節脱臼	1
Rh血液型不適合	1	単純性血管腫	1
帽状腱膜下出血	1	双胎	22

◆新生児未熟児病棟死亡症例及び剖検

	年齢	性別	死亡日	病名	剖検	Ai
1	0歳	女	2022.4.10	極低出生体重児(在胎32週5日、出生体重1,010g)、MD双胎第2子、心室中隔欠損症、高アンモニア血症、高乳酸血症、肺高血圧、新生児ミトコンドリア病の疑い	なし	あり
2	0歳	女	2022.4.11	低出生体重児(在胎32週5日、出生体重1,734g)、MD双胎第1子、新生児一過性多呼吸、高アンモニア血症、高乳酸血症、新生児ミトコンドリア病の疑い	なし	あり
3	0歳	女	2022.5.27	低出生体重児(在胎36週2日、出生体重1,626g)、Potter sequence(両側腎低形成、肺低形成)、新生児仮死、air leak	なし	なし
4	0歳	女	2022.7.18	低出生体重児(在胎37週4日、出生体重1,704g)、新生児重症仮死、18トリソミーの疑い、先天性横隔膜ヘルニア、両大血管右室起始症、大動脈縮窄症、新生児遷延性肺高血圧症、新生児高ビリルビン血症	なし	なし
5	1歳	男	2022.8.10	超低出生体重児(在胎23週1日、出生体重644g)、新生児重症仮死、呼吸窮迫症群、慢性肺疾患、動脈管開存症、頭蓋内出血、出血後水頭症、高K血症、胆道穿孔、新生児高ビリルビン血症、未熟児くる病、未熟児貧血、鼠径ヘルニア、敗血症	なし	なし
6	0歳	女	2022.9.6	極低出生体重児(在胎37週4日、出生体重1,194g)、新生児重症仮死、先天性十二指腸閉鎖、大動脈縮窄症、心室中隔欠損症、Meckel憩室、多発性関節拘縮、口蓋裂、未熟児貧血、気管軟化症、敗血症、真菌感染症、血球貪食症候群、頭蓋骨早期癒合症、小顎症、肺出血、腸回転異常症、上室性頻拍発作、新生児高ビリルビン血症、腸管不全関連肝障害	なし	あり
7	0歳	女	2022.11.10	低出生体重児(在胎39週2日、出生体重1,653g)、新生児重症仮死、18トリソミー、心室中隔欠損症、動脈管開存症、肺高血圧症、不全型腸回転異常症、重複尿路、尿管瘤、尿路感染症、未熟児貧血、新生児高ビリルビン血症、コロボーマ、硝子体出血	なし	なし
8	0歳	女	2022.11.14	低出生体重児(在胎33週3日、出生体重1,970g)、新生児重症仮死、空腸閉鎖、臍帯潰瘍、急性腎不全、高K血症、重症貧血、頭蓋内出血	なし	なし
9	0歳	女	2023.2.12	超低出生体重児(在胎27週0日、出生体重910g)、新生児重症仮死、呼吸窮迫症群、右室型単心室、心室中隔欠損症、大血管転位、重症肺動脈狭窄、新生児高ビリルビン血症	なし	あり
10	0歳	男	2023.3.2	新生児重症仮死、貧血	なし	なし

6. 産科病棟

令和4年度開始当初は常勤医3名でスタートしたが、5月以降に産休中の医師2名が順次復帰し、年度のほとんどで常勤医は5名となった。群馬大学産科婦人科から宿日直要員として2名の医師も派遣されたため、ここ数年の中では比較的人員が多かったとはいえ、宿日直可能医師自体は5人しかおらず、オンコールの確保も含めれば、人員不足は相変わらずで、来年度からの導入される働き方改革に向けての不安は払拭できてない。

臨床成績概要を表1に示す。前年度より増加となったものは新規外来患者数500名(前年度487名)のみで、その他の項目については、入院患者数338名(前年度354名)、分娩数228件(前年度237名)など、軒並み減少した。特に母体搬送については、依頼総数78件(前年度115件)、受入数43件(前年度73件)、受入率55.1%(前年度63.5%)と大きく減少した。受入不可の35件中、NICU満床によるものが25件と最多で、実に71.4%を占めていた。当院からの母体搬出数17件は前年度18件とほぼ同数で、やはりNICU満床によるものが9件(52.9%)と半数以上を占めていた。このように令和4年度はNICUの受け入れ状況が慢性的に厳しい1年であり、早産症例や先天異常症例が中心の当科もその影響を如実に受けてしまったこと。母体搬送件数の減少幅に比べ、入院患者数と分娩件数のそれがわずかにとどまったのは、渋川市内の分娩取扱い施設の減少が影響した可能性がある(令和5年6月30日現在で渋川市内の分娩取扱い施設は当院のみ)。しかし、分娩に際して顧客サービスや無痛分娩を優先する妊婦は一定数存在するため、今後は前橋市内のクリニックなどへ分散されていくと思われる。NICU稼働状況が改善されない限り、ハイリスク妊娠を診療の主体としている当科は厳しい運用が続いていくであろう。

令和4年6月に出生前検査認証制度等運営委員会によりNIPT(非侵襲性出生前遺伝学的検査)の基幹施設と認定されたことを受け、同年9月から産科でNIPT外来を開始し、令和4年度中の実施件数は9件であった。

表2に令和4年度の主な胎児先天異常症例を示す。

(京谷琢治)

表 1 産科臨床成績概要 (令和 4 年度)

新規外来患者数	500 名		母体搬送依頼連絡数	78 件
入院患者数	338 名		母体搬送受入数	43 件
			受入不可数	35 件
分娩数合計	228 件		受入率	55.1%
単胎分娩	208 件		母体搬送搬出数	17 件
双胎分娩	20 件		新生児科満床	9 件
品胎分娩	0 件		その他	1 件
多胎分娩率	8.8%		逆搬送	1 件
帝王切開数	75 件	32.9%	母体合併症	5 件
単胎	61 件	29.3%	産科満床	1 件
双胎	14 件	70.0%	児入院先	
予定	41 件	54.7%	新生児科	117 名
緊急	34 件	45.3%	循環器科	11 名
出生体重別出生数				
< 1000g	26 名	10.7%		
1000-1499g	8 名	3.3%		
1500-1999g	24 名	9.9%		
2000-2499g	37 名	15.3%		
2500-3999g	147 名	60.7%		
4000g \leq	0 名	0.0%		
合計	242 名			
死産児数	8 名			

表 2 主な胎児先天異常症例

<p>●外科系疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> 肺嚢胞性腺腫様形成異常 十二指腸閉鎖 腹壁破裂 臍帯ヘルニア 白線ヘルニア 腸回転異常 多嚢胞性異形成腎 Potter sequence 腎盂尿管移行部狭窄 癒合腎 馬蹄腎 尿管瘤 尿道下裂 卵巣嚢腫 低位鎖肛 <p>●循環器系疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> 心室中隔欠損 心房中隔欠損 房室中隔欠損 完全大血管転位 ファロー四徴症 大動脈離断 心房内臓錯位症候群 総肺静脈還流異常 三心房心 卵円孔早期閉鎖 上室性期外収縮 Wenckebach型2度房室ブロック 心臓横紋筋腫 拡張型心筋症 重複大動脈弓による血管輪 	<p>●染色体疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> trisomy 21 trisomy 18 trisomy 13 17番長腕中間部欠失 der(1)t(1:16)(p36.33;p13.11) Cat eye症候群 <p>●形成外科・整形外科系疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> 唇裂/唇顎裂/唇顎口蓋裂 thanatophoric dysplasia I 裂手/裂足 合指 内反足 <p>●中枢神経系疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> 脳室拡大/水頭症 脳梁欠損 無頭蓋症 多小脳回 上衣下嚢胞 脳腫瘍(未熟奇形腫) <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 双胎間輸血症候群 非免疫性胎児水腫 乳び胸水 Cystic hygroma Body stalk anomaly Smith-Optiz症候群 Prune-Belly症候群 一過性骨髄異常増殖症
--	--

7. 麻 酔 科

今年度も、一昨年度、昨年度に続き COVID-19 が手術室運営に大きく影響した。術前 PCR 検査等を行った上で、さらに対策を講じながら慎重に対応した。

手術室としては、購入していただいた汎用超音波画像診断装置により、中心静脈カテーテル挿入時や神経ブロック施行時にこれまで以上に精密な画像を描出することが可能になり、さらに手技の精度を高めることができ、安全面も向上した。また、体表の超音波画像を高画質で描出できるようになり、抹消確保や動脈穿刺が困難な症例でも非常に有用であった。今後もこうした機器を最大限に活用し、周術期管理において安全性の向上を図っていきたい。

麻酔科の人事については、今年度はレジデント枠が不定期になり、短期の研修を病院として受け入れていただき、昨年度よりも多くのレジデントに研修に来てもらえることになった。常勤医は4人体制となったため、マンパワーが不足する懸念もあったが、常勤医同士が協力して業務に当たってくれたため、昨年度と同等以上に円滑に手術室運営を行うことが出来た。次年度は状況に応じてレジデント研修の形態が変化していくことが予想されるが、指導にあたる麻酔科専門医・指導医も、レジデントの教育を通して自らも学ぶことも多く、可能な限り研修受け入れを継続していきたい。

今年度の麻酔科管理手術件数は742件であり、昨年度より100件以上減少した。COVID-19の変異株が次々に現れ、特にオミクロン株が主体となった第7波の新規陽性者は100万人を超え、第8波では新規陽性者の増加もさることながら第7波を超える死亡者数となった。コロナ禍前より当院での手術件数は時期によって大きく変動し、特に学校が長期休業となる夏季と冬季に手術件数が増えるという傾向があったが、これらの時期に第7波、第8波が重なり、手術件数が大きく減少することとなった。

次年度は、COVID-19の感染症としての扱いが変化していく中で、対策を十分に行った上で、各科と協力しながら手術件数を増加させていきたい。しかし、特に小児においてはCOVID-19に限らず、上気道症状の有無によって麻酔のリスクは大きく左右されることから、術前評価を慎重に行い、適応について検討する必要がある点に変わりはない。様々な状況が変化する中で、安全な医療が提供できるよう周術期管理と手術室運営に努めていきたい。

(松本直樹)

8. 放射線科

医師 1 名、技師 11 名で例年通りの業務を行った。

画像検査所見を記載した総人数は、前医で行われた紹介患者を含めて、X線検査; 15,187 名 (昨年度 17,091 名)、超音波検査; 1,437 名 (1,237 名)、MRI; 734 名 (735 名)、CT; 434 名 (433 名)、RI; 60 名 (59 名)、死後画像診断 (Ai); 19 名 (22 名)、であった。この他に、セカンドオピニオンも含む院外症例の画像コンサルテーションにも随時対応した。

死後画像診断 (Ai; autopsy imaging) は 2010 年度より開始し、2022 年度までに計 178 名に施行された (年間平均 13.6 名)。特別な理由がない限り、MRI と CT はペアで行っており、必要に応じて単純X線写真を追加している。MRI から得られる情報は極めて多く、対象が小さいことによる限界はほとんどなく、まさに“autopsy imaging”を実感させる。ただし、情報が多く複雑すぎるため、その解釈が困難であることが少なくない。現在、画像読影は放射線科医からの一方的な提供であり、組織的な所見の見直しや再検討の機会を設定すべきと思いつつも、その余裕なく現在に至っている。

(畠山信逸)

9. 歯科・障害児歯科

(新型コロナウイルス(以下COVID-19)による影響と対応)

感染力が強くなったオミクロン株の出現で、小児への感染が広がり、昨年度以上に診療体制に大きく影響した。当科では、「群馬県における障害児歯科の最後の砦として」必要な診療は継続する方針とした。特に全身麻酔下歯科治療を含めた障害児・有病児への三次歯科医療の規模は維持し、当院受診頻度の高い患児の定期的な口腔衛生管理を行う一次・二次歯科医療的な役割を縮小することで、感染リスクの低減を図った。

(診療実績)

診療実績は、新規患者数が543名(前年度比105%)と前年度以上の患者を受け入れた一方で、延べ受診者数は4,362名(前年度比92.1%)となり、一次・二次歯科医療的な役割の縮小と、病院全体の入院患者減少による周術期管理患者数の減少が影響したと考えられた。全身麻酔下歯科治療は358症例(前年度比98.1%)実施し、病棟確保が困難な時期もあったが、前年同様月平均30症例全身麻酔を安全に実施することができた。

COVID-19による医療機関への受診控えにより、齲蝕が急性増悪化した症例が紹介されるケースが多く、新規患者における院外紹介率は71.5%とこれまでで最高となった。

院内紹介は、他科手術件数減少に伴い周術期口腔機能管理患者数が減少した一方で、乳児期の哺乳や摂食嚥下障害の診察依頼が増加した。

新規受診患者の年齢分布の傾向は例年同様6歳未満が約77%と多く、依頼内容は知的能力障害や発達障害児、低年齢児の多数齲蝕(うしょく=虫歯)、過剰埋伏歯、舌小帯異常、粘液嚢胞等であった。

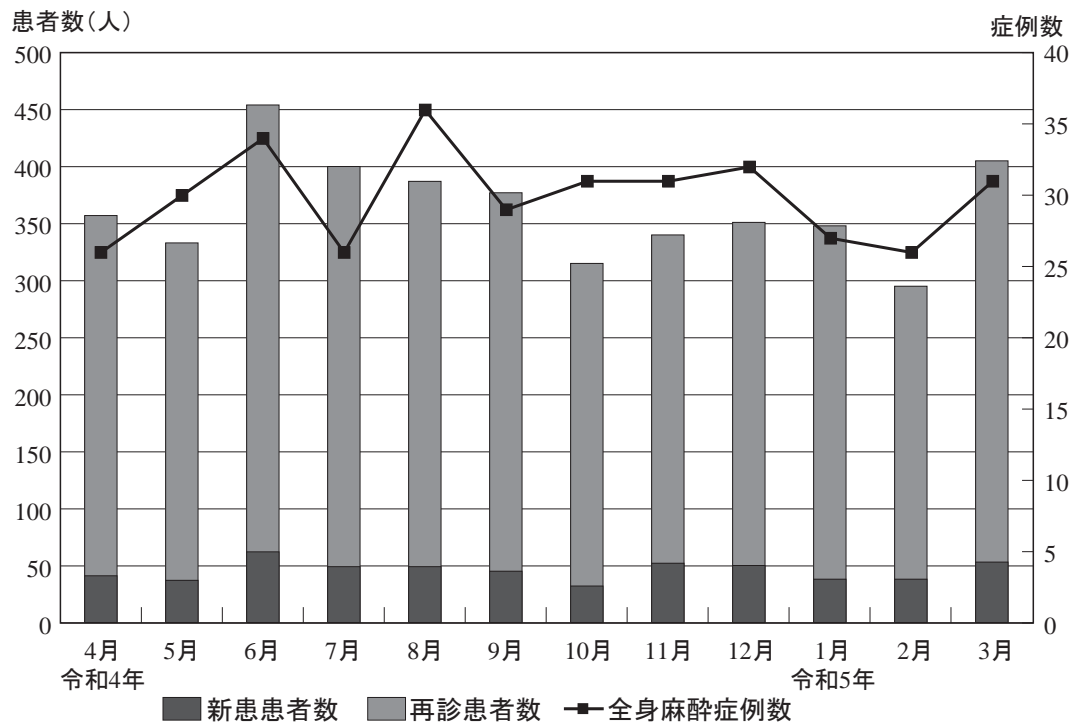
(病院歯科として)

今年度も各病棟への歯科衛生士による病棟ラウンドを継続したが、入院患者数の減少により病棟往診件数が前年度の194件から88件と大幅に減少した。引き続き感染対策に配慮しながら病棟内全患者を対象とした関りを今後も継続していきたいと考えている。

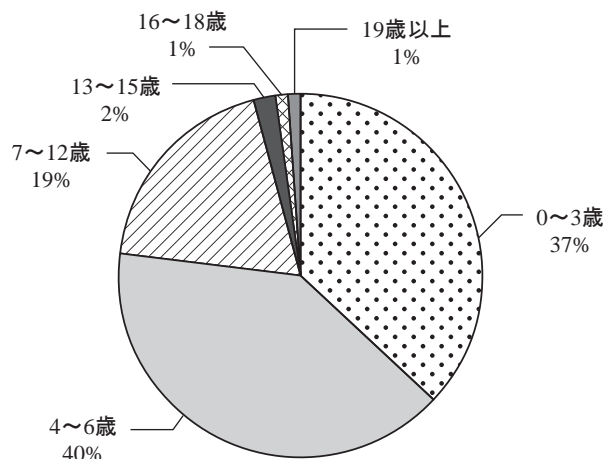
(まとめ)

年度後半にCOVID-19の状況が少しずつ元の状態に戻り始めたが、引き続き感染対策を十分に行った上で「群馬県における障害児歯科の最後の砦として」診療体制を安定的に維持していきたいと考えている。

(木下 樹)



Graph 1: 令和4年度月別歯科運営状況



Graph 2: 新規患者の年齢分布

10. 放射線課

【人 事】

令和4年度、人事異動はなく他の動きもなかった。

【業務・設備】

前年度と変わらず正規職員6名、レジデント2名、会計年度職員3名と受付事務担当職員1名の体制で業務を遂行した。10数年来の業務量の増加、内容の高度化に安全に安定した業務体制として対応していくためにも長年切望しているレジデントの定数化による正規職員数の増員が必要である。今年度は他県の小児専門病院13施設(病床数115~561)に人員構成に関するアンケート調査を実施した。その結果、正規職員定数・割合とも最下位であり正規職員の割合は特に低い結果であった。病院の建て替え再整備に向けた準備のためにも必要な人員と人材確保をお願いしたい。

新型コロナウイルスの対応については第7波、8波を迎え小児感染患者の増加とそれに伴う職員家族及び職員自身の感染という新たなフェーズとなり様々な対応に迫られた。ポータブルX線撮影はコロナ病棟だけでなくPICUでの撮影もあり、これについては前年度実施した多職種でのシミュレーションが非常に役に立った。また小児では想定していなかったCT撮影も緊急的に必要となり早急に課内で協力し感染対策室の指導も仰ぎながら対策をたて対応した。CT撮影については病棟からの移動や入退室の方法などこれまでに経験していない様々な対応が必要であったが依頼から検査まで準備時間が限られるなか、これまでの経験も活かし各職員が適切に対応できた。新しい対応が発生する度にマニュアルとして手順の記録を残している。今後は新型コロナウイルスに限らず様々な状況を想定し想定外を極力なくし対応しなければならないと実感している。今後収束に向かっていくと思われるがまだ数年は柔軟に適切に対応していく準備と心構えが必要であると考え

る。診療用放射線に係わる安全管理体制の運用も3年目となり線量管理、医療放射線研修等も滞りなく実施できた。コロナ禍の影響により未だ立入り検査等のチェック、ご指導を受けていないので自主点検を実施しながら安全な放射線利用を継続していきたい。

学会について今年度は一時期、現地参加可能となりweb開催も併用して積極的に参加、発表をした。認定資格取得については新たに応用情報技術者1名、CT認定診療放射線技師1名、Ai認定診療放射線技師2名を取得することができた。今後も職員の資質向上、検査技術向上のためにも認定資格取得を推進していきたい。

学生実習については学生を現場に向かい入れることができ現場実習と講義を実施した。

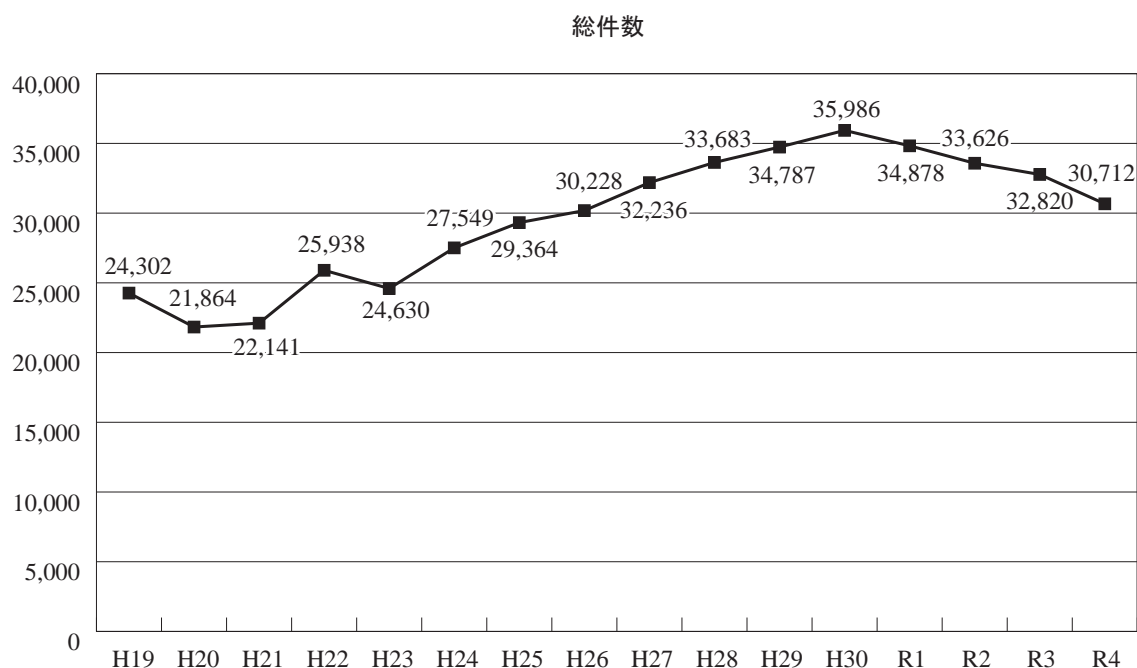
設備については大型機器の更新はなく基幹システムのPACS更新がされた。更新といってもクラウド方式のためサーバーの更新やデータ移行の必要はなく契約更新と極一部のハードの更新のみでダウンタイムもほぼゼロであり更新作業期間コスト共にクラウドのメリットを改めて実感している。来年度以降、10年を超え更新時期を迎える装置が控えており関係部署と協議しながら病院の建て替え再整備も考慮しつつ適正な更新計画を進めていきたい。

今年度は新型コロナウイルスの影響を一番実感した一年であったが課として様々な経験を積むことができた。常に課員一丸となり協力し合い、奮闘し全力で業務に取り組んでくれたことに深く感謝する。

【検 査】

各検査の前年度件数比は、CT検査99.4%、MRI検査98.1%、RI検査94.1%、X線透視検査86.5%、超音波検査111.6%、カテーテル検査108.7%、一般撮影検査98.9%、ポータブル撮影

78.9%、画像コピー87.8%で全体として93.6%であった。令和元年の新型コロナウイルス発生以降患者数の減少に伴い減少傾向となっている。平成19年度からの全件数の経過を以下に示す(令和4年度詳細は統計編)。



【学会・研修等】

本年度の学会・研修会等の参加は以下のとおりである。

件名	期 日	場 所
第78回日本放射線技術学会総会学術大会	4/14～5/18	web開催
第45回日本小児放射線技術研究会	4/16	web開催
2022年度関東甲信越診療放射線技師学術大会	6/25～6/26	高崎市
2022年度X線CT認定技師更新講習	9/1	web開催
第38回日本診療放射線技師学術大会	10/1～11/13	web開催
第40回群馬MR医学研究会	11/9	web開催
2022年度Ai(死亡時画像診断)症例報告会	12/3	web開催
第9回InformaJJCIC 関東甲信越研究会	12/10	web開催
日本医師会令和4年度死亡時画像診断(Ai)研修会	12/12	web開催
2022年度Ai認定講習会	12/23	web開催
第12回茨城Ai研究会	1/28	web開催
第8回胎児MRI研究会学術集会	2/5	web開催
第6回日本小児心臓MR研究会学術集会	2/18	web開催
第28回南関東SOMATOM研究会	3/3	web開催

(佐々木 保)

11. 検体検査課・生理検査課

【人 事】

令和4年度は、正規職員9名(内、1名は産育休代替職員)、レジデント4名の計13名でスタートした。育休中の職員は2名で、内1名が8月中旬に復帰、レジデント1名が8月末に退職した。年度を通して13名で24時間体制を維持した。

【業 務】

採血管ラベルの貼り間違い防止のため、これまでラベルに表示していた容器名を、採血管の蓋の色を付記した表示に変更した。生化学・免疫検査では、試薬の品質と経済性を考慮した検討を行い、マグネシウム試薬及び標準液をより安価で安定性が高い試薬へ、CRP試薬を適切な包装単位の試薬へ変更した。また、新生児科からの要望を受け直接ビリルビン試薬を検討し、抱合型ビリルビンのみを測定する試薬へ変更すると共に、項目名称を直接ビリルビン(D-Bil)から抱合型ビリルビン(C-Bil)へ改称した。アレルギー検査では、依頼の増加が見込まれるナッツ類2項目について、外注検査から院内検査へ変更した。一般検査では、精度管理用試薬を管理が簡便で安価な試薬に変更した。

病理検査では、CPC(臨床病理検討会)を3回開催し、4症例を検討した。

【設 備】

生化学検査では、乾式臨床化学分析装置ドライケムNX600(富士フィルム和光純薬)が更新となった。生理検査では、超音波検査装置(PHILIPS)、脳波計(日本光電)が更新された。また、輸血検査に血液搬送装置ATR705-RC05(東邦薬品)2台と中央検査室に卓上型バイオロジカルセーフティキャビネット(AIRTECH)が新規導入された。

【委 員 会】

臨床検査委員会は2回開催した。検査に使用している機器が適正に管理されていることを示す内部精度管理の状況を報告した。また外部精度管理調査に参加し、良好な結果であったことを報告した。生化学試薬や一般検査の精度管理試薬の変更、外注検査の一部院内検査化が承認された。

輸血療法委員会は6回開催した。月別の血液製剤使用率や廃棄率を報告し、適正使用の協力を呼びかけた。また、院内輸血マニュアル第16版の改訂を行った。血液搬送装置ATR705-RC05を導入し、術中および術後の赤血球製剤専用保冷庫として使用することが承認された。また、輸血用血液製剤を取り扱う部門を対象に、血液製剤の外観確認と読み合わせ方法についての研修会を開催した。

院内感染対策委員会は12回開催した。定例の委員会では耐性菌およびウイルス検査等の検出状況、抗菌薬使用状況、血流感染サーベランス等について報告し、検討した。

渋川地区感染対策カンファレンスにおいて、連携強化加算シートの集計報告と当院の耐性菌検出動向について発表した。

【検査件数】

総検査件数は、375,956件(前年度比85.1%)であった。増加した部門は病理検査2,067件(115.4%)、減少した部門は、輸血検査2,697件(78.6%)、一般検査10,320件(86.4%)、生化学

239,281 件 (81.9%)、血液検査 56,686 件 (87.9%) であった。

【学会・研修会等】

参加状況を表 1 に示した。また、群馬県医学検査学会で 1 題、群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会で 1 題の口演発表を行った。

学会及び研修会参加状況は、以下のとおりである。

表 1 学会・研修会などへの参加状況

研 修 ・ 学 会 等	日 時	開 催 地
第 70 回日本血液・細胞治療学会学術総会	5 月 27 日～29 日	名古屋 (Web)
全国自治体病院協議会臨床検査部会研修会オンラインセミナー	8 月 1 日～10 月 31 日	Web
心エコー図学会 第 19 回秋期講習会	10 月 29 日～30 日	Web
第 29 回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム	10 月 28 日～29 日	東京 (Web)
日臨技関東甲信支部・首都圏支部医学検査学会 (第 58 回)	10 月 1 日～2 日	栃木 (Web)
第 36 回関東臨床細胞学会学術集会	10 月 16 日	横浜
第 67 回群馬県医学検査学会	11 月 28 日	Web
第 37 回輸血検査の基礎実技研修会	12 月 11 日	前橋
第 25 回エコーウインターセミナー	2 月 12 日	Web
日本心エコー図学会第 26 回冬期講習会	1 月 22 日～23 日	Web
令和 4 年度群馬県臨床検査精度管理調査報告会	3 月 9 日	Web

(神山晴美、丸山裕子)

12. リハビリテーション課

【人 事】

令和4年度は、言語聴覚士の正規職員1名が増員となり、理学療法士5名(正規職員4名、レジデント1名)、作業療法士3名(正規職員1名、レジデント2名)、言語聴覚士3名(正規職員2名、レジデント1名)の常勤11名で業務を開始した。年度途中で理学療法士ならびに作業療法士のレジデント各1名が退職となり、3月末に作業療法士のレジデント1名が退職となった。理学療法においては会計年度任用職員の採用で対応できたが、作業療法については人員減のまま業務を継続した。

【設 備】

1. 遊戯聴力検査機器(オーディオメーター AA-H1、COR/ピープショーボックス PB-61、幼児聴検用コントローラー AA-H1-S22)を購入
2. 言語聴覚療法室とリハビリテーション室の戸棚を扉付に変更
3. 練習用階段の床材を絨毯からポリ塩化ビニール素材に変更
4. 不要な車椅子類を「空飛ぶ車いすプロジェクト」、放課後デイサービス施設に提供

【業 務】

令和4年度より新たにはじめた業務はつぎのとおりである。

1. 遊戯聴力検査の導入

令和4年度の医療機器購入により、当院においても遊戯聴力検査が可能になった。言語聴覚士が群馬大学医学部附属病院耳鼻科および日本聴覚医学会主催の研修を受け、耳鼻科や形成外科医師と協力して遊戯聴力検査を行っている。遊戯聴力検査は、鎮静剤を用いずにできる聴力検査であり、また、診療報酬も算定できる(1件500点)。

2. PICUにおける早期離床・リハビリテーション

令和4年4月より、PICUにおいて早期離床・リハビリテーション加算の算定が開始された。以前よりPICUにおける早期リハビリテーションに携わっていたが、介入できる疾患が限られていた。今回、早期離床・リハビリテーション加算では対象疾患が設けられておらず、また、多職種チームで取り組むことが算定条件になっている。そのため、当課スタッフも離床チームの一員となり、以前よりも増して医師、看護師と協同してPICUに入室した患者のリハビリテーションに携わっている。

3. デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療薬臨床試験への協力

当院がデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療薬の臨床試験登録施設になったことに伴い、手技統一のための評価者研修(eラーニングと実技講習)を受けた当課スタッフ3名(理学療法士2名、作業療法士1名)が登録患者の運動機能評価を定期的に行うことで協力している。

【業 績】

令和4年度の新規患者数は、入院364名、外来405名、合計769名(前年度730名)であり、リハビリテーション実施による診療報酬等の収益は、年間で約3,601万円(前年度3,811万円)であった。収益の減少には、新型コロナに伴う制限や人員減による影響が考えられた。疾患別リハビリテーション料などの詳細は統計編に示した。正規職員の言語聴覚士1名が増員になったことにより、入院件数は前年度の3倍に増加している。

【臨床実習受け入れ】

院内感染予防対策の基準に従い、つぎのとおり臨床実習の受け入れを行った。

- ①群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻(4年生1名、臨床実習)
令和4年8月15日～10月7日
- ②群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻(4年生1名、臨床実習)
令和4年10月24日～12月16日
- ③群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻(3年生3名、基本的臨床技能実習Ⅱ)
令和4年12月14・15・17日
- ④群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻(3年生2名、評価実習)
令和5年2月6日～2月16日
- ⑤群馬パース大学保健学科理学療法学科(2年生2名、見学実習)
令和5年2月13日～2月17日
- ⑥群馬パース大学保健学科作業療法学科(2年生1名、見学実習)
令和5年2月14日～2月16日
- ⑦群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻(3年生1名、評価実習)
令和5年2月20日～3月9日
- ⑧群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻(2年生1名、基礎評価実習)
令和5年2月27日～3月10日

【学会・研修会等】

本年度の学会および研修等の参加状況は、以下のとおりである。

件名	日時	開催地
第64回日本小児神経学会学術集会	6/2～6/5	高崎
第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	6/11～6/12	沖縄(web)
SIG 姿勢保持講習会 2022	6/12	web
第58回日本小児循環器学会総会・学術集会	7/21～7/23	北海道(web)
第56回日本作業療法学会	9/16～9/18	Web
第54回日本小児呼吸器学会	10/14～10/15	千葉
第29回小児集中治療ワークショップ	10/29～10/30	東京
第21回群馬県呼吸リハビリテーション研修会	11/5	前橋
第9回小児理学療法学会学術集会	11/12～11/13	web
第7回北関東信越ブロック学会・第24回群馬県作業療法学会	11/26～11/27	前橋
第266回日本循環器学会関東甲信越地方会	12/10	東京(web)
第86回聴力測定技術講習会	2/7～2/10	東京
第7回臨床における呼吸ケア・リハセミナー	2/25～2/26	web

(白田由美子)

13. 栄養調理課

【人 事】

令和4年度は、人事異動で調理師1名が転出し調理師1名が転入、産休により欠員が生じていた管理栄養士1名の代替職員が4月から配置され、正規職員6名(管理栄養士3名、調理師3名)と委託会社職員15名で業務を始動した。年度末には、定年を迎えた調理師3名全員と産育休代替の管理栄養士1名が退職した。

【業 務】

1. 食数は、一般食延べ34,944食(前年度比91.1%)、離乳食延べ3,928食(同62.3%)、特別食延べ1,387食(同75.0%)で、前年度と比較すると全て減少した。調乳数は、ミルクの人数延べ10,541人(同88.7%)、本数74,222本(同89.6%)、濃厚流動食・成分栄養剤等の人数延べ8,022人(同77.6%)、本数32,727本(同77.4%)であった。
2. 栄養指導は、全体で340件(前年度358件)、そのうち入院栄養指導が308件(同317件)、外来栄養指導が32件(同41件)であった。
3. 非常時用普通ミルクとして、液体缶ミルクの常備を開始した。
4. 食物アレルギー患者への対応として、1日入院の食物負荷試験(3日/週、3名/日)の負荷食材の提供と食生活全般や加工食品の表示の見方などの指導を行った。
5. 栄養委員会は、令和4年6月、9月、令和5年3月の3回開催し、普通ミルクの見直し、令和5年4月以降の患者給食業務委託変更内容等について協議した。
6. 食札及び食数表、ミルクラベル、病棟別調乳表等を定時に出力するよう自動化し、業務の効率化を図った。

【学会・研修会等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、以下のとおりである。

件 名	期 日	場 所
第9回日本臨床栄養代謝学会関越支部学術集会	12/22～1/10	Web開催
第23回食物アレルギー研究会	2/17～3/5	Web開催

(島田純子)

14. 臨床工学課

【人 事】

今年度は、正規職員 4 名で業務を行った。

【設 備】

医療機器購入は、シリンジポンプ (TE-381) 21 台 (SP-120) 10 台、輸液ポンプ (TE-281A) 12 台、開放型保育器 (インファウォーマー アイ 蘇生装置・レサシフロー付) 2 台、人工呼吸器 (PB980) 1 台 (トリロジー Evo) 1 台、除細動器 (TEC-5631) 2 台、低圧持続吸引器 (メラサキューム) 6 台 (サーボドレイン) 2 台、血液浄化装置 (AcuFil Multi 55X-III) 1 台を更新した。このうち、人工呼吸器 (PB980)、血液浄化装置 (AcuFil Multi 55X-III) は、群馬県新型コロナウイルス感染症対策事業費補助金、人工呼吸器 (トリロジー Evo) は、群馬県インフルエンザ等感染症等患者入院医療機関設備整備事業補助金、シリンジポンプ (SP-120) は、公益財団法人日本財団 新型コロナウイルス感染症対策整備支援をそれぞれ申請して購入した。また、PICU・NICU・GCU では、重症部門システムと生体情報モニターの更新、第 2 病棟では、生体情報モニターの更新を行い、第 3 病棟には、重症部門システムを導入した。

【業 務】

今年度の体外循環症例は 55 症例で、昨年度比 73% (昨年度 75 症例) となった。最低体重は 2.7kg の総肺静脈還流異常症 (TAPVC)、最高体重は 60.4kg の心室中隔欠損症 (VSD) で、平均 15.4 ± 13.7kg であった。無輸血手術は 20 症例 (36.4%)、手術室抜管は 9 症例 (16.4%) であった。術式別の症例数は、VSD closure 25 症例 (45.5%) が最も多く、次に ASD closure 7 症例 (12.7%)、Norwood 手術や AVSD repair、TAPVC repair 等がそれぞれ 2 症例 (3.6%) であった。稀な疾患である右肺動脈上行大動脈起始症の修復術も 2 症例あった。また、今年度の人工心肺下心臓外科手術において、緊急手術はなかった。

心臓カテーテル検査は 163 症例で、その内バルーン拡張術 38 症例 (23.3%)、心房中隔欠損カテーテル治療 9 症例 (5.5%)、動脈管開存症カテーテル治療 10 症例 (6.1%)、経皮的心房中隔裂開術 4 症例 (2.5%)、心筋焼灼術 9 症例 (5.5%)、心臓電気生理学的検査 13 症例 (8.0%) であった。また、緊急心臓カテーテル検査は 1 症例 (0.6%) で、経皮的心房中隔裂開術であった。

内視鏡手術は 134 症例で、緊急手術となった 8 症例 (6.0%) の内 7 症例が腹腔鏡下虫垂切除術で、1 症例が卵巣捻転であった。

血液浄化療法は、血球貪食性リンパ組織球症 (HLH) に対して、最初に DHP (エンドトキシン吸着療法)・CHDF (持続血液透析濾過療法) 併用療法を 2 回、続いて PE (血漿交換)・CHDF 併用療法を 8 回、その後に CHDF を約 1 か月実施して無事に離脱できた症例であった。

一酸化窒素吸入療法は 17 症例で、心臓周術期が 9 症例、新生児領域が 8 症例であった。心臓周術期の 9 症例のうち 4 症例は、術前に低酸素吸入療法を行っていた症例であった。

その他、低酸素吸入療法が 7 症例、植込み型ペースメーカーおよび ICD フォローアップが 100 症例と脳低温療法が 3 症例であった。

今年度の補助循環 (ECMO) 業務と骨髄濃縮業務は、1 症例も無かった。

ME 機器管理業務では、人工呼吸器、保育器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、麻酔器、人工心肺装置、血液浄化装置、補助循環装置、体外式ペースメーカー、除細動器、分娩監視装置など計 616 台

の定期点検をした。除細動器については、年1回のメーカー定期点検の他、3ヶ月毎にスタッフによる除細動器安全点検や消耗品チェック等を行っている。また、AEDに関しては、設置場所の課でそれぞれ日常点検を行い、定期的に点検チェックシートを提出してもらい機器管理を行っている。PICU・NICU・手術室に設置している血液ガス分析装置においても1ヶ月毎にスタッフによる定期点検を実施している。

人工呼吸器の使用 midpoint 検は、毎日機器の設定や動作確認、呼吸器回路の不具合等のチェックを行い、安全性の確保に努めている。今年度は5203台の使用 midpoint 検を行った。また、定期的(1ヶ月毎)に人工呼吸器の回路交換も行っている。回路交換件数は、89件であった。

ME機器の使用前に行う日常点検としては、人工呼吸器や麻酔器、シリンジポンプ、輸液ポンプをはじめ、除細動器や保育器、人工心肺装置、補助循環装置、血液浄化装置、低圧持続吸引器など累積6,513台行った。麻酔器始業点検は、日毎に担当者1名が8時30分までに全手術室(5台)の点検を行い、安全性の確保に努めている。今年度の始業点検で2件の異常を発見した。1件目は麻酔器のAC電源が外れていてバッテリーの充電不足メッセージが出現したこと、2件目は電源投入時にシステム機能不全のメッセージが出現したため、修理依頼を行った。手術開始前にこのようなエラーを発見し、トラブルを未然に防止することができた。また、心臓カテーテル検査室設置の麻酔器においては、全身麻酔症例毎に始業点検を行っている。

数年前から新規機種のお知らせやトラブル対処法等の機器情報のツールとして、不定期発行していたCE通信を今年度から月1回発行することができた。

臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修(告示研修)の全課程を課員全員が受講し修了した。

その他、教育業務として看護部、各病棟に対するME機器説明会やトラブル対応等の勉強会の開催を合計7回実施し、在宅へ移行する患者様や御家族の方へ機器の説明や臨床工学技士養成校への外部講師も行った。

【学会・研修等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、下記の通りである。

件名	期 日	場 所
2022年度教育セミナー	5/11～5/31	Web 開催
第32回日本臨床工学会	5/14～5/15	Web 開催
第67回日本透析医学会学術集会	7/1～7/3	神奈川県
第20回群馬県臨床工学技士会学術大会	7/24	Web 開催
第36回日本人工臓器学会教育セミナー	8/1～9/30	Web 開催
2022年度臨床ME専門認定士認定更新講習会	10/30～11/20	Web 開催
第47回日本体外循環技術医学会大会	11/19～11/20	福岡県(web)
第2回関東甲信越臨床工学会	11/13	神奈川県
第9回 Informal JCIC 関東甲信越研究会	12/10	群馬県
第9回循環器セミナー	2/12	Web 開催
第6回群馬県臨床工学技士会呼吸器セミナー	2/19	Web 開催
臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修(告示研修)	10/8～10/9 11/12～11/13 12/3～12/4 3/18～3/19	東京都

(関 明彦)

15. 薬 剤 部

【人 事】

令和4年度は正規職員が8名、嘱託職員1名、調剤助手3名と昨年度と同じ人員配置で業務を行った。

【業 務】

チーム医療の推進に関しては、薬剤師が ICT ラウンド・コアチームのメンバーとして参加し、感染防止対策加算1の取得に貢献した。また、ASTのメンバーとして抗菌薬適正使用支援加算の取得にも貢献した。TDMについては、医師から依頼を受けて各種検査値に基づき、最適な投与計画を提案し、抗菌薬の適正使用に貢献した。また、特定抗菌薬使用届の提出を徹底し、耐性菌の発生予防に寄与した。PICUで平日行われているカンファレンスに薬剤師1名が参加し、抗菌薬を含めた医師の処方設計を支援した。

<新型コロナウイルス感染症関連業務>

令和4年3月13日より渋川地区小児へのコロナウイルスワクチン接種(ファイザー製: コミナティ筋注5-11歳用)が開始され、当院での接種分98V(980接種分)の希釈を実施し、7月末で終了した。

8月2日より職員に対する4回目のワクチン接種(モデルナ製: スパイクバックス筋注[®])が開始され、20V(約400接種分)の管理・払出を行い、8月下旬に終了した。

12月6日より職員に対する2価のコロナウイルスワクチン接種(モデルナ製: スパイクバックス筋注2価BA4-5)が開始され、78V(約390接種分)の管理・払出を行い、1月上旬に終了した。

外来患者に対して、新型コロナウイルス対応における処方・電話再診で院外処方せんが発行され(410対応)、外来及び医事課と連携し、患者が安心して処方薬を受け取れるように調剤薬局へ連絡調整を153件実施した。

発熱外来・陽性者外来の患者に対する内服薬の予製剤を作成し、内科外来に配置した。

以上のICT・AST関連業務を行い院内感染対策に寄与した。

<薬剤管理指導業務・退院時服薬指導業務>

薬剤管理指導業務は、5月より神経内科、外科、アレルギー科、6月より形成外科患者の保険算定を開始し、産科病棟の帝王切開及び切迫早産の患者及び新生児病棟、第1病棟、第2病棟、第3病棟の患者に対し年間569件(昨年度より155件増加)の薬剤管理指導業務を行った。

薬剤管理指導料算定をしていない患者の一部に対し退院時薬剤情報管理指導を行った(薬剤管理指導業務拡大前)。主に退院時の処方について薬効説明と注意点、飲み方の確認等を行い、薬剤情報提供書及びお薬手帳用シールを交付し、お薬手帳を所持していない方には手帳もあわせて交付した(退院時服薬指導8件)。

当院の採用薬を常時在庫している保険薬局は少ないため、外来時に支障なく院外処方に対応できるよう院外処方の説明を行い、初回時には在庫の有無を電話確認するなど円滑に外来に移行できるよう対応した。

在宅療法支援担当看護師長と連携し、無菌調製製剤を必要とする外来患者と無菌調剤を応需できる保険薬局の間を調整し、院外処方せん応需と在宅患者訪問薬剤管理指導を実施できた。

<調剤業務>

入院処方箋枚数はほぼ横ばいで、院外処方箋の発行率は91.0%だった。

なお、医師業務負担軽減の一環として、院外処方箋に関する調剤薬局からの疑義照会受付の窓口としての薬剤部の対応は、779件であった。対応の結果処方変更となった場合、医師の業務負担軽減のため電子カルテへの薬剤部での代行入力は278件であった。院内処方箋、注射箋に関する医師への問い合わせは1,201件であった。また、医師に代わり薬剤師が1,091件(院内処方箋、注射箋)の代行修正を行った。入院時の持参薬の鑑別報告は93件299剤数となった。

<無菌調製業務>

抗悪性腫瘍薬の調製及びTPNの無菌調製を実施した。

抗悪性腫瘍薬の注射剤は調製者の被曝が問題となることから、平日だけではなく休祭日も薬剤師が安全キャビネットで調製を行った。特に揮発性の高い薬剤は、調製者保護のため抗がん剤曝露閉鎖システムによって調製している。

退院後も在宅でTPNを継続して使用している患儿については、TPNを無菌調製できる調剤薬局との連携、退院時には調剤薬局での対応可能日までの輸液の調製・交付を行うなど、個々のケースに応じてきめ細かい対応を行った。

<製剤業務>

医師の要望により市販されていない小規格の坐剤、麻薬を含むMK注腸液、医薬品以外の物を原料とするカラヤ軟膏、安息香酸Na注射液の注射剤等の調製を行った。

<DI業務>

「薬剤部インフォメーション」として、医薬品の適正使用に関する情報や薬事委員会で採用となった医薬品に関する情報提供を行った。厚生労働省からの「医薬品・医療機器等安全性情報」は情報が迅速に伝わるようメールによる直接配信を行った。また、各部署からの照会に随時応じ、情報提供件数は322件であった。

<医薬品の適正管理>

在庫管理システムを使用し経営課と協力、入出庫管理を行った。また、各病棟に定数配置されている医薬品については、定数を見直し院内在庫の適正化に努め、期限切れ薬品等、病棟配置薬の定期点検を実施した。

【薬事委員会】

令和4年5月19日、9月15日、12月15日、令和5年3月2日、計4回開催した。新規採用医薬品67品目(うち院外専用34品目)、購入中止医薬品34品目(うち製造中止品17品目)について承認された。特定の患儿のみに使用し、それ以外は在庫を置かない一時採用品は80件だった。また、事務局提案による後発医薬品への切り替えは7品目であった。

(佐藤真理子)

16. 看護部

【看護要員】

- ・定数 211名 現員数 221名
(正規 200名、再任用 5名、会計年任用職員 16名)

*令和4年4月1日現在

- ・採用 11名 転入 1名、会計年度任用職員 4名
- ・退職 14名 正規 9名、会計年度任用職員 5名

【組織】

今年度は、キャリアアップ・チャレンジ制度において、看護管理コースの1名は3か月間自部署研修をし、その後3病院に出向し研修を行った。令和4年度看護部は、看護部長1名、副看護部長1名、各部署看護師長8名、教育担当師長1名(外来と兼務)、在宅療養支援担当師長1名、GRM1名、感染管理認定看護師1名を配置し、連携を取りながら充実を図った。

令和4年度は、小児専門病院であり、総合周産期医療センターとして、安全で質の高い看護を提供するために、安全の強化・人材育成・病院経営への参画を課題として取り組んだ。新型コロナウイルス感染症対応3年目においても、県立病院としての使命のため、ワクチン接種センターと軽症者宿泊療養施設の看護と、当院のCOVID-19入院患者対応と小児のコロナワクチン接種対応を看護部全員で取り組んだ。

【看護活動】

看護部の理念

あたたかな心で患者と家族を支えます

【令和4年度の目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) 安全な医療を提供する
 - (1) 患者誤認を昨年度比 30%減らす
 - (2) チーム STEPPS のコミュニケーションツールを活用して、エラーの削減を図る
 - (3) 繰り返されるヒヤリハットを減らす
 - (4) フィジカルアセスメント強化と BLS を 50 人が更新する
2. 人材育成・人材確保
 - 1) 看護部全体で、ラダーシステム・PNS を活用して育成する
 - (1) クリニカルラダーを活用し、ニーズをとらえる力、協働する力の項目の評価が上がる
 - (2) マネジメントラダーを活用し、対象者が具体的行動の項目が 5%以上上昇する
 - 2) e-ラーニングを活用し、利用率を 70%以上にする
3. 経営の健全化
 - 1) 看護師の負担軽減につなげる業務改善に取り組む
 - 2) 診療報酬改定に伴う加算の取得をする
4. デジタル技術を活用した患者サービスを提供する
5. COVID-19 の院内感染を起こさない

- 1) 個人防護具着脱の他者評価を 100%実施する
- 2) 全員が感染対策に対応できる体制をとる
- 3) COVID-19 に対応する看護職員の心身の健康に配慮する
- 4) 緊急対応できる体制を整備する
- 5) 小児新型コロナワクチン接種を、安全に実施する

【評 価】

1. 質の高い看護を提供する

- (1) 患者誤認については、5 件/12 件で 59%削減できた。
- (2) チーム STEPPS のコミュニケーションツールを活用して、連携不適切は 171 件/166 件で削減できなかった。
- (3) 繰り返されるヒヤリハットは、チューブ類事故抜去・手術室での四肢の転落、生体情報モニターの付け忘れは軽減できたが、新たな問題として転倒、挿管チューブの事故抜去が発生している。
- (4) フィジカルアセスメント強化と BLS は、44 人/50 人で達成できなかった。

2. 人材育成・人材確保

- 1) 看護部全体で、ラダーシステム・PNS を活用して育成する。
 - (1) クリニカルラダーを活用し、ニーズをとらえる力、協働する力の項目は、15 件/122 件を大幅に改善することができた。
 - (2) マネジメントラダーを活用し、対象者が具体的行動の項目は、I レベルが 17%、II レベルが 3%上昇した。
- 2) e-ラーニングを活用し、利用率を 86.4% /70%以上で達成できた。

3. 経営の健全化

- 1) 看護師の負担軽減につなげる業務改善に取り組み、その一つとして、勤務帯の見える化(ユニフォーム)を行い昨年度比 14% (1291 時間) 縮減できた。
- 2) 診療報酬改定に伴う加算については、急性期看護補助者体制加算と看護職員夜間 12 対 1 配置加算の 2 つを取得した。

4. デジタル技術を活用した患者サービスを提供する

各部署で入院案内・産後ケア・退院指導・処置(ポディショニング・閉鎖式吸引等)の動画作成し、患者へのわかりやすい看護を提供した。また、音声入力を一部の部署で導入し、カルテ記入は9分程度削減をしたが明らかな効果とはならなかったが、カンファレンスには有用であった。AI 問診においても十分な実証結果は出せず、紙ベースよりやや時間がかかる結果となった。

5. COVID-19 の院内感染を起こさない

9 月にクラスターがあり、院内感染を起こしてしまった。しかし少数で終息でき、その後のクラスター発生はしていない。以前から感染症に対する意識は高いことが要因と考える。

【次年度の課題】

第五次改革プランに合わせて目標決定する

1. 質の高い看護の提供
2. 人材育成・人材確保
3. 経営の健全化

4. デジタル技術を活用した患者サービスの提供

5. 有事の事態への対応

(清水奈保)

令和4年度院外研修(学術集会・研修会・セミナー・救護など)

主催	研修・学会名	日程	場所	氏名	人数
長期	認定看護管理者セカンドレベル	6月3日～11月25日	前橋 群馬看護教育センター	黒田 佐 織	1
	認定看護管理者ファーストレベル	9月1日～1月19日	前橋 群馬看護教育センター	小林志のぶ 小池 智美	2
日本看護協会	‘22重症度、医療・必要度 評価者及び院内指導者研修会	7月1日～9月7日	オンライン研修	山田めぐみ 黒岩 徹 木暮 奈櫻 青木 郁子	4
	2022年度小児在宅移行支援指導者育成研修	9月21日～22日	日本看護協会 (Zoom)	佐川 有子	1
	小児在宅ケアコーディネーター研究会	6/18・19、9/3、11/20	6月、9月オンライン 11月20日のみ京都橘大学	都丸真由美 林 範子 松村 香織	3
学会・学術集会・研修会等	国際医療リスクマネジメント学会 リスク分析・調査セミナー	5月19日・20日	Web会議	大平 典子	1
	群馬県臓器移植院内コーディネーター研修会	6月7日	群馬県健康づくり財団	狩野 由紀 笠原 寿絵	2
	第37回日本環境感染学会総会・学術集会	6月17日	パシフィコ横浜	北爪 幸子	1
	ALSO インストラクターコース	9月23日	オンライン研修 (NPO法人 周産期医療支援機構)	永沢 育子	1
	群馬ストーリーナビリテーション講習会	11月12日	講習会はオンライン受講 実習は前橋赤十字病院	大谷ゆう子 小野 千夏 荒木 有美	3
	妊娠出産包括支援推進研修会	2月24日	群馬県看護協会教育研修センター	福田 円 狩野 英美	2
	群馬県臓器移植院内コーディネーター研修会	3月10日	群馬県健康づくり財団	齊藤 織恵	1
	N CPR インストラクター フォローアップコース	3月11日	愛育病院	狩野 英美	1
群馬県看護協会	「論理的思考」に基づいた課題レポートの書き方	5月21日	群馬県看護協会研修センター		1
	女性にとっての出産体験～女性の心を守り支えるために助産師が理解しておくべきこと～	7月9日	群馬県看護協会研修センター		1
	医療安全に役立つ看護記録	7月25日	群馬県看護協会研修センター		1
	アンガーマネジメント	8月2日	群馬県看護協会研修センター		2
	特性のあるスタッフに対する理解と接し方	9月2日	群馬県看護協会研修センター		2
	今、必要とされる思春期教育	9月17日	群馬県看護協会研修センター		1
	メンタルヘルス	10月4日	群馬県看護協会研修センター		1
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	10月31日	群馬県看護協会研修センター		6
	母の目線にとらえる母乳育児支援	11月5日	群馬県看護協会研修センター		2
	災害支援ナースフォローアップ研修	12月16日	群馬県看護協会研修センター		1
自治研修センター	問題解決力～発想力を活かした問題解決～	7月14日	群馬県自治研修センター	和田 千穂	1
	クレーム対応	8月23日	群馬県自治研修センター	小林 恭子	1
	ティーチング&コーチング	9月27日	群馬県自治研修センター	狩野 英美	1
	危機管理広報	9月29日	群馬県自治研修センター	福田 円	1
	令和4年度ストレスチェック分析結果に基づく管理監督者向け研修	11月4日	群馬県自治研修センター	清水 奈保	1
	論理的な話し方	11月25日	群馬県自治研修センター	坪井 杏奈	1
	折衝・交渉力	12月8日	群馬県自治研修センター	千明 理恵	1
知事戦略部 アブロード モーション シヨウ	ショート動画の作り方講座	7月20日	群馬県庁	高橋 洋子	1

(1) 第一病棟

令和4年度は、看護師26名、看護助手3名、保育士3名、クラーク1名で始動した。5月には新入職者3名が配属となり、11月に1名退職、1月に1名介護休暇取得、3月に院内異動で1名の看護師が他部署へ異動となり、3月末看護師23名体制であった。

【令和4年度第一病棟看護目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) 退院・転院時の忘れ物(処方薬、保険適応物品、必要書類)を30%削減する
 - 2) 患者誤認2レベル上0を維持する
 - 3) Team STEPPS[®]を学び、コミュニケーションツールを理解する
2. 人材育成・人材確保
 - 1) 看護実践評価をもとに自己の看護実践の課題を明らかにし、目標達成に取り組む
3. 経営の健全化
 - 1) 感染対策向上加算1を取得し、維持する
4. デジタル技術を活用した患者サービスを提供する
 - 1) タブレット端末を用いた患者サービスを提供する
5. COVID-19の院内感染を起こさない
 - 1) COVID-19の院内感染を起こさない
 - 2) 感染状況や運営方法の変化に対応した体制を整備する

【結果・評価】

目標1について

コミュニケーションエラーや確認不足による退院時の忘れ物が8件発生し、30%の削減には至らなかった。しかし患者誤認2レベル以上の発生はなかった。

各グループとも Team STEPPS[®]の学習会を進め、グループ内から病棟全体へ広げての勉強会も実施したことで、部署全体でコミュニケーションに対しての意識を高めることができた。

目標2について

看護実践評価に基づく自己課題を業績評価に盛り込んだ結果、各自が意識して取り組み、成果を上げることができた。

目標3について

新たに COVID-19 感染症病床として4床分追加し、4月18日から感染症対策向上加算1を取得することができた。

目標4について

COVID-19 感染症での入院患者用にタブレット端末内に入院案内の動画を作成し、12月から動画による入院案内を実施した。

目標5について

9月に部署内での職員3名と患者3名のクラスターが発生してしまい、目標達成には至らなかった。その際に个人防护具の着脱の監査を実施し、目の粘膜保護としてフェイスシールド内のゴーグル着用を追加し対策を強化した結果、下期での院内感染の発生はなかった。PICU から COVID-19 陽性患者の東棟への転棟手順・体制を整備し、安全に患者移動を行うことができた。

(小林志のぶ)

(2) 第二病棟

令和4年度の第二病棟は、看護師22名(うち会計年度職員1名)、保育士2名、看護助手2名、クラーク1名で始動した。5月には、新入職者2名配属となり、看護師24名体制であった。

【令和4年度第二病棟看護目標】

1. 自部署の看護の質について考察し、質向上のための改善策を実施する
 - 1) クリニカルラダーや先行研究を活用した取り組みを行う
指標：① 自己評価尺度の上昇
② e-ラーニングを活用したカンファレンスの実施(3回以上)
③ 多職種カンファレンスの実施(10回以上)
2. リスク感性を高め、アセスメント能力を向上させて、エラーを削減する
 - 1) チームステップスを活用し、コミュニケーション問題によるエラーを昨年より20%削減する
 - 2) パートナリシップマインドを強化し、看護実践やアセスメント力の伝承を向上する
指標: PNS マインドに関連した指標得点の向上
3. 病院経営に関する知識を得て、業務改善に活かすことができる
 - 1) 経営に係る学習会を3回以上実施する
 - 2) 顧客満足度調査による課題項目を改善する

【結果・評価】

目標1について

- 1) 「看護実践の卓越性自己評価尺度」を用いて、年間の活動や取り組みの評価とした。【IV. 職場環境・患者個々の持つ悪条件の克服】、【V. 現状に潜む問題の明確化と解決に向けた創造性の発揮】、【VI. 患者の人格尊重と尊厳の遵守】、【VII. 医療チームの一員としての複数役割発見と同時進行】の尺度において各5項目の質問項目が全て上昇し、目標達成した。
e-ラーニングを活用したカンファレンスや多職種カンファレンスも、PNSのグループ活動の中で目標を達成することが出来た。

目標2について

- 1) コミュニケーション問題によるエラーの削減は目標を達成できなかった。コミュニケーションスキル尺度の測定については、【他者受容】と【関係調整】の上昇が確認できたため、次年度は【自己統制】や【表現力】の向上にTeam STEPPS[®]を活用していきたい。
- 2) PNSの監査票を評価し、出来ているところを認め承認しつつ、さらにブラッシュアップするための取り組みを各グループにて実践することが出来た。PNSマインドを反映する指標についても50%以上の項目で上昇を確認することが出来た。

目標3について

- 1) 経営に関するミニ学習会を開催し、情報共有と病院の取り組みへの理解を促進することが出来た。
- 2) 昨年の顧客満足度調査の結果より、説明の向上を目指し、グループ活動として看護スケジュールや退院指導のパンフレットの更新に向け、アンケート調査や既存資料の改定を実施し、良好な評価を得ることが出来た。

(石坂泰子)

(3) 第三病棟

令和4年度は、看護師28名(会計年度任用1名)、保育士2名、看護助手3名、クレーク1名で始動した。10月に看護師1名が産休に入り、3月に院内異動で2名の看護師が他部署へ異動となり3月末25名体制であった。

【令和4年度第三病棟看護目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) 他職種連携、PNS体制を強化し、質の高い看護を提供する
2. 人材育成・人材確保
 - 1) ラダーシステム・PNSを活用し、お互いに支援し合い、成長する
 - 2) 課題達成に向け、全員がe-ラーニング、院外・院内研修の受講の計画し、計画した研修は全て受講する
3. 経営の健全化
 - 1) 看護師の負担軽減につなげる業務改善をし、時間外が昨年度より減少する
 - 2) 他病棟と連携し、病床稼働率70%を維持する
4. デジタル技術を活用した患者サービスを提供する
 - 1) 入院案内・オリエンテーションのデジタル化を進める
 - 2) 動画を利用した勉強会資料の作成を行う
5. COVID-19の院内感染を起こさない
 - 1) 個人防護具着脱の他者評価を100%実施する
 - 2) COVID-19対応のマニュアルを遵守する
 - 3) 小児新型コロナワクチン接種やCOVID-19対応の関連した応援に対してスムーズに対応する

【結果・評価】

目標1について

リーダークラスのスタッフを中心とし、お互い承認しあえる職場風土づくりを目指した結果、コミュニケーション不足によるヒヤリハットは減少し、患者誤認は発生しなかった。転倒転落アセスメント評価を患者家族目線で具体的に考え、転倒・衝突による手術中止・延期は2件と昨年度より半減した。

目標2に関して

PNSを活用し、指導体制を強化し、クリニカルラダーも全員が目標を達成できた。

目標3について

他部署と連携し、夜間休日の入院受け入れもスムーズに行った。

目標4に関して

病棟案内について、動画作成をして活用を開始した。そのスタッフも同様の説明を提供でき、患者・家族にとってわかりやすく繰り返し確認できるため、活用を継続して業務改善にも繋げていきたい。

目標5について

他部署と連携し、COVID-19に関連した病院体制に円滑に対応することができた。

(鈴木清恵)

(4) NICU 病棟

令和4年度は、看護師34名で始動した。7月退職2人育児休暇明け1人、8月産休1人育児休暇明け1人、11月2人と1月1人産休に入り、3月に院内異動で4名が異動した。3月末の時点で32名体制であった。

【令和4年度NICU病棟目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) 安全な医療を提供する
 - (1) 繰り返されるヒヤリハットを減らす
気管カニューレ・NGチューブ・PICC・ミルク関連のインシデントを10%減らす
2. 人材育成・人材確保
 - 1) NICUラダーを導入する
 - (1) 評価・修正し完成させる
 - (2) PNSを活用し導入時よりも20%レベルアップできる
3. 経営の健全化
 - 1) 前年度の業務改善を修正・定着化し、時間外を10%削減する
4. デジタル技術を活用した患者サービスを提供する
 - 1) iPadを活用し、NICUの情報提供の動画を作成する
5. 院内感染を起こさない
 - 1) COVID-19を受け入れる体制を整える
 - 2) 個人防護具の着脱が正しい方法で実施でき、感染拡大がない

【結果・評価】

目標1について

基本的手技の怠り・コミュニケーション不足・新しい機械や物品・不慣れな薬剤への対応、アセスメント不足により繰り返されるヒヤリハットを減らすことはできなかった。

目標2について

NICUラダーは指標の見直し修正は実施でき、導入することができた。症状疾患別看護基準を基に解答編の作成も行った。NICUラダーを評価し各自の課題や目標を明確化した結果、開始時から31%レベルアップできた。

目標3について

入院に関わるスタッフの業務改善を行った結果、業務が分散され時間外削減に繋がった。時間外全体では約50%以上削減した。

目標4について

クベース挿管患者の体重測定・入院時の説明動画の作成を行った。また今までの動画の整理を行った。タブレットを使用した学習会を実施し、ベッドサイドで視聴が可能となり、教育環境の整備ができた。

目標5について

個人防護具着脱の他者評価結果は98%の遵守率であった。手指衛生調査の結果から手指衛生の保有率は増加(28%から80%)し、手指衛生の遵守率は向上した。MRSAの陽性増加率は前年度新

規 MRSA 検出率 4.93%から今年度 5.04%となった。

(福島富美子)

(5) GCU 病棟

令和 4 年度は、看護師 21 名で始動した(うち再任用 2 名)。5 月に 1 名産休に入り、6 月と 8 月に育児休暇明け 1 名ずつ復帰した。12 月に 1 名産休に入り、3 月に院内異動で 1 名増えた。3 月末の時点で 22 名体制であった。

【令和 4 年度 GCU 病棟目標】

1. 安全の知識を学び、予防できる体制を強化する
 - 1) 安全に母乳・ミルクを提供する環境を整え、前年度のヒヤリハットから 50%削減する
 - 2) 災害対策の見直しを行う
2. 個人の段階の応じた学習を行い、レベルの向上を目指す
 - 1) eラーニングを 2 回/年以上視聴し、学びを共有する
 - 2) 自分のラダーの課題を把握し、前年度より評価を上げる
3. 病院経営に積極的に参画する
 - 1) 他科・多職種と連携し、スムーズなベッドコントロールを行う
 - 2) 業務改善を行い、患者サービス向上につとめる
4. COVID-19 に対応する体制の強化
 - 1) 個人防護具着脱方法を理解し、他者評価を 100%実施する
 - 2) 感染対策マニュアルを理解し、順守した行動をとる

【結果・評価】

目標 1 について

チューブ類は件数を 50%削減し目標を達成できた(今年度 7 件)。内訳は抜去・閉塞・ゆるみ等であった。ミルク環境では機械を使用した注入の部署内基準を見直し、周知徹底した。操作ミスは 70%の削減となった(今年度 2 件)。今後は精度を上げる必要がある。

防災一問一答を作成し知識の向上に努めた。防災用品の設置場所の変更とアクションカードを見直し機動性を上げた。

目標 2 について

eラーニングは 100%の視聴率であった。学びは看護実践の中で反映させ、自己研鑽にはつながったが共有までは評価できなかった。ラダーは全員が課題に挙げた項目をクリアすることができた。

目標 3 について

在宅支援カンファレンスに医師が参加する機会ができ、多職種で共通認識を持って、転棟・退院までがスムーズになった。医療的ケア児の退院パンフレットを見直し実際に使用することができた。症例が少ないため、継続する。

日常業務のタイムスケジュールを見直し、申し送りの短縮化をはかった。カンファレンス開催をする時間が作れたため開催数が増加した。

目標 4 について

個人防護具着脱を 100%実施した。手指消毒遵守・感染に関する学習会を実施し知識を学びなおしたが、新規 MRSA 感染者が 3 例あり目標を達成できなかった。

(黒田佐織)

(6) 産科病棟

令和4年度は、看護師6名(再任用1名)、助産師16名(会計年度1名)、看護助手1名体制で始動。9月より看護師1名産休となり、11月より看護師1名育休より復帰し、3月末22名体制であった。

【令和4年度 産科病棟看護目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) 安全な医療を提供する
 - (1) 情報・記録のヒヤリ・ハット発生件数を昨年度比50%減らす
 - (2) 「SBAR」「チェックバック」を活用し、コミュニケーションエラーを減らす
 - (3) 急変に対応できる(シミュレーションを2回実施、BLS更新受講)
 - 2) 患者ファーストな看護を展開する
 - (1) 外来から退院後までの継続的な看護支援を充実させる
 - (2) 患者に合わせた産前教育・育児支援を実践する
 - (3) 他部署に入院した児と母親へ、他部署と連携して支援を行う
2. 人材育成・人材確保
 - 1) 産科ラダーを実施し、「ニーズをとらえる力」「協働する力」「意思決定を支える力」の実践強化を行い、評価点数が上がる
 - 2) 病棟指導者を中心に新入職職員の受け入れに向けた準備をする
 - 3) 病棟教育にeラーニングを積極的に活用する(産科必須5タイトル全員受講)
3. 経営の健全化
 - 1) 煩雑な看護業務を洗い出し、整理・改善に取り組む
 - 2) 診療報酬上必要な記録を適切に実施する
4. デジタル技術を活用した患者サービスを提供する
 - 1) 患者指導用の動画の作成を行い、活用する
5. COVID-19の院内感染を起こさない
 - 1) 個人防護具着脱の他者評価を全項目90%以上とする
 - 2) 産科病棟での受け入れ体制の強化(Grade-A対応準備)
 - 3) コロナ病棟、ワクチン接種に全員が協力する

【結果・評価】

目標1について

- 1) 情報・記録のヒヤリ・ハットは7件(昨年度比50%削減)目標達成。(2)についてはKYT活動の中で取り組み、コミュニケーション不足によるヒヤリ・ハットは50%削減したが、定着までには至っていないため次年度強化していく。
- 2) 外来での対象者の見直しにより、外来から入院、退院後まで継続した看護を展開することができ、ファミリーサポートシートを活用して母子室・地域連携室との連携も充実し、必要な患者を退院後の地域へ繋ぐことができた。担当者を中心に病棟間の情報共有の充実が図れ、50件以上の他部署の母乳育児支援に繋がった。

目標 2 について

産科ラダーの導入ができ、ラダーの看護実践評価では、全体で他者評価 1.2%「できている」の割合が増加、「ニーズをとらえる力」は情報収集・アセスメントとも課題とする人数の増加があり、「意思決定を支える力」を課題とする人数は減少。次年度も看護過程の展開を記録にすること、IC 後の患者の反応を記録に残してカンファレンスで共有することが課題。

目標 3 について

産後ケアの受け入れ拡大を図り、昨年度比 2.4 倍となる 12 件の利用があり、患者サービスの向上と病床利用に繋がった。

目標 4 について

外来待合いで視聴できるよう妊婦のマイナートラブルと疾患について注意を促す動画を作成。3 月より運用開始した。

目標 5 について

感染状況の悪化に伴い COVID-19 濃厚接触者の分娩受け入れを整え、実際に分娩 1 件実施。入院中に陽性となり、当院での入院継続となったが院内感染の発生なく管理することができた。

その他、産科危機的出血発生時の夜間休日、人員が少ない時のラピッドシステム (コードレッド) の構築を行い、院内各部署の協力を得て導入できた。

(福田 円)

(7) 小児集中治療部

令和 4 年度は、看護師 27 名、看護助手 2 名、病棟クラーク 1 名、ドクタークラーク 1 名で始動した。12 月院内異動で看護師 1 名が他部署へ異動、看護師 1 名が長期病休になり、1 月看護師 1 名が育児休暇から復職した。1 月看護助手 1 名が退職、2 月看護助手 1 名が入職した。3 月院内異動で看護師 1 名が他部署へ異動し、看護師 1 名が他部署から異動となり、3 月末時点で 26 名体制であった。

【令和 4 年度 PICU 病棟目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) KYT を定着させ、インシデントの 3a 事象を 3 件以内にする
2. 人材育成
 - 1) ニーズをとらえる力の課題に対し個々の力が向上する
3. 病院経営に積極的に参画する
 - 1) 特定集中治療室管理料に掲げる早期離床・リハビリテーション加算を取得する
4. COVID-19 の院内感染を起こさない
 - 1) スタンダードプリコーションの徹底を強化する
 - 2) COVID-19 陽性者の緊急手術等に対応できる体制を整備する

【結果・評価】

目標 1 について

6 月から KYT カンファレンス方法を変更し、カンファレンス結果の看護計画への反映、朝の指差し唱和での意識づけ、1 週間後の取り組み評価の実施により、危険予知の視点が広がり、PNS での確認強化につながった。3a 事象が 4 件 (4 月 2 件、6 月 1 件、1 月 1 件) 発生したが、カンファレンス方法変更後は 1 件であり、安全対策の意識強化により予防介入と早期発見につながっている。

目標 2 について

個人の取り組みと PNS やグループでのカンファレンスにより、協力して能力向上に取り組み、看護実践評価において全体の評価が向上した。

目標 3 について

4月から加算取得を開始した。体制上の課題を解決し、6月以降は対象者全例で加算が取得でき、4月～2月の取得点数は498,500点となった。

目標 4 について

環境面での感染対策の認識確認とルール整理を行い、医師と協力してスタンダードプリコーションの徹底に取り組み、新規の MRSA 感染者が6名に減少した。

COVID-19 陽性者13名を受け入れ、感染拡大なく病棟内看護と東棟への転棟を安全に行えた。緊急手術対応では、手術室と協力して物品や体制の整備を行えた。

(齊藤織恵)

(8) 手術室

令和4年度は、看護師11名・看護助手1名で始動した。看護師は12月に1名、3月に1名院内異動になり、10名体制であった。

【令和4年度手術室目標】

1. 個別性を考慮した看護を行い、安全安心な手術室看護を提供する
 - 1) 看護診断を用いて、患児・家族に寄り添った看護を提供する
 - 2) チーム STEPPS[®] を活用して、多職種連携に関するエラーを削減する
 - 3) 臓器移植マニュアルの整備とシミュレーションを実施する
2. 役割意識をもって行動できるよう、自らの課題解決に取り組む
 - 1) PNS の体制強化に向けて、補完しあうマインドの醸成に取り組む
 - 2) e-ラーニングを活用して看護について考える環境を整える
 - 3) 手術室ラダーを活用して自身の課題に対して取り組み、評価が上がる
3. 他職種と連携して業務の役割分担を整理する
 - 1) 医療機器、手術器具、棚卸による適正管理および有効活用をする
 - 2) チーム STEPPS[®] や PNS を活用して隙間時間を有効利用し、時間外業務を減らす
4. デジタル技術を活用して機器の管理と患者サービスを提供する
 - 1) 術前訪問 DVD 運用手順を整備して活用する
5. COVID-19 患者の手術室スタッフの対応を確立する
 - 1) 個人防護具の着脱をマニュアルに沿って正しく行い、院内感染を起こさない
 - 2) 手術室スタッフ対応のシミュレーションを実施する

【結果・評価】

目標 1 について

ORSYS で2つの看護診断を導入し、より個別性の充実した看護に繋がった。処置手順を作成して各科共通手順として1冊のファイルにまとめた。委員会活動で脳死下臓器提供手術マニュアルを作成して、手順の読み合わせを行った。

目標 2 について

KYTカンファレンスを開催したことで安全に関する発言が増え、情報共有する機会となった。振り返りや手術室会議・PNS新聞で補完の好事例を取り上げたことで、アンケートによりPNS体制の改善結果がみられた。昨年度の手術室ラダー評価を基に、自己の課題解決に取り組んだ。

目標3について

器材セットを心外医師・PICUと検討したことで緊急時の対応も整理できた。5S活動で器械の定位置を決定した。ホワイトボードの活用で、残務の可視化と業務調整が定着してきている。

目標4について

術前訪問DVDのタブレット運用を検討したが、活用には至らなかったのが課題としたい。

目標5について

個人防護具着脱の他者評価を2回実施した。産科COVID-19対応のシミュレーションを実施し、分娩棟版で見直して説明会を行った。カテ室・ECMO時のCOVID-19対応を整備した。

(村上容子)

(9) 外 来

令和4年度の外来は、看護師17名(常勤5名、再任用2名、会計年度10名)、看護助手1名で始動し、1年間メンバーの変更はなかった。

【令和4年度外来目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) 患者誤認を昨年比50%減らす
 - 2) ヒヤリハットのコミュニケーションエラーを30%減らす
(Team STEPPS[®]のコミュニケーションツールを活用する)
 - 3) 病棟や各部門と連携・協力し、外来での在宅療養支援を実践する
2. 人材確保・人材育成
 - 1) e-ラーニングを効果的に活用し、人材育成につなげる
(全員が2つ以上受講し、外来看護に役立てる)
 - 2) PNS監査の2回目が上昇する(PNSマインドを浸透させ、働きやすい組織にする)
3. 経営の健全化
 - 1) 看護師の負担軽減につなげる業務改善に1つ以上取り組む
 - 2) 在宅療養指導管理料を確実に算定する
 - 3) 無駄のない物品管理を行う
4. COVID-19の院内感染を起こさない
 - 1) 発熱患者に対して感染対策行動を徹底し、院内感染を防止する
(個人防護具着脱をマニュアル通りに全員が実施する)

【結果・評価】

目標1について

- 1) 患者誤認はなく目標達成できた。
- 2) コミュニケーションエラーを含んだヒヤリハットは、7件で昨年比30%減は達成できた。
- 3) 外来看護記録を開始し、在宅療養中の問題を看護計画立案し継続して支援できるように開始できた。

目標 2 について

- 1) e-ラーニングについては、ひとり 2 つ以上視聴できた。また、看護記録については、スタッフ全員が視聴し外来看護記録につなげることができた。
- 2) PNS の監査は、2 回目以上が上昇した項目は多いが、下がった項目もあり 2 回目全体の上昇にはならなかった。来年度の継続課題とする。

目標 3 について

- 1) 外来の電話対応の検討を電話交換や総合受付とその都度行い、約束事とし関係者に周知できるようにした。
- 2) 在宅療養指導管理料は、算定漏れを見つけていったが、他部門を巻き込んだシステムの構築が課題である。
- 3) 今年度は、リストバンドの無駄な発行が多かった。病棟を含めた検討を考えたい。

目標 4 について

外来発熱患者を介しての院内感染、外来スタッフの感染はなかった。個人防護具の着脱もマニュアルに沿って実施できた。

(宮川祐子)

(10) サービス向上委員会

委員長: 都丸八重子 (看護副部長) 副委員長: 高尾 淳 (総務課長)

委員: 相川良彦 (事務局長) 土屋薫平 (医事課) 清水真理子 (Dr) 堀川茉莉 (生理検査課)
萩原祐輔 (放射線課) 六本木温子 (リハビリ) 砂川恵美 (栄養) 新井咲紀 (薬剤)
井上美由紀 (歯科衛生士) 瀬下明日香 (地域連携室) 石坂泰子 (第三病棟師長)
岩井 淳 (第一病棟) 吉田知紗 (第二病棟) 井田智巳 (第三病棟) 高田やよい (NICU)
牧山穂香 (GCU) 小林恭子 (産科病棟) 久松飛鳥 (PICU) 日景智行 (手術室) 高野朝乃 (外来)

開催日: 定例開催日 4 回/年 第 3 火曜日 16: 45～

【目的】

1. 職員一人ひとりの接遇の向上を図る。
2. 患者・家族の権利を尊重し、思いやりのある医療サービスを提供する。

【活動報告】

1) 患者経験価値調査 (PX)

NHA (日本ホスピタルアライアンス) で行っている患者経験価値調査 (PX) を行った。この調査は医療の質指標 (Quality Indicator: QI) の一つで、患者満足度調査 (Patient Satisfaction=PS) が主観的な「満足」を評価するのに対し具体的で客観的な「経験」を尋ねるのが特徴で、医療の質改善に向けて具体的な課題が抽出しやすいとされている。PXを向上させることで患者の健康アウトカムの向上や医療資源利用の効率性向上、医療過誤の減少などに影響することが証明されている調査である。入院患者・家族を対象に有効回答数 86 名、外来患者・家族 118 名の回答を得た。昨年と比較しレベル・スコアとも向上し他院と比較したスコアでは高い評価であった。看護職員、医師とのコミュニケーションでは、スコアは向上したが薬剤に関するコミュニケーションは最優先課題となった。外来調査は昨年度との比較のみではあるが昨年実施できなかった待ち時間

における設問では 60%以上が 30 分未満、85%が 1 時間未満であった。90%以上が待ち時間の目安を伝えられていなかった。医師の対応は 80%がすべてにおいて親切丁寧な対応を受けた。薬に対する情報はある程度受けたを含めても 50%以下だった。昨年 に すべて の 項目 ではない・すべてと答えた項目は低下していた。

2) ご意見箱

合計 33 件。改善済 6 件。取り組み継続 12 件。対応困難 13 件でこの中の個人への意見が 4 件含まれていたが所属との対応を行い改善できたが、他の案件は施設設備に関して、改善できないことが多く含まれた。

3) 患者サービスへの取り組み

エントランスの水槽設置、キッチンカー導入、ユニバーサルトイレ設置に関して実際の企画には参加できなかったが、委員会の中で進捗状況を委員で情報共有し患者家族の意見を反映した。

4) ボランティア

前年度同様コロナ感染症の影響を強く受けた。ボランティアが中止となり意見交換会もできなかった。再開に向け定期的に連絡し要望等を確認したが長期にわたる中止により辞退された人もいた。反面 HP より高校生の子どもへの支援希望での参加希望が 2 件あったが感染症の抗体価基準が満たされていない等で実施できなかった。クリニックラウンは、オンラインと対面訪問を感染症警戒度に応じ随時対応変更により子どもたちの楽しみの時間が確保できた。

5) 院内美化活動として持ち主不明の傘の撤去を行った。

(都丸八重子)

令和4年度患者満足度調査

I 目的

NHA 患者アンケート調査を行い患者が医療サービスを受ける中での経験を「患者経験価値 (Patient Experience=PX) 調査」で、患者が病院で経験する一連のプロセスに着目し、患者サービスのプロセス改善により患者満足度の改善を目指す。また入院患者アンケート調査で NHA 加盟病院との比較により当院の現状を知る。

II 調査期間

病棟: 令和4年10月

外来: 令和4年11月

III 調査対象

調査期間内に当センターに入院または外来受診した患者と家族

病棟: 第一病棟・第二病棟・第三病棟・産科病棟・PICU・NICU・GCU

外来: 総合内科・循環器科・神経内科・アレルギー科・新生児科・腎臓内科・呼吸器科・形成外科・外科・心臓血管外科・整形外科・血液腫瘍科・耳鼻科・脳神経外科・麻酔科・内分泌代謝科・産科

IV 調査結果

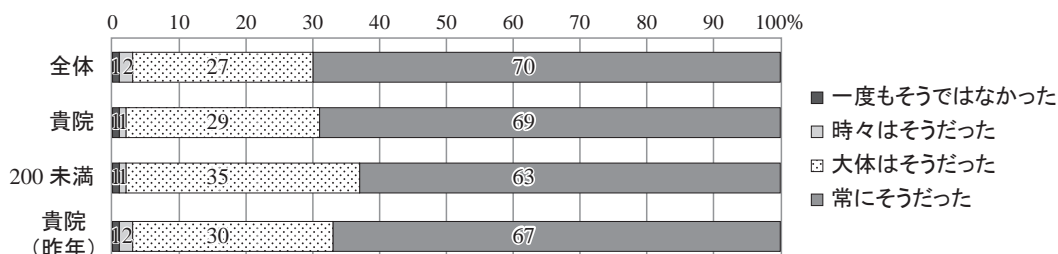
NHA 規定の調査用紙にて以下の内容に関して調査分析を行った。

1) 調査内容

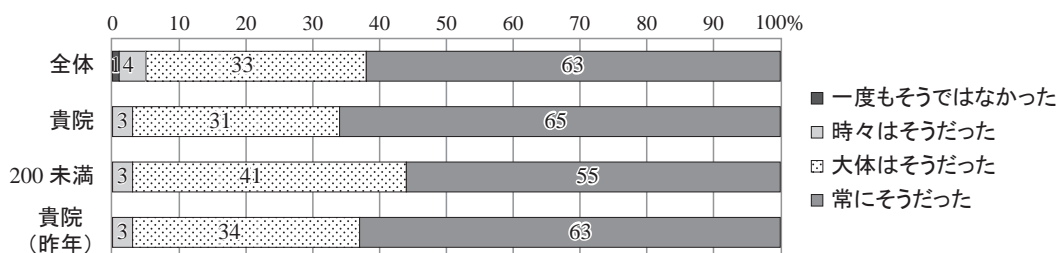
看護師とのコミュニケーション、医師とのコミュニケーション、病院職員の対応、病院の環境薬剤に関するコミュニケーション、退院時の情報提供、外来時の対応

2) 入院患者 86 名から回収 (有効回答名)

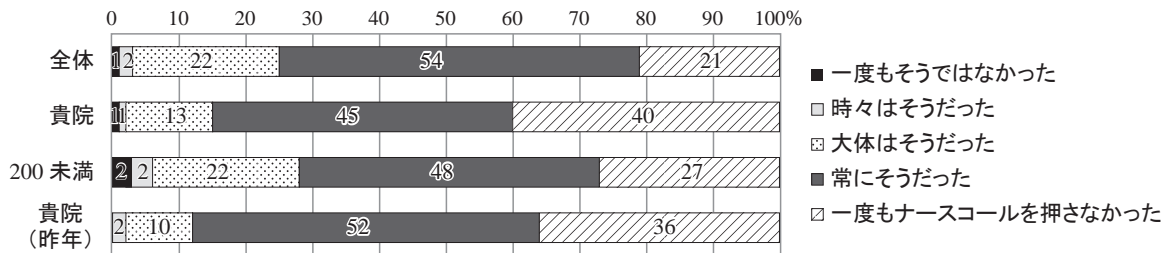
①この入院中、看護師は、礼儀と誠意をもって接しましたか。



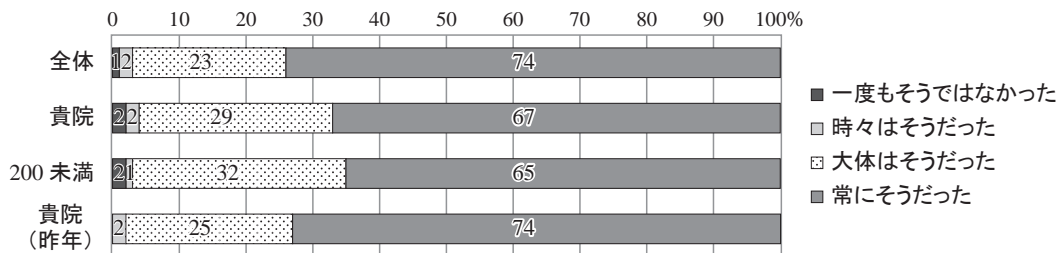
②この入院中、看護師は、あなたにわかりやすく説明をしましたか。



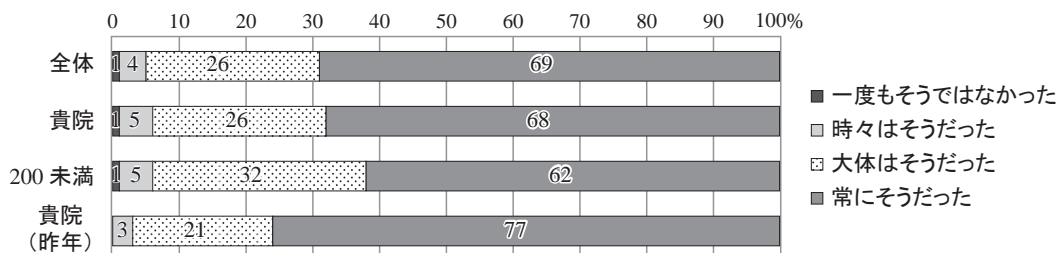
③この入院中、ナースコールを押した後、すぐに援助が受けられましたか。



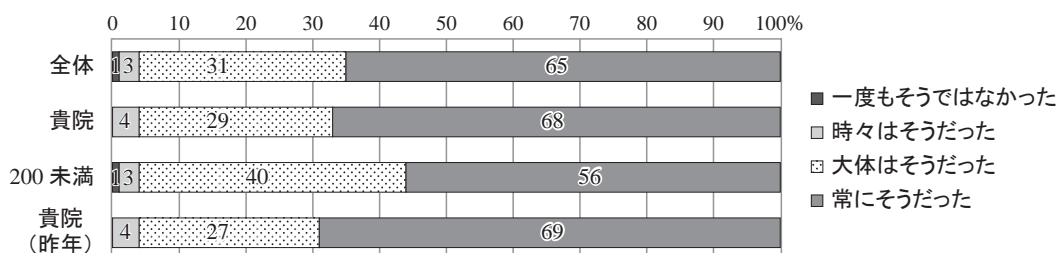
④この入院中、医師は、礼儀と敬意をもってあなたに接しましたか。



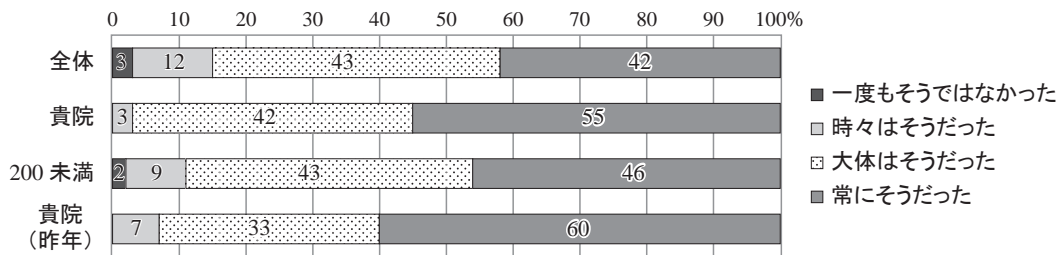
⑤この入院中、医師は、あなたにわかりやすく説明をしましたか。



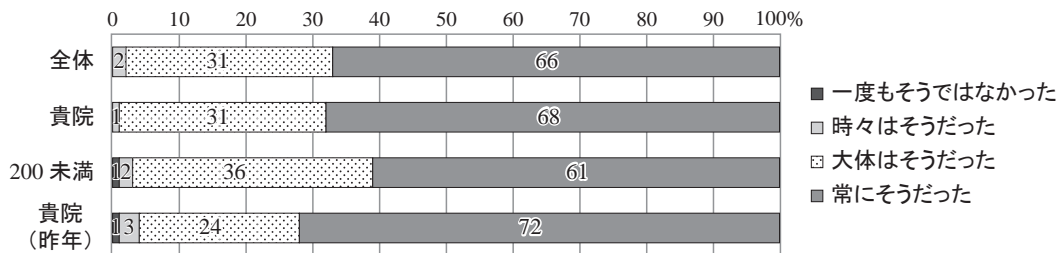
⑥この入院中、あなたの病室とトイレは、清潔に保たれていましたか。



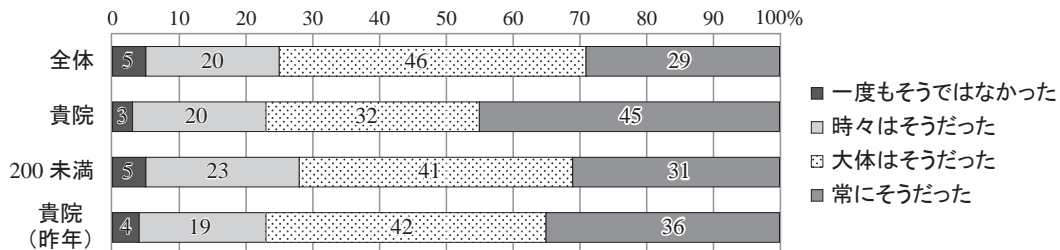
⑦この入院中、あなたの病室の周囲は、夜間静かでしたか。



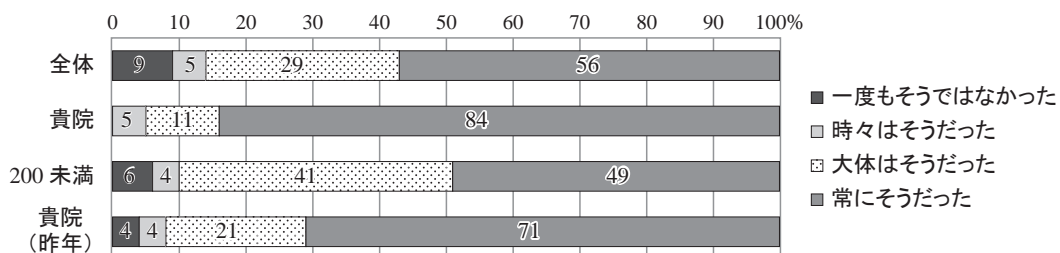
⑧この入院中、安全に医療サービスが行われていると感じましたか。



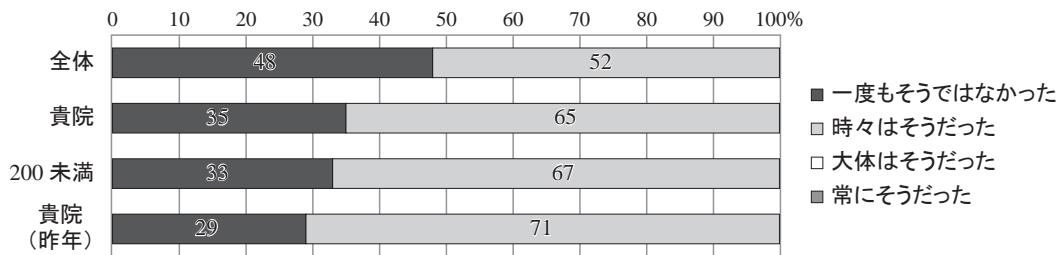
⑨この入院中、食事内容として満足のいくものでしたか。



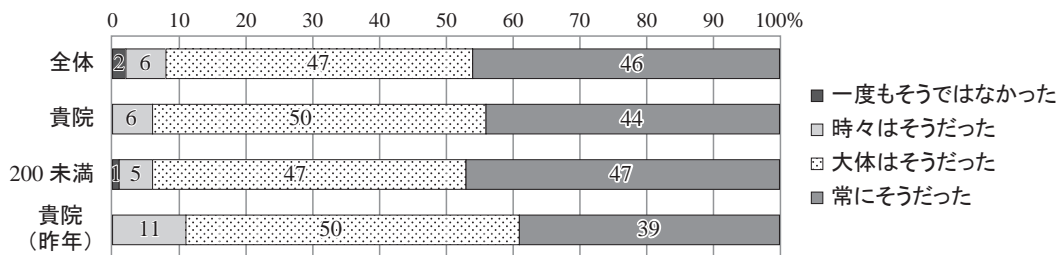
⑩トイレや尿器・便器を使用する際に、すぐに介助を受けられましたか。



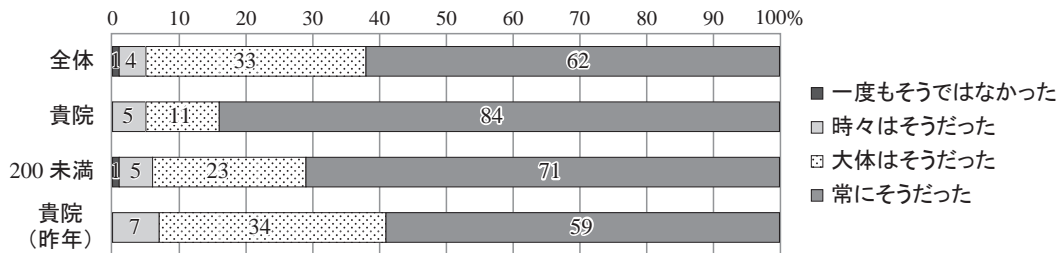
⑪この入院中、痛み止めの薬を必要としましたか。



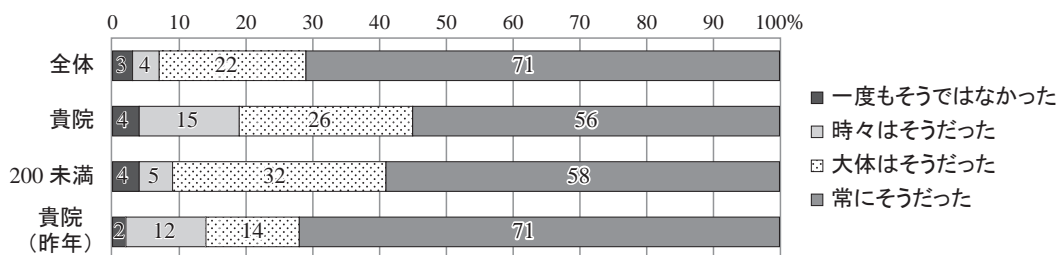
⑫入院中、あなたの痛みは良くコントロールされましたか。



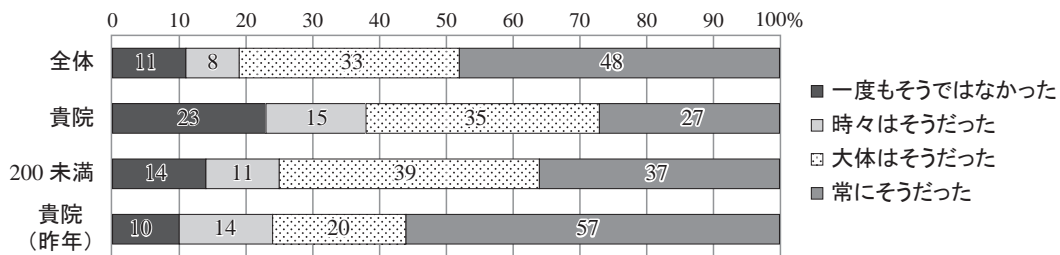
⑬入院中、病院のスタッフは、あなたの痛みを減らすため、できるすべてのことをしてくれましたか。



⑭新しい薬を渡される前に、病院スタッフは、それが何のための薬であることを説明しましたか。



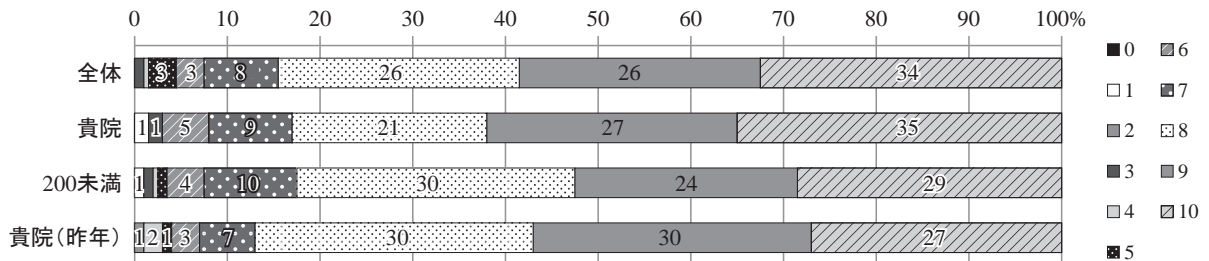
⑮新しい薬を渡される前に、病院スタッフは、生じる副作用についてわかりやすく説明しましたか。



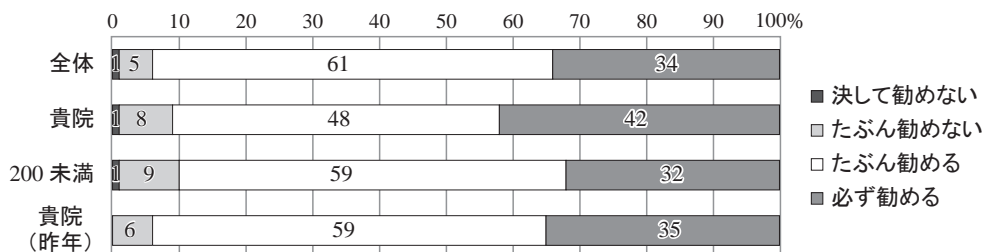
⑯この入院中、医師や看護師、または他の病院スタッフは、退院後のあなたに必要な援助について話をしましたか。



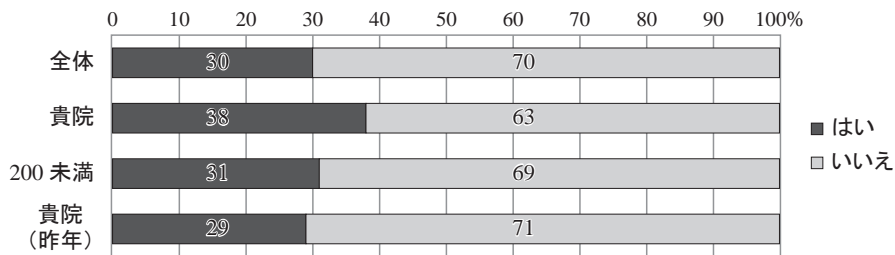
⑰入院中のこの病院を0から10点で評価してください(最も悪い場合を0点、最も良い場合を10点)。



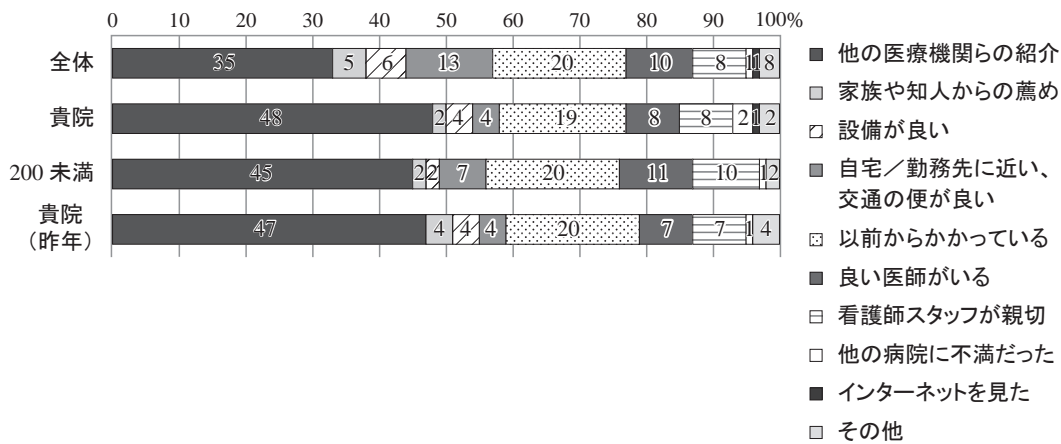
⑱あなたは、この病院を友人や家族に勧めますか。



⑱あなたはこの病院に緊急(救急)患者として入院されましたか。

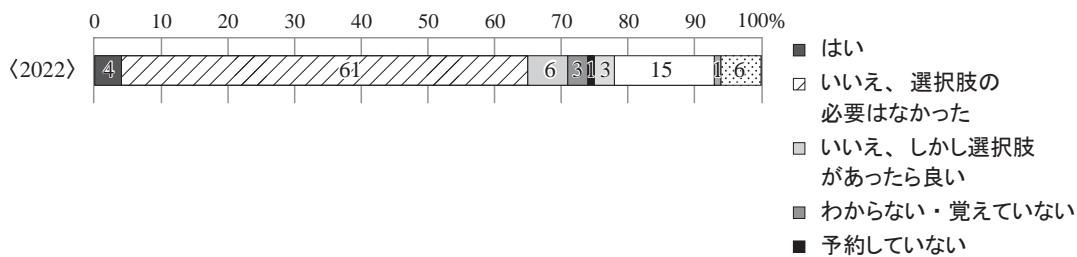


⑳この病院を選択した理由をお選びください(複数選択可)

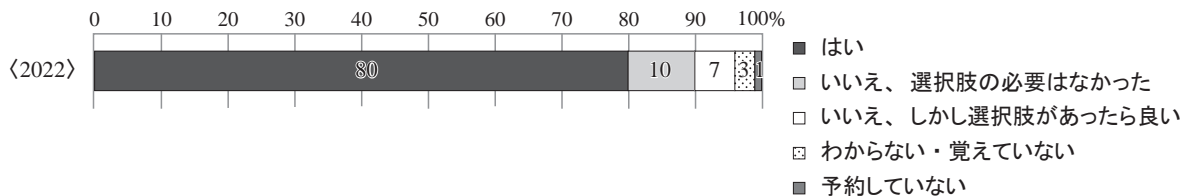


3) 外来より 118 名回収

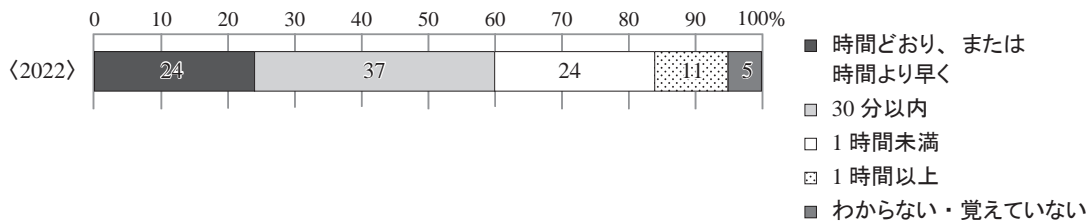
①あなたが当院を選んだ一番大きな理由は何ですか。



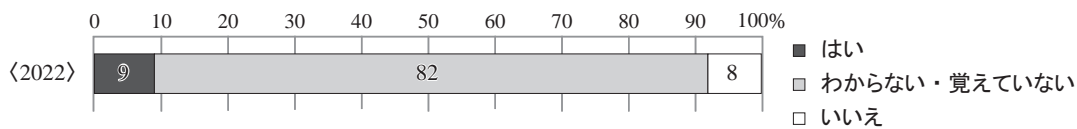
②診察予約時間の選択肢はありましたか。



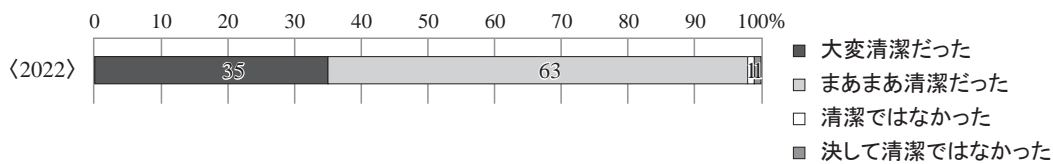
③診察予約時間後、診察が始まるまでどのくらい時間がかかりましたか。



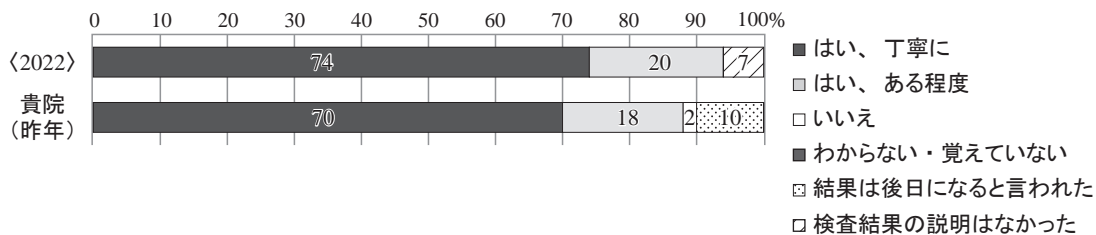
④待ち時間の目安を伝えられましたか。



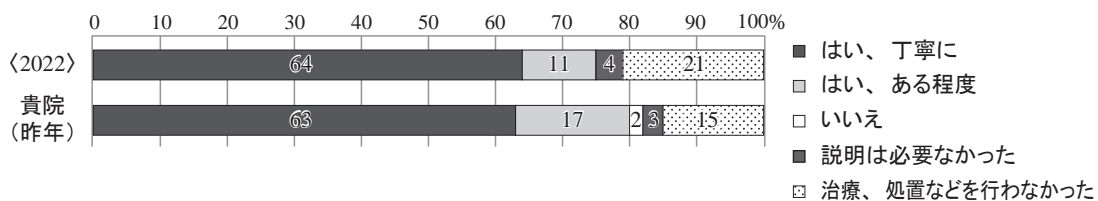
⑤外来のトイレはどの程度清潔でしたか。



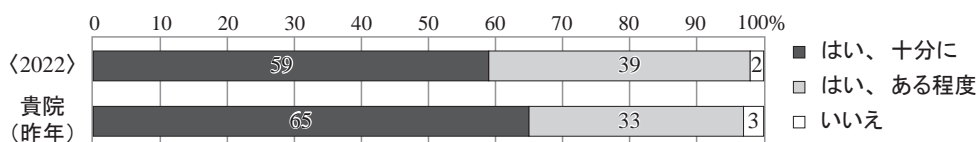
⑥医師は、検査結果をあなたにわかりやすく説明しましたか。



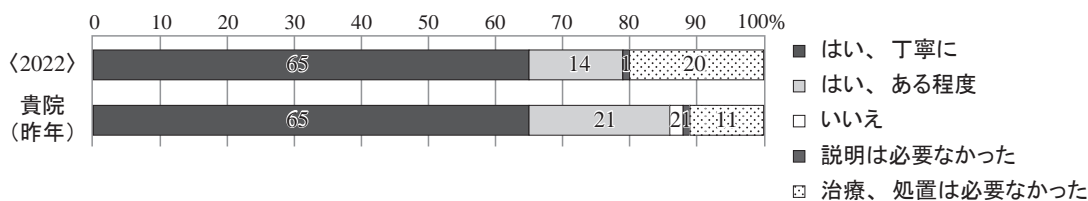
⑦治療前に医師は、治療内容の説明をしましたか。



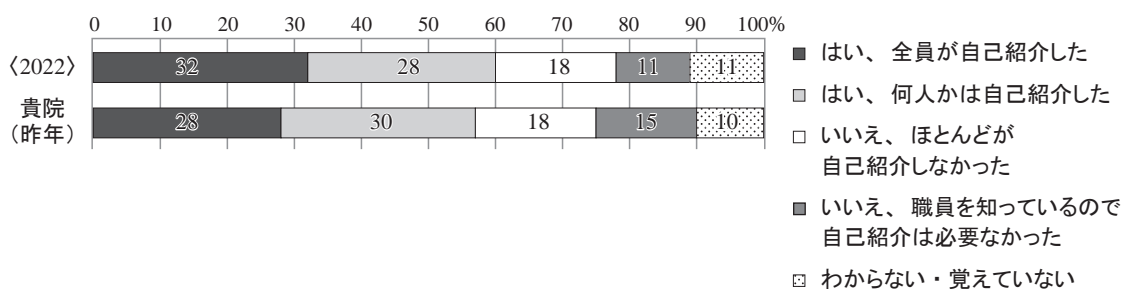
⑧あなたは、話したかったことを医師に十分に伝えられましたか。



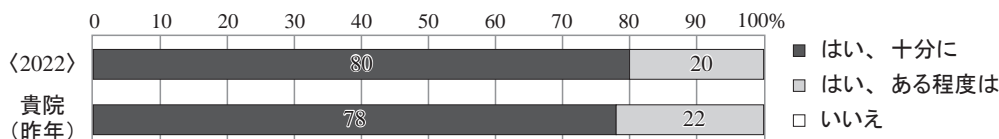
⑨医師は、あなたが理解できる方法で、治療や処置の理由を説明しましたか。



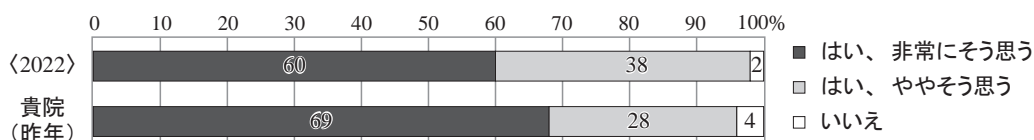
⑩診療に関わる職員は自己紹介しましたか。



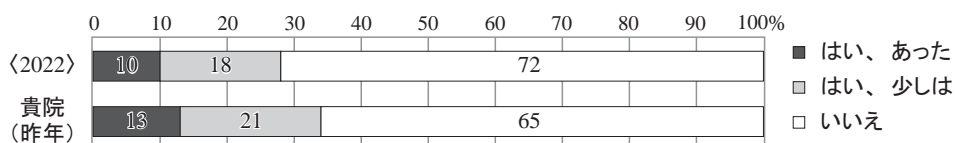
⑪職員は、あなたに誠実に対応しましたか。



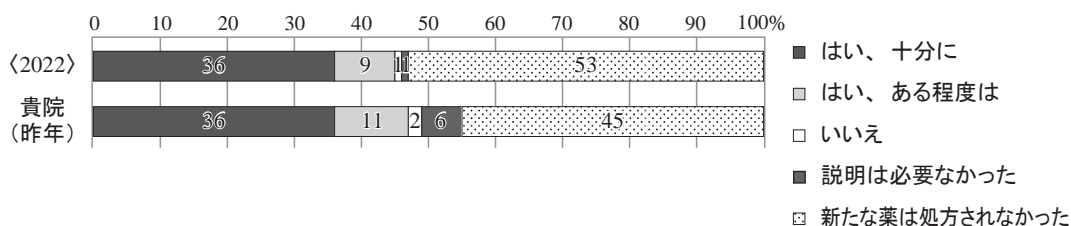
⑫あなたの意思が治療方針に十分反映されたと感じましたか。



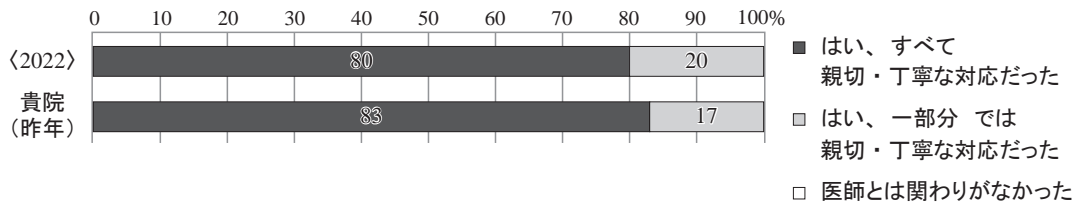
⑬あなたは、伝えられる情報が職員によって異なっているという経験がありましたか。



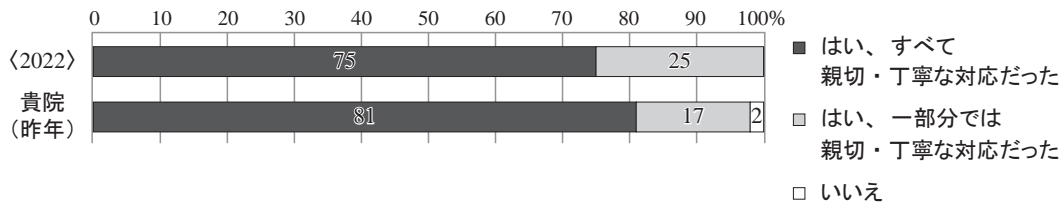
⑭医師や職員は、新たな処方薬を服用する方法を説明しましたか。



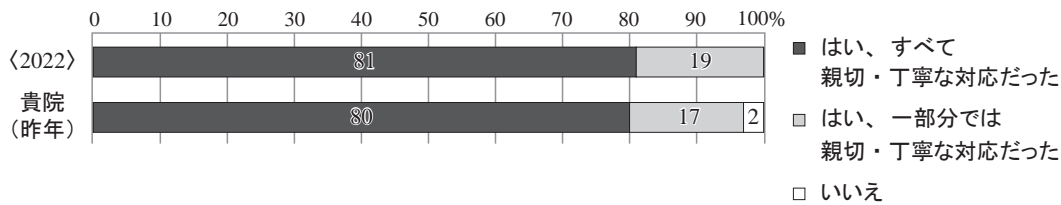
⑮医師の対応は、親切・丁寧な対応でしたか。



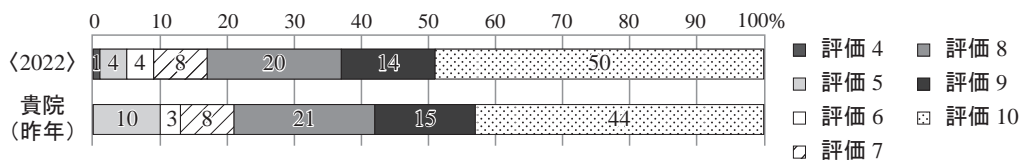
⑯看護師の対応は、親切・丁寧な対応でしたか。



⑰医師・看護師以外の職員の対応は、親切・丁寧な対応でしたか。



⑱当院の外来経験は、あなたにとって価値のあるものでしたか。



4) 結果

NHA 調査分析から入院患者について以下の報告があった

- ・全体で77施設中19位、昨年度CレベルからBレベルに上昇、スコアも61.63で平均スコア54.33を大きく上回った。
- ・薬剤に関するスコアの低下は、病棟による相違が影響していることが考えられる
- ・環境について同室者の影響が考えられる

外来調査は昨年度とほぼ同様の結果だった。昨年度未実施だった待ち時間に関しては、30分未満と1時間未満がほぼ半数ずつであった。

V まとめ

今年度はコロナ感染症の影響で入院患者数が減少しアンケート有効数も昨年に比べ少ない人数で結果となった。昨年度改善した薬剤師とのコミュニケーションが、今年度再度課題となったことは、昨年度の改善が根本的な改善に繋がっていなかったと考える。選ばれる病院になるための更なる改善に努めていきたい。

(サービス向上委員会)

17. 母子保健室

(1) はじめに

当室は、昭和 57 年のセンター開院時から『高度医療を背景として、保健所や市町村の母子保健に対する専門的保健指導を担う部門』として設置され、現在、子どもたちの健やかな成長と発達を支援することを理念とし、入通院児をもつ家族支援に対応するため、多様な相談を受けつつ関係機関との連絡調整機能を担っている。

令和 4 年度の母子保健室の室員は、室長 (院長が兼務)、保健師 3 名 (駐在 1 名・駐在会計年度職員 1 名・会計年度職員 1 名)、臨床心理士 1 名 (会計年度職員) の 4 名体制で、地域医療連携室の MSW や在宅療養支援師長と連携しながら相談業務に従事している。

近年、社会情勢の変化や家族背景が変化している中、虐待予防も見据えて院内外関係者の多くの協力をいただきながら関係機関との連絡調整や支援会議を開催するなど、緊急性と継続支援の必要性が高い案件がますます多くなっている。このため、院内各部門及び地域の保健・福祉・教育関係者等と適時に協議しながら連携を深め家族支援を行っている。

(2) 令和 4 年度実績

①精密健康診査

市町村の乳幼児健康診査の結果、精密検査該当で受診した児について、必要に応じて市町村保健師と連携を図り、受診同席を行いながら受診結果の把握及びその後の支援を行っている。

令和 4 年度の受診者は 96 人、受診結果は要観察 55 人 (57.2%)、要治療 25 人 (26.0%) で、要観察児は当センター外来又は市町村でフォローアップされている。

②新生児・未熟児病棟入院児の退院連絡

退院後の養育状況の把握と育児支援を目的として、市町村保健師に家庭訪問を依頼している。継続支援には地域との連携が不可欠であり、令和 4 年度の訪問依頼件数は 154 件であった。

訪問依頼への返信数は 133 件。新型コロナウイルス感染症の蔓延のため訪問できないケースが見られた。

情報提供書として退院後 2 週間以内に市町村に連絡することを目標に各病棟や医事課スタッフと連携して早期に連絡できるよう努力している。

③育児相談及び関係機関との連携状況

育児に関わる一般的な相談をはじめ、療育や受診に関わる相談と支援に伴う関係機関との調整を行っている。内訳をみると、家族からの相談が 516 件、市町村との連携が 624 件、院内関係部署との連絡調整が 210 件であった。支援や事業に伴う関係機関との連絡総数は 1,543 件で、連絡方法別にみると、電話が 1,006 件、面接が 537 件であった。

④関係機関連携会議

環境等の調整が必要な家庭の支援のため、地域機関 (市町村、児童相談所、学校、保育所等) との間で連携会議を開催しており、令和 4 年度は 35 回開催した。

⑤子ども虐待防止対策事業 (母子保健室・地域連携室)

地域医療連携室と協働で事務局を担っている。院内虐待防止委員会のもと緊急対応や虐待防止に向けての研修会などを開催した。

⑥臨床心理士による発達検査及び心理カウンセリング

当院は総合周産期母子医療センターの機能をもつことから、極低出生体重児全員の成長発達確認(1歳6か月・3歳・6歳時点の発達検査等)及びその他主治医が必要とした児の心理検査やカウンセリングを行い、必要に応じて地域との連携を行っている。

令和4年度における心理検査は、対象171名で延べ232検査、新生児科からの依頼が79%、続いて神経内科から14%であった。心理カウンセリングは、対象72家族で延べ430回、神経内科からの依頼が34%、続いて新生児科から19%、産科から12%であった。

⑦産後ケア事業

令和元年度から産後ケア事業を受け入れ産科病棟で開始された。実施主体は市町村であるため、利用する場合の市町村等への連絡調整を行った。

⑧研修会等

看護大学学生への実習中の講義等を適時行っている。

院内では看護部の新規採用職員研修、院外では群馬大学保健学科ではゲスト講師、医療的ケア児等コーディネーター養成研修での講師なども務めた。

⑨先天性代謝異常等検査

本事業の事務局として、患者情報の管理(精密検査対象児及び継続治療児等のフォローアップ)を行っている。平成25年10月からタンデムマス法検査の導入がされ、現在、発見可能な疾患が20疾患となった。保護者の不安等への対応については、地域機関である保健センター・保健福祉事務所と連携して不安の軽減と解消に努めている。

また、令和4年度は、第1回先天性代謝異常等検査検討会議を開催した。郵便配達縮小に伴うろ紙検体の送付状況や群馬県としての拡大スクリーニングの対応方法について検討した。

(3) まとめ

母子保健室はセンター開院時から病院と地域との橋渡し役として、多くの保護者から相談を受け、相談内容に応じて関係機関との連絡調整の役割を担ってきた。

特に、ここ数年は婚姻外出産、育児経験不足(養育力低下)、家庭環境不全、育児支援者の不在、経済的困窮等の要支援家庭の増加や、障害受容が困難な家族、虐待事例等、児童相談所等の関係機関との調整や家族支援に時間を要するハイリスク事例がますます増加している。

産後ケア事業においては、産科病棟等と協力し、当院で出産した産婦さん方の必要なフォローのため市町村等の連絡調整に努めている。

今後も疾患を抱えながら成長していく子どもたちと見守るご家族が安全かつ安心して日常生活が過ごせるよう、ひとり一人の相談に真摯に向き合い、主治医と相談しながら母子保健室ならではの多職種のチームとして得意分野を最大限発揮した相談体制に努め、関係セクションとの協働を継続し、地域の関係機関との連携を強化していきたい。

(吉野日茄乃)

18. 地域医療連携室

地域医療連携室は2階のリハビリテーション室隣に新設後5年目を迎えた。地域医療連携室(相談窓口)にはメディカルソーシャルワーカー(MSW)2名、在宅療養支援担当の看護師長1名、専任の看護師1名が常時、勤務している。在宅療養・退院に向けた支援、福祉制度の案内、心配事やお困り事の相談などを受けている。患者様をご紹介いただく窓口(予約・受付窓口)は受付の地域医療連携担当が受けて地域医療連携室長および当該科医師と相談して対応している。退院時共同指導料2、介護等連携指導加算、患者サポート体制充実加算の3つの加算を取得し、毎週、金曜日午前には定例の患者サポートカンファレンスを行っている。医療連携のより一層の充実に向けて取り組みをすすめている。

(野村 滋)

19. 医療安全管理室

1. 令和4年度医療安全管理体制

医療安全管理室長 副院長兼 浜島昭人

専任安全管理推進者(ゼネラルリスクマネージャー:GRM) 看護師長 大平典子

非常勤職員 1名

委員会等	開催日	構成員	令和4年開催実績
医療安全管理委員会 ＜医療安全管理体制の方針決定機関＞ 委員長: 浜島副院長 副委員長: 大平 GRM	原則毎月 第2火曜日	29名	定例12回
死亡症例検討委員会 委員長: 浜島副院長 副委員長: 河崎医療局長	原則月1回 開催日随時決定	24名	11回開催
リスクマネジメント委員会 ＜医療安全対策の実行機関＞ 委員長: 大平 GRM 副委員長: 福島看護師長	原則毎月 第3水曜日	29名	定例12回
看護部リスクマネジメント委員会 ＜看護部内の医療安全対策検討＞ 委員長: 大平 GRM 副委員長: 福島看護師長	原則毎月 第3水曜日	11名	定例12回
患者相談窓口	責任者: 浜島副院長		相談件数5件

2. 令和4年度医療安全講演会・研修開催状況

対象	開催日	参加人数	参加率	テーマ・内容	講師
全職員 対象	R4.6.7～6.30	452	100%	説明・同意と診療記録 親権・未成年の法律行為 と親の同意	水沼直樹 病院局法律相談弁護士
	R4.10.18/10.29 11.1/11.2/11.4	428	93.8%	医療事故の経験から伝え たいこと、DVD視聴	高山詩穂 聖徳大学 准教授
	R4.11.2～12.16	449	100%	患者確認自己評価	
	R4.4.26/4.28	122		統一救急カート勉強会	下山伸哉 部長 木島久仁子 主幹 田村芳子 主任 富樫哲雄 主任
医療局 看護部	R5.3.6～3.20			臨床工学課インシデントレポート まとめ	臨床工学課 下田隼人 主任
	R5.3.6～3.20			MRI 安全講習	放射線課 清水宏史 副主任
医師 看護師 技術部 (栄養リ ハ以外) 薬剤部	R5.3.20～3.31			医療ガスに係る安全管理のための 職員研修	医療ガス安全管理委員会
看護部	R4.6.13	KYT危険予知訓練 研修、今年度の目標			
	R5.2.24	KYT 危険予知訓練・取り組み報告			
コメディ カル	R5.1.11/1.20/1/30	BLS 研修			

3. 医療事故及びヒヤリ・ハット事例調査集計

1) 医療事故及びヒヤリ・ハット報告数

808 件。R3 年度比較 104 件減少 (11.5%) 3b: 1 件 レベル 4 以上の発生なし。
件数は減少し、全体の 84.2%はレベル 1 以下であった。

2) 項目別発生割合

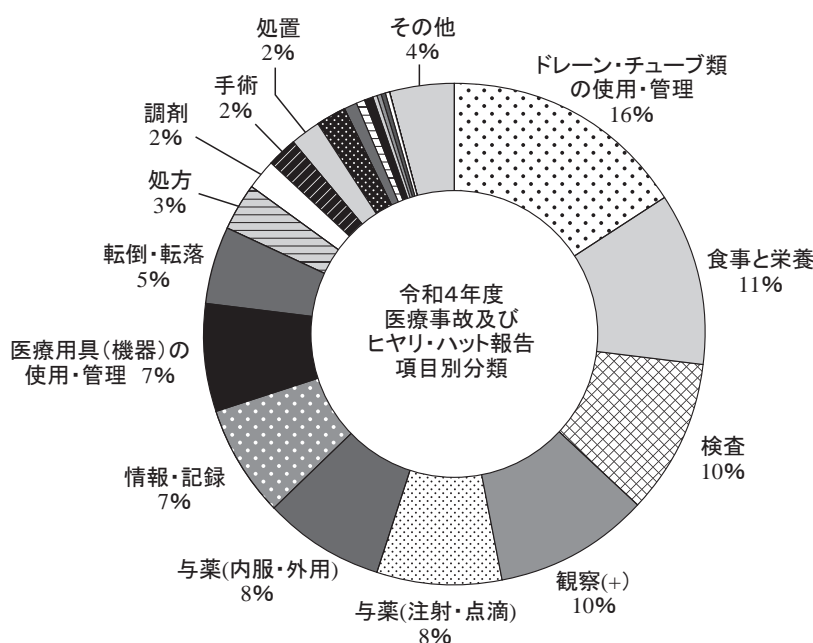
①ドレーン・チューブの使用管理 16% ②食事と栄養 11.6% ③検査 9.9%の順。

3) 事故発生日時

平日日勤 10 時～11 時台の発生ピークに変化はなく、夜勤での発生割合は変わりなかった。

4) 患者誤認

15 件発生 (8 件減少)。すべて 0～1 レベルであった。医師が関係したもの 7 件 (47%)、看護部 5 件 (33%)。一人あたりの発生状況では①医療局、②放射線課、③薬剤部の順で、内容は、①情報と記録、②検査が多かった。



	レベル							
	件数	0	1	2	3a	3b	4a	4b
ドレーン・チューブ類の使用・管理	130	10	56	35	28	1	0	0
食事と栄養	92	70	21	0	1	0	0	0
検査	82	46	25	11	0	0	0	0
観察(+)	79	6	54	18	1	0	0	0
与薬(注射・点滴)	63	20	30	12	1	0	0	0
与薬(内服・外用)	62	22	40	0	0	0	0	0
情報・記録	59	43	16	0	0	0	0	0
医療用具(機器)の使用・管理	57	18	34	5	0	0	0	0

	レベル	0	1	2	3a	3b	4a	4b
	件数							
転倒・転落	40	1	36	2	1	0	0	0
処方	21	14	6	1	0	0	0	0
調剤	21	20	1	0	0	0	0	0
手術	17	8	8	1	0	0	0	0
処置	16	2	9	4	1	0	0	0
説明	16	11	5	0	0	0	0	0
環境整備	5	3	2	0	0	0	0	0
輸血	4	3	1	0	0	0	0	0
感染防止	4	1	1	2	0	0	0	0
事務	3	1	2	0	0	0	0	0
歯科医療用具(機器)・材料の使用・管理	3	3	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション	2	1	0	1	0	0	0	0
清拭・入浴介助等	2	0	1	0	1	0	0	0
排泄の介助	1	0	1	0	0	0	0	0
麻酔	0	0	0	0	0	0	0	0
分娩	0	0	0	0	0	0	0	0
移送	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	29	11	17	1	0	0	0	0
合 計	808	313	366	93	34	1	0	0

4. 患者・家族相談件数

相談内容	件数
医師に関する事	1件
看護に関する事	2件
	計3件

5. 医療安全地域連携加算に係る相互評価

日 程	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和4年 10月20日	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター	加算Ⅰ 群馬県立精神医療センター
令和4年 12月1日	加算Ⅰ 群馬県立精神医療センター	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター
令和5年 2月21日	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター	加算Ⅱ 北関東循環器病院

6. リスクマネジメント委員会活動

委員長: 大平典子

副委員長: 福島富美子

委員: 岡崎シニアレジデント (外科)、市之宮部長 (新生児)、石北技師 (血腫)、森田部長 (内科)、廣木部長 (麻酔)、上原医長 (産科)、新井部長 (循環器)、狩野主幹 (第一)、亀井主幹 (第二)、堤主幹 (第三)、木島主幹 (NICU)、後藤主幹 (GCU)、小池主幹 (産科)、小林主幹 (OPE)、藤井主幹 (PICU)、瀬谷主幹 (外来)、高山副主幹 (薬剤部)、田原副主幹 (検査)、堀川技師 (検査)、木村主任 (放射線)、河野主任 (栄養)、松下主任 (リハビリ)、下田主任 (CE)、船山主事 (総務課)、楠技師 (歯科)

1) 活動内容

- (1) 事故及びヒヤリ・ハット報告の周知、問題の共有、対策検討、知識の修得
- (2) WG 活動

フィッシュ活動	THANKS カードの運用方法の検討、活用検討
TeamSTEPPS®	研修、アンケートの実施、コミュニケーション向上の取り組み
災害対策	院内防災の手引き周知、院内ラウンド、災害時炊き出し訓練
5S 活動	院内ラウンドによる評価、5S 活動発表会

7. 今後の課題

- 1) 様々な有事に備えた取り組み
- 2) ラウンドによる安全環境の維持や行動の質の維持向上
- 3) 各部署の取り組みの支援強化
- 4) TeamSTEPPS® のコミュニケーションツールの活用

(大平典子)

20. 感染対策室

1. 令和4年度感染対策体制

感染対策室長 清水彰彦 (ICD) (兼任)

感染対策医師 小泉亜矢 (ICD) (兼任)

専従感染対策担当看護師 (感染管理認定看護師: ICN) 北爪幸子

感染対策担当検査技師 佐藤敦子 (兼任)

感染対策担当薬剤師 高橋大輔 (兼任)

2. 委員会活動報告

委員会等	開催日	構成員
院内感染対策委員会 ＜感染対策体制の方針決定機関＞ 委員長: 清水彰彦 副委員長: 小泉亜矢	毎月第4水曜日	46名
ICT委員会 ＜感染対策の実働＞ 委員長: 清水彰彦 副委員長: 小泉亜矢	毎月第1火曜日	25名
リンクナース会 委員長: 北爪幸子	毎月第3月曜日	10名

1) 院内感染対策委員会活動

委員会は毎月開催で年12回開催された。活動内容として、細菌ウイルス検出状況・抗菌薬使用状況報告・血流感染/SSIサーベイランス報告・AST活動・ICT活動の報告が実施された。

2) ICT委員会活動

委員会は第1週の火曜日で年11回開催された。活動内容として、院内の感染状況報告・細菌・ウイルス検出状況・抗菌薬使用状況の報告・ICTラウンド報告・研修内容の検討、清掃満足度調査、手指衛生強化月間活動、相互チェック対応・改善活動等を実施した。

3) リンクナース会活動

活動目標を「各部署における感染対策活動が実施できる」として活動を実施した。

個人防護具着脱他者評価年2回実施、ICTラウンド結果・自部署の感染管理上の問題点

- ・改善計画を立案し、改善を実践した。またCOVID-19対応では各部署でCOVID-19患者受け入れ体制の整備や手順書を作成し、陽性者・濃厚接触者の受け入れができた。手指消毒薬使用量調査結果を部署ごとへ報告し、今年度は過去5年間で使用量が一番多い年度となった。来年度の課題としては、手指衛生の質向上として、手指衛生他者評価を実施する予定である。

3. 感染対策室活動報告

1) 感染防止対策カンファレンス

開催日	主催	内容	備考
7月1日	群馬県感染症対策連絡協議会	令和4年度群馬県感染症対策連絡協議会総会・特別講演会	WEB開催・共催
11月18日	渋川医療センター	令和4年度 渋川地区 新興感染症等を想定した訓練	共催
12月9日	小児医療センター	令和4年度 渋川地区 新興感染症等を想定した訓練	共催
1月27日	渋川医療センター	令和4年度 渋川地区 感染対策カンファレンス	WEB開催・共催
2月17日	小児医療センター	令和4年度 渋川地区 感染対策カンファレンス	WEB開催・共催

2) 相互チェック

開催日	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和4年7月8日(金)	渋川医療センター	小児医療センター
令和4年9月29日(金)	小児医療センター	群馬県立がんセンター

3) ICT ラウンド

毎週木曜日に病棟(第一・第二・第三・産科・NICU・GCU・PICU)は毎週、技術部(検査課・リハ課・放射線課・CE課)・薬剤部・外来・手術室は月1回ラウンドを実施した。標準予防策実施状況・環境清掃状況・感染対策物品管理状況などを確認した。毎回報告書を作成し、ラウンドを実施した部門へ配布し改善を求めた。相互チェックで指摘された項目もラウンド項目に追加し、改善できた。

4) AST 活動

令和4年度のAST活動について、医師からコンサルトがあった症例・重症感染症・抗菌薬や投与量の変更が必要な患者等に随時介入した。広域抗菌薬・抗MRSA薬使用患者・菌血症患者等においては、週1回の特定抗菌薬ラウンドを併せて実施した。ラウンド対象患者は延べ86名、うち62名において抗菌薬変更や投与期間の推奨等何らかの介入を実施した。対象者では、菌血症が43名と多くみられ、培養結果から適切な抗菌薬・投与量の選択に繋げることができた。

カルバペネム系抗菌薬の入院患者1000人あたりの使用頻度について、平成29年の23.93から令和2年:1.58と低くなったが、令和3年:2.83、令和4年:6.70と上昇傾向にあるため引き続き介入が必要である。平成30年には21%迄上昇した緑膿菌のカルバペネム耐性率は10%迄低下している。

COVID-19治療における薬物投与については、特に第6、7波以後基礎疾患があり酸素投与を要する入院患者が増加し、計5名の患者にレムデシビルの投与を、モルヌピラビルを付き添いの成人1名に投与した。新規経口COVID-19治療薬やモノクローナル抗体は使用していない。

数年振りにインフルエンザの入院治療例も増加し、計10名の患者にラピアクタ[®]の投与を実施した。

5) 研修開催状況

(1) 全職種対象

開催日	内容	講師	参加人数	備考
6月7日から 7月11日	手指衛生研修	ICT/ICT リンク委員	512名	参加率 99.2%
10月25.26.27日 (10/17～10/31 動画視聴)	新型コロナウイルス感染症の個人防護具について	北爪看護師	491名	参加率 96.7%

(2) AST 研修

開催日	内容	講師	参加人数	備考
6月23日 (6/24～7/15 動画視聴)	コロナ禍における抗菌薬 適正使用について	清水彰彦医師	204名	
2023年2月17日 (2/24～3/10)	耐性菌動向 抗菌薬使用状況	松村検査技師 高橋大薬剤師	206名	

(3) 部門別研修

開催日	内容	講師	参加人数	備考
4月8日	院内感染対策	清水彰彦医師	15名	新入職・異動者
4月12日	小児の感染対策	北爪看護師	15名	新入職・異動者
6月28日	アデノウイルスについて	北爪看護師	8名	第三病棟職員
7月15日	看護助手研修	北爪看護師	14名	看護助手
11月28日	ラダー別研修	北爪看護師	12名	新人・異動者

6) 新型コロナウイルス関連

- (1) 新型コロナウイルス受け入れ対応病棟準備・マニュアル作成・指導
- (2) 新型コロナウイルス患者入院受け入れ対応
陽性患者: 261名・疑似症患者: 39名 合計 300名 (そのうち PICU 対応 12名)
- (3) 病院間調整センター・保健福祉事務所・保健予防課等との調整・報告
- (4) 発熱外来・陽性者外来対応
- (5) 新型コロナウイルスワクチン接種対応 (職員・小児)
- (6) 診療材料・個人防護具等の備蓄物品管理
- (7) 新型コロナウイルス定例会議開催 (毎週～隔週開催)
- (8) 職員濃厚接触者・陽性者対応
- (9) 感染症発生届提出対応

7) その他

- (1) 感染対策マニュアル改訂
- (2) C-MAT (クラスター対策チーム) 出動 (2件)
- (3) 広報活動: LINE 通信 15回発行・コロナ通信 1回発行・ICT だより 2回発行
- (4) 病院局感染対策担当者会議出席

- (5) 外来患者インフルエンザワクチン接種調整
- (6) 職員抗体価検査結果管理・ワクチン接種対応
- (7) 外部施設への感染対策実施指導
- (8) 感染対策相談対応
- (9) 院外講師

開催日	主 催	内 容	担 当 者
6月4日	北関東小児がんセミナー	新型コロナウイルスの現状と群馬県立小児医療センターでの対応	清水彰彦医師
6月23日	群馬県立がんセンター院内感染対策講演会	ポストコロナ時代の抗菌薬適正使用	清水彰彦医師
7月19日	児童福祉・青少年課子持山学園	現場における感染対策のポイント	北爪看護師
8月25日	高崎健康福祉大学認定看護師教育課程	流行性ウイルス感染症疾患の理解と予防	清水彰彦医師
11月10日	渋川市教育委員会	新型コロナウイルスの感染対策	清水彰彦医師
1月17日	県立赤城養護学校小児センター校	感染症と対策について	北爪看護師

(北爪幸子)

研究研修編

1. 学会報告

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 道和百合, 森田孝次, 椎原 隆, 山口 有. 乳児期に血栓症を繰り返し遠隔期に脳出血をきたした Jacobsen症候群の 1 例. 日本人類遺伝学会第 67 回大会, 横浜, 2022. 12. 15.

<循環器科>

- 1) 中島公子, 関 満. Gd-EOB-DTPAを用いたフォンタン術後患者の肝障害進展様式の検討. 第 58 回日本肝臓病学会「ワークショップ 11 FALD (フォンタン術後肝障害) の疫学・病態・臨床—診療ガイドラインの確立を目指して」, 横浜, 2022. 6. 2-3.
- 2) 池田健太郎, 新井修平, 稲田雅弘, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉. 小児に対するビソプロロール貼付剤の使用経験. 第 58 回日本小児循環器学会学術集会, 札幌, 2022. 7. 21-23.
- 3) 池田健太郎, 新井修平, 稲田雅弘, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉. 先天性心疾患に間質性肺炎を合併した小児例の検討. 第 58 回日本小児循環器学会学術集会, 札幌, 2022. 7. 21-23.
- 4) 中島公子, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男. Fontan 術後早期に多発性限局性結節性過形成と肝肺症候群を伴う症候性門脈体循環短絡症により心不全を呈した多脾症候群. 第 58 回日本小児循環器学会, 札幌, 2022. 7. 21-23.
- 5) 浅見雄司, 田中健佑, 稲田雅弘, 新井修平, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男. 胎児診断により新生児期から良好な治療介入ができた, MYH7 遺伝子変異を認めた左室心筋緻密化障害の一例. 第 58 回日本小児循環器学会, 札幌, 2022. 7. 22.
- 6) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 岡村 達, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後の再挿管に影響を与える因子についての検討. 第 58 回日本小児循環器学会, 札幌, 2022. 7. 22.
- 7) 下山伸哉, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 小林富男. デクスメトミジン中止後に痙攣発作を疑う眼球運動異常を呈した小児例. 第 58 回日本小児循環器学会, 札幌, 2022. 7. 23.
- 8) 稲田雅弘, 下山伸哉, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎. 可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳炎脳症 (MERS) を合併した小児多系統炎症性症候群 (MIS-C) の 1 例. 第 42 回日本川崎病学会学術集会, 大宮, 2022. 9. 30.
- 9) 稲田雅弘, 池田健太郎, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉. 群馬県における小学校 4 年性の学校心臓検診の現状. 第 26 回日本小児心電学会学術集会, 大阪, 2022. 11. 11.
- 10) 池田健太郎, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 豊田真寿, 松永慶廉, 岡村 達. 両心室ペーシングから左室単独ペーシングに変更した先天性完全左脚ブロックの 1 例. 第 26 回日本小児心電学会学術集会, 大阪, 2022. 11. 11-12.
- 11) 池田健太郎, 内藤滋人, 新井修平, 稲田雅弘, 浅見雄司, 中島公子. 下山伸哉総肺静脈還流異常症術後 AFL, AT に対しカテーテルアブレーションを行った 2 歳男児例. カテーテルアブレーション関連秋季大会, 新潟, 2022. 11. 25.
- 12) 中島公子, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 下山伸哉. 急性期からの観察で経皮的心肺補助装置を使用し合併症なく救命できた劇症型心筋症. 群馬県立小児医療センター登録医大会, 2022. 11. 30.
- 13) 浅見雄司, 池田健太郎, 稲田雅弘, 新井修平, 中島公子, 下山伸哉, 豊田真寿, 松永慶廉, 岡村 達. 無脾症, 下心臓型総肺静脈還流異常に対して静脈管ステントを留置したが, 手術待機中に大動脈が低

形成となった一例. 第 9 回 Inforaml JCIC 関東甲信越研究会, 高崎, 2022. 12. 10.

- 14) 中島公子, 小林富男, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 下山伸哉. 群馬県の先天性心疾患患者における移行期支援外来の現状と課題. 第 220 回日本小児科学会群馬地方会, Web 開催, 2022. 12. 11.
- 15) 中島公子, 山下英治, 小坂橋紀道, 小林富男, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 下山伸哉. 群馬県の先天性心疾患患者における移行期支援外来の現状と課題. 第 24 回日本成人先天性心疾患学会, 松山, 2023. 1. 13-15.
- 16) 池田健太郎, 内藤滋人, 新井修平, 稲田雅弘, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉. 総肺静脈還流異常症術後 AFL, AT に対しカテーテルアブレーションを行った 2 歳男児例. 第 33 回 JCIC 学術集会, 東京, 2023. 1. 19.
- 17) 池田健太郎, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 豊田真寿, 松永慶廉, 岡村 達. 両心室ペーシングから左室単独ペーシングに変更した先天性完全左脚ブロックの 1 例. 第 15 回植え込みデバイス関連冬季大会, 仙台, 2023. 2. 24-26.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 鎬木浩太. 消防学校救急科における新生児蘇生法 P コースを用いた新生児蘇生法実習. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 郡山, 2022. 4. 17.
- 2) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 鎬木浩太, 宮川陽一. 新生児蘇生法 P コースを用いた救急救命士向け新生児蘇生法講習会. 第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 2022. 7. 12.
- 3) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 鎬木浩太, 宮川陽一. 重症新生児仮死で出生した新生児搬送症例の転帰に関する検討. 第 219 回日本小児科学会群馬地方会講話会, Web 開催, 2022. 7. 14.
- 4) 宮川陽一, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 鎬木浩太. 致死的な経過をたどった新生児ミトコンドリア病疑いの双胎例. 第 38 回群馬周産期研究会総会, Web 開催, 2022. 9. 3.
- 5) 丸山憲一. 群馬県における地域別の母乳育児率と小児の健康状態との関連に関する検討. 第 66 回日本新生児成育医学会学術集会, 横浜, 2022. 11. 25.
- 6) 小泉亜矢, 丸山憲一, 福田一代, 市之宮健二, 鎬木浩太, 宮川陽一. 胎盤絨毛血管腫に合併した新生児肝血管腫の 3 例. 第 66 回日本新生児成育医学会学術集会, 横浜, 2022. 11. 25.
- 7) 小泉亜矢. 早産の母児間における薬剤耐性グラム陰性菌の垂直伝播に関する調査. 第 41 回日本周産期新生児医学会 周産期シンポジウム, 名古屋, 2023. 1. 14.
- 8) 鎬木浩太, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 宮川陽一. 経過中に AFP の急激な上昇を認め診断に苦慮した肝腫瘍の一例. 第 221 回日本小児科学会群馬地方会講話会, 桐生, 2023. 3. 12.

<アレルギー・リウマチ科/感染症科>

- 1) 清水彰彦, 清水真理子, 野村 滋, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 池田健太郎. 当院で経験した小児多系統炎症性症候群 (MIS-C) の 2 例. 第 216 回日本小児科学会群馬県地方会, 2022. 7. 24.
- 2) 清水彰彦, 北爪幸子. 小児 COVID-19 患者に付き添い入院する保護者への感染対策の検討. 第 71 回日本感染症学会東日本地方会, 2022. 10. 28.
- 3) 清水彰彦, 清水真理子, 野村 滋. 群馬県立小児医療センターにおける新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の臨床的特徴に関する後方視的検討. 第 54 回日本小児感染症学会学術集会, 2022. 11. 5.

<遺伝科>

- 1) 道和百合, 森田孝次, 椎原 隆, 山口 有. 乳児期に血栓症を繰り返し遠隔期に脳出血をきたした Jacobsen症候群の1例. 日本人類遺伝学会第67回大会, 横浜, 2022. 12. 15.
- 2) 山口 有, 鍋木浩太, 京谷琢治, 丸山憲一. 短指症と周産期発症の硬膜下出血を合併し, COL1A2 遺伝子に新規変異を認めた骨形成不全症の1例. 第45回日本小児遺伝学会学術集会, 東京, 2023. 1. 29.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 西 明, 小柳地洋, 小山亮太, 則内友博, 五十嵐昭宏, 畠山信逸. 停留精巣術後の精巣微小石灰化を認めた99精巣の長期経過の検討. 第59回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2022. 5. 19.
- 2) 小山亮太, 小柳地洋, 則内友博, 五十嵐昭宏, 西 明. ピコプレップ配合内用剤の使用経験 続報. 第59回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2022. 5. 19.
- 3) 小柳地洋, 西 明, 五十嵐昭宏, 則内友博, 小山亮太. 小児のLipschiltz潰瘍(急性外陰部潰瘍)の経験. 第59回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2022. 5. 19.
- 4) 則内友博, 西 明, 小柳地洋, 小山亮太, 五十嵐昭宏. 小児専門病院-施設における心身障害者手術のSSI. 第59回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2022. 5. 19.
- 5) 則内友博. 小児急性虫垂炎診療ガイドラインは臨床現場に浸透しているのか 画像診断の選択の観点から. 第35回日本小児救急医学会学術集会, 東京, 2022. 7. 29.
- 6) 篠原正樹, 岡崎英人, 横川英之, 則内友博, 高澤慎也, 西 明. 嚢胞性肺疾患との鑑別を要した胸膜肺芽腫の2例. 第60回日本癌治療学会学術集会, 神戸, 2022. 10. 20.
- 7) 篠原正樹(群馬県立小児医療センター 小児外科), 横川英之, 岡崎英人, 則内友博, 高澤慎也, 西 明. 当院において出生前診断され出生後に自然退縮した先天性嚢胞性肺疾患の3例. 第32回日本小児呼吸器外科研究会, 岡山, 2022. 10. 27.
- 8) 西 明, 渡辺栄一郎, 篠原正樹, 横川英之, 岡崎英人. 当院におけるHypoganglionosis 6例の治療経過. 第52回日本小児消化管機能研究会, 東京, 2023. 2. 11.
- 9) 渡辺栄一郎, 橋詰直樹, 柿原 知, 藤雄木亨真, 石丸哲也, 小関元太, 齋藤 傑, 狩野元宏, 山本裕輝, 藤野明浩, 米田光宏, 須田 互, 金森 豊. Isolated hypoganglionosisのBishop-Koop式ストマ造設前後での腸内細菌叢解析研究. 第52回日本小児消化管機能研究会, 東京, 2023. 2. 11.

<形成外科>

- 1) 佐々木淑恵, 齊藤 景, 浜島昭人. 腹壁破裂後臍再建症例の検討. 第4回群馬県形成外科研究会, 前橋, 2022. 6. 11.
- 2) 齊藤 景, 佐々木淑恵, 浜島昭人. 胸鎖関節部に生じた先天性遺残軟骨(副耳)の1例. 第4回群馬県形成外科研究会, 前橋, 2022. 6. 11.
- 3) 佐々木淑恵. 当院における口唇裂手術の歩み シンポジウム. 第40回昭和大学医学部形成外科学講座同門会学術集会, 東京, 2022. 9. 10.

◆産 科

- 1) 村上麻耶, 京谷琢治, 内山陽介, 諏訪裕人, 木暮さやか. 胎児期に発症した一過性骨髄異常増殖症(TAM)症例の検討. 第58回日本周産期新生児医学会学術集会, 横浜, 2022. 7. 11.

- 2) 木暮さやか, 京谷琢治, 飯野彩奈, 村上麻耶. 骨盤位経膈分娩し得た胎児巨大頭蓋内未熟奇形腫の1例. 第58回日本周産期新生児医学会学術集会, 横浜, 2022. 7. 11.
- 3) 諏訪裕人, 内山陽介, 村上麻耶, 木暮さやか, 京谷琢治. 1st trimester に指摘された胎児腹部嚢胞が原因と考えられる先天性横隔膜ヘルニアの1例. 第74回日本産科婦人科学会学術集会, 福岡, 2022. 8. 6.
- 4) 諏訪裕人, 京谷琢治, 村上麻耶, 上原理紗, 木暮さやか. TAPS の管理中に sIUGR, TAFD に移行した MD 双胎の1例. 第38回群馬周産期研究会, 前橋, 2022. 9. 3.
- 5) 京谷琢治. 胎児診断のこれからは超音波か? ゲノムか? 超音波診断の立場から. 第44回日本母体胎児医学会学術集会, (シンポジウム), 仙台, 2022. 9. 4.

◆歯科

- 1) 秦 史子, 木下 樹, 大嶋 瑛, 前田 茂. Oculodentodigital dysplasia 患児への全身麻酔経験. 第50回日本歯科麻酔学会, 品川, 2022. 10. 29.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 田原貴子, 新井菜津子, 酒井智子, 神山晴美, 小川公代. ヌーナン症候群に合併した若年性骨髄単球性白血病の一例. 第67回群馬県医学検査学会, 前橋 (Web 開催), 2022. 11. 28.
- 2) 浅見杏子, 堀川菜里, 齋木美穂, 諸岡 望, 丸山裕子. 患者急変時を想定した救急カートシミュレーションの実際と改善にむけての取り組み. 第41回群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会, Web 開催, 2023. 2. 8~3. 1.

◆放射線課

- 1) 大河原有希, 大川夏輝, 清水宏史, 佐々木保, 萩原祐輔, 下田寛貴, 茂木彰子, 木村壮平. 胎児 MRI の検査経験と検査の特徴. 2022 年度関東甲信越診療放射線技師学術大会, 2022. 11. 26.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子, 六本木温子, 渡辺美緒, 小川尚子. 脊髄性筋委縮症 1 型 1 症例のリハビリテーションプログラム検討. 第64回日本小児神経学会学術集会, 高崎, 2022. 6. 3.
- 2) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 岡 徳彦, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後患者における再挿管に影響を与える因子についての検討. 第58回日本小児循環器学会総会・学術集会, Web 開催, 2022. 7. 22.
- 3) 臼田由美子. 小児病院におけるレジデント理学療法士教育の現状と課題. 第9回小児理学療法学会学術集会, Web 開催, 2022. 11. 12.

◆看護部

- 1) 北爪幸子. 第37回日本環境感染学会総会・学術集会, 第10回小児感染管理ネットワーク会議. パシフィコ横浜, 横浜, 2022. 6. 17.
- 2) 金子友香. 「一貫した看護過程の展開に向けた実践の質自己評価尺度」の開発と尺度を用いた自己評価の有効性の検討. 第31回日本看護教育学学会学術集会, 昌賢学園まえばしホール, 前橋, 2022. 8. 20.

2. 誌上発表

◆小児内科

<神経内科>

- 1) Machida O, Shimojima KY, Shiihara T, Akamine S, Kira R, Hasegawa Y, Nishi E, Okamoto N, Nagata S, Yamamoto T. Interstitial deletions in the proximal regions of 6q: 12 original cases and a literature review. *Intractable Rare Dis Res.* 11: 143-148, 2022.
- 2) Sakuma H, Takanashi JI, Muramatsu K, Kondo H, Shiihara T, Suzuki M, Okanari K, Kasai M, Mitani O, Nakazawa T, Omata T, Shimoda K, Abe Y, Maegaki Y, Murayama K, Murofushi Y, Nagase H, Okumura A, Sakai Y, Tada H, Mizuguchi M; Japanese Pediatric Neuro-COVID-19 Study Group. Severe pediatric acute encephalopathy syndromes related to SARS-CoV-2. *Front Neurosci.* 17: 1085082, 2023
- 3) Tamura T, Yamamoto Shimojima K, Shiihara T, Sakazume S, Okamoto N, Yagasaki. H, Morioka I, Kanno H, Yamamoto T. Interstitial microdeletions of 3q26.2q26.31 in two patients with neurodevelopmental delay and distinctive features. *Am J Med Genet A.* 191: 400-407, 2023.

<循環器科>

- 1) Shimoyama S, Takahashi D, Arai S, Asami Y, Nakajima K, Ikeda K, Takizawa T, Kobayashi T. A large amount of microscopic precipitates are inevitably injected during infusion therapy without an in-line filter. *Oxf Med Case Reports.* 19(2); omab134, 2022.
- 2) Kato T, Miura M, Kobayashi T, Kaneko T, Fukushima N, Suda K, Maeda J, Shimoyama S, Shiono J, Hirono K, Ikeda K, Sato S, Numano F, Mitani Y, Waki K, Ayusawa M, Fukazawa R, Fuse S. Analysis of Coronary Arterial Aneurysm Regression in Patients With Kawasaki Disease by Aneurysm Severity: Factors Associated With Regression. *J Am Heart Assoc.* 12(3): e 022417, 2023.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 生後2週の母乳外来で泣いたら必ず母乳を飲ませなさいといわれました。現在10～12回授乳して寝る暇がなく大変です(1か月健診での質問)。 *周産期医学.* 52: 397-398, 2022.
- 2) 丸山憲一. 母乳を与えた後も泣きやみません。ミルクを足したほうがよいでしょうか? . *周産期医学.* 52: 399-400, 2022.
- 3) 丸山憲一. 母乳はいつまで与えたらよいですか? . *周産期医学.* 52: 401-402, 2022.

<アレルギー・リウマチ科/感染症科>

- 1) Shimizu A, Kitazume S. Nosocomial transmission of SARS-CoV-2 from infected children to uninfected caregivers: A retrospective cohort study in a Japanese tertiary children's hospital. *J Infect Chemother.* 2023 Mar; 29(3): 281-283.

<血液腫瘍科>

- 1) Kaburagi T, Yamato G, Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Tabuchi K, Shiraishi Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Matsuo H, Shimada A, Taki T, Kiyokawa N, Tomizawa D, Horibe K, Miyano S, Taga T, Adachi S, Ogawa S, Hayashi Y. Clinical significance of RAS pathway alterations in pediatric acute myeloid leukemia. *Haematologica.* 2022 Mar 1; 107(3): 583-592.
- 2) Yamato G, Kawai T, Shiba N, Ikeda J, Hara Y, Ohki K, Tsujimoto SI, Kaburagi T, Yoshida K, Shiraishi Y,

Miyano S, Kiyokawa N, Tomizawa D, Shimada A, Sotomatsu M, Arakawa H, Adachi S, Taga T, Horibe K, Ogawa S, Hata K, Hayashi Y. Genome-wide DNA methylation analysis in pediatric acute myeloid leukemia. *Blood Adv.* 2022 Jun 14; 6(11): 3207-3219.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 高澤慎也, 西 明, 磯田有香, 則内友博, 菊地健太, 小山亮太, 山田佳之. 【小児の便秘: 最近の知見】食事内容と腸内細菌叢. *小児外科.* 54: 350-354, 2022.
- 2) 西 明, 則内友博, 篠原正樹, 横川英之, 岡崎英人, 高澤慎也. 【診断困難な小児外科症例: 早期診断へのポイントとヒント】診断に苦慮した広範囲の移行帯を伴うultra-short segment aganglionosisの1例. *小児外科.* 54: 1098-1101, 2022.
- 3) 則内友博, 西 明, 丸山憲一, 高澤慎也, 藤代 準. NICU・GCUの患児における周術期予防的抗菌薬とSSIの関係. *日本周産期・新生児医学会雑誌.* 58: 268-272, 2022.
- 4) 高澤慎也, 西 明. 重症心身障害児に対する腹腔鏡下噴門形成術の術後管理における経鼻空腸カテーテルの有用性. *学会誌JSPEN.* 4: 111-116, 2022.
- 5) 渡辺栄一郎, 川島祐介, 柿原 知, 設楽佳彦, 斎藤 傑, 香川礼子, 紺野 亮, 石川将己, 高見尚平, 清水泰岳, 松本恭明, 福家辰樹, 高澤慎也, 西 明, 新井勝大, 野村伊知郎, 岡田 賢, 高橋尚人, 小原 收, 藤代 準. 【腸内細菌を学ぶ】便プロテオーム解析. *小児外科.* 55: 150-157, 2023.
- 6) 則内友博, 西 明, 畠山信逸. 小児急性虫垂炎における画像診断モダリティの選択 ガイドライン策定前後での比較. *日本小児放射線学会雑誌.* 39: 35-40, 2023.

<形成外科>

- 1) 西村 怜, 浜島昭人, 荒木夏枝, 佐々木淑恵. 小児の肛門周囲に全周性に発生した尖圭コンジローマの1例. *形成外科.* 65(5): 620-624, 2022.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 小川公代. 強い乳びが認められた新鮮凍結血漿-LR. *日本輸血・細胞治療学会誌.* 68(3): 397-398, 2022.

◆放射線課

- 1) Takamoto N, Takazawa S, Yoshida Y, Sasaki T, Nishi A. Examination of the effectiveness of bedside nasojejunal tube placement using a portable imaging device with a flat panel detector. *Nagoya J. Med. Sci.* 84: 772-781, 2022.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ. 小児集中治療室 (PICU) における早期離床・リハビリテーション. *理学療法ジャーナル.* 57: 20-25, 2023.

3. 単行本・その他

◆小児内科

<アレルギー・リウマチ科／感染症科>

- 1) 清水彰彦. 駆け出し感染症内科医のClinical Questions 調べたことは共有して, みんなで賢くなろう (第10回) グラム陽性ブドウ球菌は, グラム染色から菌名が推定できるか? (Q & A)
- 2) 清水彰彦. 駆け出し感染症内科医のClinical Questions調べたことは共有して, みんなで賢くなろう (第13回) 小児急性虫垂炎で保存的治療が適応となる症例は? (Q & A)
- 3) J-IDEO (2432-7077) 6巻4号 Page608-610.
- 4) J-IDEO (2432-7077) 7巻1号 Page106-107.

<循環器科>

- 1) 池田健太郎. 先天性心疾患 (小児). 公益財団法人 群馬県健康医学振興会編 循環器病～知る・治す・予防する～. 上毛新聞社, 2022, P114-119.
- 2) 中島公子. 移行期医療 (小児から成人へ). 公益財団法人 群馬県健康医学振興会編 循環器病～知る・治す・予防する～. 上毛新聞社, 2022, P144-147.

◆産科

- 1) 木暮さやか. 191の疑問に答える 周産期の栄養「Q76 味噌汁・納豆は早産予防によいと聞きました。本当ですか?」. 周産期医学 52 増刊号, 2022, pp.170-171.

◆看護部

- 1) 北爪幸子. RS ウイルス. With コロナ時代に役立つICT活動の進め方マニュアル. インфекションコントロール 2022 年夏季増刊, MC メディカ出版, 2022, P166-171.

4. 班会議等報告書

- 1) 実施なし

5. 講演

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 渡辺美緒. 小児の医療的ケア. 令和4年度小児保健に関する講演会, 前橋市, 2022. 11. 24.

<循環器科>

- 1) 池田健太郎. 学校心臓検診 2次検診のポイント. 令和4年度学校心臓検診講習会, 2022. 7. 29.
- 2) 池田健太郎. 在宅医療に必要な先天性心疾患の知識. 在宅医療セミナー, 2022. 9. 8.
- 3) 池田健太郎. 小児心臓カテーテルのABC. 専門医セミナー, 2022. 9. 20.

◆歯科

- 1) 木下 樹. デンタルネグレクトの早期発見と予防. 令和4年度館林邑楽歯科医師会学校歯科保健担当者研修会, 館林, 2022. 7. 28.
- 2) 木下 樹. 重症心身障害児・者の歯科治療と全身管理—多種職連携による包括的治療—. 令和4年

関東臨床歯科麻酔懇話会, 横浜, 2022. 7. 30.

- 3) 木下 樹. 発達障害児の口腔ケア. 恩賜財団母子愛育会地域母子保健研修会, 東京, 2022. 10. 13.
- 4) 木下 樹. 無歯科大学県における障害者歯科医療の歩み. 第30回全国歯科保健研修会, Web開催, 2022. 10. 27.
- 5) 木下 樹. 障害児(者)歯科で知っておきたいこと. 令和4年度第1回障害児(者)歯科診療協力医育成研修会, 前橋, 2022. 11. 10.
- 6) 木下 樹. 知っておきたいお口の話. 令和4年度群馬県立小児医療センターダウン症児親の会(あさがおの会), 渋川, 2022. 11. 29.
- 7) 木下 樹. 発達障害児の歯科保健について. 発達障害児早期発見・早期支援実践研修会, 前橋, 2022. 12. 13.
- 8) 木下 樹. 障害のある子どもの食事介助時の留意点. 渋川特別支援学校校内研修会, 渋川, 2022. 12. 23.
- 9) 木下 樹. 障害児(者)歯科治療および歯科衛生士の関わりについて. 令和4年度第6回「ついたち会」研修会, 前橋, 2023. 3. 10.

◆放射線課

- 1) 佐々木保. 死亡時画像診断(Ai)におけるCTと感染対策. 日本医師会令和4年度死亡時画像診断(Ai)研修会, Web開催, 2022. 12. 12-2023. 3. 6.
- 2) 佐々木保. 小児画像検査とAi. 第12回茨城Ai研究会, Web開催, 2023. 1. 23.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ. 小児先天性心疾患手術後患者のリハビリテーション. 第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, Web開催, 2022. 6. 11.
- 2) 臼田由美子. 気管切開児の呼吸リハビリテーションと生活支援. 第54回日本小児呼吸器学会ハンズオンセミナー, 千葉, 2022. 10. 14-15.
- 3) 熊丸めぐみ. 小児先天性心疾患児の心臓リハビリテーション. 第266回日本循環器学会関東甲信越地方会, オンデマンド, 2022. 12. 6.

◆臨床工学課

- 1) 下田隼人. 抗凝固管理方法の紹介. 第1回群馬体外循環研究会, Web開催, 2023. 3. 11.

6. 講習会・研修会

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 森田孝次. 発達障害とその支援. 群馬県委託一般就業助産師再教育講演会, 前橋, 2023. 3. 4.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 小川公代. 型違いの血小板輸血. 第2回いい輸血について考える会 Web輸血研修会, Web開催, 2022. 11. 26.

◆放射線課

- 1) 吉田有希. 周産期におけるチーム医療. 県民健康科学大学 2022 年度保健医療チーム連携論 (群馬県における周産期医療を支える保健医療チーム連携), 群馬県立小児医療センター, 2022. 7. 22.
- 2) 萩原祐輔. PACS による画像情報配信による情報連携. 県民健康科学大学 2022 年度保健医療チーム連携論 II (チーム医療における医療情報連携の仕組み), 群馬県立小児医療センター, 2022. 7. 25.
- 3) 吉田有希. 医療連携実習—医療連携の実際—. 県民健康科学大学 2022 年度保健医療チーム連携論 II (チーム医療における医療情報連携の仕組み), 群馬県立小児医療センター, 2022. 7. 26.
- 4) 佐々木保. 医療被ばくの基本的な考え方・放射線診療の防護の最適化・過剰被ばくその他の事例発生時の対応・放射線診療を受ける者への情報提供. 令和 4 年度診療用放射線の安全利用のための研修, 群馬県立小児医療センター, Web 開催, 2022. 12. 1-2023. 1. 31.
- 5) 大川夏輝. 令和 4 年度 MRI 安全講習. 医療安全研修, 群馬県立小児医療センター, Web 開催, 2023. 3. 6-20.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子. 肢体不自由児の呼吸介助および排痰介助について. 群馬県立学校医療的ケア支援教員研修, Web 開催, 2022. 7. 21.
- 2) 熊丸めぐみ. PICU での早期リハビリテーションと早期離床・リハ加算制度について. 第 29 回小児集中治療ワークショップ, 東京, 2022. 10. 30.
- 3) 六本木温子. 発達支援推進グループ 後進育成について～保育士等研修会スタッフアンケートより～. 第 7 回北関東信越ブロック学会・第 24 回群馬県作業療法学会, 前橋, 2022. 11. 26.
- 4) 臼田由美子. カフアシストを併用した排痰法の紹介. 看護部在宅療養支援委員会 訪問看護師向け勉強会, 院内, 2023. 3. 11.
- 5) 高柳豊史. 腎機能障害に対する循環器理学療法. 認定理学療法士臨床認定カリキュラム, Web 開催, 2023. 3. 13-26.
- 6) 熊丸めぐみ. 医学的診断と治療介入. 認定理学療法士臨床認定カリキュラム, Web 開催, 2023. 3. 13-26.
- 7) 熊丸めぐみ. 疾病・障害特異的理学療法の実践 (循環器理学療法に必要な機能的能力の評価指標). 認定理学療法士臨床認定カリキュラム, Web 開催, 2023. 3. 13-26.

◆臨床工学課

- 1) 高橋祐樹. ME 機器の取り扱い. 令和 4 年度看護部新規採用者オリエンテーション, 群馬, 2022. 4. 13.
- 2) 下田隼人. 医療安全研修 2022 年インシデントレポートまとめ. 2022 年度医療機器安全研修, 群馬県立小児医療センター, 2023. 3. 6.

◆薬 剤 部

- 1) 高橋大輔. 群馬県病院薬剤師会研修会, 高崎, 2022. 6. 9.
- 2) 高橋大輔. AST (Antimicrobial Stewardship Team) 活動報告. 感染対策向上加算合同カンファレンス, 渋川, 2023. 2. 17.

◆看護部

- 1) 大谷ゆう子. 群馬ストーリーナビリテーション講習会 2022. 前橋赤十字病院 (オンライン), 2022. 5. 29.
- 2) 清水奈保. 認定看護管理者教育課程フォローアップ研修「県立病院における人材育成—看護管理者育成のための看護システムの構築—」. 群馬県教育センター, 前橋, 2022. 9. 22.
- 3) 木島久仁子. 群馬県教育・保育のステップアップ研修 (看護師向け研修). 群馬県市町村会館, 前橋, 2022. 10. 7, 12, 16.
- 4) 大谷ゆう子. 第 15 回群馬ストーリーナビリテーション講習会 2022. 前橋赤十字病院, 2022. 11. 12.
- 5) 木島久仁子. 「小児の退院支援と在宅療養支援」. 群馬県看護協会, 前橋, 2022. 12. 9.
- 6) 狩野英美. 消防職員専科教育第 28 期救急科 新生児蘇生法 (P コース) インストラクター. 群馬県消防学校, 前橋, 2022. 12. 19, 20.

7. 学会長・座長・その他

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 池田健太郎. 第 26 回日本小児心電学会学術集会 (座長), 一般演題 3 「集中治療・胎児新生児」第 26 回日本小児心電学会学術集会, 大阪, 2022. 11. 11-12.
- 2) 池田健太郎. 第 9 回 informal JCIC 関東甲信越研究会 (当番世話人), Gメッセ群馬, 高崎, 2022. 12. 10.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 一般演題 (口演) 「消化管 1」, 横浜, 2022. 7. 10.
- 2) 丸山憲一. 第 66 回日本新生児成育医学会学術集会, 一般演題 (口演) 「消化器・栄養 1」, 横浜, 2022. 11. 24.
- 3) 丸山憲一. 北関東新生児懇話会, 講演 1 「なぜパリミズバブ投与が必要かを説明できますか? —啓蒙活動に必要な知識—」, 東京, 2023. 3. 4.
- 4) 丸山憲一. 北関東新生児懇話会, 講演 2 「小児呼吸器疾患の診断・治療／基礎と実践」, 東京, 2023. 3. 4.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 西 明. 第 59 回日本小児外科学会学術集会 (座長), 要望演題 1 症例, 東京, 2022. 5. 19.

<形成外科>

- 1) 浜島昭人. 座長「症例検討会」, 第 4 回群馬県形成外科研究会, 前橋, 2022. 6. 11.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 小川公代. 第 67 回群馬県医学検査学会 (パネリスト), 研究班セミナー, 前橋 (Web 開催), 2022. 11. 27.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ. 第 21 回群馬県呼吸リハビリテーション研修会 (座長), 前橋, 2022. 11. 5.

◆臨床工学課

- 1) 下田隼人. 第 20 回群馬県臨床工学技士会学術大会 (座長) 一般演題「呼吸」, Web 開催, 2022. 7. 24.

◆看護部

- 1) 北爪幸子. C-MAT 出動. わたらせ養護園 (福祉型障害児入所施設), 太田, 2022. 7. 7.
- 2) 清水奈保. 群馬県ペットとの共生推進に関する有識者会議, 前橋, 2022. 7. 22, 9. 9, 10. 17.
- 3) 清水奈保. 認定看護管理者教育課程フォローアップ研修, 前橋, 2022. 9. 22.
- 4) 齊藤織恵. 日本新生児看護学会評議員会, 横浜, 2022. 11. 25.
- 5) 北爪幸子. C-MAT 出動. 関口病院, 渋川, 2022. 12. 13.

8. 学生講義

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 椎原 隆. 群馬大学医学部医学科 4 年生「臨床医学 4」神経・精神系疾患①発作性神経疾患, 重症心身障害者 (児), 群馬, 2022. 8. 30.
- 2) 椎原 隆. 群馬大学医学部医学科 4 年生「臨床医学 4」神経・精神系疾患③神経筋疾患と神経免疫疾患, 群馬, 2022. 9. 6.
- 3) 森田孝次. 群馬大学チームワークトレーニング, 群馬, 小児医療センター, 2022. 6. 10.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 健康障害と回復過程各論Ⅶ. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 4. 6, 13, 20, 27, 5. 13, 20, 27, 6. 7, 10, 17.
- 2) 丸山憲一. 新生児学, 周産期ハイリスク論Ⅱ. 高崎健康福祉大学大学院, 高崎, 2022. 4. 20, 27, 5. 11, 18, 25, 6. 1, 8, 15, 22, 29, 7. 6, 13, 20, 27, 8. 3, 11. 9, 16, 30, 12. 7.
- 3) 丸山憲一. 小児・新生児. 群馬県消防学校, 前橋, 2022. 12. 19.

<アレルギー・リウマチ科／感染症科>

- 1) 野村 滋. 小児の救急. 群馬県消防学校, 前橋, 2022. 11.

◆歯科

- 1) 木下 樹. 老年看護学各論Ⅰ. 渋川看護専門学校看護学生講義, 渋川看護専門学校, 2022. 6. 2, 6. 9.
- 2) 木下 樹. 人体の構造と機能Ⅳ. 渋川看護専門学校看護学生講義, 渋川看護専門学校, 2022. 6. 23, 6. 30.
- 3) 木下 樹. 健康障害と回復過程各論Ⅱ. 渋川看護専門学校看護学生講義・実習, 渋川看護専門学校, 2022. 10. 11, 10. 18.
- 4) 木下 樹. 障害児, 有病児の歯科保健. 東京工科大学看護学生実習講義, 東京工科大学蒲田キャンパス, 2022. 11. 25.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子. 発達障害系理学療法. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2022. 5. 21, 27, 6. 17.
- 2) 六本木温子. 発達過程作業療法治療学. 群馬医療福祉大学, 前橋, 2022. 6. 16, 30.
- 3) 熊丸めぐみ. 呼吸・循環系理学療法学. 国立大学法人秋田大学, Web 開催, 2022. 11. 7.
- 4) 熊丸めぐみ. 重度発達障害理学療法学. 国立大学法人秋田大学, Web 開催, 2022. 11. 7.

◆臨床工学課

- 1) 深町直之, 下田隼人. 体外循環手術に伴う技術指導. 非常勤講師. 麻布大学 獣医学部, 神奈川, 2022. 4. 6, 2022. 4. 20, 2022. 5. 18, 2022. 6. 29, 2022. 7. 6, 2022. 7. 27, 2022. 8. 31, 2022. 9. 28, 2022. 11. 30, 2022. 12. 7, 2023. 2. 15, 2023. 3. 1, 2023. 3. 8.
- 2) 深町直之. 生体機能代行装置学Ⅰ「人工心肺システムの構成」. 東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科, 東京, 2022. 4. 8~6. 10, 毎週金曜日.
- 3) 深町直之. 生体機能代行装置学Ⅱ「体外循環の実際と安全対策」. 東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科, 東京, 2022. 6. 17~7. 29, 毎週金曜日.
- 4) 深町直之. 「循環代行技術学Ⅱ: PCPS, IABP」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2022. 7. 9.
- 5) 深町直之. 「生体機能代行装置実習Ⅰ」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2022. 8. 6, 2022. 8. 13.
- 6) 深町直之. 「生体機能代行装置実習」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2022. 9. 2, 2022. 9. 16.

◆看護部

- 1) 千明理恵. 母子と家族の心理社会学. パース大学, 渋川, 2022. 4. 25.
- 2) 清水奈保. 小児看護の魅力. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 5. 16.
- 3) 本間美樹恵. 小児看護学方法「子どもにおける疾病の経過と看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2022. 5. 31.
- 4) 後藤真紀. 小児看護学方法「検査・処置を受ける子どもの看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2022. 5. 24, 6. 14, 6. 21.
- 5) 星山友絵. 小児看護学方法「子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2022. 5. 31.
- 6) 都丸八重子. 小児看護学概論, 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 5. 30, 6. 6.
- 7) 金子友香. 小児看護学方法子どものアセスメント「系統看護学講座 小児看護学概論小児臨床看護総論」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2022. 6. 7.
- 8) 殿木裕美. 小児看護学方法「病気・障害を持つ子どもと家族の看護」, 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2022. 6. 14.
- 9) 富澤はるみ. 小児看護学方法「障害のある子どもと家族の看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2022. 6. 21.
- 10) 村上容子. 小児看護学各論Ⅰ「病気や入院が子どもと家族に与える影響」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 6. 28, 7. 5.
- 11) 小林理恵. 小児看護学方法「新生児の看護」, 「染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護」, 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2022. 6. 28, 7. 5.

- 12) 堤万希子. 小児看護学方法「症状を示す子どもの看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2022. 7. 12.
- 13) 浅野 香. 小児看護各論 I 「慢性期にある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 7. 21.
- 14) 小林志のぶ. 小児看護学各論 I 「先天的な問題を持つ子ども・障害のある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 7. 15, 7. 22.
- 15) 和田千穂. 「ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援」. 高崎市医師会看護専門学校, 高崎, 2022. 8. 31.
- 16) 齊藤織恵. 「ハイリスク 新生児のケア」. 高崎医師会看護専門学校, 高崎, 2022. 9. 2.
- 17) 和田千穂. 「ハイリスク・異常分娩のアセスメントと支援」. 高崎市医師会看護専門学校, 高崎, 2022. 9. 6.
- 18) 北爪幸子. 小児看護学各論「様々な状況にある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 9. 14, 20.
- 19) 石関梨華. 「終末期の子どもと家族の看護」, 「小児がんの子どもとその家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 9. 22.
- 20) 宮川祐子. 小児看護学各論「急性期にある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 9. 28, 10. 5.
- 21) 石関梨華. 「苦痛や疼痛のある子どもの看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 9. 29.
- 22) 清水奈保. 2021 年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル「組織管理論 I ・組織マネジメント概要」. 群馬県看護協会, 2022. 9. 29.
- 23) 齋藤織恵. 小児看護学各論 I 「未熟児の特徴とハイリスク新生児の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 10. 31, 11. 7.
- 24) 石坂泰子. 小児看護学各論「手術を受ける子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 11. 2.
- 25) 福田 円. 小児看護学各論 II 「検査や処置を受ける子どもと家族への看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 11. 25.
- 26) 木島久仁子. 小児看護学各論 II 「小児看護技術:, 救急救命処置」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 11. 29, 12. 6.
- 27) 狩野美紀. 病棟保育士の活動と役割. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2022. 12. 2.
- 28) 福田 円. 小児看護学各論 II 「検査や処置に必要な看護技術」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2022. 12. 2, 12. 9.

9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス

月曜日	8:00~8:30	PICU カンファレンス
	12:00~	総合診療科カンファレンス
	16:45~	産科病棟カンファレンス
	17:00~17:30	PICU カンファレンス
	17:00~	内科系合同カンファレンス
	17:00~	新生児科カンファレンス
	17:00~	小児外科合同カンファレンス
	17:00~	第一病棟カンファレンス

	17:30～	血液腫瘍科カンファレンス
	18:00～	血液腫瘍科抄読会
	18:00～19:00	循環器カンファレンス
	18:00～	第一病棟・新生児科カンファレンス(適時)
火曜日	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	13:30～	産科・新生児科合同カンファレンス
		産科・新生児科合同カンファレンス終了後～ 産科・新生児科抄読会
	15:00～16:00	麻酔科抄読会
	16:30～17:00	心臓カテーテルカンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
水曜日	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	16:00～16:30	出生前合同カンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
木曜日	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	10:30～12:00	全科症例検討会・総回診
	12:00～	総合診療科カンファレンス
	13:00～15:00	外科病棟症例カンファレンス
	14:00～16:00	群大小児科教授回診(第3木曜)
	16:30～	出生前診断カンファレンス(適時)
	16:45～	産科病棟カンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
金曜日	7:45～8:30	循環器科・心臓血管外科合同カンファレンス
	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	9:00～9:30	抄読会
	12:30～	アレルギー・リウマチ科/感染症科勉強会
	16:00～17:00	心臓外科症例カンファレンス
	17:00～	産科・新生児科合同カンファレンス
	17:00～17:30	第三病棟会
	17:00～17:30	PICU カンファレンス

月一回 神経内科・遺伝科症例検討会

10. 小児医療センター講話会

1) 実施なし

11. クルズス(臨床講義)

1) 実施なし

12. CPC

1) 第111回 2022.6.1

No308 循環器科: 新井

1 カ月男 (臨床診断: 左心低形成症候群, 心室中隔欠損症, 動脈管閉存症)

No309 循環器科: 下山

5 カ月女 (臨床診断: 心肺停止, 肺出血)

2) 第 112 回 2022. 11. 2

No310 新生児科: 宮川

1 日男 (臨床診断: 胎児水腫)

3) 第 113 回 2023. 3. 29

No311 循環器科: 浅見

1 歳男 (臨床診断: 無脾症候群, 機能的単心室症, 完全房室中隔欠損症)

13. その他

(1) 研究会・セミナー等

◆小児内科

<新生児科>

- 1) 令和 4 年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 1 回), 2022. 9. 24.
- 2) 令和 4 年度群馬県新生児蘇生法研修会 A コース (第 2 回), 2022. 9. 24.
- 3) 第 4 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法 (NCPR) スキルアップ講習会 (S コース), 2022. 11. 1.
- 4) 第 21 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法講習会 (NCPR) (B コース), 2022. 11. 18.
- 5) 令和 4 年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 2 回), 2022. 12. 10.
- 6) 令和 4 年度群馬県消防学校救急科新生児蘇生法実習 (第 1 班), 2022. 12. 19.
- 7) 令和 4 年度群馬県消防学校救急科新生児蘇生法実習 (第 2 班), 2022. 12. 20.
- 8) 令和 4 年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 3 回), 2023. 1. 28.
- 9) 令和 4 年度群馬県新生児蘇生法研修会 A コース (第 3 回), 2023. 1. 28.

14. 公的資金による研究

1 院内研究費による研究

(1) 自主研究事業

■推奨テーマ

No.	研究テーマ	氏名
1	遺伝子解析技術の円滑な臨床応用に向けたシステム構築	山口 有
		椎原 隆
		道和 百合
		森田 孝次

■一般テーマ

No.	研究テーマ	氏名
1	ダウン症候群児の愛着形成促進について	道和 百合
		浅野 香
		吉野 日茄乃
2	小児急性骨髄性白血病の発症・再発に関わる因子の解明	鏑木 多映子
3	1. 小児循環器領域の移行期支援プログラムの確立 2. フォンタン術後患者および患者家族のニーズ共有	中島 公子
		池田 健太郎
		宮川 裕子
		浅野 香
		佐川 有子
		中島 徹
		曾根 ちひろ
		茂木 歩美
		木島 久仁子
熊丸 めぐみ		
4	群馬版リトルベビーハンドブック発行に向けての内用の検討	丸山 憲一
5	安静に過ごせる玩具の検討とプレイルームの環境整備	矢島 美季
6	使いやすい沐浴室	本田 みさ子
		松村 香織
7	腹壁異常術後の臍再建症例の検討	佐々木 淑恵
		浜島 昭人
		齊藤 景
8	患者家族指導をデジタル化し、指導の充実、業務効率をあげる。	高橋 洋子
		登坂 結衣
9	障害者における永久歯列交換期の不正咬合予防策の検討	木下 樹
10	帝王切開術における術中低血圧の予測因子として、パルスオキシメーター波形の有用性の検討	山崎 聡子
11	水晶体用線量計 (DOSIRIS) を用いた眼の水晶体被ばく線量測定	清水 宏史

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
12	麻酔経験年数が挿管チューブの選択・手技に及ぼす影響	廣 木 茜
13	ウェアラブルカメラでの手術記録の検証	西 明
14	TAM(一過性骨髄増殖症)の発症・進展に関わる因子の解明	河 崎 裕 英
15	小児医療センター看護部の看護研究支援体制の充実	金 子 友 香
16	心筋保護注入用カニューレの圧力損失に関する検討	下 田 隼 人
17	しわを防止し、よりよい標本を作製するためのPH値の調査	高 塚 堅 至
18	医療器機を安全に使用するための教育資料動画制作	高 橋 祐 樹
19	小児における歯髄覆髄剤についての検討	大 嶋 瑛
20	小児在宅歯科医療の実態調査	楠 幸 代
		瀬 下 愛 子
21	入院中のあそびの役割について～おままごとあそびを通して～	岡 田 睦 美
		後 藤 麗 美
22	凝固検体の白血球数への影響	酒 井 智 子
23	グッズを用いたプレパレーションの検討	狩 野 美 紀
24	iPadを活用したスタッフ教育の推進	諏 佐 和 也
25	言語発達遅滞児への語彙概念の拡大に対する言語聴覚療法の検討	船 井 南 那
		松 下 郁 江
		小野寺 奈 央
26	言語発達遅滞児の援助の依頼を非言語表出から言語表出に促すリハビリテーションの検討	小野寺 奈 央
		松 下 郁 江
		船 井 南 那
27	備蓄食品の使用方法の周知と炊き出し訓練	河 野 美 咲
		森 田 孝 次
		亀 井 和 宏
		高 山 広 志
		船 山 晋
28	調乳に関する作業の見直し・効率化を図る	島 田 純 子
		河 野 美 咲
		砂 川 恵 美
29	栄養調理課の防災対策	瀬 間 裕 子
		島 田 純 子
		萩 原 勝 代
		坂 本 佐 知 代
		河 野 美 咲
		砂 川 恵 美
30	人工心肺確率前後の体幹の酸素供給量の変化について	坂 本 崇
31	側開胸アプローチによるmBTシャント術中に於ける肺動脈血流量及び肺静脈血流量評価	松 本 直 樹

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
32	院内呼吸サポートチームの導入の可能性の検討	下 山 伸 哉
		木 島 久仁子
		富 樫 哲 男
33	生化学自動分析装置 JBA ZS-050 の微量モード使用に向けた試み	関 口 彩 実
		田 原 貴 子
		星 野 知栄子
34	直接ビリルビン試薬の検討	田 原 貴 子
35	Microsoft 365 の活用及び PC 作業環境の改善による業務効率化	林 利 幸

2 院外研究費による研究

- 1) 林 泰秀. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構. 革新的がん医療実用化研究事業. 「一過性骨髄異常増殖症 (TAM) に対する標準化学療法確立を目指した第 2 相臨床試験」の開発. 研究分担者: 林 泰秀, 研究代表者: 村松秀城.
- 2) 鍋木多映子. (公財) 川野小児医学奨学財団. 第 33 回 (令和 4 年度) 若手研究助成金. 7 番と 5 番 染色体欠失、部分欠失を有する小児急性骨髄性白血病の病態解明と重要遺伝子の同定. 研究代表者: 鍋木多映子.
- 3) 林 泰秀, 外松 学, 河崎裕英. 日本学術振興会科学研究費助成事業. 基盤研究 (C) (一般). 小児急性骨髄性白血病の網羅的メチル化解析を中心とした統合的解析とその臨床応用. 研究代表者: 林 泰秀, 研究分担者: 外松 学, 河崎裕英.
- 4) 林 泰秀. 日本学術振興会科学研究費助成事業. 基盤研究 (C) (一般). 小児非ダウン症急性巨核芽球性白血病の新規分子標的探索. 研究分担者: 林 泰秀, 研究代表者: 嶋田 明.
- 5) 林 泰秀. 日本学術振興会科学研究費助成事業. 基盤研究 (C) (一般). マイクロファイバー細胞分離を用いた消化管アレルギーとその関連疾患の病態解明. 研究分担者: 林 泰秀, 研究代表者: 山田佳之.
- 6) 渡辺栄一郎. 日本学術振興会科学研究費助成事業. 基盤研究 (C) (一般). 大腸癌の前癌状態と考えられる急性虫垂炎の予防法開発のための基礎的研究. 研究分担者: 渡辺栄一郎, 研究代表者: 江村隆起.

統計編

1 管理業務

(1) 会 計

①経営分析

区 分		単位	令和4年度	3年度		
病 床	利 用 率	%	63.3	73.4		
患 者 数	1日平均患者数	入 院	人	95.0	110.2	
		外 来	人	178.2	183.9	
	外 来 入 院 比 率		%	124.9	110.7	
	職員1人1日 当り患者数	医 師	入 院	人	2.2	2.4
			外 来	人	4.1	4.0
		看 護 師	入 院	人	0.4	0.5
外 来			人	0.8	0.9	
収 入	患 者 1 人 当り診療収入	入 院 診 療 収 入		円	88,802	84,236
		う ち	薬 品 収 入	円	4,475	4,769
			検 査 収 入	円	1,275	1,196
			放 射 線 収 入	円	141	116
		外 来 診 療 収 入		円	18,635	18,326
		う ち	薬 品 収 入	円	5,689	4,780
			検 査 収 入	円	3,274	3,351
			放 射 線 収 入	円	893	889
費 用	患 者 1 人 当り材料費	材 料 費		円	13,618	12,982
		う ち	薬 品 費	円	8,221	7,494
			診 療 材 料 費	円	5,070	5,185
診 療 収 入 に 対 する 割 合	投 薬 ・ 注 射 収 入		%	10.3	9.6	
	検 査 収 入		%	4.8	4.7	
	放 射 線 収 入		%	1.1	1.1	
対 医 業 収 益 比	医 療 材 料 費	薬 品 費		%	15.8	14.4
		そ の 他 の 医 療 材 料 費		%	15.9	14.4
		計		%	25.6	24.4
	職 員 給 与 費		%	88.9	80.4	
検 査 の 状 況	患 者 100 人 当 り	検 査 件 数		件	484	522
		放 射 線 件 数		件	40	39
	検 査 技 師 1 人 当 り	検 査 件 数		件	31,456	49,085
		検 査 収 入		千円	15,503	21,910
	放 射 線 技 師 1 人 当 り	放 射 線 件 数		件	5,134	6,564
		放 射 線 収 入		千円	7,257	8,845

2 年度	元年度	平成 30 年度	29 年度	28 年度	27 年度
72.0	71.9	76.2	70.9	71.4	73.5
108.0	107.8	114.2	106.3	107.1	110.3
181.3	198.5	197.7	189.9	190.7	193.9
111.8	120.7	115.7	119.4	118.5	116.7
2.3	2.3	2.6	2.6	2.4	2.5
3.9	4.3	4.5	4.6	4.3	4.3
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
0.8	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8
84,094	86,660	85,762	84,584	81,467	80,675
4,319	4,895	6,197	3,366	1,861	1,917
848	950	729	736	945	762
151	151	130	141	157	108
18,792	17,285	16,019	16,557	16,854	16,636
4,582	4,587	3,746	4,648	4,781	5,140
2,955	2,748	2,702	2,706	2,574	2,407
931	932	911	973	952	830
13,276	12,984	12,538	12,815	11,940	11,885
7,750	7,680	7,391	7,365	6,683	6,528
5,200	5,004	4,855	5,113	4,939	5,040
9.0	9.7	10.1	8.5	7.4	7.9
3.9	4.0	3.7	3.8	3.9	3.6
1.1	1.2	1.1	1.2	1.3	1.1
15.0	15.3	14.8	15.0	13.9	13.6
10.1	10.0	9.8	10.5	10.4	11.2
25.2	25.3	24.7	25.5	24.3	24.8
84.6	81.5	77.2	81.4	85.1	81.0
506	527	522	552	548	509
40	40	40	42	39	47
35,193	41,763	46,990	42,742	42,528	37,115
13,636	15,307	16,071	13,992	14,204	12,013
5,604	5,998	5,998	5,896	5,614	6,793
7,824	8,393	8,226	8,428	8,381	7,244

②収益的收入及び支出

科 目	年 度	令和4年度		3年 度		2年 度	
		決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
病 院 事 業 収 益		6,712,871	100.0	6,669,940	100.0	6,381,194	100.0
医 業 収 益		4,059,375	60.5	4,401,491	66.0	4,308,666	67.5
入 院 収 益		3,079,389	45.9	3,386,956	50.8	3,315,995	52.0
外 来 収 益		807,022	12.0	815,383	12.2	828,131	13.0
そ の 他 医 業 収 益		172,964	2.6	199,152	3.0	164,540	2.6
医 業 外 収 益		2,653,496	39.5	2,268,449	34.0	2,015,516	31.6
受 取 利 息 配 当 金		24	0.0	23	0.0	47	0.0
補 助 金		461,858	6.9	192,073	2.9	116,443	1.8
負 担 金 ・ 交 付 金		1,687,068	25.1	1,605,499	24.1	1,484,109	23.3
長 期 前 受 金 戻 入		292,853	4.4	290,467	4.4	290,441	4.6
そ の 他 医 業 外 収 益		211,693	3.2	180,387	2.7	124,476	2.0
特 別 利 益		0	0.0	0	0.0	57,011	0.9
病 院 事 業 費 用		6,706,365	100.0	6,546,815	100.0	6,591,783	100.0
医 業 費 用		6,544,947	97.6	6,434,519	98.3	6,443,706	97.8
給 与 費		3,610,442	53.8	3,538,301	54.0	3,643,097	55.3
材 料 費		1,061,989	15.8	1,099,585	16.8	1,108,538	16.8
経 費		1,309,556	19.5	1,238,977	18.9	1,130,995	17.2
減 価 償 却 費		526,406	7.8	520,697	8.0	534,469	8.1
資 産 減 耗 費		4,953	0.1	11,588	0.2	2,008	0.0
研 究 研 修 費		31,600	0.5	25,371	0.4	24,598	0.4
医 業 外 費 用		116,701	1.7	112,296	1.7	90,752	1.4
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費		5,928	0.1	6,023	0.1	6,844	0.1
母 子 保 健 指 導 費		242	0.0	360	0.0	160	0.0
雑 損 失		110,531	1.6	105,913	1.6	83,748	1.3
特 別 損 失		44,717	0.7	0	0.0	57,325	0.9
収 支 差		6,506		123,125		▲ 210,589	

(単位：千円・%)

元 年 度		平成 30 年度		29 年 度		28 年 度		27 年 度	
決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
6,319,790	100.0	6,402,746	100.0	5,961,445	100.0	5,839,593	100.0	5,894,218	100.0
4,383,884	69.4	4,482,505	70.0	4,182,516	70.2	4,102,408	70.3	4,192,060	71.1
3,420,381	54.1	3,576,199	55.9	3,281,682	55.0	3,185,180	54.5	3,256,138	55.2
823,283	13.0	772,753	12.1	767,134	12.9	781,018	13.4	783,789	13.3
140,220	2.2	133,553	2.1	133,700	2.2	136,210	2.3	152,133	2.6
1,920,837	30.4	1,920,241	30.0	1,778,930	29.8	1,736,409	29.7	1,702,141	28.9
108	0.0	99	0.0	100	0.0	171	0.0	541	0.0
18,508	0.3	19,650	0.3	19,486	0.3	19,751	0.3	19,597	0.3
1,471,043	23.3	1,460,339	22.8	1,331,884	22.3	1,309,745	22.4	1,327,036	22.5
275,018	4.4	251,611	3.9	256,644	4.3	249,955	4.3	237,182	4.0
156,160	2.5	188,541	2.9	170,815	2.9	156,786	2.7	117,785	2.0
15,069	0.2	0	0.0	0	0.0	777	0.0	17	0.0
6,509,005	100.0	6,342,390	100.0	6,132,370	100.0	6,103,576	100.0	5,988,480	100.0
6,384,197	98.1	6,208,675	97.9	6,024,962	98.2	5,980,166	98.0	5,847,341	97.6
3,573,702	54.9	3,462,612	54.6	3,404,643	55.5	3,491,030	57.2	3,394,094	56.7
1,130,922	17.4	1,127,676	17.8	1,090,952	17.8	1,020,160	16.7	1,039,635	17.4
1,138,901	17.5	1,125,771	17.7	1,031,407	16.8	982,641	16.1	955,823	16.0
490,824	7.5	445,725	7.0	453,151	7.4	416,370	6.8	405,399	6.8
12,413	0.2	11,320	0.2	5,113	0.1	24,189	0.4	9,531	0.2
37,437	0.6	35,572	0.6	39,695	0.6	45,775	0.7	42,859	0.7
108,471	1.7	103,383	1.6	107,408	1.8	92,321	1.5	110,000	1.8
10,022	0.2	13,849	0.2	15,155	0.2	15,945	0.3	17,154	0.3
403	0.0	193	0.0	201	0.0	116	0.0	363	0.0
98,045	1.5	89,341	1.4	92,053	1.5	76,260	1.2	92,482	1.5
16,337	0.3	30,332	0.5	0	0.0	31,089	0.5	31,139	0.5
▲ 189,215		60,356		▲ 170,925		▲ 263,984		▲ 94,261	

③月別医業収益内訳

区分		月別						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入院 収益	入院料	109,715,159	185,145,429	182,747,581	161,805,891	186,934,478	214,270,667	185,202,753
	給食料	2,880,995	3,992,919	4,396,837	4,076,923	4,066,319	4,072,012	3,575,117
	投薬	1,187,800	980,624	729,704	923,518	1,232,646	3,734,337	896,562
	注射	7,880,460	14,570,100	9,246,686	12,370,618	9,751,208	22,157,743	7,796,446
	処置及び手術	39,911,820	52,233,560	59,044,946	25,176,850	47,450,479	52,456,121	29,893,440
	検査	3,489,900	3,828,300	4,251,531	2,767,669	5,482,680	4,310,818	2,288,126
	X線	270,370	499,340	381,146	257,692	660,919	589,124	301,419
	その他	6,256,950	6,861,300	6,224,671	6,452,730	7,619,784	6,984,390	5,137,501
	計	171,593,454	268,111,572	267,023,102	213,831,891	263,198,513	308,575,212	235,091,364
外来 収益	初診料	1,302,430	1,257,290	1,491,350	1,595,999	1,708,305	1,539,430	1,360,558
	再診料	3,806,470	3,625,590	3,957,608	3,907,870	4,424,923	3,815,130	4,257,007
	投薬	56,490	90,910	34,470	76,470	96,436	47,366	39,125
	注射	11,512,280	7,762,590	7,601,217	25,669,030	21,574,084	24,648,669	26,792,561
	処置及び手術	3,609,210	4,322,660	3,718,095	2,974,499	4,077,151	3,189,264	4,204,625
	検査	10,162,580	10,324,650	12,004,948	13,227,814	14,461,726	12,497,666	11,162,873
	X線	2,866,660	2,439,880	3,138,882	3,505,453	4,229,944	3,005,316	3,017,365
	その他	20,893,337	25,632,906	23,950,135	21,844,560	20,333,164	23,579,671	18,056,909
	計	54,209,457	55,456,476	55,896,705	72,801,695	70,905,733	72,322,512	68,891,023
その他	9,772,351	12,373,856	13,336,876	12,323,120	15,758,613	13,023,703	9,599,154	
合計	235,575,262	335,941,904	336,256,683	298,956,706	349,862,859	393,921,427	313,581,541	

(単位：円・%)

11月	12月	1月	2月	3月	令和4年度計	3年度計	対前年比
190,535,371	161,038,290	169,643,837	243,953,952	204,178,683	2,195,172,091	2,341,456,113	93.8
4,933,108	4,188,593	4,090,834	4,413,781	4,289,413	48,976,851	54,379,878	90.1
971,517	1,285,650	858,940	1,061,007	733,422	14,595,727	15,890,033	91.9
7,349,664	7,208,706	17,234,798	14,778,071	10,232,076	140,576,576	175,859,089	79.9
43,652,343	56,520,012	56,716,627	44,320,141	47,241,183	554,617,522	658,481,812	84.2
4,002,407	3,163,844	3,895,541	2,875,089	3,871,795	44,227,700	48,083,629	92.0
375,003	330,475	325,286	372,341	517,999	4,881,114	4,681,365	104.3
6,457,491	4,486,509	6,049,542	6,207,043	7,603,225	76,341,136	88,123,815	86.6
258,276,904	238,222,079	258,815,405	317,981,425	278,667,796	3,079,388,717	3,386,955,734	90.9
1,511,971	1,528,310	1,310,023	1,297,733	1,600,121	17,503,520	18,190,738	96.2
3,746,430	3,818,954	3,789,362	3,562,010	4,413,391	47,124,745	65,716,359	71.7
55,241	70,972	47,820	47,737	41,823	704,860	3,114,914	22.6
22,721,452	30,055,537	28,151,728	29,486,642	9,694,296	245,670,086	209,576,331	117.2
3,679,074	4,758,820	3,739,671	5,607,144	5,067,914	48,948,127	47,212,845	103.7
11,466,003	11,845,232	10,579,825	10,473,036	13,599,778	141,806,131	149,103,502	95.1
3,128,447	3,260,140	3,396,909	2,845,420	3,826,622	38,661,038	39,541,291	97.8
22,968,062	23,031,932	24,345,773	16,442,248	25,525,523	266,604,220	282,927,448	94.2
69,276,680	78,369,897	75,361,111	69,761,970	63,769,468	807,022,727	815,383,428	99.0
11,104,374	9,954,333	12,311,767	10,442,031	42,963,432	172,963,610	199,152,338	86.8
338,657,958	326,546,309	346,488,283	398,185,426	385,400,696	4,059,375,054	4,401,491,500	92.2

2 診療業務

(1) 総括表

区 分		令和4年度	3年度	2年度		
外 来	診療日数	A	243日	242日	243日	
	新患者数	B	3,319人	3,286人	2,909人	
	延患者数	C	43,307人	44,493人	44,068人	
	平均通院日数	D	C/B	13.0日	13.5日	15.1日
	日平均新患者数	E	B/A	13.7人	13.6人	12.0人
	日平均患者数	F	C/A	178.2人	183.9人	181.3人
入 院	診療日数	G	365日	365日	365日	
	病床数	H	150床	150床	150床	
	新入院患者数	I	3,200人	3,214人	3,096人	
	退院患者数	J	3,193人	3,225人	3,088人	
	延入院患者数	K	34,677人	40,208人	39,432人	
	病床利用率	L	$K/G \times 100$	63.3%	73.4%	72.0%
	病床回転率	M	$\{(I+J) \times 1/2\} / H / L$	33.6回	29.2回	28.6回
	平均在院日数	N	$K / \{(I+J) / 2\}$	10.8日	12.5日	12.8日
	外来入院比率	O	$C / K \times 100$	124.9%	110.7%	111.8%
	入院率	P	$I / B \times 100$	96.4%	97.8%	106.4%
	日平均新入院数	Q	I/G	8.8人	8.8人	8.5人
	日平均患者数	R	K/G	95.0人	110.2人	108.0人

元 年 度	平成 30 年度	29 年 度	28 年 度	27 年 度	26 年 度
240 日	244 日	244 日	243 日	243 日	244 日
3,301 人	3,284 人	3,007 人	3,141 人	3,333 人	3,143 人
47,630 人	48,239 人	46,334 人	46,340 人	47,114 人	46,654 人
14.4 日	14.7 日	15.4 日	14.8 日	14.1 日	14.8 日
13.8 人	13.5 人	12.3 人	12.9 人	13.7 人	12.9 人
198.5 人	197.7 人	189.9 人	190.7 人	193.9 人	191.2 人
366 日	365 日	365 日	365 日	366 日	365 日
150 床	150 床	150 床	150 床	150 床	150 床
3,294 人	3,311 人	3,021 人	3,026 人	3,084 人	2,954 人
3,307 人	3,297 人	3,033 人	3,025 人	3,075 人	2,948 人
39,469 人	41,699 人	38,798 人	39,098 人	40,361 人	37,895 人
71.9%	76.2%	70.9%	71.4%	73.5%	69.2%
30.6 回	28.9 回	28.5 回	28.2 回	27.9 回	28.4 回
12.0 日	12.6 日	12.8 日	12.9 日	13.1 日	12.8 日
120.7%	115.7%	119.4%	118.5%	116.7%	123.1%
99.8%	100.8%	100.5%	96.3%	92.5%	94.0%
9.0 人	9.1 人	8.3 人	8.3 人	8.4 人	8.1 人
107.8 人	114.2 人	106.3 人	107.1 人	110.3 人	103.8 人

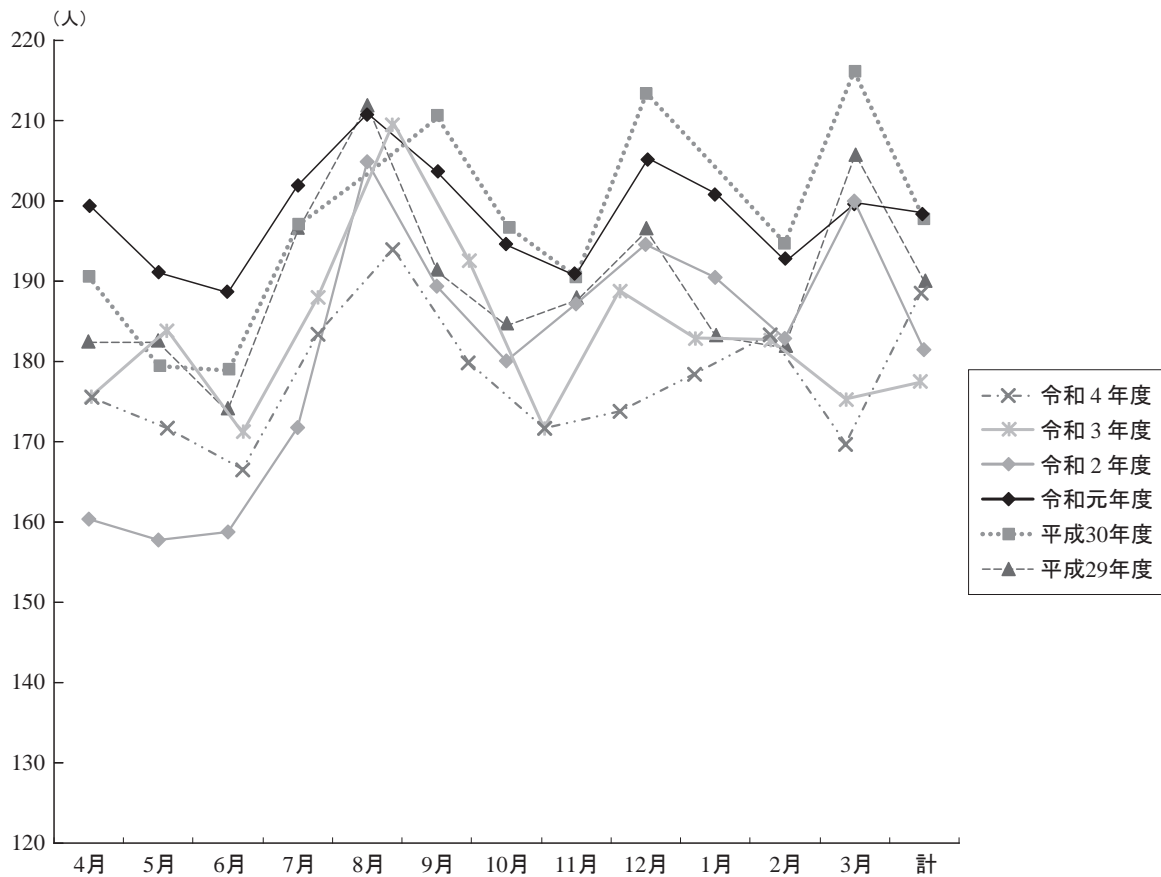
(2) 月別・科別外来患者受診の状況(人)

区分	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	一般内科	初診	60	66	41	101	129	84
	再診	173	139	132	216	254	196	173
	延数	233	205	173	317	383	280	217
内分泌代謝科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	23	29	30	38	22	39	30
	延数	23	29	30	38	22	39	30
腎臓内科	初診	1	0	3	3	1	2	1
	再診	30	32	38	42	67	41	33
	延数	31	32	41	45	68	43	34
アレルギー 感染免疫科	初診	4	12	3	1	2	4	4
	再診	201	166	221	180	179	162	193
	延数	205	178	224	181	181	166	197
血液腫瘍科	初診	3	0	2	2	0	1	0
	再診	72	59	71	81	107	57	49
	延数	75	59	73	83	107	58	49
リハビリ	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	388	372	403	376	426	367	344
	延数	388	372	403	376	426	367	344
小児精神科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	32	32	43	38	33	40	37
	延数	32	32	43	38	33	40	37
遺伝科	初診	3	1	0	2	1	1	1
	再診	72	66	80	91	76	85	47
	延数	75	67	80	93	77	86	48
眼科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	0	3	5	7	9	7	5
	延数	0	3	5	7	9	7	5
耳鼻咽喉科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	22	26	22	11	25	19	22
	延数	22	26	22	11	25	19	22
循環器科	初診	9	18	29	22	20	27	38
	再診	345	308	360	396	535	431	418
	延数	354	326	389	418	555	458	456
神経内科	初診	4	8	10	5	3	9	10
	再診	244	240	268	254	302	234	251
	延数	248	248	278	259	305	243	261
一般外科	初診	30	27	32	26	29	29	18
	再診	264	258	285	292	362	285	285
	延数	294	285	317	318	391	314	303
形成外科	初診	38	51	51	29	45	44	48
	再診	347	332	345	293	392	319	344
	延数	385	383	396	322	437	363	392
整形外科	初診	11	14	13	13	18	16	9
	再診	229	191	178	221	302	180	180
	延数	240	205	191	234	320	196	189
脳神経外科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	3	1	5	3	0	1	0
	延数	3	1	5	3	0	1	0
新生児科	初診	16	27	26	25	27	22	21
	再診	265	217	264	218	280	232	253
	延数	281	244	290	243	307	254	274
産科	初診	36	34	36	45	45	35	40
	再診	251	235	243	260	245	267	251
	延数	287	269	279	305	290	302	291
歯科	初診	25	16	34	22	29	24	23
	再診	309	282	392	356	302	338	261
	延数	334	298	426	378	331	362	284
合計	初診	240	274	280	296	349	298	257
	再診	3,270	2,988	3,385	3,373	3,918	3,300	3,176
	延数	3,510	3,262	3,665	3,669	4,267	3,598	3,433
診療実日数		20	19	22	20	22	20	20
日平均患者数		175.5	171.7	166.6	183.5	194.0	179.9	171.7

(単位：人・%)

11月	12月	1月	2月	3月	令和4年度計	3年度計	対前年比
70	76	67	34	41	813	608	133.7
257	215	200	173	183	2,311	2,142	107.9
327	291	267	207	224	3,124	2,750	113.6
0	0	0	0	0	0	0	-
18	24	30	18	46	347	386	89.9
18	24	30	18	46	347	386	89.9
3	1	1	2	1	19	15	126.7
60	42	21	38	44	488	589	82.9
63	43	22	40	45	507	604	83.9
4	2	5	4	4	49	51	96.1
178	166	207	174	245	2,272	2,457	92.5
182	168	212	178	249	2,321	2,508	92.5
3	3	1	1	1	17	27	63.0
55	85	71	60	102	869	879	98.9
58	88	72	61	103	886	906	97.8
0	0	0	0	0	0	0	-
352	390	365	367	426	4,576	4,652	98.4
352	390	365	367	426	4,576	4,652	98.4
0	0	0	0	0	0	0	-
29	10	23	25	26	368	289	127.3
29	10	23	25	26	368	289	127.3
5	0	4	2	2	22	14	157.1
72	69	73	63	114	908	629	144.4
77	69	77	65	116	930	643	144.6
0	0	0	0	0	0	0	-
4	9	5	2	11	67	96	69.8
4	9	5	2	11	67	96	69.8
0	0	0	0	0	0	0	-
25	13	17	24	20	246	262	93.9
25	13	17	24	20	246	262	93.9
42	34	17	19	20	295	318	92.8
346	353	335	313	418	4,558	4,976	91.6
388	387	352	332	438	4,853	5,294	91.7
8	6	6	9	6	84	112	75.0
230	249	257	262	290	3,081	3,480	88.5
238	255	263	271	296	3,165	3,592	88.1
29	37	20	26	29	332	380	87.4
300	327	335	297	387	3,677	3,827	96.1
329	364	355	323	416	4,009	4,207	95.3
41	46	32	51	39	515	513	100.4
304	341	307	326	396	4,046	3,931	102.9
345	387	339	377	435	4,561	4,444	102.6
17	9	13	21	12	166	164	101.2
214	195	224	182	297	2,593	2,706	95.8
231	204	237	203	309	2,759	2,870	96.1
1	0	0	0	0	1	0	-
0	0	0	1	1	15	10	150.0
1	0	0	1	1	16	10	160.0
14	21	14	22	26	261	351	74.4
216	253	226	209	275	2,908	2,953	98.5
230	274	240	231	301	3,169	3,304	95.9
29	31	45	29	45	450	454	99.1
241	243	241	204	266	2,947	2,867	102.8
270	274	286	233	311	3,397	3,321	102.3
25	31	13	21	32	295	279	105.7
283	288	309	247	344	3,711	4,076	91.0
308	319	322	268	376	4,006	4,355	92.0
291	297	238	241	258	3,319	3,286	101.0
3,184	3,272	3,246	2,985	3,891	39,988	41,207	97.0
3,475	3,569	3,484	3,226	4,149	43,307	44,493	97.3
20	20	19	19	22	243	242	100.4
173.8	178.5	183.4	169.8	188.6	178.2	183.9	96.9

◆1日平均外来患者の状況



(単位：人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度	175.5	171.7	166.6	183.5	194.0	179.9	171.7	173.8	178.5	183.4	169.8	188.6	178.2
3年度	175.7	183.9	171.1	188.0	209.7	192.6	171.7	188.8	182.9	182.7	175.3	177.4	183.1
2年度	160.2	157.6	158.6	171.6	204.7	189.2	179.9	187.0	194.4	190.3	182.7	199.8	181.3
元年度	199.5	191.3	188.5	202.0	211.0	203.6	194.7	190.7	205.4	201.0	192.6	199.9	198.5
平成30年度	190.7	179.4	179.0	197.0	203.5	210.4	196.9	190.4	213.5	204.2	194.9	216.3	197.7
29年度	182.3	182.4	173.7	196.3	212.0	191.2	184.4	187.7	196.3	181.7	181.7	205.8	189.6

(3) 月別入退院患者数

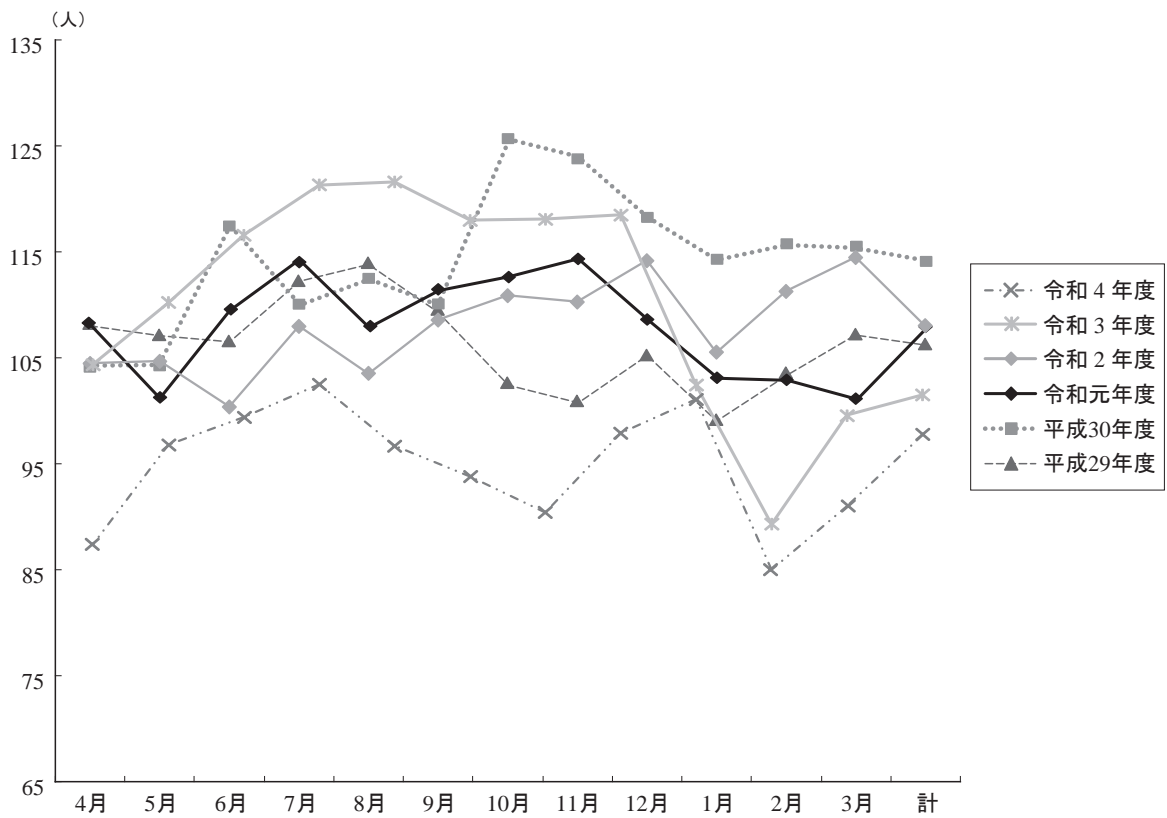
(単位：人・%)

病棟	月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和4 年度計	3年度 計	対前年 比
		第1	入院		(12)	(6)	(6)	(11)	(4)	(8)	(11)	(18)	(9)	(2)	(10)	(97)
	退院	78	74	81	113	124	55	78	97	82	75	62	89	1,008	998	101.0
	月末在院者数	(1)	(1)	(3)	(1)	(2)	(1)	(1)	(4)	(2)	(2)	(1)	(1)	(20)	(26)	
	延患者数	85	80	87	114	132	64	81	99	107	83	58	99	1,089	1,021	106.7
	1日平均	20	17	20	23	27	17	13	14	13	18	19	19			
第2	入院	542	617	496	676	702	566	522	641	630	509	411	573	6,885	7,869	87.5
	退院	18.1	19.9	16.5	21.8	22.6	18.9	16.8	21.4	20.3	16.4	14.7	18.5	18.9	21.6	87.5
	月末在院者数	(11)	(7)	(7)	(9)	(8)	(4)	(4)	(3)	(7)	(9)	(9)	(11)	(89)	(90)	
	延患者数	70	82	83	92	94	84	77	87	87	101	69	102	1,028	1,066	96.4
	退院	(7)	(14)	(7)	(9)	(11)	(7)	(7)	(9)	(13)	(13)	(9)	(11)	(117)	(86)	
	月末在院者数	73	73	78	98	90	83	75	75	90	92	69	97	993	1,079	92.0
	延患者数	16	16	19	16	20	21	16	22	7	13	10	12			
	1日平均	485	505	559	643	484	457	497	515	556	409	491	579	6,180	7,495	82.5
第3	入院	16.2	16.3	18.6	20.7	15.6	15.2	16.0	17.2	17.9	13.2	17.5	18.7	16.9	20.5	82.5
	退院	(7)	(12)	(9)	(12)	(8)	(11)	(10)	(11)	(16)	(9)	(6)	(12)	(123)	(151)	
	月末在院者数	38	42	43	42	51	50	50	48	58	38	28	60	548	498	110.0
	延患者数	(6)	(15)	(11)	(8)	(10)	(8)	(6)	(9)	(20)	(7)	(5)	(10)	(115)	(119)	
	1日平均	41	34	46	48	50	52	46	53	57	37	34	59	557	531	104.9
P	入院	18	20	23	21	23	23	25	25	10	18	21	18			
I	退院	490	549	608	562	559	537	568	585	637	629	478	602	6,804	7,664	88.8
C	月末在院者数	122	161	158	171	122	153	162	134	181	165	138	145	1,812	2,259	80.2
U	延患者数	4.1	5.2	5.3	5.5	3.9	5.1	5.2	4.5	5.8	5.3	4.9	4.7	5.0	6.2	80.2
	1日平均	(12)	(18)	(14)	(14)	(17)	(12)	(10)	(11)	(18)	(17)	(15)	(16)	(174)	(183)	
新生児・未熟児	入院	2	4	4	6	6	6	8	3	8	7	5	5	64	44	145.5
	退院	(16)	(19)	(15)	(23)	(20)	(14)	(18)	(13)	(24)	(22)	(17)	(22)	(223)	(220)	
	月末在院者数	1		1	1	1	2	2	2	1		3	1	15	7	214.3
	延患者数	6	6	8	7	6	7	7	5	5	7	6	5			
	1日平均	122	161	158	171	122	153	162	134	181	165	138	145	1,812	2,259	80.2
産科	入院	4.1	5.2	5.3	5.5	3.9	5.1	5.2	4.5	5.8	5.3	4.9	4.7	5.0	6.2	80.2
	退院	15	22	19	19	18	20	20	16	17	9	20	19	214	251	85.3
	月末在院者数	18	18	26	13	20	16	22	13	22	10	14	13	205	229	89.5
	延患者数	673	784	800	714	761	797	802	880	848	670	730	885	9,344	10,509	88.9
	1日平均	22.4	25.3	26.7	23.0	24.5	26.6	25.9	29.3	27.4	21.6	26.1	28.5	25.6	28.8	88.9
合計	入院	28	29	32	28	28	31	26	18	34	26	26	32	338	357	94.7
	退院	22	29	33	27	33	31	25	21	33	23	31	26	334	358	93.3
	月末在院者数	8	12	14	13	8	12	16	9	6	6	11	6			
	延患者数	310	384	360	411	371	303	250	183	281	254	301	244	3,652	4,412	82.8
	1日平均	10.3	12.4	12.0	13.3	12.0	10.1	8.1	6.1	9.1	8.2	10.8	7.9	10.0	12.1	82.8
合計	入院	(30)	(49)	(36)	(43)	(44)	(31)	(32)	(36)	(59)	(45)	(32)	(49)	(486)	(474)	
	退院	231	253	262	300	321	246	259	269	286	256	210	307	3,200	3,214	99.6
	月末在院者数	(30)	(49)	(36)	(43)	(44)	(31)	(32)	(36)	(59)	(45)	(32)	(49)	(486)	(474)	
	延患者数	240	234	271	301	326	248	251	263	310	245	209	295	3,193	3,225	99.0
	1日平均	93	103	117	113	114	112	107	104	65	82	89	88			
病床利用率	延患者数	2,622	3,000	2,981	3,177	2,999	2,813	2,801	2,938	3,133	2,636	2,549	3,028	34,677	40,208	86.2
	1日平均	87.4	96.8	99.4	102.5	96.7	93.8	90.4	97.9	101.1	85.0	91.0	97.7	95.0	110.2	86.2

(注) 入院・退院欄の上段は転棟患者数

病床利用率は、運用病床数150床で算出

◆1日平均入院患者の状況



(単位：人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度	87.4	96.8	99.4	102.5	96.7	93.8	90.4	97.9	101.1	85.0	91.0	97.7	95.0
3年度	104.4	110.2	116.6	121.3	121.6	118.0	118.1	118.5	102.4	89.3	99.6	101.5	110.2
2年度	104.5	104.7	100.4	108.0	103.5	108.6	110.9	110.3	114.2	105.5	111.3	114.5	108.0
元年度	108.1	101.1	109.4	114.2	107.8	111.3	112.6	114.3	108.5	103.0	102.8	101.0	107.8
平成30年度	104.2	104.2	117.6	109.9	112.5	109.9	125.5	124.1	118.2	114.2	115.6	115.2	106.3
29年度	108.1	107.1	106.5	112.2	113.9	109.4	102.4	100.8	105.3	99.1	103.3	107.2	107.1

(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数

(単位：人・%)

管内別	月別													令和4年度計	構成比	3年度計	対前年比
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
前橋市	41	68	73	85	76	89	48	68	79	45	52	52	776	23.4	719	107.9	
高崎市	57	47	59	51	68	49	57	53	56	49	53	52	651	19.6	679	95.9	
安中	4	9	4	5	4	2	5	9	4	3	4	2	55	1.7	57	96.5	
渋川	42	48	39	38	43	49	41	55	47	29	36	37	504	15.2	523	96.4	
藤岡	8	3	7	9	13	8	9	3	7	9	3	5	84	2.5	47	178.7	
富岡	7	4	1	2	9	6	5	5	4	5	2	2	52	1.6	34	152.9	
吾妻	10	12	13	11	13	5	11	11	8	6	5	9	114	3.4	100	114.0	
利根沼田	8	12	11	18	24	13	10	16	21	19	12	15	179	5.4	132	135.6	
伊勢崎	23	33	36	28	28	31	24	28	30	28	29	34	352	10.6	385	91.4	
桐生	7	4	6	5	9	8	6	10	4	5	12	10	86	2.6	120	71.7	
太田	7	10	7	20	17	11	12	13	9	17	6	8	137	4.1	148	92.6	
館林	7	2	5	4	12	2	3	4	10	2	2	1	54	1.6	83	65.1	
県外	19	22	19	20	33	25	26	16	18	21	25	31	275	8.3	259	106.2	
令和4年度計	240	274	280	296	349	298	257	291	297	238	241	258	3,319	100.0	3,286	101.0	
3年度計	256	262	304	305	325	277	258	249	261	270	234	285	—	—	3,286	—	

(注) この表は、当センターに初診で登録された患者の集計である。したがって、即入院患者数が含まれたものである。

◆地域別新規登録患者数

区 分	令和4年度	3年度	対前年比
総 計	3,319	3,286	101.0
市 計	2,531	2,527	100.2
町 村 計	513	500	102.6
県 外 計	275	259	106.2
前橋市保健所	776	719	107.9
前 橋 市	776	719	107.9
高崎市保健所	651	679	95.9
高 崎 市	651	679	95.9
安中保健福祉事務所	55	57	96.5
安 中 市	55	57	96.5
渋川保健福祉事務所	504	523	96.4
渋 川 市	299	305	98.0
榛 東 村	55	82	67.1
吉 岡 町	150	136	110.3
藤岡保健福祉事務所	84	47	178.7
藤 岡 市	84	47	178.7
神 流 町			—
上 野 村			—

区 分	令和4年度	3年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	52	34	152.9
富 岡 市	36	25	144.0
下 仁 田 町	1	2	50.0
南 牧 村			—
甘 楽 町	15	7	214.3
吾妻保健福祉事務所	114	100	114.0
中 之 条 町	38	41	92.7
東 吾 妻 町	21	27	77.8
長 野 原 町	12	6	200.0
嬭 恋 村	22	7	314.3
草 津 町	16	13	123.1
高 山 村	5	6	83.3
利根沼田保健福祉事務所	179	132	135.6
沼 田 市	96	75	128.0
片 品 村	10	1	1000.0
川 場 村	7	5	140.0
み な か み 町	45	29	155.2
昭 和 村	21	22	95.5

(単位：人・%)

区 分	令和4年度	3年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所	352	385	91.4
伊勢崎市	299	330	90.6
玉村町	53	55	96.4
桐生保健福祉事務所	86	120	71.7
桐生市	55	67	82.1
みどり市	31	53	58.5
太田保健福祉事務所	137	148	92.6
太田市	137	148	92.6
館林保健福祉事務所	54	83	65.1
館林市	12	22	54.5
板倉町	2	4	50.0
明和町		1	—
千代田町	4	6	66.7
大泉町	30	38	78.9
邑楽町	6	12	50.0

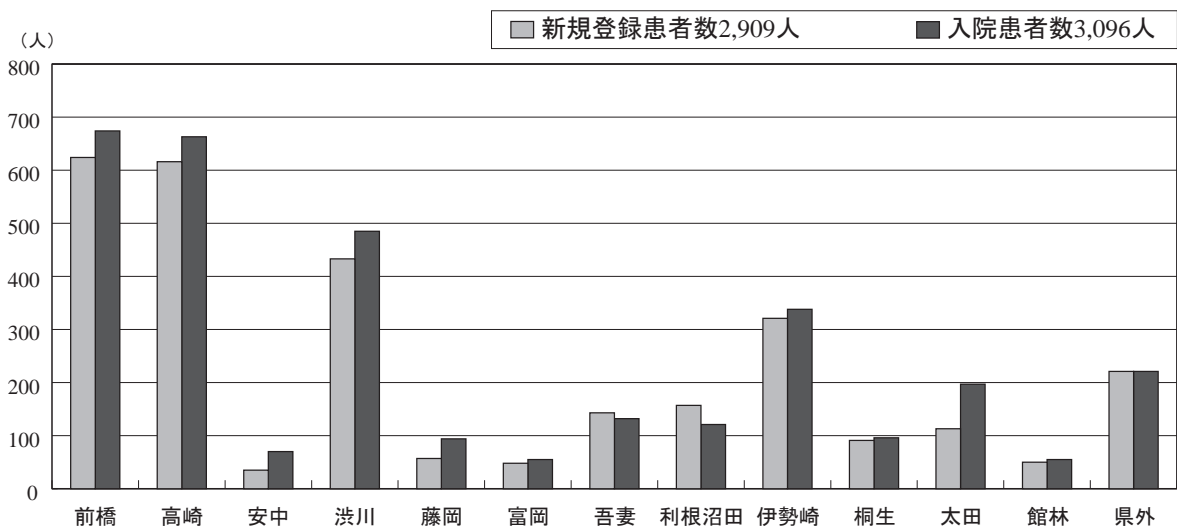
区 分	令和4年度	3年度	対前年比
県外計	275	259	106.2
北海道	2		—
青森県	1		—
岩手県		1	—
宮城県	1	2	50.0
秋田県	2	2	100.0
福島県	1	1	100.0
茨城県	2	2	100.0
栃木県	24	15	160.0
埼玉県	150	138	108.7
千葉県	15	13	115.4
東京都	36	45	80.0
神奈川県	21	24	87.5
新潟県	4	4	100.0
石川県	1		—
長野県	2	3	66.7
静岡県	4	2	200.0
愛知県	2	2	100.0
三重県	1	1	100.0
滋賀県	1		—
京都府	1	1	100.0
大阪府		1	—
兵庫県	2		—
和歌山県		1	—
香川県		1	—
福岡県	1		—
沖縄県	1		—
国内計	275	259	106
国外			

◆地域別入院患者の状況（再入院を含む）

区 分	令和4年度	3年度	対前年比
総 計	3,200	3,214	99.6
市 計	2,522	2,537	99.4
町 村 計	458	443	103.4
県 外 計	220	234	94.0
前橋市保健所	674	628	107.3
前 橋 市	674	628	107.3
高崎市保健所	663	735	90.2
高 崎 市	663	735	90.2
安中保健福祉事務所	70	70	100.0
安 中 市	70	70	100.0
渋川保健福祉事務所	485	469	103.4
渋 川 市	304	296	102.7
榛 東 村	53	70	75.7
吉 岡 町	128	103	124.3
藤岡保健福祉事務所	94	66	142.4
藤 岡 市	92	66	139.4
神 流 町			—
上 野 村	2		—

区 分	令和4年度	3年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	55	49	112.2
富 岡 市	37	25	148.0
下 仁 田 町	5	5	100.0
南 牧 村			—
甘 楽 町	13	19	68.4
吾妻保健福祉事務所	132	121	109.1
中 之 条 町	32	47	68.1
東 吾 妻 町	34	38	89.5
長 野 原 町	20	4	500.0
嬭 恋 村	16	8	200.0
草 津 町	22	19	115.8
高 山 村	8	5	160.0
利根沼田保健福祉事務所	121	95	127.4
沼 田 市	78	64	121.9
片 品 村	3	1	300.0
川 場 村		7	
み な か み 町	30	12	250.0
昭 和 村	10	11	90.9

◆地域別利用状況（市保健所・保健福祉事務所管内別の状況 令和4年度）



(単位：人・%)

区 分	令和4年度	3年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所	338	354	95.5
伊勢崎市	300	319	94.0
玉村町	38	35	108.6
桐生保健福祉事務所	96	113	85.0
桐生市	65	84	77.4
みどり市	31	29	106.9
太田保健福祉事務所	197	207	95.2
太田市	197	207	95.2
館林保健福祉事務所	55	73	75.3
館林市	11	14	78.6
板倉町	2	3	—
明和町			—
千代田町		6	—
大泉町	35	40	87.5
邑楽町	7	10	70.0

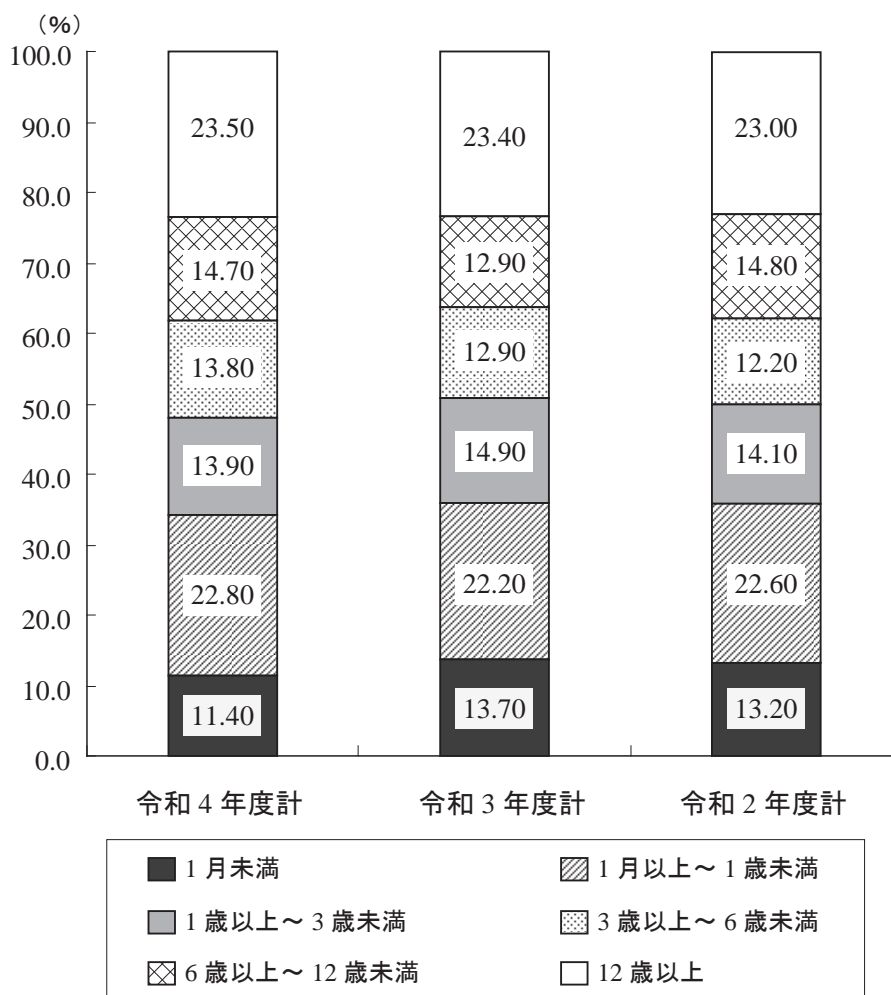
区 分	令和4年度	3年度	対前年比
県外計	220	234	94.0
青森県	1		—
宮城県	2	1	200.0
秋田県	4	3	133.3
山形県	1		—
福島県		1	
茨城県		2	
栃木県	21	19	110.5
埼玉県	140	143	97.9
千葉県	5	4	125.0
東京都	19	21	90.5
神奈川県	5	19	26.3
新潟県		4	
石川県	1		—
山梨県		4	
長野県	2	4	50.0
静岡県	4		—
愛知県		1	
三重県	12	2	600.0
京都府	2	5	40.0
大阪府		1	
沖縄県	1		—
国内計	220	234	94.0
国外			—

(5) 年齢階層別状況（新規登録患者）

（単位：人・％）

年齢	区分	男	女	令和4年度計	3年度計	対前年比
1月未満		186	192	378	451	83.8
1月以上～1歳未満		357	400	757	730	103.7
1歳以上～3歳未満		258	202	460	489	94.1
小計		801	794	1,595	1,670	95.5
3歳以上～6歳未満		274	184	458	424	108.0
6歳以上～12歳未満		262	225	487	423	115.1
12歳以上		129	650	779	769	101.3
令和4年度計		1,466	1,853	3,319		101.0
令和3年度計		1,498	1,788		3,286	
対前年比		97.9	103.6	101.0		

◆年齢階層別状況（新規登録患者）令和2年度～令和4年度



(6) 救急医療

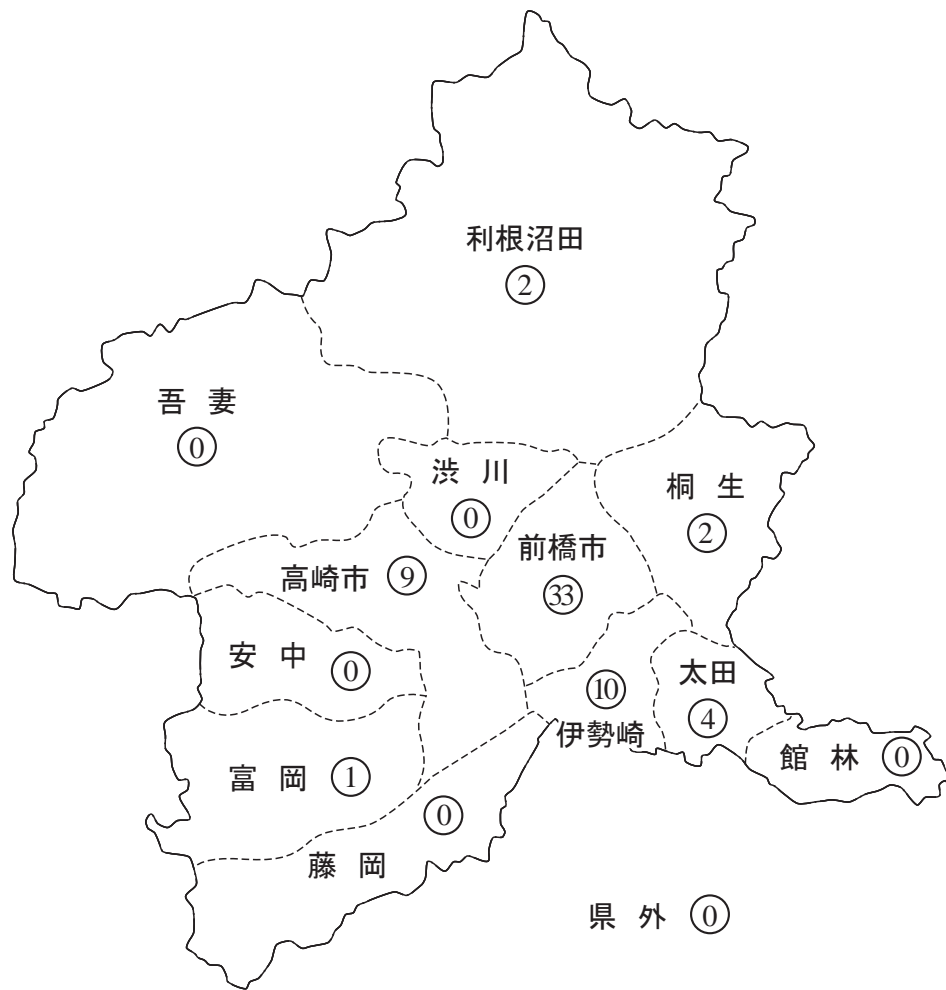
①救急医療の状況（診療状況より）

（単位：人・％）

区分		月別												令和 4年 度計	3年 度計	対前 年比
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
NICU車	時間外	4	4	1	2	1	2	5	2	4	2	1	3	31	39	79.5
	時間内	3	3	2	2	4	0	2	2	1	2	2	5	28	32	87.5
	休日	1	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	7	10	70.0
	計	8	7	3	5	6	3	7	4	5	5	4	9	66	81	81.5
救急車・その他	時間外	78	50	62	87	70	63	77	70	78	62	59	72	828	785	105.5
	時間内	7	5	11	8	13	15	11	15	11	8	12	7	123	126	97.6
	休日	21	33	21	45	39	37	34	44	65	53	42	37	471	395	119.2
	計	106	88	94	140	122	115	122	129	154	123	113	116	1,422	1,306	108.9
合計		114	95	97	145	128	118	129	133	159	128	117	125	1,488	1,387	107.3

（注）「時間内」とは、平日の8：30～17：15である。それ以外の時間を「時間外」に区分した。
土曜は「時間外」とした。

② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況（搬入元医療機関等）



年度 出動区分		令和4年度		3年度 出動件数	2年度 出動件数	元年度 出動件数	平成 30年度 出動件数	29年度 出動件数	28年度 出動件数	27年度 出動件数	26年度 出動件数	25年度 出動件数
		出動件数	対前年比									
救急患者		66	75.3%	81	55	95	99	95	90	99	55	87
内 訳	休日及び 時間外	38	67.3%	49	29	54	48	39	40	58	31	40
	時間内	28	87.5%	32	26	41	51	56	50	41	24	47
その他		20	117.6%	17	28	17	20	49	43	31	48	45
合計		86	82.7%	98	83	112	119	144	133	130	103	132

(注) 「その他」は、当センター入院中の患者を他の医療機関へ搬出したもの、及び他の医療機関の要請により当センター以外の他の医療機関へ搬送を行ったもの等である。

(7) 予防接種実施状況

①月別実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
B C G	2	1	2	1		1	1		1		1	1	11
ポリオ													
四種混合	6	3	6	5	6	3	4	1	3	2	2	4	45
三種混合													
二種混合													
麻しん・風しん	2			1	1	3			4		4		15
麻しん													
風しん													
日本脳炎	1	1	2	3			1	3	1			2	14
ヒブ	4	2	6	3	3	5	2	2	2	1	2	1	33
肺炎球菌	4	2	6	4	3	5	2	2	3	1	3	2	37
子宮頸がん予防	1												1
水痘	1		2	1	2	1			5		1	1	14
B型肝炎	4	2	5	2	3	4	2	2	4	2		3	33
ロタウイルス					1			1	1				3
計	25	11	29	20	19	22	12	11	24	6	13	14	206

②市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況

	前橋市	高崎市	安中	渋川	藤岡	富岡	吾妻	利根沼田	伊勢崎	桐生	太田	館林	県外	計
B C G	3	3				1		2			1		1	11
ポリオ														
四種混合	11	13	1	4		3	1	3	1		7		1	45
三種混合														
二種混合														
麻しん・風しん	6	6	1	1					1					15
麻しん														
風しん														
日本脳炎	3	5	1	2					2				1	14
ヒブ	10	9		2		2		3	1		6			33
肺炎球菌	11	7		3		2	1	4	1		7		1	37
子宮頸がん予防				1										1
水痘	4	8	1								1			14
B型肝炎	8	8		1		2		4	2		6		2	33
ロタウイルス	1							1	1					3
計	57	59	4	14		10	2	17	9		28		6	206

③推 移

年 度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
実施件数	235	233	231	154	157	95	82	56	50	109	213	241	240	206

(8) 疾病分類別入院患者数

① 第一病棟

第一病棟科別入院患者数

アレルギー感染免疫・呼吸器科	643 人	56.3%
神経内科	359 人	31.4%
循環器科	48 人	4.2%
歯科	43 人	3.8%
外科(小児外科)	20 人	1.7%
血液腫瘍科	15 人	1.3%
一般内科(小児科)	12 人	1.0%
整形外科	2 人	0.2%
遺伝科	1 人	0.1%
合 計	1,143 人	100.0%

②第二病棟

令和5年度 入院症例(他科入院で外科手術した症例も含む、重複含む)

<u>頸部</u>		<u>イレウス</u>	
正中頸嚢胞、側頸瘻	4	腸重積症	11
気管切開(喉頭気管分離)目的	5	イレウス(保存治療)	3
<u>肺・気管支</u>		イレウス(手術治療)	3
気胸	0	<u>胆道、脾臓</u>	
肺分画症	2	胆道閉鎖症	2
肺嚢胞性疾患	0	胆道拡張症	1
<u>横隔膜</u>		脾臓摘出目的	0
横隔膜ヘルニア	2	<u>腫瘍</u>	
<u>食道</u>		神経芽腫	5
先天性食道狭窄	2	肝芽腫	2
先天性食道閉鎖症	1	腎芽腫	0
食道アカラシア	0	その他の悪性腫瘍	1
胃食道逆流症	8	良性腫瘍	8
<u>腹壁</u>		<u>生殖泌尿器</u>	
腹壁破裂	2	水腎症	4
白線ヘルニア	0	膀胱尿管逆流症	1
<u>鼠径ヘルニア</u>		停留精巣(萎縮含む)	34
鼠径ヘルニア(精索水腫含む)	120	<u>皮膚、筋、骨格</u>	
<u>胃</u>		リンパ節腫大	1
肥厚性幽門狭窄症	8	リンパ管腫	2
胃軸捻転	1	血管腫	0
胃瘻造設目的	5	<u>その他</u>	
<u>十二指腸・小腸、結腸、腸間膜</u>		便秘	11
小腸閉鎖・狭窄	3	内視鏡(治療含む)	41
腸回転異常	5	CVカテーテル敗血症	19
Hirschsprung病	2	CVカテーテル挿入目的	15
Hirschsprung病類縁疾患	3	腸炎	25
短腸症候群	0	その他	71
消化管穿孔	5		
人工肛門閉鎖目的	9	合計	494
<u>虫垂</u>			
急性虫垂炎	32		
<u>直腸、肛門</u>			
直腸肛門奇形	8		
肛門疾患	7		

形成外科

(うちカッコ内は日帰り全身麻酔の入院患者数)

口唇顎裂	9	多指症・合指症	13
口唇口蓋裂	12	多趾症・合趾症	3
口蓋裂	2	多合趾症	4
副耳	3(2)	母斑	31(10)
耳瘻孔	4	皮膚腫瘍	31(10)
睫毛内反症	15(2)	血管腫・血管奇形	2(1)
舌小帯短縮症	8(1)		
漏斗胸	18		
臍ヘルニア	21(4)		

整形外科

【手術件数】66 件

手術	件数	骨切り：	
腱鞘切開術	1	寛骨臼移動術	4
骨折観血の手術(大腿)	2	大腿骨骨切り術	1
骨内挿入物除去術：		大腿骨外反骨切り術	2
骨盤内異物除去術	1	骨切り(足)	1
骨内挿入物除去術(大腿)	10	手術合計：	66
骨内挿入物除去術(下腿)	17	検査	
骨内挿入物除去術(足)	1	関節造影：	12
骨延長術[大腿骨]	1	関節造影(股関節)	4
骨延長術[脛骨および腓骨]	1	関節造影(膝関節)	0
骨端軟骨発育抑制術[大腿骨]	4	関節造影(足関節)	8
骨端軟骨発育抑制術[脛骨]	2	自己血貯血	6
		(4 件全身麻酔下、2 件は病棟で採決)	
観血的関節授動(足)	7		
内反足手術	6		
三関節固定術	1		
Evans 手術	1		
アキレス腱切腱術	2		
骨搔爬術(骨髄鏡)	1		

③第三病棟

血液腫瘍科

「業務編 3. 第三病棟 (3) 血液腫瘍科」内、業務内容参照。」

④新生児未熟児病棟

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総 数
500g 未満	6	0	6
500～ 999g	19	5	24
1,000～1,499g	6	8	14
1,500～1,999g	24	8	32
2,000～2,499g	18	17	35
2,500g 以上	44	57	101
計	117	95	212

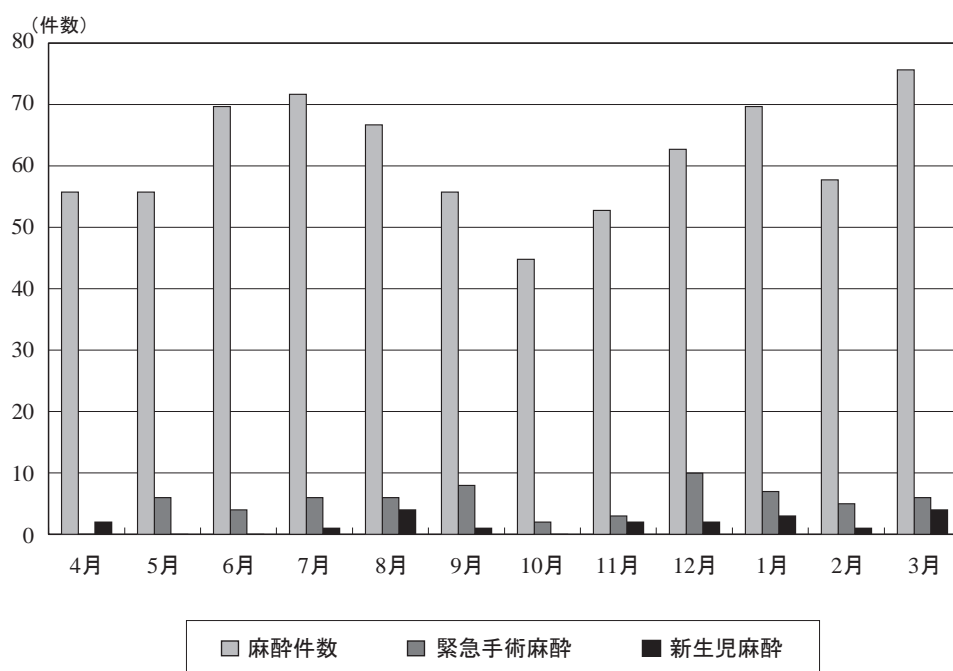
◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総 数
22 週	2	0	2
23 週	5	1	6
24 週	5	1	6
25 週	2	0	2
26 週	2	1	3
27 週	5	1	6
28 週	4	3	7
29 週	0	3	3
30 週	2	2	4
31 週	2	1	3
32 週	0	2	2
33 週	7	2	9
34 週	4	1	5
35 週	10	6	16
36 週	5	4	9
37 週	19	9	28
38 週	14	24	38
39 週	16	21	37
40 週	10	8	18
41 週	3	5	8
計	117	95	212

(9) 麻 酔

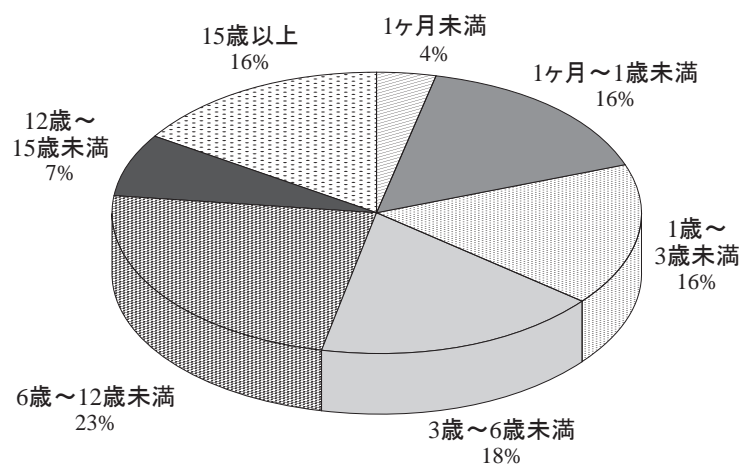
① 2022 年度 月別麻酔件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
麻酔件数	56	56	70	72	67	56	45	53	63	70	58	76
緊急手術麻酔	0	6	4	6	6	8	2	3	10	7	5	6
新生児麻酔	2	0	0	1	4	1	0	2	2	3	1	4



② 2022 年度 年齢階層別状況

1ヶ月未満	27
1ヶ月～1歳未満	119
1歳～3歳未満	120
3歳～6歳未満	131
6歳～12歳未満	175
12歳～15歳未満	53
15歳以上	117



(10) 放射線

① 依頼科別件数

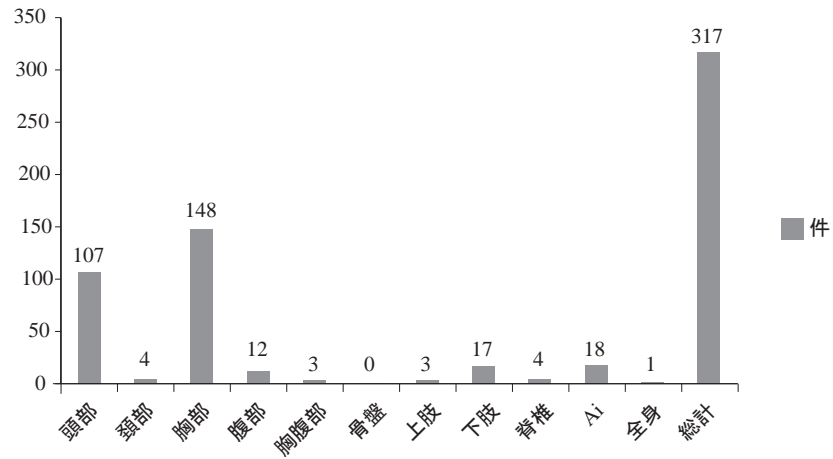
検査 依頼科	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル 撮 影	フィルム コピー	総計 (件)
アレルギー科	5	61	8	16	87	8	175	225	72	657
リハビリ科	0	0	0	0	0	0	90	0	1	91
遺 伝 科	0	7	0	0	11	0	20	0	13	51
一 般 内 科	11	42	4	2	82	1	371	68	68	649
外 科	18	137	64	278	1,015	0	823	833	235	3,403
形 成 外 科	74	22	60	0	128	0	840	75	50	1,249
血液腫瘍科	17	156	20	14	117	0	133	158	62	677
産 科	3	41	0	0	2	0	110	117	13	286
歯 科	52	0	0	4	2	0	340	5	16	419
耳 鼻 科	4	0		0	1	0	2	0	2	9
循環器内科	92	174	53	6	38	1,049	3,389	2,392	291	7,484
小児精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	16	349	6	371
新 生 児 科	12	160	0	32	192	0	114	2,184	133	2,827
神 経 内 科	6	106	0	12	29	0	89	171	293	706
腎 臓 内 科	0	0	0	1	74	0	8	0	6	89
整 形 外 科	23	40	0	12	63	0	11,030	368	202	11,738
正常新生児科	0	12	0	0	14	0	16	3	1	46
内分泌代謝科	0	2	0	0	4	0	26	0	3	35
脳 外 科		5	0	0	0	0	0	0	8	13
放 射 線 科		0	0	0	1	0	2	0	2	5
総 計	317	965	209	377	1,860	1,058	17,594	6,948	1,477	30,805

② 月別件数

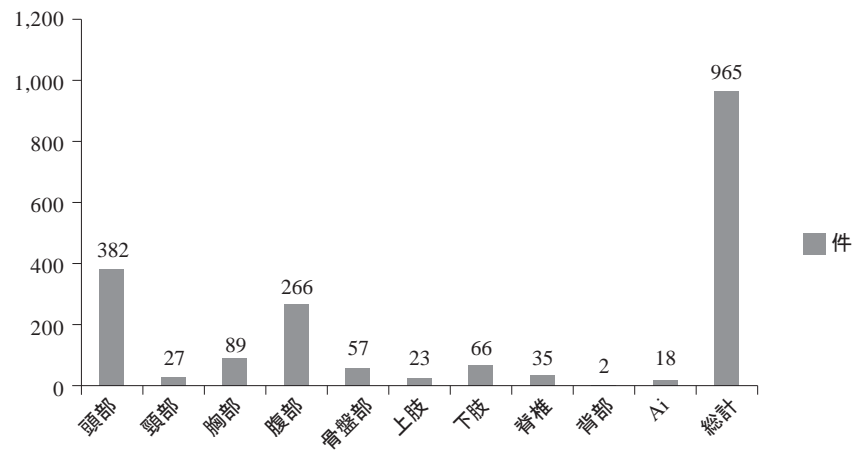
検査 検査月	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル 撮 影	フィルム コピー	総計 (件)
4月	25	67	12	36	143	95	1,361	557	108	2,404
5月	13	45	8	32	144	94	1,361	589	89	2,375
6月	29	69	4	34	151	72	1,446	537	107	2,449
7月	21	82	32	26	177	93	1,408	532	106	2,477
8月	40	104	28	30	154	116	1,823	619	87	3,001
9月	25	103	16	26	179	93	1,302	550	153	2,447
10月	35	83	4	30	135	80	1,309	573	126	2,375
11月	17	80	4	32	143	113	1,388	588	118	2,483
12月	36	98	36	36	179	73	1,277	711	130	2,576
1月	34	68	16	18	132	80	1,508	569	128	2,553
2月	18	65	12	37	147	49	1,545	567	147	2,587
3月	24	101	37	40	176	100	1,866	556	178	3,078
総計	317	965	209	377	1,860	1,058	17,594	6,948	1,477	30,805

③検査種別件数

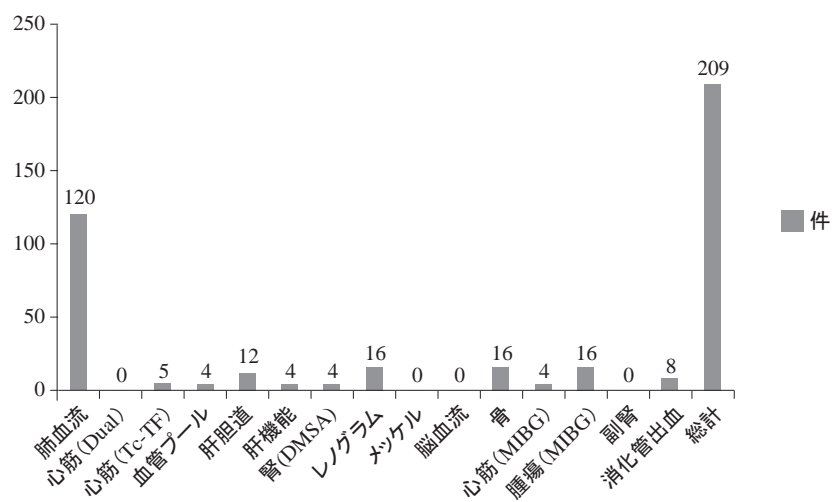
ア CT



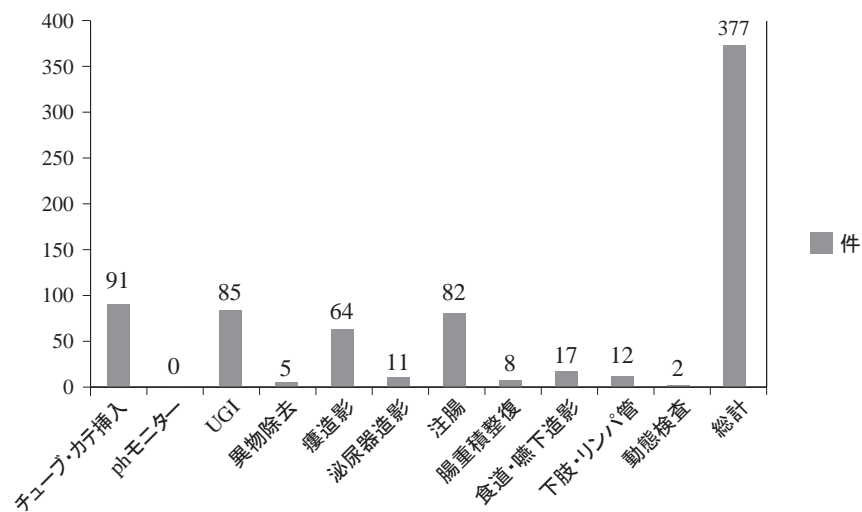
イ MRI



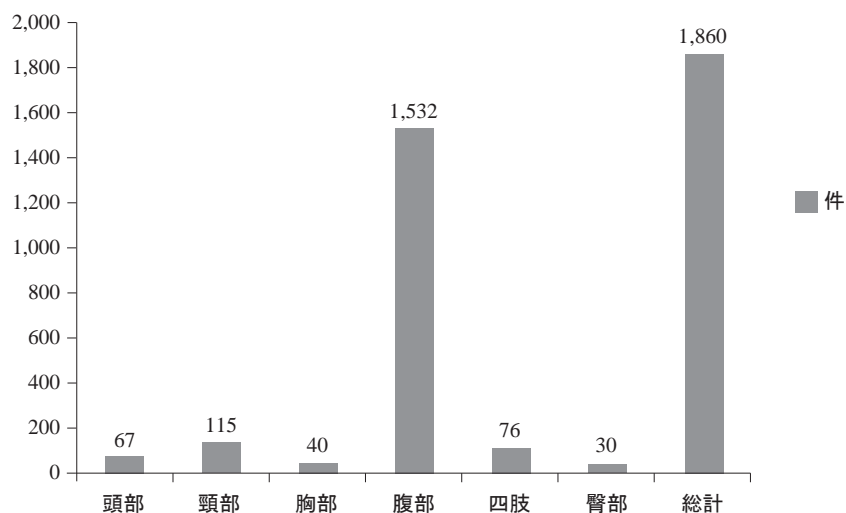
ウ RI



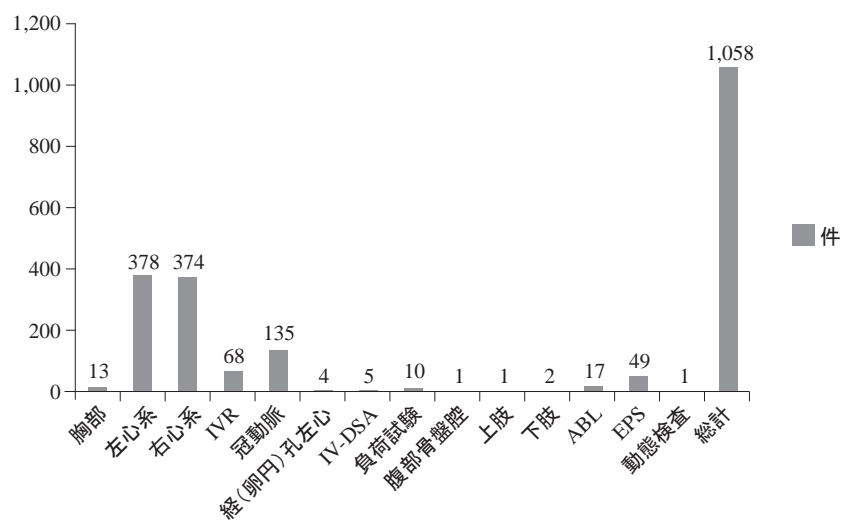
エ X-TV



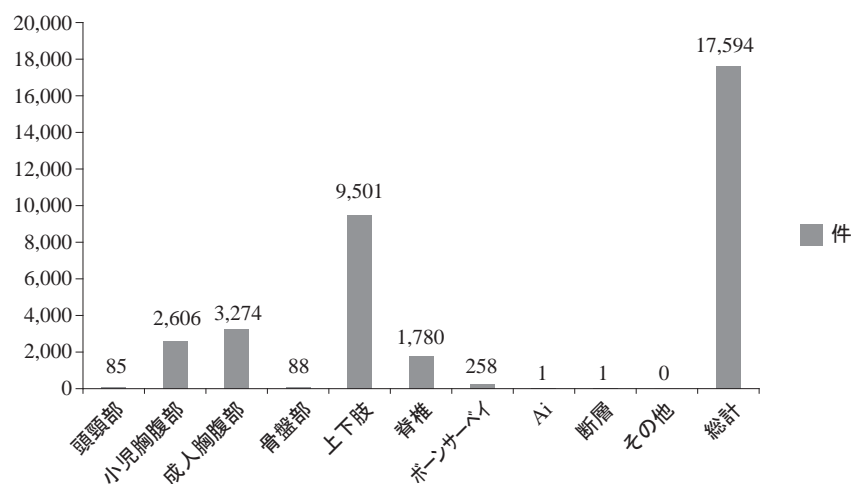
オ US



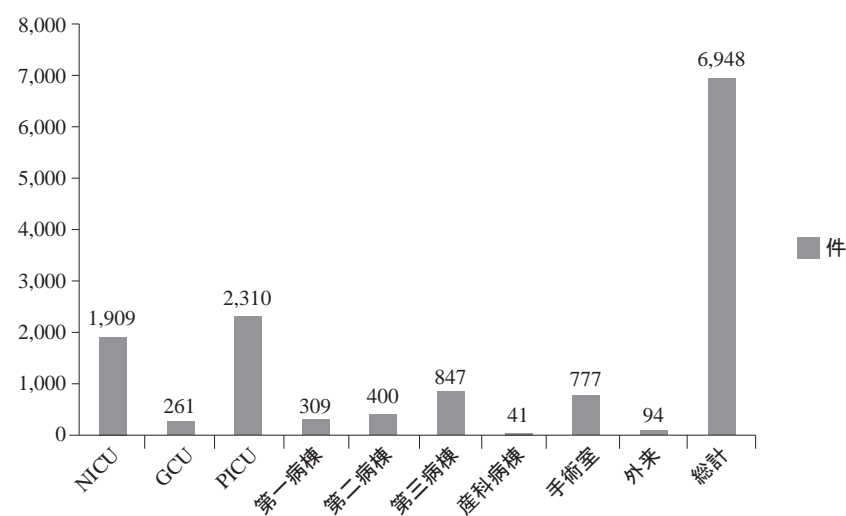
カ 心臓カテーテル



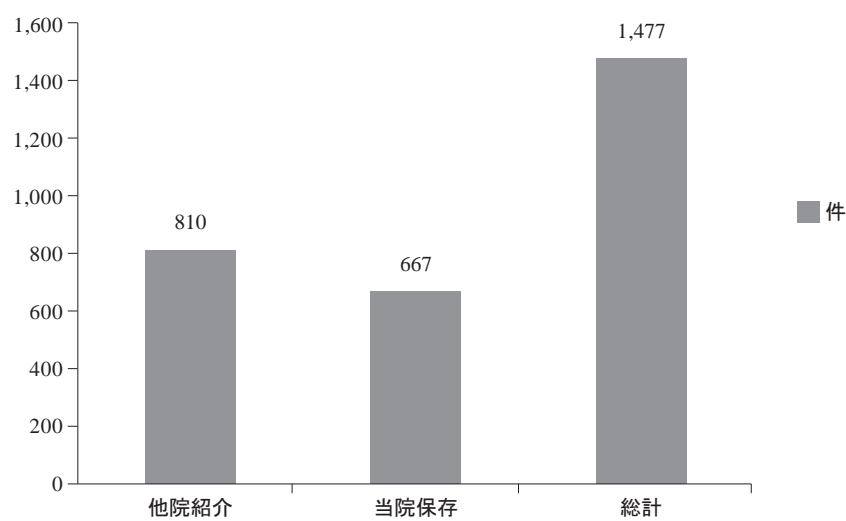
キ 一般撮影



ク ポータブル撮影



ケ 画像データコピー



(1) 臨床検査

①検査の状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生 化 学	18,337	19,334	20,366	19,531	22,702	18,462	17,976	20,625	20,743
血 液	4,436	4,611	5,381	4,794	5,194	4,348	4,300	4,807	4,927
免疫血清	2,137	2,176	2,376	2,396	2,563	2,130	2,128	2,307	2,346
一 般	857	878	916	990	1,148	712	732	701	784
生 理	831	904	998	1,038	1,366	1,154	1,101	991	1,046
細 菌	1,061	1,270	1,357	1,342	1,195	1,272	1,198	1,116	1,182
病 理	158	203	201	121	137	159	169	206	180
輸 血	215	224	266	248	227	207	182	208	253
薬物(再掲)	70	48	51	46	65	28	41	73	69
アレルギー(再掲)	225	325	267	189	195	94	133	197	153
特殊検査(再掲)	12	12	12	12	12	12	4	11	24
外部委託	996	793	847	883	1,027	786	807	782	807
総合計(再掲除く)	29,028	30,393	32,708	31,343	35,559	29,230	28,593	31,743	32,268

②血液製剤取り扱い状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
赤 血 球 液	1 単位	2	0	1	3	5	2
	2 単位	21	23	30	34	26	19
洗 浄 赤 血 球 液	1 単位	0	0	0	0	0	0
	2 単位	0	0	0	0	0	0
小 計	23	23	31	37	31	21	
新 鮮 凍 結 血 漿	120	0	0	0	4	0	
	240	16	8	13	14	7	
	480	0	0	0	0	0	
小 計	16	8	13	14	26	7	
濃 厚 血 小 板	2 単位	0	0	0	0	0	
	5 単位	0	0	0	0	0	
	10 単位	8	11	23	15	14	12
	15 単位	0	0	0	0	0	
	20 単位	0	0	0	0	0	
濃厚血小板HLA	10 単位	0	0	0	0	0	
洗 浄 血 小 板	10 単位	0	0	0	0	0	
洗 浄 血 小 板 HLA	10 単位	0	0	0	0	0	
小 計	8	11	23	15	14	12	
合 成 血	0	0	0	0	0	0	
貯血式自己血	0	0	0	1	1	0	
合 計	47	42	67	67	72	40	

③分割取り扱い状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
赤血球液	1 単位	2	0	3	9	14	3
	2 単位	26	25	32	28	32	33
小 計	28	25	35	37	46	36	
濃厚血小板	5 単位	0	0	0	0	0	
	10 単位	4	2	0	18	18	6
	15 単位	0	0	0	0	0	
	20 単位	0	0	0	0	0	
小 計	4	2	0	18	18	6	
合 計	32	27	35	55	64	42	

④幹細胞保存

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
幹細胞保存	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(単位：件、%)

1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比
21,658	18,353	21,194	239,281	292,328	81.9
4,446	4,311	5,131	56,686	64,476	87.9
2,352	2,190	2,592	27,693	29,400	94.2
794	721	1,087	10,320	11,942	86.4
944	805	1,053	12,296	12,634	97.3
1,107	1,343	1,240	14,683	15,885	92.4
168	194	171	2,067	1,791	115.4
213	201	253	2,697	3,430	78.6
57	49	64	661	762	86.7
318	357	562	3,015	3,432	87.8
8	8	16	143	159	89.9
682	678	1,145	10,233	9,816	104.2
32,364	28,796	33,866	375,956	441,702	85.1

(単位：件、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	対前年度比
0	2	1	2	4	1	23	42	54.8
5	28	29	25	14	16	270	404	66.8
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	1	1	100.0
5	30	30	27	18	17	293	447	65.5
2	1	2	4	3	8	24	119	20.2
2	27	12	7	7	7	142	200	71.0
0	0	0	0	0	0	0	0	
4	28	14	11	10	15	166	319	52.0
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	2	0.0
4	35	18	5	12	4	161	362	44.5
0	0	0	0	0	0	0	8	0.0
0	2	0	0	4	0	6	41	14.6
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	3	0.0
0	0	0	0	0	0	0	0	
4	37	18	5	16	4	167	416	40.1
0	0	0	0	0	0	0	0	
1	1	1	0	0	0	5	5	100.0
14	96	63	43	44	36	631	1,187	53.2

(単位：bag数、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	対前年度比
0	2	2	6	11	3	55	109	50.5
2	43	41	31	8	23	324	502	64.5
2	45	43	37	19	26	379	611	62.0
0	2	0	0	0	0	2	2	100.0
2	62	18	0	2	2	134	356	37.6
0	0	0	0	0	0	0	6	0.0
0	0	0	0	0	0	0	2	0.0
2	62	18	0	2	2	134	366	36.6
4	107	61	37	21	28	513	977	52.5

(単位：件)

1月	2月	3月	合計
0	0	0	0

(12) 薬 剤

① 調剤等の状況

ア 処方箋の枚数等

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
外 来	枚 数	114	97	79	126	145	91	
	件 数	170	140	107	215	264	129	
	剤 数	554	358	377	553	1,144	436	
入 院	枚 数	1,021	1,145	1,126	1,141	1,221	1,108	
	件 数	2,361	2,419	2,464	2,550	2,926	2,466	
	剤 数	15,046	12,301	12,662	12,960	14,377	13,363	
	麻薬 (内数)	枚 数	24	13	16	12	12	19
		件 数	24	13	16	12	12	19
		剤 数	55	13	16	12	12	26
	合 計	枚 数	1,135	1,242	1,205	1,267	1,366	1,199
件 数		2,531	2,559	2,571	2,765	3,190	2,595	
剤 数		15,600	12,659	13,039	13,513	15,521	13,799	
院外処方箋	枚 数	1,065	1,048	1,072	1,019	1,105	985	
	発行率(%)	90.3	91.5	93.1	89.0	88.4	91.5	

イ 調剤件数内訳

区 分	錠 剤	散 剤	水 剤	外 用	注射薬	計
外 来	471	385	89	960	96	2,001
入 院	7,370	13,973	4,073	5,375	172	30,963
割 合(%)	23.8%	43.6%	12.6%	19.2%	0.8%	32,964

② 注射剤の状況

ア 注射箋等の枚数等

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
個人セット	枚数	1,506	1,708	1,767	1,920	1,865	1,588	
	本数	15,644	15,597	18,469	18,573	17,778	14,093	
	HIS (内数)	枚数	1,406	1,578	1,621	1,773	1,761	1,454
		本数	13,694	13,538	15,018	15,641	15,953	11,656
	PICU (内数)	枚数	100	130	146	147	104	134
		本数	1,950	2,059	3,451	2,932	1,825	2,437
血液製剤 (外用剤を含む)	枚数	104	68	84	69	133	127	
	外用剤 (内数)	(本数)	2	3	4	0	2	2
麻 薬	枚数	154	114	170	189	169	140	
	本数	525	351	712	583	388	395	
毒 薬	枚数	76	84	100	96	126	105	
	本数	152	167	210	164	227	215	
輸液 (高カロリー)	本数	144	145	181	111	66	118	
薬品請求伝票	枚数	224	219	225	242	249	237	
	本数	1,986	1,864	1,982	2,262	2,336	2,495	
ビドマー	本数	6,003	4,923	5,805	5,836	6,972	5,830	
合 計	枚数	1,960	2,125	2,262	2,447	2,409	2,070	
	本数	24,558	23,115	27,443	27,598	27,900	23,273	

(※) IVH- 枚数 : 1 日 1 枚として集計。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
96	101	118	100	90	107	1,264
151	166	192	147	148	172	2,001
563	674	903	380	592	701	7,235
1,159	1,207	1,214	1,113	1,055	1,189	13,699
2,766	2,752	2,590	2,437	2,455	2,777	30,963
14,093	14,829	14,705	12,325	12,603	14,367	163,631
41	31	10	22	10	10	220
41	31	10	22	10	10	220
111	74	10	22	10	10	371
1,255	1,308	1,332	1,213	1,145	1,296	14,963
2,917	2,918	2,782	2,584	2,603	2,949	32,964
14,656	15,503	15,608	12,705	13,195	15,068	170,866
1,002	1,037	1,088	1,074	1,042	1,324	12,861
91.3	91.1	90.2	91.5	92.0	92.5	91.0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,595	1,561	1,863	1,643	1,446	1,625	20,087
14,133	12,602	17,498	16,457	14,352	32,183	207,379
1,470	1,443	1,715	1,508	1,330	1,502	18,561
11,392	10,554	15,101	14,176	12,197	29,764	178,684
125	118	148	135	116	123	1,526
2,741	2,048	2,397	2,281	2,155	2,419	28,695
83	86	77	97	74	91	1,093
3	2	2	4	4	0	28
142	146	164	135	118	141	1,782
349	376	464	338	318	258	5,057
72	100	101	95	76	131	1,162
127	225	223	187	122	221	2,240
97	118	83	80	79	66	1,288
245	242	253	229	241	247	2,853
2,356	2,467	2,405	1,907	2,653	2,621	27,334
5,081	5,552	5,706	5,557	5,538	5,311	68,114
2,054	2,049	2,381	2,102	1,881	2,144	25,884
22,226	21,426	26,456	24,623	23,136	40,751	312,505

イ 抗がん薬調製数

区 分	単 位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
抗がん薬調製数	本数	57	57	78	72	103	86

③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況

区 分	単 位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
薬品請求伝票	枚 数	115	121	116	126	113	108
	本 数	935	1,165	972	1,265	1,234	1,008
ビドマー支給	本 数	477	438	419	345	261	436
合 計	枚 数	115	121	116	126	113	108
	本 数	1,412	1,603	1,391	1,610	1,495	1,444

④薬剤情報件数等

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月
薬剤情報提供件数		36	37	21	69	74	35
服薬指導件数(退院時)		8	0	0	0	0	0
薬剤管理指導(保険請求分)		38	43	41	38	56	44
薬剤管理指導(退院時加算分)		1	4	4	14	17	8
D I 情 報		17	21	38	27	20	24
薬剤鑑別	患者数	8	4	5	8	8	8
	延べ剤数	16	13	49	47	26	18
医薬品安全性情報報告件数		0	0	0	0	0	0

⑤製剤等の状況(種類別、製剤件数及び量)

区 分	単 位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
散 剤	件 数	41	55	52	35	38	42
内 用 液 剤	件 数	1	1	2	0	1	1
軟 膏	件 数	9	3	4	4	4	2
坐 剤	件 数	1	0	1	0	0	0
	数量(本)	90	0	90	0	0	0
外 用 液 剤	件 数	0	1	0	1	0	0
外用液剤(無菌調製)	件 数	20	16	21	17	27	23
注射剤(無菌調製)	件 数	25	37	40	51	61	56
合 計	件 数	97	113	120	108	131	124

<主な製剤内訳>

液剤(内用)	ミダゾラムシロップ	1.5 L
	検査用トリクロールシロップ	1 本
散剤(内服)	HMS-1	467 件
	トロミ剤	64 件
軟 膏	30%カラヤ入り亜鉛華単軟膏	26.0 Kg
坐 剤	ワコビタール坐剤 10mg	360 個
無菌製剤	フラッシュ用生食(5mL)	414 本
	エタノールロック注(1mL)	246 本
	MK注腸液(2.6mL)	160 本

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	40	52	101	51	74	781

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
119	123	118	116	115	119	1,409
927	1,104	1,075	666	889	1,192	12,432
366	517	276	376	237	380	4,528
119	123	118	116	115	119	1,409
1,293	1,621	1,351	1,042	1,126	1,572	16,960

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
36	26	48	36	33	37	488
0	0	0	0	0	0	8
42	51	57	50	44	65	569
7	16	12	10	9	7	109
38	37	31	28	20	14	315
8	12	7	9	9	7	93
19	27	24	25	18	17	299
0	0	0	0	0	0	0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
61	50	38	21	30	68	531
2	2	1	2	1	2	16
5	1	1	1	2	3	39
1	0	0	1	0	0	4
90	0	0	90	0	0	360
0	0	0	1	1	0	4
21	30	22	16	24	24	261
5	20	33	62	30	40	460
95	103	95	104	88	137	1,315

⑥薬効別薬品購入額

(単位：円・%)

薬効分類	令和3年度	4年度	構成比率
中枢神経系用薬	90,433,218	54,930,725	10.06%
末梢神経系用薬	3,684,781	3,342,160	0.61%
感覚器官用薬	1,732,518	4,490,012	0.82%
循環器官用薬	18,906,871	13,923,048	2.55%
呼吸器官用薬	6,227,006	5,894,058	1.08%
消化器官用薬	6,667,339	8,414,244	1.54%
ホルモン剤	48,934,504	35,014,649	6.41%
泌尿生殖器官及び肛門用薬	348,518	73,051	0.01%
外皮用薬	1,252,337	1,009,429	0.18%
ビタミン剤	780,394	986,915	0.18%
滋養強壯剤	9,866,148	7,276,077	1.33%
血液及び体液用剤	13,502,662	9,321,572	1.71%
その他の代謝性医薬品	69,473,204	110,369,597	20.20%
腫瘍用剤	25,233,935	55,226,937	10.11%
アレルギー用薬	463,150	392,228	0.07%
抗生物質製剤	9,806,552	9,580,524	1.75%
化学療法剤	117,590,140	127,888,656	23.41%
生物学的製剤	48,190,770	32,357,660	5.92%
調剤用薬	5,174,422	4,529,664	0.83%
診断用薬	1,572,494	1,990,809	0.36%
麻薬	2,290,834	1,474,899	0.27%
その他	26,576,570	57,784,979	10.58%
計	508,708,367	546,271,893	100.00%

(13) リハビリテーション

①診療点数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	1,006,244	239,041	144,230	1,389,515
外 来	928,712	675,405	607,655	2,211,772
合 計	1,934,956	914,446	751,885	3,601,287

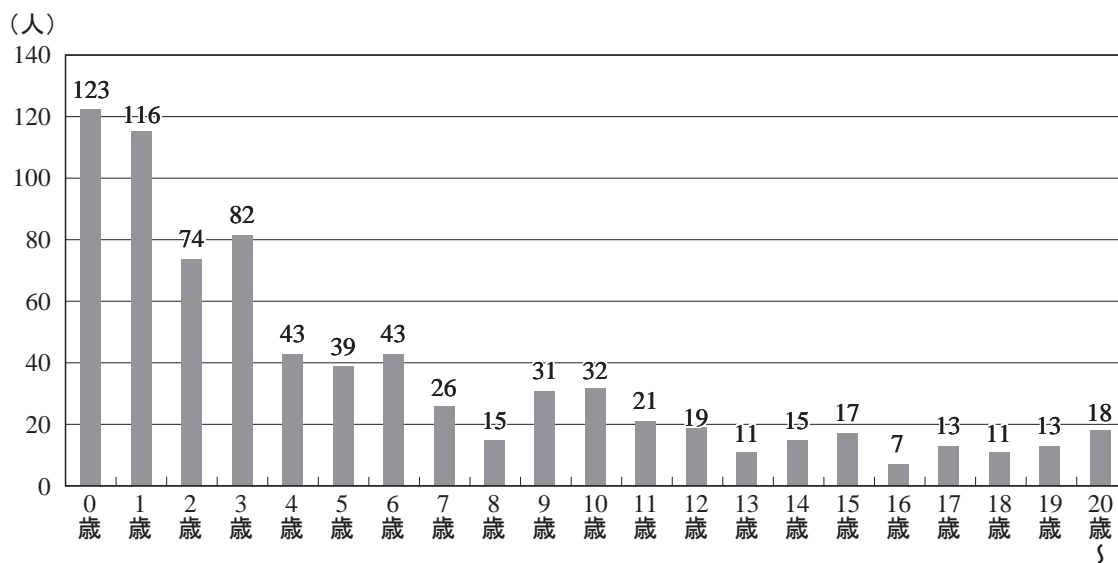
②延べ治療件数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	2,688	753	418	3,859
外 来	2,162	1,644	1,270	5,076
合 計	4,850	2,397	1,688	8,935

③延べ単位数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	5,360	1,676	109	7,145
外 来	4,950	3,061	2,134	10,145
合 計	10,310	4,737	2,243	17,290

④年齢別新規患者数 (769人)



⑤リハビリテーション算定区分別実績

理学療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ	1,519	281,015	156	28,860
早期リハ加算(運動Ⅰ)	711	21,330	3	90
初期加算(運動Ⅰ)	354	15,930	0	0
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	453	79,275	16	2,800
早期リハ加算(呼吸Ⅰ)	407	12,210	0	0
初期加算(呼吸Ⅰ)	374	16,830	0	0
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	1,593	326,565	28	5,740
早期リハ加算(心リⅠ)	834	25,020	0	0
初期加算(心大Ⅰ)	588	26,460	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	55	11,000	2	400
早期リハ加算(脳血Ⅱ)	44	1,320	0	0
初期加算(脳血Ⅱ)	26	1,170	0	0
がん患者リハビリテーション料	145	29,725	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	59	8,614	2	292
早期リハ加算(廃用リハⅡ)	26	780	0	0
初期加算(廃用リハⅡ)	12	540	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	191	42,975	2,636	593,100
障害者リハビリ(6歳～18歳)	195	38,025	1,383	269,685
障害者リハビリ(18歳以上)	52	8,060	179	27,745
退院時リハビリ指導	117件	35,100		
リハ総合計画評価(医療)	81件	24,300	0	0
合 計	4,262	1,006,244	4,402	928,712

作業療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ	11	2,035	10	1,850
早期リハ加算(運動Ⅰ)	1	30	0	0
初期加算(運動Ⅰ)	1	45	0	0
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	188	32,900	1	175
早期リハ加算(呼吸Ⅰ)	113	5,085	0	0
初期加算(呼吸Ⅰ)	156	4,680	0	0
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	54	11,070	0	0
早期リハ加算(心リⅠ)	41	1,845	0	0
初期加算(心大Ⅰ)	27	1,215	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	38	7,600	0	0
早期リハ加算(脳血Ⅱ)	28	840	0	0
初期加算(脳血Ⅱ)	9	405	0	0
がん患者リハビリテーション料	240	49,200	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	1	146	0	0
早期リハ加算(廃用リハⅡ)	1	30	0	0
初期加算(廃用リハⅡ)	1	45	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	399	89,775	2,091	470,475
障害者リハビリ(6歳～18歳)	44	8,580	1,031	201,045
障害者リハビリ(18歳以上)	53	8,215	12	1,860
退院時リハビリ指導	30件	9,000		
リハ総合計画評価(医療)	21件	6,300	0	0
合 計	1,028	239,041	3,145	675,405

言語療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	79	13,825	2	350
早期リハ加算（呼吸Ⅰ）	39	1,755	0	0
初期加算（呼吸Ⅰ）	45	1,350	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	109	21,800	48	9,600
早期リハ加算（脳血Ⅱ）	58	1,740	0	0
初期加算（脳血Ⅱ）	29	1,305	0	0
がん患者リハビリテーション料	38	7,790	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	0	0	0	0
早期リハ加算（廃用リハⅡ）	0	0	0	0
初期加算（廃用リハⅡ）	0	0	0	0
障害者リハビリ（6歳未満）	221	49,725	1,941	436,725
障害者リハビリ（6歳～18歳）	0	0	799	155,805
障害者リハビリ（18歳以上）	229	35,495	5	775
摂食機能療法（3ヶ月以内）	17件	3,145	0件	0
摂食機能療法（3ヶ月以上）	0件	0	0件	0
遊戯聴力検査	0件	0	6件	3,000
乳児加算	0件	0	1件	350
標準純音聴力検査	0件	0	3件	1,050
乳児加算	0件	0	0件	0
退院時リハビリ指導	15件	4,500		
リハ総合計画評価（医療）	6件	1,800	0件	0
合 計	676	144,230	2,793	607,655

(14) 栄 養

①一般食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼児食	1	187	245	287	223	168	305	197	213	171	107	277	365	2,745
	2	182	314	256	384	265	270	429	539	470	407	297	328	4,141
学童食	1	221	201	270	197	199	130	120	143	198	32	102	90	1,903
	2	85	93	200	223	222	228	194	201	133	32	127	254	1,992
	3	267	384	271	217	231	225	245	291	300	363	492	369	3,655
	4	136	289	306	301	178	246	342	440	576	408	278	283	3,783
妊産婦食		934	1,119	1,004	1,299	1,188	899	677	619	846	753	763	614	10,715
全粥食		222	253	203	421	214	71	296	272	250	484	286	335	3,307
七分粥食				16	26	6		6	11	15		6	8	94
五分粥食		71	17	11	25	23	17	14	10	22	22	29	4	265
三分粥食			6	6	21	12	1		5	15	10	13		89
流動食		99	78	93	88	100	49	34	11	31	32	18	21	654
心カテ食		22	22	19	25	31	20	15	38	29	16	18	35	290
術前食		1	3	1										5
D A Y 食		6	2	5	3	3		4	2	5	6	2	9	47
歯科DAY食		25	29	31	26	34	29	29	29	28	26	25	30	341
食物負荷DAY食		14	21	19	18	17	9	15	21	9	18	5	17	183
遅延食		48	36	63	69	78	60	54	56	67	69	55	80	735
計		2,520	3,112	3,061	3,566	2,969	2,559	2,671	2,901	3,165	2,785	2,793	2,842	34,944

②離乳食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
離乳食	初期	47	82	19	36	34	73	43	84	57	120	22	1	618
	中期	110	44	9	78	52	135	89	109	91	71	153	166	1,107
	後期	22	82	146	42	62	91	52	125	123	160	75	131	1,111
	完了期	93	84	54	74	165	105	50	48	78	119	125	97	1,092
計		272	292	228	230	313	404	234	366	349	470	375	395	3,928

③特別食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
肝臓食	幼児													0
	学童	17			25	26	21	16		15			13	133
糖尿病食	幼児													0
	学童	97	78	90	72	78	85	30						530
	妊産婦	4	5	32	69	4	11		4	27		4	28	188
高脂血症食	幼児													0
	学童		4											4
膵臓食	幼児					57	34	2						93
	学童					7								7
潰瘍食	幼児				83	8			28	25	3			147
	学童		4	7	2	58	72	11		11		54	4	223
	妊産婦						32							32
低残渣食	幼児		1			2	11		1					15
	学童			2		1	1					4		8
	妊産婦									7				7
計		118	92	131	251	241	267	59	33	85	3	62	45	1,387

④調乳の種類及び人数・本数

<ミルク>

種 類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
普通ミルク	人数	510	559	529	555	439	533	601	687	723	589	496	675	6,896
	本数	3,192	3,551	3,474	3,800	2,967	3,440	4,287	4,555	5,079	3,984	3,362	4,494	46,185
L B W	人数	135	223	250	65	87	171	134	97	148	121	121	166	1,718
	本数	1,364	2,020	2,228	620	704	1,624	1,268	852	1,272	1,147	1,132	1,496	15,727
ニューMA-1	人数	48	37	76	68	44	4	8	46	86	65	51	1	534
	本数	322	136	283	333	111	24	90	372	832	513	406	6	3,428
M C T	人数	30	42	51	58	28	28	17	18	14	27	54	65	432
	本数	224	299	336	324	220	224	136	144	72	174	292	494	2,939
エレメンタル フォーミュラ	人数	55	62	60	29	6	30	31	30	31	31	28	31	424
	本数	233	320	263	124	30	150	155	150	155	156	168	186	2,090
ARミル ク	人数	63	66	48	62	38	32	42	41	31	42	28	44	537
	本数	504	528	384	496	304	225	252	242	186	274	168	290	3,853
計	人数	841	989	1,014	837	642	798	833	919	1,033	875	778	982	10,541
	本数	5,839	6,854	6,968	5,697	4,336	5,687	6,188	6,315	7,596	6,248	5,528	6,966	74,222

⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数

<濃厚流動食・成分栄養剤>

種 類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
エンシュア	人数	38	29	11	30	55	27	34	12	10	5	12	42	305
	本数	278	195	42	176	291	114	96	51	37	24	64	240	1,608
エンシュアH	人数											9		9
	本数											32		32
エネーボ	人数	62	43	30	55	125	130	103	132	83	96	97	116	1,072
	本数	165	174	105	234	650	555	371	530	517	383	504	487	4,675
ラコー ル	人数	104	116	57	94	51	49	59	70	93	27	52	35	807
	本数	452	437	285	562	307	290	197	260	474	104	202	132	3,702
ラコー ル (半固形)	人数	32	25	30	30	17	71	48	36	54	28	36	57	464
	本数	104	51	79	80	36	127	81	109	126	128	61	121	1,103
エレンタールP	人数	133	148	114	106	63	36	18	36	49	62	41	57	863
	本数	947	1,040	844	828	458	282	132	230	345	498	392	332	6,328
エレンタール	人数	5	47	84	111	82	25	13		1	1	26	29	424
	本数	15	243	309	495	375	103	65		3	3	64	105	1,780
イノラス	人数	28	25	15	7	37	64	46	54	16	22	58	60	432
	本数	124	88	60	23	63	134	128	158	44	73	250	216	1,361
C Z - H i	人数	61	40	30	58	35	30	38	39	37	41	40	31	480
	本数	315	245	180	294	202	180	234	252	221	238	204	186	2,751
ブイアクセル	人数	62	39	47	53	62	36	27	30	31	34	32	33	486
	本数	248	187	167	178	155	135	89	150	155	159	172	188	1,983
テゾ ン	人数			22	63	34	7	9						135
	本数			22	63	34	7	9						135
糖 水	人数			1	1	2		10	2		2	1	1	20
	本数			1	2	9		15	8		8	1	5	49
ボカリス エット	人数	39	20	34	22	53	51	33	63	29	54	45	77	520
	本数	97	41	96	45	157	132	69	160	81	142	124	211	1,355
G F O 水	人数	102	68	62	64	46	55	75	17	30	23	44	23	609
	本数	482	347	290	301	154	188	250	36	130	119	142	88	2,527
MCT オ イル	人数	73	112	161	126	159	170	128	80	62	62	97	166	1,396
	本数	313	344	634	411	545	484	140	80	62	62	97	166	3,338
計	人数	739	712	698	820	821	751	641	571	495	457	590	727	8,022
	本数	3,540	3,392	3,114	3,692	3,436	2,731	1,876	2,024	2,195	1,941	2,309	2,477	32,727

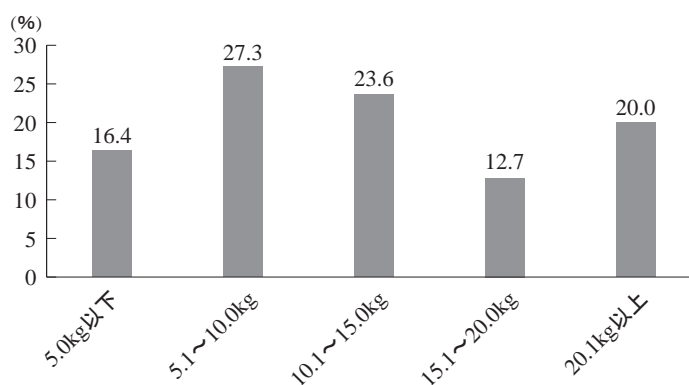
(15) 臨床工学課

①臨床業務症例数

	体外循環	心臓カテ テル検査	血液浄化 療法	補助循環	内視鏡 手術	NO吸入 療法	ペースメー カ チェック	低酸素 療法	脳低温 療法	骨髄 濃縮
4月	3	16			8	2	8	1		
5月	5	14			8	2	9	1		
6月	8	11			9	2	8	1		
7月	3	14			17	2	10			
8月	3	17			10	1	9			
9月	5	14			9	3	3		1	
10月	4	13			5	1	16	1		
11月	3	19	3		10		10		1	
12月	6	11			14	1	7	2		
1月	5	10			15	1	6	1		
2月	3	8			14		7		1	
3月	7	16			15	2	7			
合計	55	163	3		134	17	100	7	3	
前年比	73%	96%	100%	—	112%	106%	132%	78%	150%	—

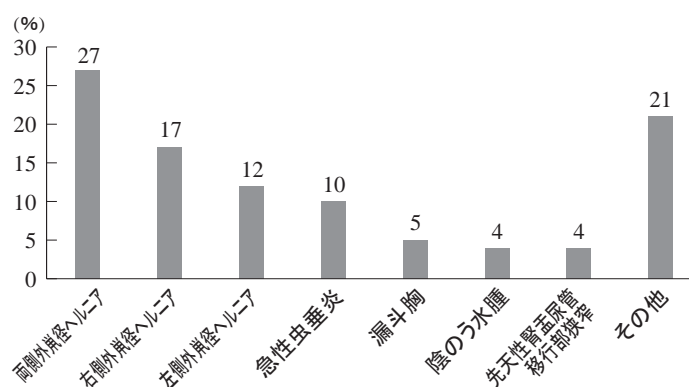
ア 体重別体外循環症例数

体 重	症例数
5.0kg 以下	9 (16.4%)
5.1～10.0kg	15 (27.3%)
10.1～15.0kg	13 (23.6%)
15.1～20.0kg	7 (12.7%)
20.1kg 以上	11 (20.0%)
計	55



イ 疾患別内視鏡手術症例数

疾患	症例数
両側単径ヘルニア	36 (27%)
右側単径ヘルニア	23 (17%)
左側単径ヘルニア	16 (12%)
急性虫垂炎	14 (10%)
漏斗胸	7 (5%)
陰のう水腫	5 (4%)
先天性腎盂尿管移行部狭窄	5 (4%)
その他	28 (21%)
合計	134



②月別日常点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器													
アバンス	2	2	3	3	2		2	1	1	2	1	1	20
ケアステーション	100	96	110	100	104	100	100	98	93	94	96	111	1,202
人工呼吸器													
Trilogy	1												1
BiPAP V60			1	1			2	1	3	2	3	2	15
ハミング X		2	1	2	7	5	4	4	3	3	9	6	46
Avea				2			1		2	2	3	1	11
Babylog VN800	1	1	2	1		3	2		2	1		4	17
ハミング ビュー	5	8	1	9	9	10	7	8	9	6	4	8	84
ベネット 980		1	1	1		1		1	2		2	1	10
Vivo 45					1							2	3
Trilogy EVO	1		2	1	1		1	1	1	1	3	1	13
SERVO-n											1	1	2
ベネット 840			1				1		1		1		4
sindi		1		1									2
サイパップ	13	17	10	12	12	11	16	13	18	6	6	14	148
ネーザルハイフロー	12	19	9	12	9	19	18	19	22	7	15	11	172
シリンジポンプ	200	184	211	211	200	203	210	213	218	236	240	208	2,534
輸液ポンプ	80	85	113	109	92	102	88	118	122	100	102	129	1,240
経腸栄養注入ポンプ	1	4		3	2	4	1	1	4	3	3	1	27
開放型保育器	4	10	10	6	9	10	5	10	10	7	7	4	92
光線治療器	4				1	3			1	1		1	11
除細動器 (AED)	47	47	51	46	44	47	54	44	50	49	46	57	582
人工心肺装置	3	5	8	3	3	5	4	3	6	5	3	7	55
血液浄化装置								33	7				40
低圧持続吸引器	11	14	20	9	11	8	17	14	19	14	17	18	172
体温調節装置			1			1	2					2	6
加温加湿器	1												1
パルスオキシメータ		1							1			1	3
合計	486	497	555	532	507	532	535	582	595	539	562	591	6,513

③月別人工呼吸器使用中点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Trilogy	5	11	3	3	1	2	8	2	12	8	2	4	61
BiPAP V60			1	2			2	3	5	3	5	10	31
ハミング X	16	14	20	16	28	25	17	23	22	24	20	19	244
Avea			4	18	21	17	21	26	33	35	25	21	221
BiPAP A40	1											2	3
Babylog VN800	32	19	20	16	36	27	15		7	15	29	38	254
ASTRAL	33	39	38	40	57	36	36	25	34	31	28	38	435
ハミング ビュー	23	4	35	12	60	44	36	26	35	39	52	42	408
ベネット 980	17	18	22	20	18	17	19	13	17	22	30	29	242
Vivo 45	61	35	29	25	19	18	34	13	20	15	41	49	359
Trilogy Evo	46	49	40	72	91	53	48	30	29	48	63	107	676
SERVO-n											1	17	18
ベネット 840	55	28	66	32	25	32	42	32	40	37	39	27	455
sindi							7						7
インファントフローサイパップ	74	107	45	42	24	67	136	57	80	72	10	94	808
ネーザル ハイフロー	69	121	111	66	99	81	116	91	62	62	73	30	981
合計	432	445	434	364	479	419	537	341	396	411	418	527	5,203

④月別人工呼吸器回路交換件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ハミング X		2		1	1		1		1	1		1	8
Avea					1	1	1		1	1	1	1	7
Babylog VN800					1		1						2
ASTRAL	2	1	2		2	1	1	1	1	3	2	2	18
ハミング ビュー							1	1	1	1		1	5
ベネット 980	1	1	1	1	1		1	1	1	1		1	10
Vivo 45	2	1	2							1	1	2	9
Trilogy Evo		2		1		1	1				2	2	9
ベネット 840			1	1								1	3
インファントフローサイパップ		4	1	1		1		1					8
ネーザル ハイフロー	1	1	1	2		1	2		1		1		10
合計	6	12	8	7	6	5	9	4	6	8	7	11	89

⑤月別定期点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器	3	4				2							9
シリンジポンプ								65	113				178
輸液ポンプ								46	45				91
経腸栄養注入ポンプ									1				1
人工呼吸器													
Trilogy	5	7	5	3	6	6	3	4	7	4	5	5	60
BiPAP V60								2					2
パーカッションベンチレータ			1					1					2
BiPAP A40		2	1		2	1		2	1		2	1	12
Babylog 8000plus						1							1
ASTRAL	2	2	3	1	1	2	1	3	2		1	2	20
ハミング ビュー					1	1	1	1					4
ベネット 980							2						2
Trilogy EVO	3	4	6	3	5	11	5	4	7	7	5	13	73
ベネット 840							7						7
sindi							1						1
インファントフロー SiPAP				1	1	2	2	2	2	2	1		13
新生児用保育器						6	9	3	3	2	2	1	26
開放型保育器						4	1	4		1	1	1	12
搬送用保育器						1			2				3
除細動器	8			8	8		7			8			39
人工心肺装置				1									1
補助循環装置				3									3
血液浄化装置	1						3						4
セントラルモニター				1		10				4		3	18
体外式ペースメーカー	2		1	3				3					9
分娩監視装置												8	8
ハミング ピストン	1						3	5	3				12
合計	25	19	17	24	24	48	46	145	188	29	17	34	616

⑥月別院内修理件数

機 種 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
体温計							3						3
麻酔器			3	1		1	1	1					7
窒素ブレンダー	1			1									2
シリンジポンプ	4	1	6	1	2	1	2		13	3	3		36
輸液ポンプ	2		1		1		2		6				12
経腸栄養注入ポンプ			1										1
ハミング ビュー			1			1				1			3
ベネット 980												3	3
Vivo45	1												1
ベネット 840									1			1	2
新生児用保育器	7		1							3	4	3	18
開放型保育器		1										1	2
搬送用保育器	3	1											4
光線治療器							2						2
加温加湿器									1				1
人工心肺装置			1									1	2
セントラルモニター		1							2				3
ベッドサイドモニター		1			1				1				3
パルスオキシメータ									2			2	4
低圧持続吸引器							3	2	1				6
機能検査オキシメータ						1							1
分娩監視装置										1			1
合 計	18	5	14	3	4	4	13	3	27	8	7	11	117

(16) 母子保健室

①精密健康診査

ア 保健福祉事務所・保健所別受診状況

管 轄		前 橋	高 崎	安 中	渋 川	藤 岡	富 岡	吾 妻	沼 田	伊 勢 崎	桐 生	太 田	館 林	県 外	計
受 診 者 数	R4年	8	18	0	43	0	0	7	9	8	0	2	0	1	96
	R3年	4	19	0	30	0	2	8	12	11	2	1	0	1	90

イ 科別・年齢別受診状況

科 名	受診者数	年 齢 別 受 診 者 数					R3年度 受診者数
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	
一 般 小 児 内 科	32	13	12	0	6	1	16
神 経 内 科	16	6	4	1	3	2	10
循 環 器 科	8	2	2	0	4	0	1
外 科	6	1	0	2	3	0	17
整 形 外 科	14	9	2	0	3	0	25
形 成 外 科	16	10	4	2	0	0	18
歯 科	1	0	0	0	0	1	2
そ の 他	3	0	0	0	3	0	1
合 計	96	41	24	5	22	4	90

ウ 科別受診状況及びその結果

区分 科別疾患名	受診者数	受診結果					R3年度 受診者数
		異常なし	要観察	要治療	要訓練 (重複あり)	その他 (重複あり紹介等)	
一般小児内科総数	32	4	17	11	1	0	16
神経内科総数	16	0	16	0	7	0	10
循環器内科総数	8	5	3	0	0	0	1
外科総数	6	2	3	1	0	0	17
整形外科総数	14	3	9	2	0	0	25
形成外科総数	16	0	4	11	0	1	18
歯科総数	1	0	1	0	0	0	2
その他	3	1	2	0	0	0	1
総 数	96	15	55	25	8	1	90

②新生児・未熟児病棟および他病棟入院患児の退院連絡

ア 退院連絡後の状況

	退院連絡依頼数	返 信 数	R3年度依頼数
新生児・未熟児病棟	132	117	157
他 病 棟	22	16	39
計	154	133	196

返信数にはR2年度に依頼し、R3年度に返信が来たものも含まれる。

イ 体重別退院連絡実施状況

	退院連絡票 依頼数	体 重 別 実 施 状 況				R3年度 依頼数
		999 g 以下	1,000～1,499g	1,500～1,999g	2,000g 以上	
新生児・未熟児病棟	132	20	15	29	68	157
他 病 棟	22	0	0	1	21	39
計	154	20	15	30	89	196

③関係機関との連携状況

区 分	家 庭	院 内	県保 福児 関相 以外 係の	保 健 福 祉 事 務 所	児 童 相 談 所	市 町 村	医 療 機 関	幼 学 校 ・ 稚 育 所 ・ 園	ス 訪 テ ー 問 シ ン 看 ヨ ン 護	施 設	そ の 他	計 内 訳 (電話/面接)
養育支援	314	104	2	1	12	413		9	19	9		883(599/284)
療育支援	1	5				10				4		20(20/0)
成長発達	62	22				26			1			111(41/70)
病 気												0
受診支援	5	4				9						18(13/5)
予防接種			1			1						2(1/2)
医療福祉	2					1						3(1/2)
保健医療												0
患者家族会						2						2(2/0)
マス・ スクリーニング	13	4		3		9	101			1	5	136(136/0)
遺伝相談												0
妊娠・出産 相 談	117	69	2	1	12	152	2		4			359(234/125)
研修・調査												0
そ の 他	2	2		2	1	1				1		9(7/2)
計	516	210	5	7	25	624	103	9	24	15	5	1,543 件
電話計	101	143	5	7	20	623	103	0	0	4	0	電話：1,006
面接計	415	67	0	0	5	1	0	9	24	11	5	面接：537

④関係機関との連携会議

検討内容	実 数	延 数
教育機関・地域との調整	23	35

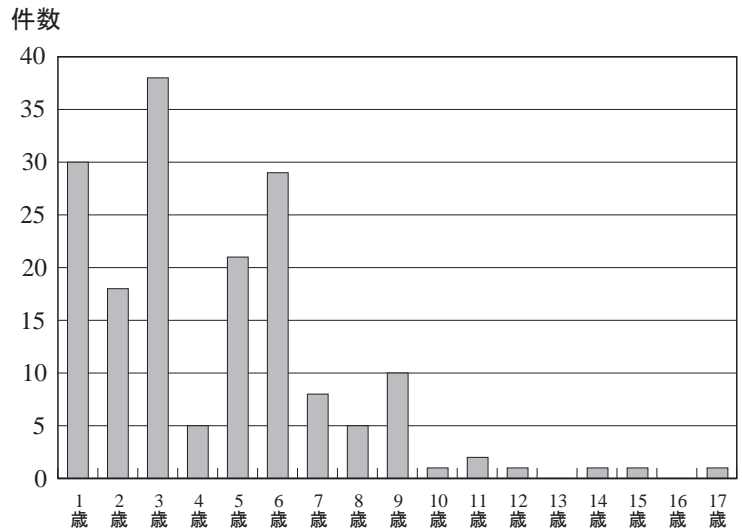
⑤心理判定・心理カウンセリング

＜心理判定＞

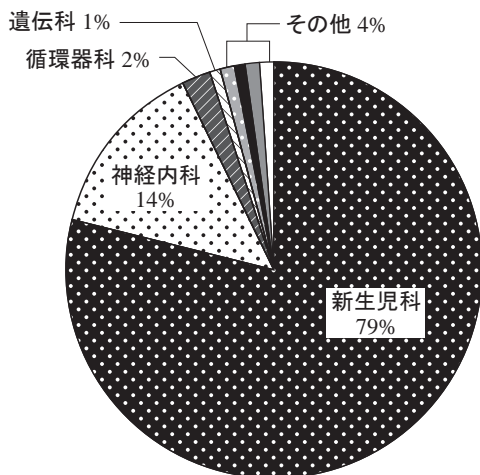
ア 心理判定（実施検査数）

新版 K 式発達検査	97
WISC- IV /V 知能検査	72
M-CHAT	49
PARS-TR	8
バウムテスト	3
Conners3	1
DES(解離性体験尺度)	2
Vineland-II	1
計	232

イ アの年齢別被検査者数 (n=171)



ウ 依頼科 (n=171)



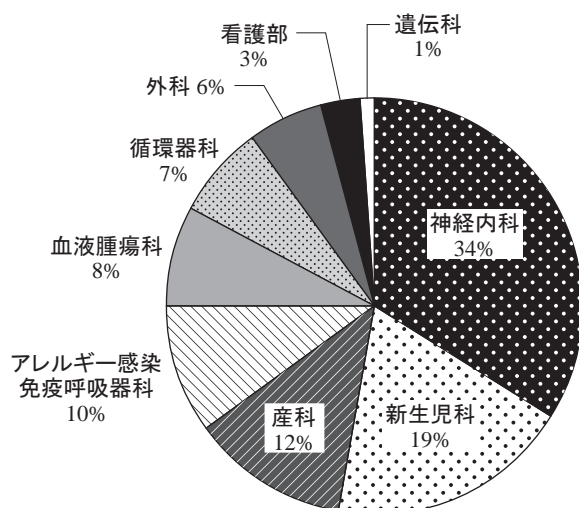
※一被検者に複数の検査を実施している場合、イならびにウでは1集計としている。

＜心理カウンセリング＞

ア 心理カウンセリング（実施内容及び件数）

心理カウンセリングの主訴	対象家族数	対象者数	延べ実施回数
心理的発達障害（自閉症を含む）	9	20	51
周産期からの心理支援	9	12	41
身体表現性障害（心身症を含む）	8	20	62
ストレス関連障害	7	12	19
登校の問題	7	15	62
育児に関する内容	7	11	40
神経症性障害	6	14	36
生理的・身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害を含む）	5	14	62
心理士によるコンサルテーション・関係者会議	5	8	16
行動・情緒の問題（多動症を含む）	4	8	18
治療サポート	3	4	8
気分障害	2	5	15
	72	143	430

イ 初回心理カウンセリング実施時受診科 (n=78)



<精神科コンサルト>

8回実施 (実人数 13人、延人数 25人)

⑥群馬県先天性代謝異常等検査事業

事務局として患者情報の管理 (精密検査対象児及び継続治療児達のフォローアップ)、予防治療及び管理体制の検討を行い、適切な療育環境を整えることを目的に、検査基準値、検査体制、支援体制の見直しを行うために、第1回群馬県先天性代謝異常等検査検討会議を開催した。

群馬県としての拡大スクリーニングの対応方法について対面で協議した。

<令和4年度患者発見状況報告>

・一時検査実施実人数	11,831人	
・再検査実施実人数	302人	
・タンデムマスメールカンファレンス	9件	
・精密検査対象者実人数	43人	
・患者確定人数		
	先天性甲状腺機能低下症	7人 (治療)
	軽症先天性甲状腺機能低下症	1人 (経過観察)
	メチルクロトリルグリシン尿症	2人 (治療)
	軽症フェニルケトン尿症	2人 (経過観察)

⑦親の会への支援

新型コロナウイルス感染症の流行により、本院を会場とした講演会や交流会の開催は見合わせ、オンラインによる開催や会報発行を行った。

- ・ダウン症親の会 (あさがお) の運営支援 オンライン開催による講演会と交流会 2回 (R4.6.28、R4.11.29)
- ・13、18トリソミー親の会 (スマイル) の運営支援オンライン開催による講演会と交流会 2回

・口唇口蓋裂患者・家族交流会（にこちゃんカフェ）の運営

(R4.7.12、R4.12.4)

会報発行 1回

(17) 地域医療連携室

①医療相談件数（令和4年度）

ア 相談内容及び件数（地域医療連携室）

	第一病棟	第二病棟	第三病棟	新生児病棟	産科病棟	P I C U	外来	その他	合 計		
									総計	内 訳 面接/電話/ カンファレンス	内 訳 新規/継続
転院・退院・入所	435	81	178	583	2	25	309	39	1,652	(669/916/67)	(198/1,454)
ショートケア	20	1	2	1	0	1	256	3	284	(91/189/4)	(6/278)
指導管理料関係	1	1	1	0	0	0	9	1	13	(3/10/0)	(3/10)
訪問看護	116	48	45	29	0	18	354	8	618	(79/529/10)	(32/586)
多職種連携	15	8	12	79	35	1	60	37	247	(21/59/167)	(143/104)
退院後フォロー	17	4	1	20	7	7	922	17	995	(820/164/11)	(6/989)
医療費・経済	6	17	9	36	59	2	38	4	171	(63/101/7)	(40/131)
医療給付制度	22	19	103	91	11	26	428	7	707	(328/374/5)	(248/459)
福祉サービス	84	35	31	27	7	12	794	20	1,010	(292/696/22)	(176/834)
心理的	2	0	1	0	0	0	1	2	6	(3/2/1)	(2/4)
新生児入院面接	4	3	11	214	9	16	17	3	277	(211/64/2)	(188/89)
その他	45	18	20	26	124	42	641	81	997	(175/749/73)	(197/800)
合 計	767	235	414	1,106	254	150	3,829	222	6,977	(2,755/3,853/369)	(1,239/5,738)

イ 公費負担医療費申請等事務取扱件数

区 分	件 数
未 熟 児 養 育 医 療	139
育 成 医 療	154
小児慢性特定疾病医療給付	618 (554)
指定難病医療給付	14 (4)
通院医療費公費負担制度	6 (3)
合 計	931 (561)

()内は継続数

ウ 身体障害者手帳

特別児童扶養手当等事務取扱件数

区 分	件 数
身体障害者手帳	※92
特別児童扶養手当	※58
障害児福祉手当	※64
その他の診断書等	1,001
合 計	1,215

※再認定を含む

②子ども虐待防止対策事業

イ 要支援事例検討会状況：年6回 奇数月の第二水曜日に開催

月齢及び年齢	男		女		計	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
1ヶ月未満	0	0	2	2	2	2
1～6ヶ月	2	3	2	5	4	8
7～12ヶ月未満	0	0	1(1)	3	1(1)	3
1～2歳	4(1)	5	0	3	4(1)	8
3歳～学齢前児童	3(3)	3	0	0	3(3)	3
小学生	0	0	0	0	0	0
中学生	0	0	0	0	0	0
高校生・その他	1	2	5	6	6	8
計	10(4)	13	10(1)	19	20(5)	32
(令和3年度)	13(6)	20	5(2)	9	18(8)	29

() 内は前年度からの継続人数

総括編

1. 沿革

小児医療センターは、こどもたちが心身ともに健やかに生まれ、育成されることを目的として、高度専門的な総合的小児医療、保健活動を目指す施設として構想され、まず本県における小児保健医療の現状から緊急に必要な未熟児・新生児・乳児低年齢層の幼児を中心として専門的な診断治療を行うほか、母子保健活動、小児保健医療の調査研究研修を行う施設として、昭和57年4月1日に開設し、同年7月1日から全面的に診療活動を開始した。

- 昭和47年9月 建設調査検討開始
- 48年5月 群馬県小児病院調査委員会発足(会長 吉野文郁、委員17名)
- 50年1月 調査委員会「群馬県小児医療センター基本構想」を答申(規模:病床数200床程度)
- 50年6月 群馬県小児医療センター建設委員会発足(委員長 知事、委員22名)
- 52年3月 県議会「県立小児病院建設促進についての意見書」を採択
- 52年8月 小児医療センター建設促進懇談会、建設構想を作成し知事に提示
提案者: 県医師会長鶴谷孔明ほかメンバー9名
内容: 病床数60床(新生児科30、小児内科20、小児外科10)
- 53年3月 53年度当初予算7億9千万円議決(用地取得費290百万円、建設基金積立500百万円)
- 53年10月 小児医療センター建設準備室設置
- 53年12月 小児医療センター建設専門会議発足(議長 衛生環境部長、委員10名)
- 54年2月 小児医療センター建設基本方針及び基本計画決定(病床規模60床)
- 54年3月 54年度当初予算8億9千万円議決(設計委託料、基本積立等)
- 54年9月 建設基本方針及び基本計画の一部変更決定(病床規模80床)
- 54年11月 設計委託契約の締結(株式会社アルコム)
- 55年3月 55年度当初予算7億6千万円議決(本館建設費等)
- 55年10月 小児医療センター起工式
- 56年3月 56年度当初予算34億1千万円議決(建設費、医療機器購入等)
- 56年4月 小児医療センター看護要員県外研修派遣(1年間、19名)
- 57年3月 小児医療センター建設完工
- 57年3月 小児医療センターを県立病院として設置する「群馬県病院事業の設置等に関する条例」の一部改正議決
- 57年3月 医療法7条に基づく病院開設許可(80床)
- 57年4月 小児医療センター開設
- 57年5月 小児医療センター落成式
- 57年7月 診療活動を開始(川崎病患者については6月より診療開始)

◆開院後の歩み

- 昭和57年 4. 1 群馬県立小児医療センター設置、院長として神邊 譲 就任
5. 1 保険医療機関の指定(勢医 1014. 5010042)
- 〃 療養取扱機関の申出の受理(勢国医 1014. 205145)
5. 27 日本麻酔科学会麻酔指導病院認定
6. 9 結核予防法による医療機関の指定(指定番号 1572)
6. 30 母子保健法による未熟児養育医療担当機関の指定(群馬県指令保福第6号)(未熟児収容定員 20人)
7. 1 生活保護法による医療機関の指定(勢医 68号)
10. 1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される(認定期間 1982年7月1日より 1987年6月30日)
10. 12 身体障害者福祉法指定医(障第 141号) 松山四郎、小泉武宣、清水信三
12. 1 基準給食承認(食第 104号)
- 58年 1. 1 基準看護(特2類)(看護 47号)、基準寝具(寝第 127号)承認
2. 1 児童福祉法による育成医療機関(心臓血管外科)指定
5. 12 身体障害者福祉法による厚生医療担当医療機関(心臓血管外科)指定
3. 23 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令(医)第 206号)病床数及び従業員数の変更
3. 30 病院施設使用許可(医第 213号)病床増に伴うもの(98床)
5. 1 基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認(群馬県指令保第 51号)基準看護(特2類)、給食、寝具(98床)
7. 1 重症者の看護及び重症者の収容基準実施承認(群馬県指令保第 55号)看護 3床
8. 1 同 上(群馬県指令保第 62号)看護 7床、収容 2床
- 59年 3. 29 群馬県小児医療センター建設事業基金条例の廃止
4. 1 群馬大学医学部小児科学生臨床実習指定病院
4. 11 県立福祉大学校看護学科看護婦養成所の実習施設に指定
- 60年 5. 1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
- 61年 3. 1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
認定期間 1986年3月1日～1991年2月28日(認定番号 105号)
4. 1 全国自治体病院協議会群馬県支部長として神邊 譲 就任
5. 1 紹介型病院承認(許可番号(紹)第 1号)
8. 1 在宅酸素療法指導管理届出の受理(保第 810号)
9. 10 昭和 61年度全国自治体病院協議会関東地方会議主催(支部長 神邊 譲)
- 62年 3. 1 児童福祉法による育成医療機関(小腸に関する医療)指定
6. 1 在宅中心静脈栄養法指導管理届出の受理(保第 659号)
- 63年 4. 1 在宅経管栄養法指導管理実施届出の受理(保第 393号)
- 〃 基準看護(外科特3類)の承認(棟看第 1号)
5. 1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
7. 1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間 1987年7月1日～1992年6月30日
8. 1 基準看護(外科特3類→特2類)の承認
- 平成元年 2. 1 臨床修練(小児疾患)指定病院(厚生省収健政第20号)(外国医師又は外国歯科医師)
3. 1 基準看護(外科特3類)の承認(棟看第 1号)
- 2年 2. 1 在宅自己導尿指導管理実施届出の受理
7. 1 紹介外来型病院の指定(厚生省収保第 1006号)
- 3年 3. 1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定

- 認定期間平成3年3月1日～平成8年2月29日(認定番号105号)
- 5.1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
 - 4年7.1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間1993年7月1日～1998年6月30日
 - 5年4.1 2代目院長として松山四郎 就任
〃 無菌調剤処理施設基準承認(菌)第7号
 - 10.1 基準看護内科外科特3類(棟看第1号)、未熟児・新生児特2類(棟看第47号)の承認
〃 在宅人工呼吸指導管理実施届出の受理(保第1762号)
 - 6年5.1 保険医療機関指定(勢医1014)
 - 8.1 基準看護承認特3類3病棟98床(看)第1号(特3)
 - 9.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(内科、外科各2床)
 - 10.1 新看護等の基準に係る届出、一般病棟3病棟98床(看第5号(2対1A))
 - 7年7.20 身体障害者福祉法指定医(障第110号)鈴木則夫・丸山健一・重田 誠
 - 8.1 更生医療担当医療機関指定(障第111号)
 - 11.1 夜間勤務等看護に係る届出(保第1926号)(夜看I・II)
 - 8年3.1 入院時食事療養等届(特別管理・適時適温)(保第416号)
 - 4.1 3代目院長として土田嘉昭 就任
〃 新看護等(夜間勤務等看護)に係る届出(夜看)第24号(I a-3)
〃 画像診断管理の施設基準に係る届出
〃 手術前医学管理料に係る届出(手前管)第32号
 - 11.1 院内感染防止対策に係る届出(感防)第89号
 - 9年5.1 麻酔管理料に係る届出(麻管)第18号
 - 5.2 日本形成外科学会認定医制度教育関連施設として認定(登録番号97-321U)
 - 5.26 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保第45号)
病床数の変更(内科病棟40床、外科病棟28床)
 - 9.17 身体障害者福祉法指定医(障第151号)設楽利二・小林富夫
 - 12.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(重第38号)内科2床増
 - 10年4.1 無菌治療室管理の施設基準に係る届出
 - 7.1 新生児特定集中治療室管理の施設基準に係る届出(新)第3号
 - 11年3.5 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第230号)外来棟増築
 - 6.1 経皮的冠動脈形成術の施設基準に係る届出(経形)第26号
 - 11.1 ペースメーカー移植術の施設基準に係る届出(ペ)第47号
〃 大動脈バルーンパンピング法の施設基準に係る届出(大)第28号
 - 11.15 病院開設許可事項の一部変更許可(群馬県指令医第217号)
病棟間の病床数の変更(外科病棟28床→30床 未熟児・新生児病棟30床→28床)
〃 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)篠原 真
 - 12.1 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出(理Ⅱ)第72号
 - 12年1.1 経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準に係る届出(経ス)第25号
〃 経皮的冠動脈血栓切除術の施設基準に係る届出(経切)第24号
 - 3.1 夜間勤務等看護に係る届出(平成12年3月1日における病棟間の病床数移動による届出)(夜看)第75号
 - 4.1 検体検査管理加算(I)の施設基準に係る届出(検I)第7号
 - 5.1 保険医療機関の指定(勢医1014)
 - 11.22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)丸山憲一
 - 13年1.21 日本小児科学会認定制度施設として認定される

- 認定機関 2001 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日 (認定番号 105 号)
- 3. 23 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 145 号) 前田昇三
 - 14年 4. 1 1 歳未満の乳児に対する手術に係る届出 (乳外) 第 1 号
 - 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
 - 7. 19 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
 - 病床数の変更 (内科病棟 40 床→45 床)
 - 7. 26 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 西村秀子
 - 10. 1 医療安全管理体制及び褥瘡対策の基準に係る届出 (群社局文発第 1579 号)
 - 11. 22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-15) 平形恭子
 - 11. 27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-108 号)
 - 病棟間の病床数の変更 (内科病棟 45 床→44 床、外科病棟 27 床→28 床)
 - 15年 1. 14 開設許可事項一部変更届 (標榜科目の変更)
 - 4. 1 診療科目 (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科に循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科を加える)・病床数 (98 床→103 床) の変更
 - 8. 1 児童福祉法による育成医療機関 (中枢神経に関する医療) 指定
 - 16年 2. 26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-169 号)
 - 新病棟の建設、旧病棟の用途変更、一般病床の増加 (103 床→150 床)
 - 4. 1 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る届出 (褥) 第 20 号
 - 〃 尿道形成手術等に関する施設基準に係る届出 (2 エ) 第 17 号
 - 〃 肝切除術等に関する施設基準に係る届出 (2 カ) 第 28 号
 - 〃 食堂切除再建術等に関する施設基準に係る届出 (3 カ) 第 22 号
 - 〃 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (電池交換を含む。)に関する施設基準に係る届出 (ペース) 第 56 号
 - 〃 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術に関する施設基準に係る届出 (冠動) 第 3 号
 - 〃 1 歳未満の乳児に対する手術に関する施設基準の届出 (加乳外) 第 1 号、(乳外) 第 2 号
 - 5. 1 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入 1) 第 5 号
 - 5. 27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-34 号) 本館の一部構造等変更
 - 6. 1 言語聴覚療法Ⅲの施設基準に係る届出 (言語Ⅲ) 第 2 号
 - 7. 20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 渡辺美緒
 - 8. 9 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号) 本館の一部構造等変更
 - 11. 20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-16) 村松礼子
 - 11. 1 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 (小入 2) 第 16 号
 - 12. 2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-121 号) 本館の一部構造等変更
 - 17年 3. 1 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-160 号)
 - 4. 1 4 代目院長として林 泰秀 就任
 - 〃 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 増床 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (小入 1) 第 5 号
 - 〃 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 増床 (小入 2) 第 16 号
 - 〃 夜間勤務等看護加算 1 の辞退 (夜勤看) 第 127 号
 - 〃 新生児特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 増床 (新) 第 3 号

- 5. 1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科の9科に、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の5科を加え14科とする)
 - // 保険医療機関指定申請 (歯科)
 - // 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出産科 (一般入院) 第 102 号
 - // 総合周産期特定集中治療室管理料施設基準に係る届出 (周) 第 2 号 (新生児特定集中治療室管理料の辞退を含む)
- 5. 2 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出 (医師・PT の変更) (理Ⅱ) 第 72 号
- 6. 1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の14科に、精神科を加え15科とする)
 - // 保険医療機関記載事項変更届 (精神科)
 - // 一般病棟 I 群入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 7. 14 褥瘡患者管理加算届出 (専任看護職員変更) (褥) 第 20 号
- 7. 27 身体障害者福祉法指定医 (群馬県指令障第 501-5 号) 鈴木尊裕、戸所誠
 - // 更生医療機関届出 (整形外科) 群馬県指令障第 501-6 号
- 8. 22 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-46 号) 外来診療室、病室名等の変更
- 10. 1 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (集) 第 13 号
- 18年 1. 1 療養環境加算の施設基準に係る届出 (療) 第 58 号
- 1. 24 無菌製剤処理加算の施設基準に係る届出クリーンベンチ増設 (菌) 第 7 号
- 2. 1 重症者療養環境特別加算に係る届出 変更 (重) 第 38 号
 - // 自立支援医療に係る指定自立支援医療機関の指定
- 3. 2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-139 号)
病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の設置)
- 3. 31 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-164 号)
病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の撤去)
- 3. 29 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-171 号)
病院施設の一部構造等変更 (言語聴覚室)
- 4. 1 補綴物維持管理料 (補維) 第 1033 号
 - // 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (4 → 6) (集) 第 13 号
 - // 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準届出 (通手) 第 54 号
 - // 小児入院医療管理料 1 の施設基準届出 (小入 1) 第 5 号
 - // 小児入院医療管理料Ⅱ (第 1 病棟・新生児未熟児病棟) の施設基準届出 (小入 2) 第 16 号
 - // 一般病棟 7 対 1 入院基本料に係る施設基準届出 (一般入院) 第 102 号
 - // 栄養管理実施加算に係る施設基準の届出 (栄養管理) 第 116 号
 - // 単純 CT 撮影及び単純 MRI の施設基準の届出 (単) 第 56 号
 - // 運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (運Ⅰ) 第 59 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準の届出 (脳Ⅱ) 第 70 号
 - // 呼吸器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (呼) 第 29 号
 - // 歯科疾患総合指導料Ⅰの施設基準の届出 (歯総指) 第 614 号
- 5. 1 保険医療機関及び保険薬局の更新について (群社局文発 815 号)

- 7.20 身体障害者福祉法指定医指定願(群馬県指令障第 30057-2 号)
- 7.21 医療安全対策加算に係る施設基準の届出(医療安全)第 17 号
- 8.23 指定自立支援医療機関(精神通院医療)の指定手続き(保予第 30023-12 号)
- 9.29 運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準に係る医師及び作業療法士の追加届出(運Ⅰ)第 59 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準に係る作業療法士の追加届出(脳Ⅱ)第 70 号
- 10.2 診療録管理体制加算に係る施設基準の届出(診療録)第 38 号
- 11.20 ハイリスク分娩管理加算に係る施設基準の届出(ハイ分娩)第 10 号
- 19年 2.28 指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)の指定通知について(障第 30052-13 号)
 - 4.1 病院開設届出事項一部変更届(標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科、精神科の 15 科に、整形外科を加え 16 科とする)
 - 〃 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の受理(通手)第 54 号
 - 4.9 呼吸器リハビリテーション科(Ⅰ)及び医学管理料(Ⅰ)の施設基準に係る届出(医師の変更)(呼Ⅰ)第 29 号
 - 4.17 特定疾患医療給付等に関する群馬県知事との契約書について(保予第 708-2 号)
 - 〃 保険医療機関記載事項変更の届出
 - 4.23 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保福第 551-2 号)
病院施設の一部構造等変更(言語聴覚室)
 - 4.27 障害者自立支援法第 59 条第 1 項の規定による指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)指定の変更(医師の変更)障第 30052-3 号
 - 5.31 臨床研修病院入院診療加算の届出(臨床研修)第 21 号
 - 6.19 輸血管理料Ⅰの届出(輸血Ⅰ)第 8 号
 - 7.18 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る専任看護師の変更届出(褥)第 20 号
 - 7.27 栄養管理加算の施設基準に係る管理栄養士の変更届出(栄養管理)第 116 号
 - 8.10 麻酔管理料の施設基準に係る常勤の麻酔科標榜医の変更届出(麻管)第 18 号
 - 〃 診療録管理体制加算の施設基準に係る診療記録管理者変更の届出(診療録)第 38 号
 - 〃 大動脈バルーンパンピング法(IABP)の施設基準に係る医師の変更届出(大)第 28 号
 - 〃 ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術の施設基準に係る医師の変更届(ペ)第 47 号
 - 10.31 生活保護法指定医療機関指定申請書(歯科)健福第 839-31 号
 - 11.20 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第 166-77 号)
病院施設の一部用途等変更(医薬品情報管理室)
 - 11.30 薬剤管理指導料の届出(薬)第 118 号
- 20年 1.22 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第 166-96 号)
病院施設の一部名称及び用途等変更(無菌製剤室ほか 39 室)
 - 4.1 電子化加算の施設基準に係る届出(電子化)第 1362 号
 - 〃 妊産婦緊急搬送入院加算の施設基準に係る届出(妊産婦)第 21 号
 - 〃 医療安全対策加算の施設基準に係る(医療安全)第 17 号
 - 〃 ハイリスク妊娠加算の施設基準に係る届出(ハイ妊娠)第 26 号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出(ハイ分娩)第 19 号

- 4. 1 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入) 第 20 号
- 〃 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る届出 (機安 1) 第 32 号
- 〃 検体検査管理加算 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (検Ⅱ) 第 70 号
- 〃 検体検査管理加算 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (検Ⅰ) 第 7 号
- 〃 遺伝カウンセリング加算の施設基準に係る届出 (遺伝カ) 第 1 号
- 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
- 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る届出 (菌) 第 51 号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 31 号
- 〃 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
- 20年 5. 12 障害児 (者) リハビリテーションの施設基準に係る届出 (障) 第 7 号
- 6. 16 医療機能評価 (Ver.5.0) 認定 認定番号: 第 JC1509 (2008/6/16~2013/6/15)
- 6. 27 障害者自立支援法第 59 条第 1 号の規程による指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療) の指定の変更届出 (障第 30052-4 号)
- 6. 30 一般病棟入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 〃 小児入院医療管理料 1 の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
- 〃 小児入院医療管理料 3 の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
- 7. 29 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく医師の指定について (障第 30057-1 号)
- 8. 1 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
- 8. 15 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
病院施設の一部構造及び用途等変更 (歯科外来の拡張)
- 9. 1 小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (保育士設置) (小入 3) 第 16 号
- 9. 12 診療用エックス線装置に係る届出事項の変更の届出
エックス線装置 (透視・直接撮影 (診断用)) の更新
- 10. 1 心臓 MRI 撮影加算の施設基準に係る届出 (心臓 M) 第 7 号
- 11. 26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-91 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 2、第二病棟授乳室)
- 21年 1. 1 小児食物アレルギー負荷検査の施設基準に係る届出 (小検) 第 11 号
- 〃 小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
- 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
- 3. 26 指定自立支援医療機関の主として担当する医師の変更について (障第 30052-16 号)
- 4. 1 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ分娩) 第 19 号
- 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
- 7. 29 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 10. 1 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る届出 (外来環) 第 97 号
- 12. 7 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-3 号)
- 22年 4. 1 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出 (病初診) 第 14 号
- 〃 障害者歯科医療連携加算の施設基準に係る届出 (障連) 第 3 号
- 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る届出 (医管) 第 155 号
- 〃 一酸化窒素吸入療法の施設基準に係る届出 (NO) 第 3 号
- 〃 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
- 5. 1 神経学的検査の施設基準に係る届出 (神経) 第 26 号
- 6. 30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-39 号)

- 病院施設の一部構造等変更 (第三病棟)
10. 1 胎児心エコー法の施設基準に係る届出 (胎心エコー) 第 6 号
10. 20 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号)
病院施設の一部構造等変更 (新生児未熟児病棟)
11. 1 医師事務作業補助体制加算の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 27 号
11. 24 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 23年 4. 1 HPV 核酸同定検査の施設基準に係る届出 (HPV) 第 72 号
 // がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る届出 (がん疼) 第 50 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (新 1) 第 3 号
5. 23 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-17 号)
病院施設の一部構造等変更 (本館 2 階・3 階増築)
6. 1 心大血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
10. 13 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-79 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 3)
11. 1 冠動脈 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (冠動 C) 第 12 号
 // 感染防止対策加算の施設基準に係る届出 (感染防止) 第 14 号
12. 12 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 24年 2. 1 新生児治療回復室入院医療管理料の施設基準に係る届出 (新回復) 第 3 号
4. 1 CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る届出 (C・M) 第 230 号
 // 大腸 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (大腸 C) 第 10 号
 // 心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) 初期加算の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
 // 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
 // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 // 救急搬送患者地域連携紹介加算の施設基準に係る届出 (救急紹介) 第 33 号
 // 救急搬送患者地域連携受入加算の施設基準に係る届出 (救急受入) 第 57 号
 // 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
5. 1 保険医療機関の指定 (勢医 1014)
6. 1 輸血管理料Ⅰの施設基準に係る届出 (輸血Ⅰ) 第 17 号
9. 1 先進医療に係る届出 (急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的 PCR 法による骨髄微小残存病変 (MRD) 量の測定) (先-195) 第 1 号
 // データ提出加算 1 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
10. 1 登録医制度開始
 // データ提出加算 2 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
 // 先進医療に係る届出 (胸腔鏡下動脈管開存症手術) (先 166) 第 1 号
11. 1 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 66 号
11. 12 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-71 号)
病院施設の一部用途変更 (PICU 説明室等)
11. 26 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-5 号)
- 25年 1. 1 造血器腫瘍遺伝子検査の施設基準に係る届出 (血) 第 13 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 138 号

- 2.24 電子カルテ稼働開始
- 4.1 保険医療機関届出事項変更届(開設者の変更)
 - 〃 医師事務作業補助体制加算(40対1)の施設基準に係る届出(事務補助)第42号
 - 〃 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第18号
- 5.14 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出(感染防止)第15号
- 6.7 病院機能評価(Ver.6.0)認定 認定番号: 第JC1509-2号(2013/6/16~2018/6/15)
- 8.5 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について(障第501-2号)
- 9.5 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-49号)
 - 本館第二病棟(外科)の増改築工事に伴う病棟各施設の変更
- 10.1 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第18号
- 11.11 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について(障第501-4号)
- 11.22 診療用エックス線装置等変更届出
- 26年 1.1 麻酔管理料(II)の施設基準に係る届出(麻管II)第6号
- 2.17 第二病棟(外科)改修及び増築工事着工
- 3.5 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-114号)
 - 本館地下1階及び地上1階の用途変更
- 4.1 5代目院長として丸山健一 就任
 - 〃 病院開設届出事項等一部変更届(管理者の変更)
 - 〃 DPC対象病院に参加
 - 〃 医師事務作業補助体制加算1(40対1)の施設基準に係る届出(事補1)第8号
 - 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る届出(脈動開)第1号
 - 〃 輸血管理料IIの施設基準に係る届出(輸血II)第48号
 - 〃 輸血管理料Iの施設基準に係る辞退届(輸血I)第17号
- 4.28 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者変更の届出(外来環)第97号
 - 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者変更の届出(歯特連)第3号
 - 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(医管)第155号
- 5.9 医療安全対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出(医療安全1)第17号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
 - 〃 薬剤指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(薬)第118号
 - 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出(菌)第51号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(心I)第7号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳II)第138号
 - 〃 運動器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(運I)第20号
 - 〃 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
 - 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
- 7.28 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について(障第501-2号)
- 8.1 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
 - 〃 感染防止対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出(感染防止1)第15号
- 10.1 新生児特定集中治療管理料1の施設基準に係る届出(新1)第3号

- 10. 1 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 10. 22 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-5 号)
第二病棟 (外科) の増築部分等
- 11. 25 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
- 11. 26 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留
邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (医科) の
指定 (群医 276) (健福第 30236-15 号)
 - 〃 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留
邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (歯科) の
指定 (群歯 185) (健福第 30236-15 号)
- 11. 28 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - 〃 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 6 号
- 12. 10 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保
予第 30149-2 号)
- 12. 11 診療用エックス線装置等変更届出
- 12. 24 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
 - 〃 難病の患者に対する医療等に関する法律第 14 条第 1 項に規定する指定医療機関
の指定 (保予第 30327-1 号)
 - 〃 児童福祉法第 19 条の 9 第 1 項の規定に基づく指定小児慢性特定疾病医療機関 (医
科) の指定 (保予 30018-1 号)
 - 〃 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医の指定 (医
科) の指定 (保予第 300019-1 号)
- 27 年 1. 1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 6 号
- 1. 20 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心
I) 第 7 号
- 1. 23 第二病棟 (外科) 改修及び増築工事完成
- 1. 30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-117 号)
本館 1 階の用途変更
- 4. 1 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - 〃 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
- 5. 1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 7 号
- 5. 15 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
 - 〃 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (機安 1) 第 32 号
 - 〃 胎児心エコー法の施設基準に係る従事者変更の届出 (胎心エコー) 第 6 号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心
I) 第 7 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳
II) 第 138 号
 - 〃 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第
20 号

- 5.15 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
 - // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 7.30 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく指定医の指定 (障第 501-3 号)
- 10.9 診療用エックス線装置等変更届出
- 11.18 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-80 号)
本館外来棟の増改築工事に伴う施設の変更
- 12.4 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - // 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 7 号
- 28年 1.1 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る届出 (がんリハ) 第 33 号
 - // CAD / CAM 冠の施設基準に係る届出 (歯 CAD) 第 540 号
- 1.25 診療用エックス線装置等変更届出
- 2.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 7 号
- 3.1 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
 - // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
- 3.29 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医 (医科) の指定 (保予第 30334-25 号)
- 3.31 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保予第 30326-72 号)
- 4.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 8 号
- 6.2 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - // ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - // 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 7.1 遺伝学的検査の施設基準に係る届出 (遺伝検) 第 2 号
- 7.8 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
 - // 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (菌) 第 51 号
 - // 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
 - // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 10.1 医師事務作業補助体制加算 1 (40 対 1 補助体制加算) の辞退届 (事補 1) 第 8 号
 - // 医師事務作業補助体制加算 2 (40 対 1 補助体制加算) の施設基準に係る届出 (事補 2) 第 58 号

- 11. 4 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る届出(施設基準変更に伴う経過措置)(集3)第13号
- 11. 7 一般病棟入院基本料(7対1)の施設基準に係る届出(施設基準変更に伴う経過措置)(一般入院)第102号
- 12. 7 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-65号)
本館外来棟増築工事
- 12. 27 病院施設使用許可(群馬県指令医第551-14号)
歯科レントゲン室
- 29年 3. 27 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-111号)
建物構造等の一部変更(用途変更)
- 3. 28 本館外来棟増改築工事完成
- 6. 1 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る届出(造設前)第36号
- 7. 3 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ妊娠)第26号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 〃 医療安全対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出(医療安全I)第17号
- 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(新1)第3号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(心I)第7号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳II)第138号
- 〃 運動器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(運I)第20号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
- 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
- 〃 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第18号
- 〃 麻酔管理料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管II)第8号
- 〃 感染防止対策加算1の施設基準に係る連携医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 7. 31 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号
- 〃 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者等変更の届出(外来環)第97号
- 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者等変更の届出(歯特連)第3号
- 〃 歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)の施設基準に係る従事者等変更の届出(医管)第155号
- 8. 1 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(30対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
- 8. 29 胎児心エコーの施設基準に係る従事者変更の届出(胎心エコー)第6号
- 11. 15 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(新1)第3号
- 12. 25 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 30年 1. 4 診療用エックス線装置等変更届出
- 1. 10 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号

- 1.24 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳Ⅱ)第138号
 - 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
 - 〃 麻酔管理料(Ⅰ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅰ)第18号
 - 〃 麻酔管理料(Ⅱ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅱ)第8号
 - 〃 小児入院管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(小入1)第20号
 - 〃 入院時生活療養(Ⅰ)の施設基準に係る一部業務委託の導入・従事者変更の届出(食)第104号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(心Ⅰ)第7号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(脳Ⅱ)第138号
 - 〃 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(運Ⅰ)第20号
 - 〃 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(呼Ⅰ)第29号
 - 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(障)第7号
 - 〃 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(がんリハ)第33号
- 3.1 重症者等療養環境特別加算の施設基準の辞退届(重)第38号
- 3.14 CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る区分変更(64列以上→16列以上64列未満)の届出(C・M)第230号
- 4.1 6代目院長として外松学 就任
 - 〃 病院開設届出事項等一部変更届(管理者の変更)
 - 〃 医療安全対策地域連携加算Ⅰの施設基準に係る届出(医療安全1)第17号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出(感染防止1)第15号
- 4.26 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者、専用施設面積、機材変更の届出(集3)第13号
 - 〃 診療録管理体制加算2の施設基準に係る従事者変更の届出(診療録)第38号
- 5.1 麻酔管理料(Ⅱ)の辞退届
 - 〃 保険医療機関の指定(関厚発)第77号
- 5.11 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(40対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
 - 〃 感染防止対策加算Ⅰの施設基準に係る従事者及び連携保険医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 5.31 麻酔管理料(Ⅰ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅰ)第80号
- 7.1 後発医薬品使用体制加算1の施設基準に係る届出(後発使1)第47号
 - 〃 乳腺炎重症化予防ケア・指導料に係る施設基準に係る届出(乳腺ケア)第14号
- 8.3 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(30対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
 - 〃 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 9.1 骨髄微小残存病変量測定の施設基準に係る届出(骨残測)第2号
 - 〃 医師事務作業補助体制加算1に係る施設基準に係る届出(事補1)第35号(加算2からの区分替え)

- 9.1 レーザー機器加算の施設基準に係る届出(手光機)第165号
- 〃 口腔粘膜措置の施設基準に係る届出(口腔粘膜)第184号
- 10.1 歯科外来診療環境体制加算2の施設基準に係る届出(外来環2)第97号
- 〃 急性期一般入院基本料1の施設基準に係る届出(一般入院)第102号
- 〃 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出(病初診)第14号
- 11.1 患者サポート体制充実加算の施設基準に係る届出(患サポ)第71号
- 〃 ヘッドアップティルト試験の施設基準に係る届出(ヘッド)第19号
- 12.5 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
- 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ妊娠)第26号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 12.28 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出(造設前)第36号
- 31年1.3 ペースメーカー及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出(ペ)第47号
- 〃 大動脈バルーンパンピング(IABP法)の施設基準に係る従事者変更の届出(大)第28号
- 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 3.11 遺伝学的検査の施設基準に係る一部検査委託機関の追加の届出(遺伝検)第2号
- 4.24 病院開設許可事項一部変更許可(2階産科病棟多目的室室名変更)
- 令和元年6.3 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
- 7.5 大動脈バルーンパンピング(IABP法)の施設基準に係る従事者変更の届出(大)第28号
- 〃 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出(造設前)第36号
- 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 〃 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出(ペ)第47号
- 〃 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出(薬)第118号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(心I)第7号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳II)第138号
- 〃 運動器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(運I)第20号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
- 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
- 〃 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(がんリハ)第33号
- 8.29 骨髄微小残存病変量測定 of 施設基準に係る従事者及び当該検査を委託する施設の変更の届出(骨残測)第2号
- 10.30 CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る撮影機器及び安全管理責任者の変更の届出(C・M)第230号
- 〃 心臓MRI撮影加算の施設基準に係る撮影機器変更の届出(心臓M)第7号
- 12.1 後発医薬品使用体制加算1の辞退届

- 12.26 CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る区分変更の届出(C・M)第230号
- 2年2.28 病院開設許可事項一部変更許可(地下1階 薬剤部事務室、医薬品情報管理室及び薬剤部倉庫 室名変更)
- 3.11 診療用エックス線装置等変更届出
- 4.1 全国自治体病院協議会群馬県支部長として外松 学 就任
 - 〃 歯科麻酔管理料の施設基準に係る届出(歯麻管)第1号
 - 〃 小児運動器疾患指導管理料の施設基準に係る届出(小運指管)第6号
 - 〃 先天性代謝異常症検査の施設基準に係る届出(先代異)第6号
 - 〃 ウイルス・細菌核酸多項目同時検出の施設基準に係る届出(ウ細多同)第1号
- 5.18 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
 - 〃 医療安全対策地域連携加算Iの施設基準に係る連携医療機関変更の届出(医療安全1)第17号
- 7.31 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
- 3年1.1 入退院支援加算3の施設基準に係る届出(入退支)第105号
- 3.1 植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)の施設基準に係る届出(除心)第3号
 - 〃 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)(両除心)第3号
 - 〃 両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)の施設基準に係る届出(両ぺ心)第1号
- 4.1 胎児輸血術の施設基準に係る届出(胎輸)第1号
 - 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る辞退の届出
- 5.6 歯科麻酔管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(歯麻管)第1号
- 7.30 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
- 10.1 遺伝カウンセリングの施設基準に係る届出(遺伝カ)第5号
- 11.1 医師事務作業補助体制加算1の施設基準に係る配置基準の変更の届出
- 4年1.1 医師事務作業補助体制加算1の施設基準に係る配置基準の変更の届出(事補1)第35号 40対1→30対1
 - 2.1 医師事務作業補助体制加算1の施設基準に係る配置基準の変更の届出(事補1)第35号 30対1→40対1
 - 4.1 新型コロナウイルス感染症重点医療機関に係る指定(感疾第4-9号)
 - 〃 無心体双胎焼灼術の施設基準に係る届出(無心)第1号
 - 〃 特定集中治療室管理料3リハビリテーション加算の施設基準に係る届出(集3)第13号
 - 〃 感染対策向上加算1の施設基準に係る届出(感染対策1)第10号
 - 〃 小児入院医療管理料1「注5」加算、「注7」加算の施設基準に係る届出(小入1)第20号
 - 〃 特定集中治療室管理料3「注1」加算の施設基準に係る届出(集3)第13号
 - 〃 抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体の施設基準に係る届出(AAV9)第1号
 - 6.1 医師事務作業補助体制加算1の施設基準に係る配置基準の変更の届出(事補1)第35号 40対1→25対1
 - 6.10 歯科麻酔管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(歯麻管)第1号
 - 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る届出(歯特連)第26号
 - 7.1 胃瘻造設時嚥下機能評価加算の施設基準に係る届出(胃瘻造嚥)第45号
 - 10.1 急性期一般入院基本料1の施設基準に係る届出(一般入院)第102号
 - 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る届出(集3)第13号

- 10. 1 地域医療体制確保加算の施設基準に係る届出 (地医確保) 第 16 号
- 5 年 1 . 1 在宅経肛門的自己洗腸指導管理料の施設基準に係る届出 (在洗腸) 第 3 号
- 2 . 1 25 対 1 急性期看護補助体制加算 (看護補助者 5 割未満) (看護補助体制充実加算を含む) の施設基準に係る届出 (急性看補) 第 78 号

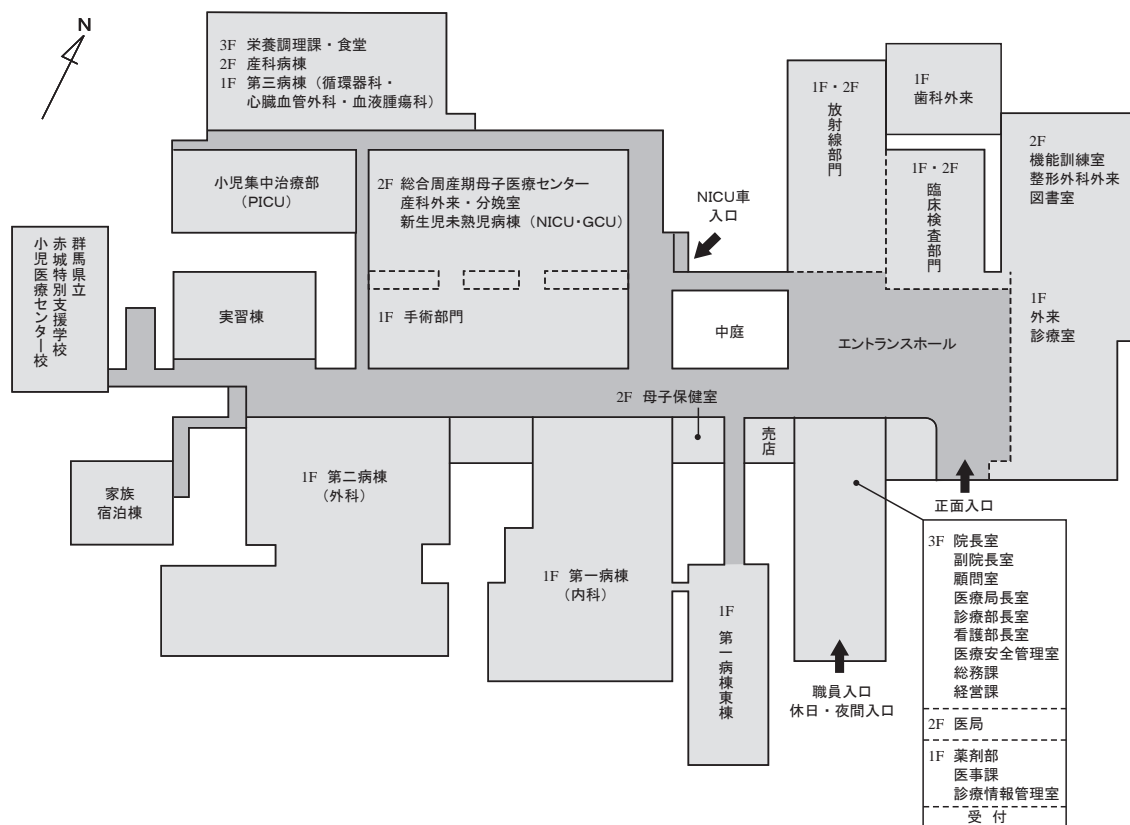
2. 施設

(1) 敷地・建物の面積

敷地		53,031.42㎡
本館	鉄筋コンクリート地下1階地上3階建	18,441.17㎡
看護師宿舎	鉄筋コンクリート地上4階建	1,170.28㎡
職員宿舎	鉄筋コンクリート地上2階建	379.61㎡
実習棟	鉄筋コンクリート地上2階建	485.00㎡
家族宿泊棟	鉄筋プレハブ平屋建	200.00㎡

(2) 病棟構成並びに建物配置図

階	病棟名	設置病床数(令和4年4月1日現在)
2階	新生児未熟児病棟	33床
2階	産科病棟	18床
1階	第一病棟	32床
1階	第二病棟	29床
1階	第三病棟	30床
1階	小児集中治療部	8床
	合計	150床



(3) 施設・設備の設置状況

(単位：千円)

区 分	事業費	年 次 別 内 訳					
		54	55	56	57	58	59
本 館	8,253,546		911,600	1,914,690		追加工事 医療ガス 配管工事等 2,857	純水製造 装置 13,525
看護師宿舎	375,519			18,653		上水槽配管 保温工事 697	
職員宿舎	120,948			73,180		273	
実 習 棟	192,044						
家族宿泊棟	43,575						
設 計	280,322	本館 64,850	本館 8,646	本館 17,354			
			宿舎 6,150				
外構工事等	280,322			494,829	追加工事 駐車場等 1,659	追加工事 植栽等 2,118	フェンス 180
敷 地	627,845	290,000		67,328		191,228	
医 療 機 器	625,643			502,748	760,940	2,732	18,309
備 品	10,068,276			27,948	31,147		
電話設置等	405,758			債権 870	ポケットベル 加入保証金 200		
				22,591			
工事事務費	5,202		1,394	3,536			
合 計	21,021,269	354,850	927,790	3,121,618	793,946	199,905	32,014

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	60	61	62	63	元	2	3
本 館	照明工事等 1,605	11,923		塩酸等貯留 槽 4,001			
看護師宿舎			クーラー 10,093				
職員宿舎			クーラー 2,883				
実 習 棟							
家族宿泊棟							
設 計		390	クーラー 700				
外構工事等	定着液保留 槽 362	駐車場舗装 等 2,331	植栽工事等 3,496	フェンス 570			
敷 地							
医 療 機 器	24,160	11,983	12,000	52,400	213,936	211,120	100,094
備 品	2,839	2,924	3,000		4,619	9,995	6,660
電話設置等							
工事事務費							
合 計	28,966	29,551	32,172	56,971	218,555	221,115	106,754

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	4	5	6	7	8	9	10
本 館	放射線棟 増築等 385,667	調理室冷房 増設等 49,247	冷凍機 更新工事等 42,035	屋上防水 工事等 12,087	冷凍機 更新工事等 75,767	中央監視 装置更新等 83,192	外来棟増設 353,619
看護師宿舎	田口住宅 124,364	改築 204,479					
職 員 宿 舎		一部改築 44,338					
実 習 棟					192,044		
家族宿泊棟							
設 計		職員宿舎等 14,420		実習棟 4,900		外来棟 15,120	
外構工事等	駐車場舗装 等 8,918	外構舗装 927		駐車場舗装 等 24,291			
敷 地	77,087						
医 療 機 器	106,149	733,654	87,173	113,753	190,495	186,144	121,241
備 品					43,394		6,369
	8,817	5,995	9,973	8,000	実習棟分 3,986	7,780	外来棟分 2,051
電話設置等	電話加入権 975	電話加入権 3,195	電話加入権 900	院内ポケベル システム更新 10,155	コードレス増設 3,018 電話加入権 450		
工事事務費	272						
合 計	712,249	1,056,255	140,081	173,186	509,154	292,236	483,280

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	11	12	13	14	15	16	17
本 館	ボイラー 純水装置 28,350	受水槽 更新工事等 20,822	R-2 冷却塔 更新工事等 14,049	内科病棟 増築工事等 24,885	新病棟建築 工事等 18,726 非常用自家 発電機整備 11,000	新病棟建築 工事等 2,417,398	
看護師宿舎							
職員宿舎							
実 習 棟							
家族宿泊棟	43,575						
設 計			内科病棟増 築 5,775	内科外科病 棟等改修 745	新病棟建築工 事実施設計 54,600		外構工事 (電気工事を 含む) 1,659
外構工事等							駐車場舗装等 55,293 駐車場電気 4,809
敷 地							
医 療 機 器	104,808	114,158	129,964	109,703	87,716	1,048,076	328,243
備 品	4,996	9,000	5,390	3,271	2,715	82,548	4,968
電話設置等					コードレス交 換機更新 2,346		
工事事務費							
合 計	181,729	143,980	155,178	138,604	177,103	3,548,022	394,972

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	18	19	20	21	22	23	24
本 館	集塵配管更新工事 5,985	PICUトランス増設工事 3,780	歯科改修工事 10,133		新生児病棟改修 150,433	管理棟増築建築工事 22,827	冷凍機更新工事 22,869
		新システムLAN配線 10,448			薬剤クリーンルーム空調 3,360	管理棟増築機械設備工事 4,641	電源設備改修・電気供給設備工事 58,992
看護師宿舎							
職員宿舎							
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計		歯科改修 735			新生児病棟改修 9,229		電気・空調設備改修 2,310
					管理棟改修 1,785		
外構工事等							
敷 地							
医 療 機 器	53,102	233,517	336,857	175,807	358,277	301,860	289,256
備 品	4,613	4,851	5,241	4,934	4,971	6,423	5,000
電話設置等							
工事事務費							
合 計	63,700	253,331	352,231	180,741	528,055	335,751	378,427

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	25	26	27	28	29	30	元
本 館	冷凍機(R-1)更新工事 50,400	外科病棟改修及び増築工事 302,357	変電設備更新工事 5,378	外来棟増築及び改修等工事 547,408	エントランスホール屋上防水改修 5,368	放射線棟ほか屋上防水改修工事 14,861	新生児未熟児棟ほか屋上防水改修工事 34,804
	外科病棟改修及び増築工事 32,000	変電設備更新工事 11,146	ピット配管等改修工事 29,117		第二病棟ピット配管工事 20,044	B棟受水槽全目地補修工事 7,560	非常用放送設備アンプ更新工事 35,167
	NICU バックアップ空調設置 12,285		第一病棟東棟空調改修工事 7,398		B棟漏電警報器設置工事 9,537	第一病棟病室ほか床張り替え工事 2,106	第1変電室制御用整流器交換工事 18,837
					中央滅菌材料室機器配線等工事 2,043		排煙用トップライト改修工事 15,785
看護師宿舎			エアコン設置工事 2,783		熱源等改修工事 14,450		
職員宿舎			エアコン設置工事 274				
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計	冷凍機(R-1)更新工事 1,029		外来棟増築及び改修等工事 34,744			設備改修工事 2,700	第1変電室トランス更新工事 3,672
	外科病棟改修及び増築工事 21,384						
外構工事等					駐車場舗装等 28,062		
敷 地							
医療機器	169,184	227,313	301,794	353,450	199,226	501,696	404,903
備 品	4,987	5,000	4,939	10,654	20,276	7,130	6,953
電話設置等							
工事事務費							
合 計	291,269	545,816	386,427	911,512	299,006	536,053	520,121

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	2	3	4	5	6	7	8
本 館	第一変電室トランス開閉器盤更新工事 3,200	第一変電室トランス開閉器更新工事(繰越分香) 209,199	中央監視設備更新工事 50,600				
	B棟加湿器更新工事 8,250	重油タンク改修機械設備工事 11,319	外壁等改修工事 42,207				
		令和3年度外壁等改修工事(繰越、前私室のみ) 11,880	外壁等修繕工事(令和3年度繰越分) 25,608				
		ナースコール更新工事 21,560	外来トイレ改修工事 15,609				
看護師宿舎							
職員宿舎							
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計	ナースコール更新工事 2,420	外科外来トイレ改修工事 1,485					
	外壁等改修工事 3,520						
外構工事等							
敷 地							
医療機器	252,986	381,598	155,751				
備 品	4,126	1,454	5,821				
電話設置等							
工事事務費							
合 計	274,502	638,495	295,596				

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(4) 付属設備

主なる付属設備一覧

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
熱源設備	ボイラー	2	炉筒煙管式ボイラー 蒸発量 3.6t/h 伝熱面積 32.9m ² 最大使用蒸気圧 1MPa 燃料 A 重油
	危険物地下タンク	1	コロッケ式 A 重油 容量 36,000L
	純水製造装置	1	MASP-100 型 処理水量 6 m ³ /h × 100 m ³ /cycle
	冷凍機	1	蒸気炊二重効用吸収式冷凍機 冷凍能力 1,407kw (400RT) 冷水 1 次ポンプ × 1 片吸込渦巻型 4,032L/min 11kw 冷却水ポンプ × 1 片吸込渦巻型 6,670L/min 45kw
		1	チリングユニット 冷凍能力 450kw 冷水 1 次ポンプ × 1 片吸込渦巻型 1,290L/min 3.7kw 冷却水ポンプ × 1 片吸込渦巻型 1,541L/min 11kw
	冷温水発生機	2	重油炊吸収式冷温水発生機 冷凍能力 703kw (200RT) 暖房能力 588kw 冷水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 2,016L/min 30kw 温水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 1,686L/min 30kw 冷却水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 3,340L/min 37kw
	冷却塔	4	角型開放超低騒音型 ①冷却能力 2,558kw × 1 送風機 5.5kw 口径 1,800mm × 3 ②冷却能力 537kw × 1 送風機 3.7kw 口径 1,600mm × 1 ③冷却能力 1,279kw × 2 送風機 3.7kw × 4 口径 1,600mm × 4
	冷水二次ポンプ	4	片吸込渦巻型 1,100L/min × 27m × 11kw
熱交換器	2	温水暖房系統シェルアンドチューブ型 加熱能力 128kw × 2 温水ポンプ × 2 渦巻型 500L/min 5.5kw	
空調設備	エアハンドリングユニット	19	水平型 × 11 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込 垂直型 × 8 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込
	バックアップ用エアコン	1	パッケージエアコン 冷房能力 80kw 暖房能 90kw 送風機 シロッコファン 255m ³ /min 1.5kw 押込ファン シロッコファン 255m ³ /min 3.7kw

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
空調設備	全熱交換機	1	床置型給排気ファン 5.5kw × 2
	外調機	13	別置き電気式 蒸気加湿器付き × 10 別置き電気式 蒸気加湿器なし × 4 水気化式 加湿器付き × 1
	ファンコイル	463	
	給気・排気ファン	59	片吸込多翼型 (うち 24 時間運転 16 台)
	エアコン等	147	冷房能力合計 1,471.6kw、暖房能力合計 1,501kw
	恒温庫ユニット	1	冷却能力 1.9kw
電気設備等	高圧受変電設備	1	本線、予備線による二系統受電 受電電圧 6.6kv 受電変圧器 × 15 4,525kVA 契約電力 1,240kW
	副高圧変電設備	2	高圧変圧器 × 5 1,750KVA + 高圧変圧器 × 2 700KVA
	非常用自家発電設備	2	水冷ディーゼルエンジン 923PS 1,500rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 750KVA ガスタービンエンジン 600PS 53,000rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 500KVA
	無停電電源装置	1	容量 100KVA × 2 3相3線式 105V-210V 鉛蓄電池 200Ah
	電気時計設備	1	パネル型水晶発信式 8 回線 子時計 30 個/1 回線
	電話交換機	1	デジタル電子交換機 最大内線 512 回線方式
	コードレス 電話交換機	1	沖デジタルコードレスシステム 120
	放送設備	1	一般放送及び非常放送 40 系統 非常電源ユニット付き
昇降設備	低速エレベーター	9	寝台用 × 4 750kg 45m/min 荷物用 × 2 750~900kg 45m/min 乗用 × 2 480~900kg 45~60m/min 乗用 850kg 45m/min
	ダムウェーター	3	B1F ~ 2F 用 B1F ~ 1F 用 100~400kg 15~30m/min
防災設備	スプリンクラー	1	900L/min × 65~75m × 18.5kw ヘッド × 1,920 流水作動弁 × 11
	屋内消火栓	1	750L/min × 50m × 15kw 放水口 × 17 補助散水栓 × 26 60L/min

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
防災設備	自働火災報知器	843	GR型アナログ式受信機(蓄積式、自動試験機能付)255回線 煙感知式×234熱作動式×486定温式×87
	排煙機	1	29,400 m ³ /min 120mmAg 15kw 排煙口×19
	ハロゲン化物消火設備	1	ハロゲン 1301 ポンベ×6本
	二酸化炭素消火設備	1	CO ₂ ポンベ 55kg×22本
	フード消火設備	2	栄養調理課厨房及び食堂厨房 強化液 3L×各1
	火災通報装置	4	表示盤機能付 一般加入電話回線による押しボタン式
	防火水槽	1	40ton
衛生設備	上水受水槽	3	42t×2 FRP製保温型 加圧給水装置 600L/min×0.38MPa×7.5kw×2 71t×1 FRP製保温型2槽式 加圧給水装置 640L/min×0.48MPa×3.7kw×4
	井水受水槽	1	320t×1 鉄筋コンクリート製 給水ポンプ 750L/min×45m×11kw×2 加圧給水装置 1,200L/min×0.34MPa×11kw×2 925L/min×0.40MPa×3.7kw×4
	深井戸ポンプ	1	800L/min×0.83MPa×18.5kw
	貯湯槽	4	蒸気加熱式 4,000L×2 60°C 温水ボイラー加熱式 6,000L×2 60°C
	温水ボイラー	2	真空式2回路式ボイラー 465kw (暖房 150kw、給湯 315kw) 伝熱面積 9.9m ² 最高使用圧力 0.49MPa
	液酸タンク	1	4,942L 供給圧力 0.43MPa
	医療用ガスポンベ	16	笑気×4本 窒素×8本
	医療用圧空・吸引機	9	コンプレッサー 630L/min×5.5kw×3台 コンプレッサー 605L/min×5.5Kw×2台 吸引ポンプ 2,333L/min×5.5Kw×4台
	合併処理浄化槽	2	長時間ばっき+接触酸化方式 汚水量 145 m ³ /日 679人槽 流量調整担体流動浮上ろ過式 汚水量 52 m ³ /日 743人槽
	薬液処理槽	1	酸及びアルカリによる連続中和+接触ばっき方式 日平均排水量 10 m ³ /日

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
衛生設備	RI 処理槽	1	BDO 分離接触ばつき+接触ばつき方式 RI 貯留法+希釈法 排水量 20 人 A系統 600L/日 B 系統 2,000L/日
	薬液処理槽	1	湿式 処理風量 19.9 m ³ -27KPa 30kw 乾式 処理風量 10.5 m ³ -38KPa 15kw

(5) 重要物品

主なる医療機器一覧

(購入価格 500 万円以上のもの)

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
薬局	散薬分包機(全自動) 調剤支援システム	Ai-8080(トーショー)	1	2016
		トーショー製調剤支援システム	1	2022
検査	ヘモクロン(血液凝固計)	コアグレックス 800(シスメックス)	1	2003
	脳波計	EEG-1518 他(日本光電)	1	2004
	誘発電位筋電図検査装置	MEB-9204(日本光電)	1	2005
	全自動生化学分析装置	JCA-BM6050(日本光電)	1	2008
	血液自動分析機	XE-5000(シスメックス)	1	2009
	脳波計	EEG-1200(日本光電)	1	2010
	全自動血液培養検査装置	VersaTREK240(コージンバイオ)	1	2011
	フローサイトメーター(自動細胞解析装置)	FACS Canto II(日本 BD)	1	2012
	凍結切片作成装置	クリオスター NX70(サーモフィッシャーサイエンティフィック)	1	2012
	超音波診断装置	Vivid E9(GEヘルスケアジャパン)	1	2012
	X線照射装置	MBR-1520A-3(日立メディコ)	1	2015
	密閉式自動固定包埋装置	ティシュー・テック VIP6(サクラファインテックジャパン)	1	2015
	全自動輸血検査装置	WADiana Compact(カインス)	1	2015
	脳波計	EEG-1218(日本光電)	1	2017
	超音波診断装置	TUS-AI900(キヤノンメディカルシステムズ)	1	2017
	生化学自動分析装置	JCA-ZS050(日本電子)	1	2018
	脳波計	EEG-1214(日本光電)	1	2018
	多項目自動血球分析装置	XN-1000 XN-350(シスメックス)	1	2020
	総合臨床検査システム	CLINILAN Series(エイアンドティー)	1	2020
	感染管理システム	CLINILAN IC3(エイアンドティー)	1	2020
全自動微生物検査システム 一式	ベックマン・コールター製	1	2021	
脳波計	日本光電製 EEG-1278	1	2022	
心臓超音波診断装置	フィリップス 超音波診断装置 EPIC Elite 一式	1	2022	
放射線	超音波診断装置	Aplio80(東芝)	1	2004
	CRシステム	REGIUS170(コニカミノルタ)	2	2004
	循環器画像解析装置	CCIP-310/W(カテックス)	1	2005
	循環器診断・治療システム	循環器診断システム INFx-8000V/IB 他(東芝メディカル)	1	2008
	一般撮影装置	Discovery XR650(GEヘルスケア)	1	2009
	外科用 X線 TV 装置	OEC 9900 Elite(GEヘルスケア)	1	2009
	デジタル X線透視診断装置	CUREVISTA(日立メディコ)	1	2010
	全身用コンピュータ断層装置・PACS	SOMATOM Definition AS+(シーメンス)	1	2011
2 検出器型ガンマカメラ	Symbia Evo(シーメンス)	1	2015	

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
放射線	医用画像管理システム更新に伴う周辺機器	「テクマトリックス製 NOBORI サービス」導入に伴うもの	1	2017
	超伝導磁気共鳴画像診断装置 (MRI)	SmartPath to dStream for 1.5T	1	2019
	動画ネットワークシステム	Kada-Serve (フォトロン)	1	2019
	循環器用X線透視診断装置 一式	Alphenix INFX-8000V 一式 (キャノンメディカルシステムズ)	1	2021
栄養調理	オートクレーブ	NSS-009W (サクラ機械)	1	2004
	ユニット式調乳水製造装置	CMIFSC-501E-WA-230MC2HC1V (三田理化工業)	1	2017
CE (集中管理)	人工呼吸器 (新生児用)	ハミングV (メラン)	1	2003
	人工呼吸器 (新生児用)	ハミングV (メラン)	1	2004
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングV (メラン)	4	2004
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングV (メラン)	1	2007
	酸素モニタ (非侵襲頭部)	NIRO-500 (浜松ホトニクス)	1	1997
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科)	1	1998
	血液浄化用装置	JUN-505 (ウベ循環研)	1	2003
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングX (メラン)	3	2010
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2011
	人工呼吸器	AVEA (米国ケアフュージョン 207)	2	2012
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2014
	人工心肺装置システム	メラ人工心肺装置 HAS II (泉工医科工業)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2016
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2018
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2019
	体外循環用血液学的パラメータモニタ	CDI550 システム (テルモ)	1	2021
	汎用人工呼吸器	サーボベンチレータシステム (フクダ電子)	1	2021
	血液浄化装置	東レメディカル 血液浄化装置 AcuFil Multi 55X-III	1	2022
外 来	超音波診断装置 (4D)	730Expert (GEBOLUSON)	1	2004
	超音波診断装置	Volson E8 (GEヘルスケアジャパン)	1	2011
	皮膚良性血管病変治療用レーザー装置	Vbeam 一式 (キャンデラ)	1	2012
	X線撮影装置	X-era Smart3D F+ セファロ (ヨシダ)	1	2016
	歯科用キャビネット一式	(ヨシダ)	1	2016
	耳鼻科診察台一式	永島医科製	1	2019
	簡易診察室一式	陰圧式エアータント一式 (ノルメカエイシア)	1	2020
	全身麻酔器 (歯科)	PRO-NEXT II +s (アコマ医科)	1	2020
病 棟	心電図監視システム	CNS8200 8床用 (日本光電)	1	1993
	血液成分分離装置	AS-104 (フレゼニウス)	1	1997
	エンドスコープカメラ	MC-800E (日本光電)	1	1999
	セントラルモニタ (外科)	M3150B (フィリップス)	1	2004
	EOG 殺菌乾燥薫蒸装置	EOリメーカー (日本リメイク)	1	2004
	インファントウォーマ	V-505HL (アトム)	1	2005
	生体情報管理システム	CAP2420 (日本光電)	1	2004
	超音波診断装置	Nemio (東芝)	1	2004
	患者監視用モニタ	(フィリップス)	1	2004
	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	1	2005
	生体情報管理システム ハードウェア更新	CAP2420 (日本光電)	1	2010
	赤外線酸素モニタ装置	NIRO-200NX (IMI)	1	2010
	超音波診断装置	HD11EX (フィリップス)	1	2010
	生体情報モニタリングシステム	MP50 外 (フィリップス)	1	2011
	セントラルモニタアップグレード、テレメータ更新	PIMS (フィリップス)	1	2012
	遠心型血液成分分離装置	コムテック 9008021 (アムコ)	1	2013

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
病棟	超音波診断装置	iE33 (フィリップス)	1	2013
	母体胎児集中監視システム	(アトムメディカル)	1	2014
	超音波診断装置	Voluson E10 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	超音波診断装置	LOGIQ e Premium (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	シーリングペンダント (4 台)	TruPort5000-1465 ICU Solo (セントラルユニ)	1	2014
	患者情報管理システム	PIMS 機能改修 (フィリップス)	1	2014
	イエロー・レーザー光凝固装置	IQ577 (トーマコーポレーション)	1	2014
	NICU 車	シビリアン (ベース車、日産自動車)	1	2014
	新生児用ファイバースコープ	Mシリーズ (町田製作所)	1	2015
	分娩監視装置	FM-20 (アトムメディカル)	1	2016
	超音波診断装置	Voluson P8 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2016
	産科病棟セントラルモニタ	PU-621R (日本光電)	1	2017
	NICU/GCU 生体情報モニタリングシステム	(フィリップス・ジャパン)	1	2017
	超音波診断装置	Voluson S8 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	WEP-1450-Z02 外 (日本光電)	1	2020
	生体情報モニタリングシステム 一式	日本光電製	1	2021
	超音波診断装置	富士フイルム ARIETTA 750SE	1	2022
	汎用超音波画像診断装置	GE 汎用超音波画像診断装置 LOGIC Premium R8	1	2022
I C U	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	3	2004
	PICU モニタリングシステム	(フィリップス)	1	2004
	血液ガス分析装置 (全自動)	スタットプロファイルCCX (ノババイオメディカル)	1	2004
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (ピューリタンベネット)	1	2009
	超音波診断装置	Vivid S6 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	生体情報モニタリングシステム (1階)	(フィリップス・ジャパン)	1	2018
	超音波診断装置	Vivid S60N (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2020
	体外式膜型人工肺	UNIMO (泉工医科工業)	1	2020
人工呼吸器	ベンチレータ 980 (コヴィディエンジャパン)	2	2020	
気管支ビデオシステム 一式	BF-XP290 N4506610 (オリンパス)	1	2021	
手術室	全身麻酔器	エスティパ 7900ST PVSPPro (GE横川メディカルシステム)	1	2007
	超音波メス	スミソニック ME-2400 キューサー (住友ベーク)	1	1997
	腹腔鏡手術器具	OTV-SX2 外 (オリンパス)	1	1998
	手術台 (電動油圧)	小児型特注 (ミズホ)	1	2000
	无影燈	Sola700+500 (ドレーゲル)	2	2004
	手術台 (整形外科用)	MOS-1300B (瑞穂医科)	1	2004
	気管支ファイバービデオスコープ一式	BF-XP260F (オリンパス)	1	2005
	体外循環用血液パラメータモニターシステム	CDI500 (テルモ)	1	2007
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科工業)	1	2007
	人工心肺装置データ記録システム	ORSYS (フィリップス)	1	2004
	術中経食道エコー検査装置	プロサウンド α 7 (アロカ製)	1	2008
	遠心型血液ポンプ	HAS-CFP (泉工医科工業)	1	2009
	全身麻酔装置	アバンスケアステーション (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2012
	腹腔鏡手術システム	1288-010-001 外 (日本ストライカー)	1	2014
	過酸化水素低温プラズマ滅菌器	ステラッド 100S (ジョンソン・エンド・ジョンソン)	1	2015
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2016
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2017
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2018
	サージカルナイフ	Domain (ガデリウス・メディカル)	1	2018
	電動式骨手術装置	日本ストライカー製	1	2019
	超音波診断装置	Affiniti 70G (フィリップス・ジャパン)	1	2020
	腹腔鏡カメラシステム	1688AIM (日本ストライカー)	1	2020

分 類	資 産 名 称	構 造 規 格	数 量	取 得 年 度
手 術 室	高周波手術装置 一式	VIO3 5ソケットモデル 10160-000 (アムコ)	1	2021
	手術台 一式	18-600-10 MOT-VS600Dj (ミズホ)	1	2021
	汎用超音波画像診断装置	GE 汎用超音波画像診断装置 Venue Fit	1	2022
	内視鏡ビデオシステム	オリンパス 内視鏡ビデオシステム	1	2022
	手術台	ミズホ 手術台	1	2022
中央滅菌材料室	ウォッシャーディスインフェクター	WD8668EW (GETINGE)	1	2017
	小型高圧蒸気滅菌器	HS33 (GETINGE)	1	2017
	高圧蒸気滅菌器	VSCH-G12WNR (サクラ精機)	1	2018
臨床研究室	DNA シーケンサ	ジェネティックアナライザ (アプライドバイオシステム社)	1	2005
	光分析測定装置マルチプレートリーダー	1420ARVO MX-flad (パーキンエルマー・ジャパン)	1	2005
情報システム	カルテ管理検索システム装置	システムトリーブ (イトーキ)	1	2004
	カルテ管理検索システム装置 制御機器更新	(イトーキ)	1	2012
	総合医療情報システム (電子カルテ導入)	(富士通)	1	2012
	電子カルテデータ統合分析システム	データウェアハウス (富士通)	1	2013
	臨床検査システム	Hi-LABO-S,Hi-LABO-EM,HD-TRANS (ニューコン)	1	2014
	診断書作成支援システム	MEDI-Papyrus (ニッセイ情報テクノロジー)	1	2015
	医事会計システム	HOPE SX-R (富士通)	1	2016
	監視モニターシステム	(カリーナシステム)	1	2016
	NICU 患者情報管理システム	PIMS (フィリップスエレクトロニクスジャパン)	1	2016
	PICU 患者情報管理システム	PIMS (フィリップスエレクトロニクスジャパン)	1	2016
	放射線情報システム	Dr.View/RIS (インフォコム)	1	2016
	電子カルテシステム	HOPE EGMAIN-GX (富士通)	1	2018
	手術部門患者情報システム	Fortec ORSYS (フィリップス)	1	2018
	栄養管理システム	栄養管理システム Ver.6 (SFC新潟)	1	2019
	歯科電子カルテシステム	オブテック製	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	フィリップス製	1	2019
	ネットワーク機器群	Cisco 社製	1	2019

(2) 人事

① 役職者名簿

職名	R5.3.31	R4.3.31	R3.3.31	R2.3.31	H31.3.31	H30.3.31
院長	外松 学	外松 学	外松 学	外松 学	外松 学	丸山 健一
副院長	浜島 昭人	小林 富男	小林 富男	小林 富男	小林 富男	外松 学
事務局長	相川 良彦	今井 正浩	今井 正浩	今井 正浩	今井 正浩	原澤 隆
事務局長次	和田 裕幸	和田 裕幸	吉澤 隆雄	吉澤 隆雄	井田 浩	井田 浩
総務課長	高尾 淳	田村 英昭	篠澤 雅之	篠澤 雅之	篠澤 雅之	篠澤 雅之
医事課長	福島 義明	福島 義明	岡島 正樹	岡島 正樹	猪岡 忠仁	猪岡 忠仁
経営課長	林 利幸	園田 宏	園田 宏	岡崎 正弘	岡崎 正弘	岡崎 正弘
総合周産期母子医療センター長	丸山 憲一	丸山 憲一	丸山 憲一	(院長兼務)	(院長兼務)	高木 剛
医療局長	河崎 裕英	浜島 昭人	浜島 昭人	浜島 昭人	浜島 昭人	小林 富男
第一内科部長	椎原 隆	椎原 隆	椎原 隆	椎原 隆	椎原 隆	椎原 隆
第二内科部長	(総合周産期母子医療センター長兼務)	(総合周産期母子医療センター長兼務)	(総合周産期母子医療センター長兼務)	丸山 憲一	丸山 憲一	丸山 憲一
総合周産期母子医療副センター長	—	—	—	(第二内科部長兼務)	(第二内科部長兼務)	—
第三内科部長	池田 健太郎	河崎 裕英	河崎 裕英	河崎 裕英	朴 明子	朴 明子
第四内科部長	渡辺 美緒	渡辺 美緒	渡辺 美緒	渡辺 美緒	—	—
外科部長	—	—	—	富沢 仙一	富沢 仙一	富沢 仙一
産科部長	—	—	—	—	—	(周産期センター長兼務)
外来診療部長	野村 滋	野村 滋	山田 佳之	山田 佳之	山田 佳之	山田 佳之
中央手術部長	浅井 伸治	浅井 伸治	(医療局長兼務)	(医療局長兼務)	(医療局長兼務)	浜島 昭人
中央診療部長	—	—	—	—	—	—
小児集中治療部長	下山 伸哉	下山 伸哉	下山 伸哉	下山 伸哉	下山 伸哉	下山 伸哉
感染対策室長	清水 彰彦	清水 彰彦	—	—	—	—
部 長	西 下 明	西 下 明	西 下 明	西 下 明	西 下 明	宮本 隆司
部 長	木下 樹	木下 樹	木下 樹	木下 樹	木下 樹	西 下 明
部 長	岡村 達	岡村 達	浅井 伸治	浅井 伸治	浅井 伸治	木下 樹
部 長	道和 百合	池田 健太郎	岡 徳彦	岡 徳彦	渡辺 美緒	浅井 伸治
部 長	小泉 亜矢	道和 百合	池田 健太郎	池田 健太郎	岡 徳彦	渡辺 美緒
部 長	京谷 琢治	小泉 亜矢	道和 百合	道和 百合	池田 健太郎	岡 徳彦
部 長	森田 孝次	京谷 琢治	小泉 亜矢	小泉 亜矢	道和 百合	友保 貴博
部 長	松本 直樹	森田 孝次	京谷 琢治	松本 直樹	小泉 亜矢	京谷 琢治
部 長	福田 一代	松本 直樹	森田 孝次	山崎 聡子	松本 直樹	池田 健太郎
部 長	山崎 聡子	福田 一代	松本 直樹	市之宮 健二	山崎 聡子	道和 百合
部 長	市之宮 健二	山崎 聡子	山崎 聡子	木暮 さやか	市之宮 健二	小泉 亜矢
部 長	木暮 さやか	市之宮 健二	野村 滋	友保 貴博	木暮 さやか	松本 直樹
部 長	廣木 茜	木暮 さやか	福田 一代	福田 一代	友保 貴博	井上文 孝
部 長	諏訪 裕人	廣木 茜	市之宮 健二	田中 健佑	福田 一代	山崎 聡子
部 長	中島 公子	諏訪 裕人	木暮 さやか	廣木 茜	田中 健佑	福田 一代
部 長	山口 有	中島 公子	廣木 茜	高澤 慎也	廣木 茜	市之宮 健二
部 長	鎗木 浩太	山口 有	高澤 慎也	清水 彰彦	高澤 慎也	木暮 さやか
部 長	清水 真理子	鎗木 浩太	清水 彰彦	山崎 優	清水 彰彦	高澤 慎也
部 長	浅見 雄司	清水 真理子	中島 公子	山口 有	山崎 優	廣木 茜
部 長	新井 修平	大和 玄季	山崎 優	野村 滋	山口 有	—
部 長	宮川 陽一	浅見 雄司	鎗木 浩太	佐藤 達也	—	—
部 長	渡辺 栄一郎	新井 修平	山口 有	森田 孝次	—	—
部 長	大嶋 瑛	五十嵐 昭宏	浅見 雄司	—	—	—
部 長	鎗木 多映子	宮川 陽一	—	—	—	—
部 長	清水 有紀	井上 崇道	—	—	—	—
医 長	—	大嶋 瑛	新井 修平	鎗木 浩太	佐藤 達也	佐藤 達也
医 長	—	鎗木 多映子	林 秀憲	新井 修平	鎗木 浩太	山崎 優
医 長	—	内山 陽介	清水 真理子	浅見 雄司	宮川 陽一	川島 淳
医 長	—	清水 有紀	大和 玄季	黒岩 陽介	黒岩 陽介	浅見 雄司
医 長	坂本 崇	坂本 崇	井上 崇道	林 秀憲	清水 真理子	鎗木 浩太
医 長	松永 慶廉	松永 慶廉	大嶋 瑛	清水 真理子	大和 玄季	林 秀憲
医 長	佐々木 淑恵	佐々木 淑恵	鎗木 多映子	大和 玄季	新井 修平	黒岩 陽介
医 長	齋藤 景	則内 友博	清水 有紀	大嶋 瑛	松田 知子	宮川 陽一
医 長	稲田 雅弘	星野 智	坂本 崇	鎗木 多映子	林 秀憲	鎌 裕一
医 長	上原理 紗	齋藤 景	—	高本 尚弘	大嶋 瑛	新井 修平

職 名	R5.3.31	R4.3.31	R3.3.31	R2.3.31	H31.3.31	H30.3.31
医 長	—	千葉真子	—	清水有紀	高本尚弘	—
医 長	—	—	—	—	鏑木多映子	—
医 長	—	—	—	—	南雲一洋	—
技 師	村上麻耶	村上麻耶	飯野彩奈	飯野彩奈	飯野彩奈	大嶋瑛
技 師	石北悦子	—	佐々木淑恵	田中亜由子	—	—
技 師	—	—	則内友博	道崎護	—	—
技 師	—	—	星野智	—	—	—
技 師	—	—	菊地健太	—	—	—
技 師	—	—	村上麻耶	—	—	—
技 術 部 長	小川公代	富岡千鶴子	富岡千鶴子	富岡千鶴子	竹内浩司	竹内浩司
検 体 検 査 課 長	神山晴美	神山晴美	神山晴美	神山晴美	富岡千鶴子	富岡千鶴子
生 理 検 査 課 長	丸山裕子	田中伸久	田中伸久	田中伸久	田中伸久	田中伸久
放 射 線 課 長	佐々木保	佐々木保	佐々木保	佐々木保	都丸健一	都丸健一
リハビリテーション課長	白田由美子	白田由美子	白田由美子	白田由美子	白田由美子	白田由美子
栄 養 調 理 課 長	島田純子	島田純子	島田純子	島田純子	神保裕子	神保裕子
臨 床 工 学 課 長	関明彦	関明彦	関明彦	関明彦	関明彦	関明彦
薬 剤 部 長	藤波洋征	藤波洋征	藤波洋征	橋場尚子	橋場尚子	橋場尚子
薬 剤 課 長	佐藤真理子	伊藤理恵	伊藤理恵	藤波洋征	藤波洋征	藤波洋征
看 護 部 長	清水奈保	清水奈保	清水奈保	清水奈保	清水奈保	清水奈保
副 看 護 部 長	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子
G R M	大平典子	大平典子	福田円	福田円	福田円	福田円
補 佐 (看 護 師 長)	福田円	福田円	丸山美幸	丸山美幸	丸山美幸	丸山美幸
補 佐 (看 護 師 長)	—	—	—	—	武井貴代美	武井貴代美
看 護 師 長	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子
看 護 師 長	浅野香	浅野香	浅野香	高橋敦子	高橋敦子	高橋敦子
看 護 師 長	村上容子	村上容子	村上容子	片貝まさみ	片貝まさみ	片貝まさみ
看 護 師 長	石坂泰子	石坂泰子	石坂泰子	浅野香	金井みち子	金井みち子
看 護 師 長	福島富美子	福島富美子	福島富美子	村上容子	浅野香	浅野香
看 護 師 長	黒田佐織	黒田佐織	大平典子	石坂泰子	村上容子	村上容子
看 護 師 長	北爪幸子	北爪幸子	黒田佐織	福島富美子	石坂泰子	石坂泰子
看 護 師 長	齊藤織恵	齊藤織恵	北爪幸子	大平典子	福島富美子	福島富美子
看 護 師 長	鈴木清恵	角田愉香里	齊藤織恵	黒田佐織	大平典子	大平典子
看 護 師 長	小林志のぶ	小林志のぶ	角田愉香里	齊藤織恵	—	—
母 子 保 健 課 長	—	阿久澤直子	高橋雪子	高橋雪子	高橋雪子	高橋雪子

4. 運営

(1) 診療制度

当センターは、県内唯一の県立小児医療専門病院であるとともに総合周産期母子医療センターに認定されている。診療は、二次・三次救急を原則とし、未熟児・新生児・乳児、幼児、学童並びに胎児に異常が疑われる母胎を主な対象として、医療機関・保健福祉事務所等からの紹介予約制を基本としている。

ア 紹介予約制

患者の紹介予約は、医療機関・保健福祉事務所等から FAX 等を利用して行われる他、紹介状をもらった患者家族からの電話申込みによる。

当センターでは、紹介内容から患者の症状等を判断し、急を要する場合を除いて患者の都合のよい日時に予約日を指定する方法を採っている。なお、紹介医療機関等に対しては、診療後必ず診療結果を報告することとしている。

イ 外来診療

診療科及び診療時間は、次のとおりである。(令和5年3月1日現在)

◎内科系

- 総合診療科 月～金曜(9時～17時)
- 神経内科 月～金曜(9時～17時)
- 循環器科 月・金曜(9時～15時30分)、火曜(13時～17時)、水曜(9時～15時)
- 血液腫瘍科 月～水曜(14時～17時)
- 腎臓内科 第1・3・5火曜(13時30分～16時)、第2・4木曜(13時～17時)、第2・4火曜(13時～17時)
- アレルギー・リウマチ科 月・火・木・金曜及び第2・4水曜(13時～17時、14時～14時30分:初診)、
／感染症科 第1・3・5水曜(13時30分～:再診、14時～14時30分:初診)、第2・4金曜(9時～12時)

◎外科系

- 小児外科 火曜(9時～17時、13時～17時(第4週以外):初診)、木曜(9時～12時、9時30分～12時:初診)、金曜(13時～17時)、第1・3水曜(9時～12時)
- 心臓血管外科 水・金曜(10時～17時)
- 形成外科 月曜(9時～17時、9時～10時:初診)、木曜(9時～17時、10時～11時:初診)
- 整形外科 月・水曜(9時～17時:午前再診、午後初診)、金曜(9時～12時)
- 脳神経外科 第4金曜(14時～16時)

◎総合周産期母子医療センター

- 新生児科 月・水・木・金曜(13時～17時)、第2火曜(9時～12時)
- 産科 月～金曜(9時～17時、14時～16時:初診)
- 胎児心臓外来 木曜(9時～12時)

○胎児超音波 スクリーニング外来	月～金曜(9時～12時)
○母乳外来	月～金曜(9時～17時)
◎特殊専門外来	
○麻酔科	月曜(13時～17時)、火・木・金曜(9時～17時)
○放射線科	月曜～金曜(9時～17時)
○遺伝科	月曜(9時～12時)、金曜(9時～17時)
○歯科・障害児歯科	月曜～金曜(9時～12時、14時～17時)
○耳鼻咽喉科	月曜(15時～17時)、第1・3・5水曜(9時～11時)
○眼科	第2・4水曜(偶数月9時～10時30分、奇数月14時～15時30分)
○内分泌代謝科	木曜(14時～17時)

ウ 救急対応

当センターは、救急告示病院の指定を受けていないが、医療機関からの紹介に基づく第2次・第3次救急対策を行っている。

緊急対応としては、診療時間外における管理当直として医師1名、看護師1名があたり、さらに必要な場合は電話によるオンコールで医療従事者の確保を図り、昼夜いつでも診療が可能な体制を整えている。

また、未熟児・新生児を治療しながら搬送するNICU車(新生児救急車)は、主に産科から病棟へ直接電話の依頼により出動し、24時間体制で対応している。

平成13年度、休日及び夜間における子供の救急医療体制を整備するため、小児科医及び病床等の確保を図る小児救急支援事業がスタート、北毛地区では同年9月から、当院、利根中央病院、原町赤十字病院の3病院が交代で協力することでスタートしたが、現在は当院と利根中央病院の2病院が交代で行っている。

エ 診療録管理等

診療録は外来・入院それぞれ別冊で管理するが、登録番号はともに共通の永久番号制で、保存方法は患者番号の下2桁が同じファイルを同一グループとして順次配架するターミナル・デジット方式を採用している。

また、病院内の組織横断的な診療情報管理を担うため、平成18年度から診療情報管理室を設置するとともに、同年末に入院診療情報管理システムを導入し、診療録管理・各種診療統計業務等の効率化を図った。

オ 院内総合医療情報システム

当センターのシステムの運用及び更新については次の表のとおりである。

年度・日付	システムの運用開始・更新内容
平成 19 年 11 月	医事会計システム先行稼働
平成 20 年 2 月 23 日 (外来診療初日は 25 日)	オーダーリングシステムの第 1 次運用開始
平成 20 年 5 月 1 日	オーダーリングシステムの第 2 次運用開始 (放射線、生理・病理検査オーダーが稼働)
平成 20 年 6 月 3 日	オーダーリングシステムの第 3 次運用開始 (注射オーダーが稼働)
平成 20 年 12 月	オーダーリングシステムの当初計画した全てが無事稼働 (手術予約が稼働)
平成 22 年度	PICU 棟の PIMS システム及び産科の患者情報管理システムのシステム機器を更新
平成 24 年度 (平成 25 年 2 月 24 日)	総合医療情報システム (電子カルテ) 及び看護支援システムが稼働
平成 25 年度 (平成 25 年 9 月 2 日)	歯科電子カルテシステムの運用開始
平成 26 年度 (平成 26 年 12 月 1 日)	臨床検査システムを更新
平成 28 年度	NICU・PICU の患者情報管理システム、放射線情報システムを更新
平成 29 年度	医用画像管理システム (PACS) の更新を行い、クラウド型システムを導入
平成 30 年度	総合医療情報システム (電子カルテ) を更新 手術部門患者情報システムを導入
令和元年度	歯科電子カルテシステムを更新
令和 2 年度	臨床検査システムを更新 感染管理システムを導入
令和 4 年度 (令和 5 年度繰越)	PICU・NICU/GCU・第 3 病棟の重症部門患者情報システム、生体情報モニタを更新

カ 院内ボランティア

複数のボランティア団体の活動により、患者や家族の快適な環境と楽しい時間を提供している。令和 2 年度以降は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、多くの活動が休止を余儀なくされている。

○「ひまわり会」(平成 12 年 4 月～)

毎週火曜日、慢性疾患児家族宿泊施設の管理として、宿泊棟の清掃やノート等を利用したの相談活動。

○「日本クリニックラウン協会」(平成 17 年 10 月～)

月 1 回 (第 4 水曜日)、長期入院患者を励ますためのクリニックラウン (臨床道化師) による病棟訪問。

○「お話し風の風」(平成 20 年 10 月～)

月に 2 日、病棟、外科外来での絵本の読み聞かせ等の活動。

○「花壇ボランティアひまわり」(平成 22 年 4 月～)

月 1 回程度、院内の花壇、中庭の花弁、植栽の管理。

キ 臨床研修

当院は新臨床研修制度の協力型病院として平成 17 年度から小児科の研修を行う初期臨床研修医を受け入れている。当院は内科系だけでも三つの病棟を擁しているため、研修方法は研修医の希望に基づいて各病棟をローテートする方法で行っている。なお、希望者には一定期間、小児外科、形成外科、整形外科、心臓血管外科、産科の研修も許可している。

令和4年度 職員のメディアへの出演実績

年 月 日	番 組 名	出 演 者 氏 名	テ ー マ
令和4年7月16日	上毛新聞	感染対策室長 清水 彰彦	現場発「猛暑 小中学生のマスク着脱」(子どもの心理に関するコメント)
令和4年8月1日	読売新聞	感染対策室長 清水 彰彦	新型コロナ「第7波で急拡大 子供の感染目立つ」(現場の実情呼びかけ)

(2) 院内会議の状況

会議の名称	会議の目的	開催状況
管理職会議	病院の基本方針等の協議・決定	月 1 回
管理診療会議	病院管理運営事項の協議・検討、各部門業務の連絡調整	月 1 回
予算委員会	予算に関する協議・決定	随 時
医療機器等購入審査委員会	医療機器等購入の選考・審査	随 時
経営検討会議	病院経営に関する協議・決定	月 1 回
地域医療連携室運営委員会	地域の医療機関との連絡調整	随 時
在宅療養支援委員会	在宅療養に関する支援策の検討	月 1 回
臨床試験審査委員会	臨床試験の妥当性の審査	随 時
倫理委員会	医療行為に係る倫理的検討	随 時
利益相反委員会	臨床研究に係る利益相反マネジメントの審議	随 時
医療安全管理委員会	医療安全管理対策を総合的に企画、実施	月 1 回
BLS 推進委員会	BLS の推進を計画・実施	月 1 回
リスクマネジメント委員会	医療安全管理に関する小委員会	月 1 回
救急カートWG	救急カートに関する検討	随 時
診療関連死原因検討委員会	死亡原因が医療事故又は合併症のいずれかを判定	月 1 回
診療情報管理委員会	診療情報提供に関する検討	随 時
DPC コーディング委員会	適切なコーディングに関する討議	年 2 回
薬事委員会	新薬・同種同効薬品の採用・選択等の検討	月 1 回
労働安全衛生委員会	職員の労働安全衛生に関する協議・予防接種の実施	月 1 回
学術委員会	臨床研究を含めた学術活動の活性化	随 時
臨床研究室運営委員会	臨床研究室の運営・管理	随 時
自主研究事業委員会	自主研究事業の審査	随 時
海外学会等出席者選考委員会	海外学会等出席者の選考	随 時
年報編集委員会	病院年報編集の協議	随 時
図書委員会	図書の購入検討・管理	随 時
臨床検査委員会	精度管理報告、検査項目・院内検査の機器・試薬等検討	年 2 回
輸血療法委員会	輸血業務の適正化に関する検討事項、各部門の連絡調整	年 6 回
院内感染対策委員会	院内感染防止対策の協議	月 1 回
ICT	院内感染防止対策マニュアルの検討	月 1 回
総合医療情報システム委員会	総合医療情報システムの課題検討	随 時
サービス向上委員会	患者サービス向上に係る取り組みの検討	年 4 回
外来診療委員会	外来診療各科の連絡調整	随 時
総合周産期母子医療センター運営委員会	総合周産期母子医療センターの運営に関する検討	随 時
中央手術部運営委員会	施設・設備に関する事項及び診療各科との連絡調整	隔月 1 回
医局診療会議	診療各科の連絡調整	月 1 回
子ども虐待防止チーム委員会	子ども虐待の緊急対応に関する対応方針の決定	随 時
要支援事例検討等委員会	要支援事例の情報共有と具体的支援策を検討	隔月 1 回
褥瘡対策委員会	褥瘡の発症予防、処置等の対策を検討	年 4 回
栄養委員会	栄養業務の改善等の検討	年 4 回
NST	NST 実施にかかる協議・検討	随 時
診療材料検討委員会	診療材料購入等に関する検討	随 時
臨床研修委員会	研修医師の指導等に関する検討	随 時
保険診療委員会	診療報酬審査減の再審査の検討	随 時
クリニカルパス委員会	クリニカルパス導入に関する検討	随 時
ホームページ委員会	ホームページの編集	随 時
防災対策委員会	防災対策・訓練計画等の検討	年 2 回
医療機器安全管理委員会	ME 機器の維持管理、購入の検討及び操作法の教育	随 時
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全確保、良質な患者サービスの提供	年 1 回
小児集中治療部運営委員会	PICU の運営に関する方針等の協議・調整・決定	年 4 回
セキュリティ対策委員会	院内防犯体制、情報セキュリティ等の検討	随 時
ドクタークラーク委員会	医師事務作業補助者の配置・業務内容等の検討	随 時
省エネ・節電対策委員会	省エネ対策等の検討	随 時
緩和ケア委員会	緩和ケアの計画策定・教育・情報収集等の検討	年 2 回
緩和ケアWG	緩和ケアの症例検討	月 1 回
母子保健室運営委員会	母子保健室の運営に関する検討	随 時
治験管理委員会	IRB が審査する事項以外の治験の検討	随 時
臓器提供対応委員会	臓器移植提供体制の検討	随 時
うりやまだより編集委員会	うりやまだよりの編集	随 時
医療放射線管理委員会	医療放射線管理に関する検討	随 時

令和4年度のあゆみ

令和4年	4月1日	新規採用者辞令交付式
	7日	管理職会議
	27日	管理診療会議
5月	10日	管理職会議
	25日	管理診療会議
6月	7日	医療安全研修会(～6/30 DVD研修)
	9日	消防訓練(第1回)
	14日	管理職会議
	22日	管理診療会議
7月	12日	管理職会議
	27日	管理診療会議
	30日	本監査・例月現金出納検査
8月	27日	臓器移植机上シミュレーション
9月	13日	管理職会議
	28日	管理診療会議
10月	11日	管理職会議
	28日	消防訓練(第2回)
	26日	管理診療会議
	18日	医療安全研修会(10/29、11/1、11/2、11/4 DVD研修)
11月	2日	医療安全研修会(～12/16 患者確認自己評価)
	8日	管理職会議
	16日	例月現金出納検査
	30日	管理診療会議
12月	13日	管理職会議
	20日	監査委員会事務局事務監査
	21日	管理診療会議
令和5年	1月10日	管理職会議
	25日	管理診療会議
2月	6日	監査委員定期監査
	14日	管理職会議
	22日	管理診療会議
3月	14日	管理職会議
	22日	管理診療会議
	31日	退職者辞令交付・転出者発令通知伝達式

職員名簿

令和5年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
院長	浜島昭人	麻酔科部長	松本直樹	技師	熊木裕之
副院長	河崎裕英	部長	西明樹	専門員	臼田由美子
顧問	林泰秀	部長	木下樹	○ 歯科衛生士室	
顧問	丸山健一	部長	岡村達	副主幹	瀬下愛子
	外松学	部長	小泉亜矢	技師	楠幸代
		部長	京谷琢治	技師	下谷琴音
○ 事務局		部長	道和百合	○ 栄養調理課	
事務局長	相川良彦	部長	森田孝次	技師長(課長)	島田純子
次長	奈良清隆	部長	山崎聡子	主任	中野由希子
○ 総務課		部長	市之宮健二	主任	原田明菜
課長	高尾淳	部長	廣木茜	技師	佐藤萌々子
主幹	千明明美	部長	諏訪裕人	○ 臨床工学課	
主事	粕川雅人	部長	木暮さやか	技師長(課長)	関明彦
主事	設楽航希	部長	中島公子	主幹	深町直之
○ 医事課		部長	山口有	主任	下田隼人
課長	住谷亜由子	部長	鏑木浩太	主任	高橋祐樹
主任	榎山兼大	部長	浅見雄司		
主事	土屋薫平	部長	清水真理子	○ 薬剤部	
○ 経営課		部長	新井修平	薬剤部長	藤波洋征
課長	林利幸	部長	宮川陽一	○ 薬剤課	
副主幹	関口愛亮	部長	渡辺栄一郎	課長	佐藤真理子
副主幹	藤隆亮	部長	山口岳史	主幹	高橋大輔
主事	齋藤夢実	部長	飯島真由子	主幹	柴田朋子
		部長	清水有紀	副主幹	高山広志
○ 総合周産期母子医療センター		部長	鏑木多映子	主任	新井咲紀
センター長(兼)	丸山憲一	部長	坂本崇	技師	南雲美奈代
		部長	松永慶廉	技師	高木身和
○ 医療安全管理室		医長	佐々木淑恵		
室長(兼)	河崎裕英	医長	大隅麻貴子	○ 看護部	
補佐(看護師長)(GRM)	大平典子	医長	稲田雅弘	看護部長	清水奈保
主事(兼)	奈良清隆	医長	上原理紗	副看護部長	福田巴
主事(兼)	高尾淳	技師	石北悦子	看護師長	浅野香美
技師(兼)	藤波洋征	技師	小柳晴加	主幹	殿木裕美
				副主幹	石関梨華
○ 地域医療連携室		○ 技術部		主任	佐藤宏美
室長(兼)	野村滋	技術部長	小川公代	主任	石川さやか
主任	瀬下明日香	○ 検体検査課		主任	勝山ゆかり
技師(兼)	宮川祐子	技師長(課長)	神山晴美	主任	塩谷愛
技師(兼)	浅野香	主幹	田原貴子	主任	高橋沙織
主事(兼)	住谷亜由子	主任	松井重憲	主任	星野麗菜
主事(兼)	榎山兼大	技師	服部沙耶	主任	三浦彩
主事(兼)	土屋薫平	技師	新井菜津子	主任	齋藤理沙
		○ 生理検査課		主任	齊藤麻由美
○ 診療情報管理室		課長	丸山裕子	主任	新谷夢菜
室長(兼)	奈良清隆	副主幹	松村雅寛	主任	尾崎沙織
主事(兼)	住谷亜由子	主任	諸岡望	主任	青木弓子
主事(兼)	榎山兼大	技師	堀川茉莉	主任	田中仁美
主事(兼)	土屋薫平	技師	齋木美穂	主任	田嶋友加里
		専門員	佐藤敦子	主任	高橋かおり
○ 感染対策室		○ 放射線課		技師	伊東修子
室長	清水彰彦	技師長(課長)	佐々木保	技師	齋木梨佐
看護師長	北爪幸子	主幹	高木崇	技師	高橋夏姫
技師(兼)	小泉亜矢	副主幹	清水宏史	技師	田中瑞季
技師(兼)	松村雅寛	主任	木村壮平	技師	金子紗也
技師(兼)	高橋大輔	主任	茂木彰子	技師	原田みさき
		主任	大河原有希	技師	永井和月
○ 医療局		主任	下田寛貴	技師	須佐いつき
医療局長	野村滋	○ リハビリテーション課		技師	柿沼瞭子
第一内科部長	椎原隆一	課長	熊丸めぐみ	技師	祢津拓斗
第二内科部長(兼)	丸山憲一	主幹	代美穂	技師	真田一輝
第三内科部長	池田健太郎	副主幹	六本木温子	技師	西尾迪
第四内科部長	渡辺美緒	主任	松下郁江	技師	關根結
小児集中治療部長	下山伸哉	主任	高柳豊史	技師	森菜尋
中央手術部長	浅井伸治	主任	小野寺央	技師	金子葉月
外来診療部長(兼)	野村滋	主任			

職員異動状況

転入・採用			転出・退職			
所属	氏名	年月日・区分	所属	氏名	年月日・区分	
看護部	鈴木清恵	R4.4.1 転入	看護部	角田愉香理	R4.4.1 転出	
	小林克徳		技術部	鳥越和哉		
技術部	小川公代			狩野知子		
	松村雅寛		薬剤部	伊藤理恵		
	高柳豊史		事務局	田村英昭		
	坂本佐知代			園田宏		
事務局	相川良彦			猪熊茉里奈		
	林利幸			蜂須愛		
	千明明美		看護部	登山荣美		R4.6.30 退職
	関口愛平		医療局	浅野光貴		R4.10.31 退職
医療局	稲田雅弘	R4.4.1 採用	看護部	須田慎也	R4.11.18 退職	
	上原理紗		医療局	外松学	R5.3.31 退職	
	石北悦子			福田一代		
看護部	竹守沙織			大嶋瑛		
	本田志穂里			村上麻耶		
	角田沙弥佳			齋藤景		
	和田早紀		看護部	都丸八重子		
	八木栞			瀬谷由美		
	亀井愛理菜			鈴木絹代		
	石井妃那			青木幸枝		
	樺沢瑞穂			服部由佳		
	梅田璃子			角田沙弥佳		
	高橋亜優		技術部	臼田由美子		
	吉野萌花			佐藤敦子		
	角田晃子			瀬間祐子		
	佐川有子			萩原勝代		
	青木明子			坂本佐知代		
技術部	小野寺奈央			砂川恵美		
	堀川茉里					
	南雲美奈代					
	砂川恵美					
医療局	渡辺栄一郎	R4.10.1 採用				

◇ 編集後記 ◇

令和4年度の年報をお届けします。

ここ数年医療現場だけでなく生活そのものに大きな影響を及ぼしている COVID-19 が 5 類感染症となり、当院での対応も変化していますが、令和4年度はまだその只中でした。各科、各部署、各病棟などの対応がこの年報には記されていることと思います。現時点で、まだ面会や入院の受け入れなどに関して、多方面にご協力をお願いしている状況ではありますが、ぜひ当院スタッフのこれまでの努力の跡をご覧ください。

また、令和5年6月、当院の敷地内に群馬県医療的ケア児等支援センター「やっほ」が開設されました。全国の傾向と同じく、群馬県内も医療的ケア児は年々増加傾向にあります。医療的ケアを含め、療養の必要なお子さんご家族が安心して生活できるよう、当院も「やっほ」との連携を図りながらこれまで以上に患者家族に寄り添った支援に取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、年報作成にあたりご協力いただいた多くのスタッフの皆様へ、心より感謝申し上げます。

年報編集委員長 渡辺 美緒

○年報編集委員

渡辺 美緒	清水 奈保	河崎 裕英	野村 滋
丸山 憲一	椎原 隆	池田 健太郎	下山 伸哉
浅井 伸治	清水 彰彦	松本 直樹	西 明
木下 樹	岡村 達	京谷 琢治	山口 有
小川 公代	神山 晴美	佐々木 保	臼田 由美子
島田 純子	佐藤 真理子	吉野 日茄乃	
浜島 昭人 (オブザーバー)		(担当事務局 総務課)	

群馬県立小児医療センター

〒377-8577 渋川市北橘町下箱田779番地
電 話 0279-52-3551 (代表)
0279-52-4600 (産科病棟直通)
0279-52-7171 (地域医療連携室)
0279-52-4000 (予約専用)
F A X 0279-52-2045 (事務局)
0279-52-4216 (図書室)
0279-52-3539 (検査課)
0279-52-7333 (地域医療連携室)
0279-52-4800 (栄養調理課)
0279-52-2100 (産科病棟直通)

